

# Syllabus2017

---

シラバス (教授要目)

北陸学院大学短期大学部

**Realize Your Mission**

あなたの使命を実現しよう



# 学 事 曆

4月 (APR)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10月 (OCT)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

5月 (MAY)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月 (NOV)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

6月 (JUN)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月 (DEC)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

7月 (JUL)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

1月 (JAN)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月 (AUG)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月 (FEB)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

9月 (SEP)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

3月 (MAR)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- 3月22日(水)～24日(金) 前期第1次履修登録期間
- 3月30日(木)～3月31日(金) 前期第2次履修登録期間
- 3月30日(木)～4月6日(木) オリエンテーション期間
- 4月3日(月) 入学式(午前)
- 4月7日(金) 前期授業開始
- 4月13日(火)～14日(金) 前期履修登録変更期間
  
- 5月6日(土) Enjoy!ミッション
- 5月16日(火) 金曜代替講義日
- 5月19日(金)～20日(土) 北陸学院セミナーⅠ(1年)
- 5月19日(金) 2年全学休講
- 6月14日(水) 特別伝道礼拝(1年)
  
- 7月27日(水) 前期授業終了
- 7月28日(金)～8月3日(木) 前期試験期間
- 8月4日(金)～9月18日(月) 夏期休業期間(補講・集中講義・学外実習)
  
- 9月6日(水)～8日(金) 後期第1次履修登録期間
- 9月9日(土) 北陸学院創立記念日
- 9月13日(水)～15日(金) 後期第2次履修登録期間
- 9月19日(火) 後期授業開始
- 9月28日(木)～29日(金) 後期履修登録変更期間
- 10月4日(水) 特別伝道礼拝(2年)
- 10月17日(火) 木曜代替講義日
- 10月18日(水) 金曜代替講義日
- 10月19日(木) 大学祭準備(休講)
- 10月20日(金)～21日(土) 大学祭(栄光祭)
  
- 11月3日(金) 通常授業の日
- 11月7日(火) 金曜代替講義日
- 11月10日(金)～11日(土) 北陸学院セミナーⅡ(2年)
- 11月10日(金) 1年全学休講
- 11月29日(水) クリスマス・ツリー点灯式(5限振替)
- 12月22日(金) クリスマス礼拝(休講)
- 12月26日(火) 全学休校予備日
- 12月28日(木)～1月8日(月) 冬期休業期間(補講・集中講義)
  
- 1月23日(火) 後期授業終了
- 1月24日(水) 全学休校予備日
- 1月25日(木)～26日(金) 補講日
- 1月29日(月)～2月3日(土) 後期試験期間
- 2月4日(日)～3月31日(土) 春期休業期間(補講・集中講義・学外実習)
  
- 2月28日(水) 卒業者発表
- 3月12日(月) 卒業感謝礼拝
- 3月13日(火) 卒業証書・学位記授与式

## まえがき

この「教授要目」は、2017年度に開講する学科目の授業計画を記載したものです。

「教授要目」は、Syllabus（シラバス）と呼ばれ、各学科目の授業内容を授業時間毎に紹介しているものです。

したがって、それぞれの学科目の具体的内容を表しているものとして、大変重要な資料です。

授業はここに示された計画に従って進められますが、進行状況によっては一部内容が変更される場合もあります。

みなさんは、各授業の履修に先立って、「教授要目」をよく読んで、授業のねらいや内容をよく把握しておいてください。予習や復習はもちろん、学科目の選択に際しても、参考になります。

「教授要目」は、在学中および卒業後も大切に保管してください。他大学や公的教育機関へ編入学をする際にも必要な資料として用いられます。

この「教授要目」を大いに活用して、学修の一層の活性化を図ってください。

## 食物栄養学科

### 1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

#### 教育理念

北陸学院大学短期大学部は、キリスト教に基づくホスピタリティ（他者への思いやり）を通じて、学生一人ひとりを大切に、良き社会人として豊かな教養と汎用的な専門知識・技能を身につけ、生涯にわたり、積極的に地域社会に貢献できる人材を養成することを教育の理念として掲げています。

#### アドミッションポリシー

北陸学院大学短期大学部では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- ① 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者（\*）
- ② 物事を多面的かつ論理的に考察することができる者
- ③ 自己の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- ④ 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同する者

上記に加え食物栄養学科では、

- ⑤ 「食」を通して人びとの健康に貢献したいと考え、行動しようとする学習意欲の高い者

\*入学に際し基礎学力テストを実施して、英語・日本語・数学の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」、「栄養士のための計算入門」科目の学びを義務づけます。

#### カリキュラムポリシー

北陸学院大学短期大学部では、教育理念に掲げた人材を育成するために、食物栄養学科とコミュニティ文化学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ① ホスピタリティの精神を学び、豊かな人間性を身につける科目として、「北陸学院科目」を配置する。
- ② 良き社会人となるために必要な豊かな教養を身に付け、自己実現を図るために、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」を配置する。
- ③ 問題発見能力と解決能力を養い、自分の考えを適切に口頭や文章で表現することができるよう、基礎的科目と専門的科目を配置し、主体的な学びの方法を獲得する。

上記に加え食物栄養学科では、

- ④ 人間形成や専門的な学びの基礎として、学科基礎科目を配置する。
- ⑤ 栄養学の知識・理論を学び、「食」を通して人びとの健康に貢献できる優れた栄養

士の養成ならびに実践力を修得できるように、専門教育科目として「栄養士免許科目」を配置する。

- ⑥ 学生の目指す進路が広がるように、資格関連科目として「栄養教諭二種免許関連科目」、「フードスペシャリスト資格関連科目」を配置する。

### ディプロマポリシー

北陸学院大学短期大学部では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

(関心・意欲、態度)

- ① ホスピタリティの学びを活かして、他者を思いやり、意見を尊重し、協働することができる。

(知識・理解、思考・判断)

- ② 学んだ知識を活かして自ら課題を見つけ、考え判断して、よりよく問題を解決できる。

(技能・表現)

- ③ 口頭表現や文章表現を用いて自分の考えを適切に伝えることができる。

(関心・意欲、態度)

上記に加え食物栄養学科では、

- ④ 地域住民の健康増進や食文化の継承・発展に関わろうとする意欲がある。

(技能・表現)

- ⑤ 培った専門性を食育推進活動や産業の振興等に活かし、地域社会の発展に貢献できる。

## 2. カリキュラム体系

(科目のナンバリングについて)

### 1 全学共通科目

- H G : 北陸学院科目
- G E : 総合教養
- L J : 言語教育 (日本語)
- L E : 言語教育 (英語)
- L C : 言語教育 (中国語)
- L F : 言語教育 (フランス語)
- P E : スポーツ・健康
- H C : キャリア教育

### 2 学科科目 (基幹科目・学科専門科目・資格科目)

- F 食物栄養
- F B 学科基礎科目 \*Basics
- F H 公衆衛生・福祉関係科目 \*Public Health
- F P 生理学関係科目 \*Physiology
- F F 食品学関係科目 \*Foods Hygiene
- F D 栄養学関係科目 \*Dietetics
- F G 栄養指導関係科目 \*Guidance
- F C 調理学関係科目 \*Cooking
- F S フードスペシャリスト資格関連科目 \*Specialist
- F T 栄養教諭二種免許関連科目 \*Teacher Certificate

注1) 基礎科目を100番台 (主として1年次)、学科専門200番台 (主として2年次)

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。

食物栄養学科（カリキュラム体系図）

F B：学科基礎科目

F H：公衆衛生・福祉関係科目

<200番台>

FB230C 栄養士への道D
FB220C 栄養士への道C
FB210C 人間の探究Ⅱ
FB200C 人間の探究Ⅰ

FH200C 社会福祉概論
---------------

<100番台>

FB140C 栄養士への道B
FB130C 栄養士への道A
FB120C キャリア実践演習
FB110C 学びの基礎

FH100C 公衆衛生学
--------------

<090番台>

FB095C ◆栄養士のための計算入門
FB090C ◆科学の基礎

F G：栄養指導関係科目

F C：調理学関係科目

<200番台>

FG220C 栄養指導論実習
FG210C 公衆栄養学
FG200C 栄養指導論Ⅱ

FC220C 校外実習
FC210C 給食管理実習Ⅱ
FC200C 給食実務論（含計画）

<100番台>

FG100C 栄養指導論Ⅰ
---------------

FC150C 食事計画実習
FC160C 給食管理実習Ⅰ
FC140C 調理学実習D
FC130C 調理学実習C
FC120C 調理学実習B
FC110C 調理学実習A
FC100C 調理学

F P : 生理学関係科目

F D : 栄養学関係科目

FP270C 食品衛生学実験
FP260C 食品学実験
FP250C 食品衛生学
FP240C 食品学Ⅱ
FP230C 栄養生化学実験
FP220C 生理学実習
FP210C 病気のしくみ
FP200C 生理学 (含運動生理学)

FD240C 臨床栄養学実習
FD230C 応用栄養学実習
FD220C 臨床栄養学Ⅱ
FD210C 臨床栄養学Ⅰ
FD200C 応用栄養学

FP120C 食品学Ⅰ
FP110C 栄養生化学
FP100C 人体構造学

FD100C 基礎栄養学
--------------

F S : フードスペシャリスト資格関連科目

F T : 栄養教諭二種免許関連科目

FS220C 官能評価・鑑別論
FS210C フードコーディネータ論
FS200C 食品の消費と流通

FT250C 教職実践演習(栄養教諭)
FT240C 栄養教育実習
FT230C 栄養教育実習指導
FT210C 教育相談 (生徒指導法を含む)
FT200C 学校栄養教育論

FS100C フードスペシャリスト論
--------------------

FT150C 日本国憲法
FT140C 教育課程論 (特別活動・道徳を含む)
FT130C 教育方法論
FT120C 発達心理学
FT110C 教育原理
FT100C 教育者論

## コミュニティ文化学科

### 1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

#### 教育理念

北陸学院大学短期大学部は、キリスト教に基づくホスピタリティ（他者への思いやり）を通じて、学生一人ひとりを大切に、良き社会人として豊かな教養と汎用的な専門知識・技能を身につけ、生涯にわたり、積極的に地域社会に貢献できる人材を養成することを教育の理念として掲げています。

#### アドミッションポリシー

北陸学院大学短期大学部では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- ① 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者（\*）
- ② 物事を多面的かつ論理的に考察することができる者
- ③ 自己の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- ④ 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同する者

上記に加えコミュニティ文化学科では、

- ⑤ 自らの将来を切り開こうという意欲を持つ者

\*入学に際し基礎学力テストを実施して、英語・日本語・数学の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」、「数学基礎」科目の学びを義務づけます。

#### カリキュラムポリシー

北陸学院大学短期大学部では、教育理念に掲げた人材を育成するために、食物栄養学科とコミュニティ文化学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ① ホスピタリティの精神を学び、豊かな人間性を身につける科目として、「北陸学院科目」を配置する。
- ② 良き社会人となるために必要な豊かな教養を身に付け、自己実現を図るために、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」を配置する。
- ③ 問題発見能力と解決能力を養い、自分の考えを適切に口頭や文章で表現することができるよう、基礎的科目と専門的科目を配置し、主体的な学びの方法を獲得する。

上記に加えコミュニティ文化学科では、

- ④ 人間形成や、キャリアデザインを考える土台となる思考能力・態度を養うために、学科基礎科目は「教養」、「ゼミナール」、「キャリア支援」の各科目群で構成する。

- ⑤ 一人ひとりの目標と関心に応じた知識・技能を修得できるように専門教育科目を配置し、「専門基礎」、「ビジネス・経営実務」、「医療事務」、「観光・ホテル」、「英語・異文化理解」の各科目群で構成する。

### ディプロマポリシー

北陸学院大学短期大学部では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

(関心・意欲、態度)

- ① ホスピタリティの学びを活かして、他者を思いやり、意見を尊重し、協働することができる。

(知識・理解、思考・判断)

- ② 学んだ知識を活かして自ら課題を見つけ、考え判断して、よりよく問題を解決できる。

(技能・表現)

- ③ 口頭表現や文章表現を用いて自分の考えを適切に伝えることができる。

(知識・理解、思考・判断)

上記に加えコミュニティ文化学科では、

- ④ 地域社会で求められる知識と教養を身につけている。

(関心・意欲、態度)

- ⑤ 専門的知識や取得した資格を活かし、地域社会に貢献できる。

## 2. カリキュラム体系

(科目のナンバリングについて)

### 1 全学共通科目

H G : 北陸学院科目

G E : 総合教養

L J : 言語教育 (日本語)

L E : 言語教育 (英語)

L C : 言語教育 (中国語)

L F : 言語教育 (フランス語)

P E : スポーツ・健康

H C : キャリア教育

### 2 学科科目 (基幹科目・学科専門科目・資格科目)

C コミュニティ文化

C L 教養科目 \*Liberal Arts

C S ゼミナール科目 \*Seminar

C C キャリア支援関係科目 \*Career Support

C F 専門基礎科目 \*Foundation

C B ビジネス・経営実務関係科目 \*Business

C M 医療事務関係科目 \*Medical

C R 観光・ホテル関係科目 \*Region

C E 英語・異文化理解科目 \*English

注1) 基礎科目を100番台 (主として1年次)、学科専門200番台 (主として2年次)

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。



コミュニティ文化学科（カリキュラム体系図）

CL：教養科目

CS：ゼミナール科目

<200番台>

CL230C 社会心理学の基礎
CL220C 結婚と家族形成
CL210C キリスト教とホスピタリティ
CL200C キリスト教と生活

CS210C 専門ゼミⅡ
CS200C 専門ゼミⅠ

<100番台>

CL130C 青年の心理
CL120C 現代社会の基礎知識
CL110C 健康論

CS120C 基礎ゼミⅡ
CS110C 基礎ゼミⅠ
CS100C スタートアップセミナー

<090番台>

CB：ビジネス・経営実務関係科目

CM：医療事務関係科目

<200番台>

CB230C 経営戦略
CB225C CSとマーケティング
CB220C プレゼンテーション演習
CB215C デザインソフト演習Ⅱ
CB210C デザインソフト演習Ⅰ
CB205C データベース利用法
CB200C 資格簿記C

CM230C 医療事務英語
CM220C 診療報酬実務
CM210C 医療管理学
CM200C 医学一般

<100番台>

CB150C ファイナンスの基礎
CB145C 企業と社会
CB140C 情報科学
CB135C 資格コンピュータB
CB130C 資格コンピュータA
CB125C 資格秘書技能B
CB120C 資格秘書技能A
CB115C 資格接客サービスB
CB110C 資格接客サービスA
CB105C 資格簿記B
CB100C 資格簿記A

CC：キャリア支援関係科目

CF：専門基礎科目

CC220C	ビジネス人間関係論
CC210C	キャリア教養講座C
CC200C	キャリア開発セミナーC

CF210C	小論文作成法
CF200C	リサーチ入門

CC140C	キャリア教養講座B
CC130C	キャリア教養講座A
CC120C	キャリア開発セミナーB
CC110C	キャリア開発セミナーA

CF110C	アカデミックリーディング
CF100C	統計の基礎

CC090C	◆数学基礎
--------	-------

CR：観光・ホテル関係科目

CE：英語・異文化理解科目

CR230C	地域と観光(フィールドワーク)
CR220C	地域と観光(概論)
CR210C	Hospitality English
CR200C	Kanazawa Guide

CE240C	Business English Skills
CE230C	Advanced English III
CE220C	Advanced English II
CE210C	Advanced English I
CE200C	ワールドトピックス

CR110C	ホテル・ブライダルサービス論
CR100C	金沢学

CE150C	English Communication Skills
CE140C	海外地域研究
CE130C	異文化コミュニケーション論
CE120C	Reading
CE110C	Writing
CE100C	Grammar



全学共通科目	1～53
食物栄養学科	55～117
コミュニティ文化学科	119～183
司書特別開講科目(社会学科科目)	185～201
教職員録	203～204
案内図	205～208

# カリキュラム 目次

※頁番号が一の科目は、2017年度開講せず

## 全学共通科目

### 〔北陸学院科目〕

HG100C	北陸学院セミナーⅠ	3
HG200C	北陸学院セミナーⅡ	4
HG110C	キリスト教概論Ⅰ	5
HG120C	キリスト教概論Ⅱ	6

### 〔総合教養科目〕

GE100C	総合教養AⅠ	7
GE110C	総合教養AⅡ	8
GE120C	総合教養BⅠ	9
GE130C	総合教養BⅡ	10
GE140C	総合教養CⅠ	11
GE150C	総合教養CⅡ	12
GE160C	総合教養DⅠ	13
GE170C	総合教養DⅡ	14

### 〔言語教育科目〕

LJ090C	日本語基礎	15
LJ110C	日本語表現法Ⅰ	16
LJ120C	日本語表現法Ⅱ	17
LE090C	英語基礎	18
LE155C	英語AⅠ	19
LE160C	英語AⅡ	20
LE145C	英語BⅠ	21
LE150C	英語BⅡ	22
LE135C	英語CⅠ	23
LE140C	英語CⅡ	24
LE125C	英語DⅠ	25
LE130C	英語DⅡ	26
LE115C	英語EⅠ	27
LE120C	英語EⅡ	28
LE105C	英語FⅠ	29
LE110C	英語FⅡ	30
LE165C	アクティブ・イングリッシュA	31
LE170C	アクティブ・イングリッシュB	32
LE175C	アクティブ・イングリッシュC	33
LC100C	中国語Ⅰ(コミュニティ文化学科)	34
LC110C	中国語Ⅱ(コミュニティ文化学科)	35
LF100C	フランス語Ⅰ(コミュニティ文化学科)	36
LF110C	フランス語Ⅱ(コミュニティ文化学科)	37

### 〔スポーツ・健康科目〕

PE100C	生涯スポーツA(ゴルフ)(食物栄養学科)	38
--------	----------------------	----

PE100C	生涯スポーツA(テニス)(食物栄養学科)	39
PE100C	生涯スポーツA(バドミントン)(食物栄養学科)	40
PE100C	生涯スポーツA(ゴルフ)(コミュニティ文化学科)	41
PE100C	生涯スポーツA(テニス)(コミュニティ文化学科)	42
PE110C	生涯スポーツB(食物栄養学科)	43
PE110C	生涯スポーツB(ゴルフセミナー)(食物栄養学科)	44
PE110C	生涯スポーツB(スキーセミナー)(食物栄養学科)	45

### 〔キャリア教育科目〕

HC100C	キャリアデザインⅠ(食物栄養学科)	46
HC100C	キャリアデザインⅠ(コミュニティ文化学科)	47
HC110C	キャリアデザインⅡ(食物栄養学科)	48
HC110C	キャリアデザインⅡ(コミュニティ文化学科)	49
HC160C	情報機器演習A(食物栄養学科)	50
HC160C	情報機器演習A(コミュニティ文化学科)	51
HC170C	情報機器演習B(食物栄養学科)	52
HC170C	情報機器演習B(コミュニティ文化学科)	53

## 食物栄養学科

### 〔専門基礎科目〕

FB110C	学びの基礎	57
FB120C	キャリア実践演習	58
FB200C	人間の探求Ⅰ	59
FB210C	人間の探求Ⅱ	60
FB130C	栄養士への道A	61
FB140C	栄養士への道B	62
FB220C	栄養士への道C	63
FB230C	栄養士への道D	64
FB090C	科学の基礎	65
FB095C	栄養士のための計算入門	66

### 〔学科専門科目〕

FH100C	公衆衛生学	67
FH200C	社会福祉概論	68
FP100C	人体構造学	69
FP200C	生理学(含運動生理学)	70
FP110C	栄養生化学	71
FP210C	病気のしくみ	72
FP220C	生理学実習	73
FP230C	栄養生化学実験	74
FP120C	食品学Ⅰ	75
FP240C	食品学Ⅱ	76
FP250C	食品衛生学	77
FP260C	食品学実験	78

FP270C	食品衛生学実験	79
FD100C	基礎栄養学	80
FD200C	応用栄養学	81
FD210C	臨床栄養学Ⅰ	82
FD220C	臨床栄養学Ⅱ	83
FD230C	応用栄養学実習	84
FD240C	臨床栄養学実習	85
FG100C	栄養指導論Ⅰ	86
FG200C	栄養指導論Ⅱ	87
FG210C	公衆栄養学	88
FG220C	栄養指導論実習	89
FC200C	給食実務論(含計画)	90
FC100C	調理学	91
FC110C	調理学実習A	92
FC120C	調理学実習B	93
FC130C	調理学実習C	94
FC140C	調理学実習D	95
FC160C	給食管理実習Ⅰ	96
FC210C	給食管理実習Ⅱ	97
FC150C	食事計画実習	98～99
FC220C	校外実習	100
FS200C	食品の消費と流通	101
FS210C	フードコーディネーター論	102
FS100C	フードスペシャリスト論	103
FS220C	官能評価・鑑別論	104～105
FT200C	学校栄養教育論	106
FT100C	教育者論	107
FT110C	教育原理	108
FT120C	発達心理学	109
FT130C	教育方法論	110
FT140C	教育課程論(特別活動・道徳を含む)	111
FT210C	教育相談(生徒指導法を含む)	112
FT250C	教職実践演習(栄養教諭)	113
FT230C	栄養教育実習指導	114～115
FT240C	栄養教育実習	116
FT150C	日本国憲法	117

## コミュニティ文化学科

〔学科共通科目〕

CL200C	キリスト教と生活	121
CL210C	キリスト教とホスピタリティ	122
CL130C	青年の心理	123
CL220C	結婚と家族形成	124
CL110C	健康論	125
CL230C	社会心理学の基礎	126
CL120C	現代社会の基礎知識	127

CS100C	スタートアップセミナー	128
CS110C	基礎ゼミⅠ	129
CS120C	基礎ゼミⅡ	130
CS200C	専門ゼミⅠ	131
CS210C	専門ゼミⅡ	132
CC110C	キャリア開発セミナーA	133
CC120C	キャリア開発セミナーB	134
CC200C	キャリア開発セミナーC	135
CC130C	キャリア教養講座A	136
CC140C	キャリア教養講座B	137
CC210C	キャリア教養講座C	138
CC220C	ビジネス人間関係論	139
CC090C	数学基礎	140

〔専門教育科目〕

CF100C	統計の基礎	141
CF200C	リサーチ入門	142
CF110C	アカデミックリーディング	143
CF210C	小論文作成法	144
CB100C	資格簿記A	145
CB105C	資格簿記B	146
CB200C	資格簿記C	147
CB110C	資格接客サービスA	148
CB115C	資格接客サービスB	149
CB120C	資格秘書技能A	150
CB125C	資格秘書技能B	151
CB130C	資格コンピュータA	152
CB135C	資格コンピュータB	153
CB205C	データベース利用法	154
CB210C	デザインソフト演習Ⅰ	155
CB215C	デザインソフト演習Ⅱ	156
CB220C	プレゼンテーション演習	157
CB140C	情報科学	158
CB145C	企業と社会	159
CB150C	ファイナンスの基礎	160
CB225C	CSとマーケティング	161
CB230C	経営戦略	162
CM200C	医学一般	163
CM210C	医療管理学	164
CM220C	診療報酬実務	165
CM230C	医療事務英語	166
CR200C	Kanazawa Guide	167
CR210C	Hospitality English	168
CR100C	金沢学	169
CR110C	ホテル・ブライダルサービス論	170
CR220C	地域と観光(概論)	171
CR230C	地域と観光(フィールドワーク)	172

CE100C	Grammar	173
CE110C	Writing	174
CE120C	Reading	175
CE130C	異文化コミュニケーション論	176
CE140C	海外地域研究	177
CE200C	ワールドトピックス	178
CE150C	English Communication Skills	179
CE210C	Advanced English I	180
CE220C	Advanced English II	181
CE230C	Advanced English III	182
CE240C	Business English Skills	183

〔司書 特別開講科目（社会学科科目）〕

SL100U	図書館概論	187
SL220U	情報技術論	188
SP315U	認知心理学	189
SB100U	生涯学習概論	190
SB200U	図書館サービス概論	191
SB205U	情報サービス論	192
SB300U	児童サービス論	193
SB210U	情報資源組織論	194
SB305U	図書館制度・経営論	195
SB310U	情報サービス演習 I	196
SB315U	情報サービス演習 II	197
SB320U	情報資源組織演習 I	198
SB325U	情報資源組織演習 II	199
SB330U	図書館情報資源概論	200
SB335U	図書・図書館史	201

# 全学共通科目











授業科目名	GE100C 総合教養A I		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	辻 直人・伊藤 雄二・大井 佳子・下村 岳人・福江 厚啓 (代表教員 辻 直人)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する現代にあって、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める。オムニバス方式の本講義は幼、保、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー形式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>①それぞれの授業内容を的確に把握し理解することができる。 ②授業内容を的確にまとめ、そこから学んだ自分の考えを書くことができる。</p>				
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方、TV番組「涙と笑いのハッピークラス」の視聴を通して、子どもの成長と教師の役割を理解する。					辻	
2	「内なる声」を育てる：子どもたちを取り巻く環境は様々である中、どのような教育が今後求められるのか、検討する。					辻	
3	食卓の向こう側と教育：人同士のつながりが見えにくい現代社会において、食に連なる人たちとのつながりを見いだしていくことの意味を考え、食育の広がる可能性について検討する。					辻	
4	子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりを見てみよう					福江	
5	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ					福江	
6	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること					福江	
7	生活のなかの算数：生活のなかに潜む算数の場面や考え方を、事例的に紹介する。その後、自分の生活のなかの算数についても振り返りながら考える。					下村	
8	グラフのよみ方：普段の生活において、グラフは多くの情報を与えてくれる。ここでは、グラフが人に与える印象や影響、その効果について検討する。					下村	
9	教育現場とICT：ICT機器の導入で、学校における子どもの学びが変わりつつある。その実際を知り、教育における不易と流行について考える。					下村	
10	英語学習再検討：小・中学校からの英語学習歴を振り返り、外国語学習における自分のスタイルを再認識し、文字やアルファベットの新しい世界を知る。					伊藤	
11	英語授業再評価：小・中学校からの英語授業を振り返り、そこから得られたものを整理し、自分の将来とどのようにかかわるかを考える。					伊藤	
12	英語学習再出発：今までの英語学習や英語の授業を振り返り、英語学習への自分のmissionsを模索し、実現するための具体的な方策を考えてみる。					伊藤	
13	子どもは遊んで賢くなる：赤ちゃんがもって生まれてくる力					大井	
14	子どもは遊んで賢くなる：ごっこ遊びのこと					大井	
15	子どもは遊んで賢くなる：1枚の紙から					大井	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
担当者ごとの授業後の課題レポート	100 (20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
今、いじめ問題を始めとして子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からこれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]				各教員ごとに対応する。			
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外はそれぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE110C 総合教養AII		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	辻 直人・伊藤 雄二・田邊 圭子・下村 岳人・福江 厚啓 (代表教員 辻 直人)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する現代にあって、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める。オムニバス方式の本講義は幼、保、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー形式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>①それぞれの授業内容を的確に把握し理解することができる。 ②授業内容を的確にまとめ、そこから学んだ自分の考えを書くことができる。</p>				
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方、TV番組「涙と笑いのハッピークラス」の視聴を通して、子どもの成長と教師の役割を理解する。					辻	
2	「内なる声」を育てる：子どもたちを取り巻く環境は様々である中、どのような教育が今後求められるのか、検討する。					辻	
3	食卓の向こう側と教育：人同士のつながりが見えにくい現代社会において、食に連なる人たちとのつながりを見いだしていくことの意味を考え、食育の広がる可能性について検討する。					辻	
4	子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりを見てみよう					福江	
5	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ					福江	
6	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること					福江	
7	生活のなかの算数：生活のなかに潜む算数の場面や考え方を、事例的に紹介する。その後、自分の生活のなかの算数についても振り返りながら考える。					下村	
8	グラフのよみ方：普段の生活において、グラフは多くの情報を与えてくれる。ここでは、グラフが人に与える印象や影響、その効果について検討する。					下村	
9	教育現場とICT：ICT機器の導入で、学校における子どもの学びが変わりつつある。その実際を知り、教育における不易と流行について考える。					下村	
10	英語学習再検討：小・中学校からの英語学習歴を振り返り、外国語学習における自分のスタイルを再認識し、文字やアルファベットの新しい世界を知る。					伊藤	
11	英語授業再評価：小・中学校からの英語授業を振り返り、そこから得られたものを整理し、自分の将来とどのようにかかわるかを考える。					伊藤	
12	英語学習再出発：今までの英語学習や英語の授業を振り返り、英語学習への自分のmissionsを模索し、実現するための具体的方策を考えてみる。					伊藤	
13	子どもとスポーツ：子どもにとってスポーツはどのような意味をもつのか考える。					田邊	
14	学校とスポーツ：「体育」や「部活動」など、学校教育の中で行われているスポーツ活動全般の現状と課題について考える。					田邊	
15	これからのスポーツ：これからのスポーツのあり方について、様々な角度から考える。					田邊	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
担当者ごとの授業後の課題レポート	100 (20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
今、いじめ問題を始めとして子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からこれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]			各教員ごとに対応する。				
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外はそれぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	GE120C 総合教養B I		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中 純一・小林 正史・田引 俊和 (代表教員 田中 純一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、社会福祉といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようを抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する。(田中)</li> <li>・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中)</li> <li>・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようにする(小林)</li> <li>・こころの不調や発達障害などを含め、障害等について正しく理解する。また、現代社会における社会福祉の動向、支援制度等を正しく理解し、日常生活においても興味関心を持てるようにする。(田引)</li> </ul>			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧→復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	私たちの暮らしと社会福祉：障害の概念および障害の基礎的理解、社会との関係					田引
12	私たちの暮らしと社会福祉：こころと社会の関係を考える					田引
13	私たちの暮らしと社会福祉：だれもが住みやすい街づくり					田引
14	私たちの暮らしと社会福祉：障害がある人たちの就労やスポーツ					田引
15	私たちの暮らしと社会福祉：ニーズ把握と権利擁護、多様な人たちの存在を認め合う					田引
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度および意欲	30	出席状況(欠席は減点)・授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況		レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと [30分] その日のうちに学んだことを復習すること [30分]				個々の教員の指導に従うこと。		
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	共通フォルダーに保存された課題文献を読むように指示されることがある。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE130C 総合教養BII		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中 純一・小林 正史・田引 俊和 (代表教員 田中 純一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、社会福祉といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようを抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する。(田中)</li> <li>・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中)</li> <li>・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようにする(小林)</li> <li>・こころの不調や発達障害などを含め、障害等について正しく理解する。また、現代社会における社会福祉の動向、支援制度等を正しく理解し、日常生活においても興味関心を持てるようにする。(田引)</li> </ul>			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧→復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	私たちの暮らしと社会福祉：障害の概念および障害の基礎的理解、社会との関係					田引
12	私たちの暮らしと社会福祉：こころと社会の関係を考える					田引
13	私たちの暮らしと社会福祉：だれもが住みやすい街づくり					田引
14	私たちの暮らしと社会福祉：障害がある人たちの就労やスポーツ					田引
15	私たちの暮らしと社会福祉：ニーズ把握と権利擁護、多様な人たちの存在を認め合う					田引
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度および意欲	30	出席状況(欠席は減点)・授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況		レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと [30分] その日のうちに学んだことを復習すること [30分]				個々の教員の指導に従うこと。		
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	共通フォルダーに保存された課題文献を読むように指示されることがある。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE140C 総合教養C I		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・中谷 智一・村上 吉春・田中 弘美・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されています。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切ですが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえます。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安心・安全」といった視点も踏まえ、次のテーマをおとして、これからの食生活の在り方を考えていきます。</p>			<p>①食物と健康の関連を理解する。  ②栄養素と健康の関連を理解する。  ③正しい食生活のあり方を理解する。  ④食と心理の関係を理解する。  ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>				
教授方法	6名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤	
2	食品の一次、二次、三次機能とは何かについて学ぶ					坂井	
3	食品の一次機能について学ぶ -タンパク質、脂質、糖質-					坂井	
4	食品の一次機能について学ぶ -味成分、香り成分、色素成分-					坂井	
5	日本人の食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、行事食や郷土食の継承について考える。					三田	
6	食に関する情報と健康：食を取り巻く様々な情報の取捨選択の仕方について考える。					三田	
7	日本人の食生活の変化と問題点：自分の食生活を見直し、問題点を解決できるように考える。					田中	
8	献立作成の基本を学ぶ。（食事摂取基準、食事バランスガイドの理解を含む）					田中	
9	食物摂取と健康の概念：私たちはなぜ食べるのか？健康とはなにか？を考える。					三田	
10	食事と環境：人間と食べ物と環境のつながりから、環境調和型食生活の意義を考える。					三田	
11	食と心理：食べ物によって精神的にどのような影響を受けるのか？について考察する（総論）					中谷	
12	食と心理：具体的にはどのような問題が生じてきているのかを紹介する。（各論）					中谷	
13	現代の食環境における諸問題① 主食の米を中心として、わが国の食料需給の現状について考える。					村上	
14	現代の食環境における諸問題② T P P交渉妥結を受け、主食の確保は今後どうあるべきかを考える。					村上	
15	21世紀の国民健康づくり運動：「健康日本21」が策定されたことを踏まえ、国民一人ひとりがどうあるべきかを考える。					田中	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むようにして下さい。毎回の授業内容をまとめる（毎回30分程度）				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
				毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。			
受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない			教科書・テキスト	授業ごとに担当者の配布する資料		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE150C 総合教養CII		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	新澤 祥恵・中谷 智一・村上 吉春・西 正人・俵 万里子（代表教員 新澤 祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されています。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切ですが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえます。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安心・安全」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきます。</p>			<p>①食物と健康の関連を理解する。  ②栄養素と健康の関連を理解する。  ③正しい食生活のあり方を理解する。  ④食と心理の関係を理解する。  ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>				
教授方法	5名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤	
2	ライフステージに応じた食育（胎児期・乳児期）：健康な心身の基礎を作るための望ましい食生活のあり方について考える。					俵	
3	ライフステージに応じた食育（成長期）：心身の健全な成長・発達のための食生活のあり方について考える。					俵	
4	ライフステージに応じた食育（成人期）：生活習慣病予防のための食生活のあり方を考える。					俵	
5	運動・スポーツと栄養：運動・スポーツ時の身体変化とそのために必要な栄養摂取について理解する。					俵	
6	食品と薬剤1：ヒトの消化器系の構造と機能、生体内に薬剤が吸収される仕組みを理解する。					西	
7	食品と薬剤2：薬剤の服用方法や食品の薬効に及ぼす影響とその仕組みについて学ぶ。					西	
8	食品と薬剤3：食品中の特定成分（カフェイン、色素、食品群別）が薬効に及ぼす影響について学ぶ。					西	
9	食と心理：食べ物によって精神的にどのような影響を受けるのか？について考察する（総論）					中谷	
10	食と心理：具体的にはどのような問題が生じてきているのかを紹介する。（各論）					中谷	
11	現代の食環境における諸問題① 主食の米を中心として、わが国の食料需給の現状について考える。					村上	
12	現代の食環境における諸問題② TPP交渉妥結を受け、主食の確保は今後どうあるべきかを考える。					村上	
13	健康と食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、健康との関連を考える。					新澤	
14	環境と食：環境負荷の少ない調理など、環境調査型食生活の意義を考える					新澤	
15	食の安全安心：食の安全安心をハザードとリスクや食育の視点から理解する					新澤	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むようにして下さい。毎回の授業内容をまとめる（毎回30分程度）				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
				毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。			
受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない			教科書・テキスト	授業ごとに担当者の配布する資料		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE160C 総合教養Ⅰ		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡 和久・林 剛司 (代表教員 富岡 和久)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>コミュニケーションとは、情報（メッセージ）の授受により相互に影響しあう過程（プロセス）である。特に多様な価値観が存在する中で、互いを認め合うことは大切な事である。本講義では円滑なコミュニケーションに求められるテクニックについて学び、実践することで理解を深める。</p> <p>具体的には大学生活においてコミュニケーションが重要な役割を果たす場面の一つを想定して、私たちを取りまく家庭を中心とした「日常生活」を題材に用いて課題探求型のグループ学習を体験する。</p> <p>さらに多様性の理解についても知識を深める。</p> <p>この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。</p>			<p>①プレゼンテーションの基本について学ぶ。</p> <p>②コミュニケーション能力としての「相手に伝える力」や「相手から読み取る力」を身につける。</p> <p>③協調性（チームワーク力）、主体性・積極性、リーダーシップあるいは論理的思考を身につける。</p> <p>④「日常生活」情報の中から自身に役立つものを適切に抽出・整理し、応用する力を身につける。</p> <p>⑤人種やジェンダーなど、現代アメリカ社会のキーワードを理解する。</p>			
教授方法	グループワーク形式で行う（1回～8回）。講義形式で行う（9～15回）					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。					富岡
2	グループワークの知識と実践形式での学びをおこなう。 目標：グループ学習に必要な技術や知識などを実際の体験から習得する。					富岡
3	プレゼンテーションの基本：コミュニケーションツールの一つとしてのプレゼンテーションを行う上で必要な基本的要素を学ぶ。「紹介・説明・説得」の違いについて実例を通して学習する。					富岡
4	聞いてもらえるプレゼンテーション：論理的な文章の組み立て方と心に届く内容に、我々が何気なく用いている「パラランゲージ」を加えることで聞き手に届くプレゼンテーションをする。そのための技術について学ぶ。					富岡
5	テーマ1に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備一話し合い一行動までを体験して、理解する。					富岡
6	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、テーマ2の設定 目標：プレゼンテーション法の実践と理解。一連のプロセスの最終段階の成果の評価を行い、課題を見つける。					富岡
7	テーマ2に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備一話し合い一行動までを体験して、理解を深める。					富岡
8	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、本シリーズ全体の振り返りと共有 目標：2回のグループワークを通して、コミュニケーションの意義を理解するとともに、私たちにとっての「生活」の意味を理解する。					富岡
9	「マイノリティ」から見るアメリカ多民族国家、多文化主義を理解する。					林
10	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ドゥ・ザ・ライト・シング』アメリカにおける人種間の衝突について、理解を深める。					林
11	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ドゥ・ザ・ライト・シング』ブルックリンの人種構成について理解する。					林
12	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ブロークバック・マウンテン』アメリカにおけるジェンダーとLGBTについて理解する					林
13	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ブロークバック・マウンテン』アメリカにおけるジェンダーと職業観について理解する					林
14	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『人生は小説よりも奇なり』アメリカにおける同性婚の合法化について、理解を深める。					林
15	まとめ アメリカにおける多文化主義、人種間衝突、異文化コミュニケーション、ジェンダーについてまとめ、理解する。					林
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	50	・指定の書式に従ってレポートを作成している。 ・感想文ではなく、客観的に記述し自分の考察を加えている。		毎回のフィードバック	30	講義で学んだことを自分の言葉でフィードバックし、理解を深める。
授業への参加態度	20	講義の到達目標をふまえて、授業に参加している。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
毎回学んだ内容をまとめ、配付された資料と共に整理しておくこと。事前・事後の学習はグループワークを効果的に進めるために、指示に従って各回毎に指定された時間数を自主的に行ってください。（総計60時間相当分）				授業内で随時行う		
受講生に望むこと	日常、何気なく使用するコミュニケーションを深く追及することによって、自分自身の行動がより円滑に有意義になるような目標を持って毎回の授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	プリントを配布し、パワーポイントを適宜使用する。	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE170C 総合教養Ⅱ		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	富岡 和久・林 剛司 (代表教員 富岡 和久)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>コミュニケーションとは、情報（メッセージ）の授受により相互に影響しあう過程（プロセス）である。特に多様な価値観が存在する中で、互いを認め合うことは大切な事である。本講義では円滑なコミュニケーションに求められるテクニックについて学び、実践することで理解を深める。</p> <p>具体的には大学生活においてコミュニケーションが重要な役割を果たす場面の一つを想定して、私たちを取りまく家庭を中心とした「日常生活」を題材に用いて課題探求型のグループ学習を体験する。</p> <p>さらに多様性の理解についても知識を深める。</p> <p>この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。</p>			<p>①プレゼンテーションの基本について学ぶ。</p> <p>②コミュニケーション能力としての「相手に伝える力」や「相手から読み取る力」を身につける。</p> <p>③協調性（チームワーク力）、主体性・積極性、リーダーシップあるいは論理的思考を身につける。</p> <p>④「日常生活」情報の中から自身に役立つものを適切に抽出・整理し、応用する力を身につける。</p> <p>⑤人種やジェンダーなど、現代アメリカ社会のキーワードを理解する。</p>				
教授方法	グループワーク形式で行う（1回～8回）。講義形式で行う（9～15回）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。					富岡	
2	グループワークの知識と実践形式での学びをおこなう。 目標：グループ学習に必要な技術や知識などを実際の体験から習得する。					富岡	
3	プレゼンテーションの基本：コミュニケーションツールの一つとしてのプレゼンテーションを行う上で必要な基本的要素を学ぶ。「紹介・説明・説得」の違いについて実例を通して学習する。					富岡	
4	聞いてもらえるプレゼンテーション：論理的な文章の組み立て方と心に届く内容に、我々が何気なく用いている「パラランゲージ」を加えることで聞き手に届くプレゼンテーションをする。そのための技術について学ぶ。					富岡	
5	テーマ1に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備一話し合い一行動までを体験して、理解する。					富岡	
6	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、テーマ2の設定 目標：プレゼンテーション法の実践と理解。一連のプロセスの最終段階の成果の評価を行い、課題を見つける。					富岡	
7	テーマ2に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備一話し合い一行動までを体験して、理解を深める。					富岡	
8	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、本シリーズ全体の振り返りと共有 目標：2回のグループワークを通して、コミュニケーションの意義を理解するとともに、私たちにとっての「生活」の意味を理解する。					富岡	
9	「マイノリティ」から見るアメリカ多民族国家、多文化主義を理解する。					林	
10	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ドゥ・ザ・ライト・シング』 アメリカにおける人種間の衝突について、理解を深める。					林	
11	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ドゥ・ザ・ライト・シング』 ブルックリンの人種構成について理解する。					林	
12	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ブロークバック・マウンテン』 アメリカにおけるジェンダーとLGBTについて理解する					林	
13	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『ブロークバック・マウンテン』 アメリカにおけるジェンダーと職業観について理解する					林	
14	「マイノリティ」から見るアメリカ映画『人生は小説よりも奇なり』 アメリカにおける同性婚の合法化について、理解を深める。					林	
15	まとめ アメリカにおける多文化主義、人種間衝突、異文化コミュニケーション、ジェンダーについてまとめ、理解する。					林	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	・指定の書式に従ってレポートを作成している。 ・感想文ではなく、客観的に記述し自分の考察を加えている。		毎回のフィードバック	30	講義で学んだことを自分の言葉でフィードバックし、理解を深める。	
授業への参加態度	20	講義の到達目標をふまえて、授業に参加している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配付された資料と共に整理しておくこと。 事前・事後の学習はグループワークを効果的に進めるために、指示に従って各回毎に指定された時間数を自主的に行ってください。（総計60時間相当分）				授業内で随時行う			
受講生に望むこと	日常、何気なく使用するコミュニケーションを深く追及することによって、自分自身の行動がより円滑に有意義になるような目標を持って毎回の授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	プリントを配布し、パワーポイントを適宜使用する。		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LJ090C 日本語基礎		開講学科	短期大学部	必修・選択	自由	
担当教員名	竹下 正弘						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要とされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活で必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。			①辞書に親しみ、使いこなすことができる ②決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる ③表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす ④口頭表現に慣れ親しむ				
教授方法	演習と講義						
履修条件	学科指定の者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどのようなものかを理解する。「自己紹介文」を書く。						
2	①前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 ②辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）						
3	①表現力を豊かにする語彙（対義語） ②辞書を使い慣れる（「対義語」）						
4	①文章表現の基礎（「構成」を考える） ②表現力を豊かにする語彙（同義語） ③辞書を使い慣れる（「同義語」）						
5	①文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える） ②表現力を豊かにする語彙（四字熟語） ③辞書を使い慣れる（「四字熟語」）						
6	①文章表現の実践（「エッセイ」を書く） ②表現力を豊かにする語彙（三字熟語） ③辞書を使い慣れる（「三字熟語」）						
7	①口頭表現の実践（「詩」の朗読） ②表現力を豊かにする語彙（故事成語） ③辞書を使い慣れる（「故事成語」）						
8	①口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読） ②表現力を豊かにするために（仮名遣い） ③辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して） ④到達確認テスト						
9	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）						
10	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）						
11	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（教育漢字の確認）						
12	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を確実にするために（常用漢字の確認）						
13	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（表外漢字の確認）						
14	①文章表現の実践（小論文）を書く） ②表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）						
15	①文章表現の実践（「小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（まとめ）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期テスト (16回 目)	50	各回の講義内容・演習内容を理解しているか		到達確認テ スト(8回 目)	20	各回の講義内容・演習内容を理解しているか	
各回の課題 提出	20	定められた書式・時間に従って提出しているか。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現しているか		授業参加態 度	10	課題に取り組み、弱点を克服しているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
テキストの復習及び発展課題の学習 [50分程度]				・質問は、授業中や、授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。			
受講生に 望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。			教科書・ テキスト	『みがこう、あなたの日本語力』川本信幹 著 (東京書籍) 2008年 ISBN : 978-4-487-80295-1		
指定図書/ 参考書等	なし			その他・ 特記事項	①辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること		

授業科目名	LJ110C 日本語表現法 I		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・松岡 香・清水 實 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち言語教育科目に位置付けられている。受講生は本授業内の演習や課題作成を通して、短期大学部における授業理解の土台となる文章表現力と口頭表現力の基礎を培う。文章表現においては、問題演習を通して語彙を増やし、具体的かつ適切に言葉を用いる技術を学ぶ。口頭表現においては、敬語の理解を通してまとまった内容を人前で話すことについての基本を学ぶ。また、さまざまな場面を想定した会話を練習することによって、正しい敬語を使用することに慣れる。			①言葉を伝えるための基本的な姿勢を習得している。(聞き方、話し方、読み方、書き方) ②敬語の基本について理解し、敬語を適切に用いた表現ができる。 ③問題演習などを通して大学生・社会人レベルの語彙を身につけて、適切な漢字表記ができる。 ④基本的な文章作成のルールを身につけて、読み手に分かりやすい文章を作成することができる。 ⑤総合的な日本語表現力(日本語検定2級を目指す実力)を身につけている。				
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。						
履修条件	「日本語基礎」履修者は、単位修得後に「日本語表現法 I」を履修することができる。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業概要説明 テキスト②：自己紹介について考える。					全員	
2	テキスト②：自己紹介、敬語 (1) テキスト③：スキルアップ敬語の種類と使い分けについて理解する。					全員	
3	テキスト①：文章の分類 テキスト②：敬語 (2) テキスト③：注意すべき敬語について理解する。					全員	
4	テキスト①：事実と意見の区別 テキスト②：発声・発音 テキスト③：配慮を示す言葉について理解する。					全員	
5	テキスト①：適切な語の選び方 テキスト②：朗読 テキスト③：品詞・活用の種類について理解する。					全員	
6	テキスト①：読み手が理解しやすい文 テキスト③：ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉について理解する。					全員	
7	テキスト①：読点の打ち方 テキスト③：文のねじれと言葉の係り受け、あいまい文について理解する。					全員	
8	テキスト①：読み手の期待にそって展開する文章 テキスト③：接続語・指示語と文章について理解する。					全員	
9	テキスト①：文体の統一 テキスト③：類義語・対義語について理解する。					全員	
10	テキスト①：文献の引用 テキスト③：動詞の自他・視点について理解する。					全員	
11	テキスト①：レポート・論文の書き方① テキスト③：文体、話し言葉、書き言葉について理解する。					全員	
12	テキスト①：レポート・論文の書き方② テキスト③：コロケーションについて理解する。					全員	
13	小論文の実践① テキスト③：部首・音訓・熟語について理解する。					全員	
14	小論文の実践② テキスト③：仮名遣い・送り仮名について理解する。					全員	
15	テキスト③：総合問題に挑戦する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加状況	20	①必要な準備をして参加している。 ②毎回の学習事項について予習復習をしている。 ③積極的にディスカッションに参加している。		提出課題	30	①授業時に指示する課題について、学習した事項を踏まえて表現し、提出している。 ②日本語検定・領域別問題集について、指示された書式・期日を守り、自己採点を行った上で提出している。	
単位認定試験	50	①授業で取り組んだ各分野の内容を概ね習得している。 ②得意分野を伸ばし、苦手分野を克服している。 ③日本語検定3級以上の実力がついている。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①毎回指定された問題に取り組む。[40分] ②苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集に取り組む。[40分] ③前期の授業で学んだ内容をもとに、夏季休業中にレポートを作成して、後期の授業に持参すること。[夏期休業中に10日～14日間程度]				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	社会人としてふさわしい表現力を身につけるべく、この授業をよい機会として有意義に利用してほしい。そのために次の3つのルールを守ってほしい。 ①毎回、必ず国語辞典を持参すること。(電子辞書可) ②毎日、ニュースや新聞を確認し、時事問題についての理解を深めること。 ③学期中に指定図書の問題集から苦手とする領域の問題集(3級程度問題まで)1冊以上を解くこと。			教科書・テキスト	①『ブラクティカル日本語 文章表現編 成功する型 改訂版』清水明美他編 おうふう 2011 ISBN:978-4-2730-3632-4 ②『ブラクティカル日本語 口頭表現編 「自己表現の型」福沢健他編 おうふう 2007 ISBN:978-4-2730-3339-2 ③『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会 GK7 東京書籍 2012 ISBN:978-4-4878-0364-4		
指定図書参考書等	日本語検定委員会(東京書籍 2008)発行の以下のテキストより1冊を選んで問題を解く。 ①日本語検定公式テキスト『日本語中級3・4級』 ②日本語検定領域別問題集『敬語』 ③日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』 ④日本語検定領域別問題集『文法』 ⑤日本語検定領域別問題集『漢字・表記』			その他・特記事項	①基礎学力テストで一定の基準に達しなかった学生は「日本語基礎」の授業を履修し、単位修得した後に履修すること。 ②日本語表現法Ⅱにおいてもテキストを継続して使用する。		

授業科目名	LJ120C 日本語表現法Ⅱ		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・松岡 香・清水 實 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置付けられている。受講生は、日本語表現法Ⅰで学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに実践的な文章表現力と口頭表現力を培う。文章表現においては、形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、ディスカッション、スピーチやディベートなどの体験を通して実践的に学ぶ。			①言葉を伝えるための実践的な知識・技能を身につけている。 ②敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。 ③定型文章作成に必要な知識を理解して、適切に表現することができる。 ④人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。 ⑤資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。 ⑥グループで協力してディベートを行うことができる。				
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	「日本語表現法Ⅰ」の単位修得済の者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「日本語表現法Ⅱ」で学ぶ文章表現、口頭表現について概要説明する。					全員	
2	テキスト②：スピーチ（スピーチ原稿の作成） テキスト③：重要語句の確認					全員	
3	テキスト②：スピーチ（スピーチの実践） テキスト③：重要語句の確認					全員	
4	電話・アポイントについて学ぶ。 テキスト③：重要語句の確認					全員	
5	テキスト①：手紙の書き方 テキスト③：重要語句の確認					全員	
6	テキスト①：ビジネス文書の書き方 テキスト③：重要語句の確認					全員	
7	テキスト②：資料の作り方 テキスト③：重要語句の確認					全員	
8	テキスト②：話し方の技術。 テキスト③：重要語句の確認					全員	
9	テキスト②：事実の報告・内容の構成 テキスト③：重要語句の確認					全員	
10	テキスト②：プレゼンテーション・内容の構成、プレゼンテーション テキスト③：重要語句の理解					全員	
11	テキスト②：ディベートの技術 ディベートの論題についてディスカッションする。 テキスト③：重要語句の理解					全員	
12	ディベートの実践（前半のグループ） テキスト②：ディベートの実践 テキスト③：重要語句の理解					全員	
13	ディベートの実践（後半のグループ） テキスト②：ディベートの実践 テキスト③：重要語句の理解					全員	
14	レポート発表会を行う。（前半のグループ）					全員	
15	レポート発表会を行う。（後半のグループ） 授業全体のまとめを行う。					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	20	①基本的な姿勢ができています。（聞き方、話し方、読み方、書き方） ②毎回学習する事項について予習復習をしている。		課題レポート	50	①形式・内容の両面において学習内容がレポートに反映されている。	
口頭表現発表態度	20	①学習内容を理解して発表を行っている。 ②ディベートやディスカッションのルールを理解し実践している。 ③相手の意見をしっかりと聞き、積極的に発言している。		レポート発表会	10	①周到な準備ができています。 ②定められた時間内にまとまった内容を発表している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①日本語表現法Ⅰで課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。〔夏期休業中に10日～14日間〕 ②ディベートはグループごとに役割分担をして、資料収集・論点組立の準備をする。〔120分〕 ③レポート発表は、各自が自分に最適と思われる方法を考え準備する。				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	①「日本語表現法Ⅰ」で学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習しておくこと。 ②毎回辞書を持参し、分からない単語や表現などはその都度調べるなどして語句の理解に努めること。 ③授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。			教科書・テキスト	①『プラクティカル日本語 文章表現編 成功する型 改訂版』清水明美他編 おうふう 2011 ISBN:978-4-2730-3632-4 ②『プラクティカル日本語 口頭表現編 「自己表現の型」福沢健他編 おうふう 2007 ISBN:978-4-2730-3339-2 ③『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会 GK7 東京書籍 2012 ISBN:978-4-4878-0364-4		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	「日本語表現法Ⅰ」の単位を修得していること。日本語表現法Ⅰで使用したテキストを継続して用いる。		

授業科目名	LE090U 英語基礎		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「基礎力強化科目」に位置付けられている。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。</p>			<p>学生は大学で学ぶために必要な基本的語彙・文型等を確認しながら、シンプルな文を自分で組み立てて発信できるような基本的な英語力を身につける。同時に、自律的に学ぶ姿勢を獲得することを目標とする。</p>				
教授方法	演習（予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習）の形式で行う。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。						
2	Lesson 1: This is my everyday life. 一般動詞(1) 現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ						
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。						
4	Lesson 2: Do you keep a diary? 一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。						
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。						
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。予習						
7	Lesson 5: We love our town, Sakura-Yokocho. 場所の表現 基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。						
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現 時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。						
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival? 進行形 進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。						
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞 面接試験の場面を題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。						
11	Lesson 9: What does he look like? Wh-疑問文 wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。						
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert? 基本動詞 get, have, come, go等の基本動詞の用法を学美、発信に使う。						
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞 put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。						
14	Lesson 12: Let's take a trip. 英語で自分を表現するために 英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。						
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)		ノートづくり・課題への取り組み	50	①予習：指定された範囲の課題（ノートづくり）ができているか。②質問して分かったことがノートにメモされているか。③復習：本時の学習事項を定着すべく練習しているか。	
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業は予習型で進められる。単語や文の意味（発音・ストレスは音声データを用いて練習）を調べ、練習問題の答を書いてくる[40分]。不明な点等があれば授業で質問すること。 ②授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること[20分]。 ③目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。</p>				随時行う			
受講生に望むこと	<p>①1時間目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守る。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社 2007年 ISBN:978-4-384-33378-7 C1082		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語F1」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得できなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。		

授業科目名	LE155C 英語A I		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語を日常的のみならず業務上においても運用できる人材が求められている。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのC1（学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができ、明確で文章構成がしっかりとした文章を作ることができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション（授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について）。Unit 1 Achieving goals; Lesson 1 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。					
2	Unit 1; Lessons 1-2 ①動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。（復習）②受動態を用いて自分の知っていること/知らないことについて述べるができるようになる。					
3	Unit 1; Lessons 3-4 ①現在完了を用いて、自分がなし得た事柄について話すことができるようになる。②本課のまとめ。					
4	Unit 2 Places and communities; Lessons 1-2 ①動名詞/不定詞を用いて、訪問すべき場所についての助言ができるようになる。②比較級を用いて、公式/非公式の言語の特徴が使いこなせるようになる。					
5	Unit 2; Lessons 3-4 ①形容詞を用いて、土地についての描写ができるようになる。②本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Stories; Lessons 1-2 ①動詞の過去形を用いて逸話を話すことができるようになる。②複合形容詞を用いて人物を詳細に描写することができるようになる。					
8	Unit 3; Lessons 3-4 ①動名詞句、過去分詞、現在分詞を用いて、冗談を言えるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 4 Moving forward; Lessons 1-2 ①未来形を用いて物事が起こる確率について描写することができるようになる。②未来形を用いて計画や調整について話すことができるようになる。					
10	Unit 4; Lessons 3-4 ①主語と動詞の倒置表現を用いて、広範囲にわたる議論を理解することができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 5 Making money; Lessons 1-2 ①強調表現を用いて、仕事関係について話すことができるようになる。②条件節を用いて、金融に関する決定や後悔について討論することができるようになる。					
12	Unit 5; Lesson 3 文を修飾する副詞を用い優先順位を表すことができるようになる。					
13	Unit 5; Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト（㊟特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明&資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE160C 英語AII		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語を日常的のみならず業務上においても運用できる人材が求められている。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのC1（学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができ、明確で文章構成がしっかりとした文章を作ることができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語A I」を履修した者（単位未修得可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Understanding power; Lesson 1 冠詞を用いて貴重な建物や建造物について描写できるようになる。					
2	Unit 6; Lessons 2-3 ①whatever, whoever, whenever節を用いて流暢に話されるスピーチのメモを取ることができるようになる。②時間と対比を論理的に繋げて自伝的文章が書けるようになる。					
3	Unit 6; Lesson 4 本課のまとめ。 Unit 7 The natural world; Lesson 1 形容詞節を用いて手順を説明することができるようになる。					
4	Unit 7; Lessons 2-3 ①不定詞/動名詞が続く動詞を用いて広範囲にわたる散文に基づき推測ができるようになる。②as...as表現や量を表す表現を用いて、広告が書けるようになる。					
5	Unit 7; Lesson 4 本課のまとめ。					
6	Units 6-7の理解確認と単元テスト					
7	Unit 8 Problems and issues; Lessons 1-2 ①伝達動詞を用いて違う質問をされた際に引き伸ばし戦術をとることができるようになる。②継続表現を用いてライフスタイルについて討論することができるようになる。					
8	Unit 8; Lessons 3-4 ① 話題化（文の先頭に移動）する方法を用いて、日々の問題を説明することができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 9 People with vision; Lessons 1-2 ①動詞句など前置詞との連語を用いて、物事の確からしさの程度を表すことができるようになる。②談話標識を用いて自分の好みを説明するために口頭表現を用いることができるようになる。					
10	Unit 9; Lessons 3-4 ①仮定法過去を用いて仮定的な質問に答えることができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 10 Expressing feelings; Lessons 1-2 ①助動詞を用いて感情がいかに自分に影響を与えるか討論することができるようになる。②推量の助動詞を用いて非現実的な状況について考え、述べることができるようになる。					
12	Unit 10; Lesson 3 wouldを用いて子どもの頃の思い出を描写することができるようになる。					
13	Unit 10; Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の理解確認					
14	Units 8-10の単元テスト、外部テスト（⑨特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 ②指示通りの形式になっているか。 ③リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明＆資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE145C 英語B I		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーブズ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語を日常的のみならず業務上においても運用できる人材が求められている。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのB2（留学や仕事で求められる抽象的な話題や専門的な議論で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。Unit 1 Making connections; Lesson 1 付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。					
2	Unit 1; Lessons 1-2 ①付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。（復習）②any/every/no/someを伴う代名詞を用いて、賛成・反対を表明することができるようになる。					
3	Unit 1; Lessons 3-4 ①could/might/must/mayなどの助動詞を用いて、推測を表すことができるようになる。②本課のまとめ。					
4	Unit 2 Making a living; Lessons 1-2 ①will/be going toを用いて、将来の計画や予測を表現することができるようになる。②未来進行形や未来完了形を用いて、調査結果を報告することができるようになる。					
5	Unit 2; Lessons 3-4 ①just in caseを用いて、就職採用試験申込書の添え状が書けるようになる。②本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Lessons from history; Lessons 1-2 ①動詞の過去形を用いて短編物語を書くことができるようになる。②a/an/the/（なし）を用いて、材料、所有物、発明品について話すことができるようになる。					
8	Unit 3; Lessons 3-4 ①形容詞、副詞、位置を表す表現を用いて、ある場所についてプレゼンテーションをすることができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 4 Taking risks; Lessons 1-2 ①if節を用いて日記やブログの書き込みができるようになる。②義務を表す助動詞を用いてスポーツなどのやり方を説明することができるようになる。					
10	Unit 4; Lessons 3-4 ①強調表現を用いて、写真を比較し、違いを述べたり意見を述べたりすることができるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 5 Looking back; Lessons 1-2 ①used to/would/get used toを用いて、過去の外見を描写することができるようになる。②能力の程度を表す表現を用いて、思い出について語るすることができるようになる。					
12	Unit 5; Lesson 3 although/however/neverthelessを用いて本について話すことができるようになる。					
13	Unit 5; Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト（㊦特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①ホームワークが適切に行われているか。 ②リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkBookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明&資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE150C 英語BII		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーブズ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語を日常的のみならず業務上においても運用できる人材が求められている。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのB2（留学や仕事で求められる抽象的な話題や専門的な議論で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語BI」を履修した者（単位未修得可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Exploring the world; Lesson 1 現在完了形と現在完了進行形の用法の違いを理解し、それを用いてくれた電子メールを書くことができるようになる。					
2	Unit 6; Lessons 2-3 ①直接・間接話法の疑問文を用いて見知らぬ土地について質問をしたり答えたりすることができるようになる。②比較級を用いて土地や人々について比較し、表現できるようになる。					
3	Unit 6; Lesson 4 本課のまとめ。 Unit 7 Indulging yourself; Lesson 1 加算・不加算名詞を用いて、食事の料理や用意の仕方を描写することができるようになる。					
4	Unit 7; Lessons 2-3 ①受動態を用いて正式なクレーム書面を作成することができるようになる。②使役動詞のhave/get something doneを用いて、サービスについて話すことができるようになる。					
5	Unit 7; Lesson 4 本課のまとめ。					
6	Units 6-7の理解確認と単元テスト					
7	Unit 8 Aiming for success; Lessons 1-2 ①It's time/I'd rather/I'd betterの表現を用いて様々なタイプの人間について描写することができるようになる。②間接話法を用いて人が言ったことを伝えたり描写したりすることができるようになる。					
8	Unit 8; Lessons 3-4 ①hard/hardlyを用いて調査から分かったことについて報告書を書くことができるようになる。②本課のまとめ。					
9	Unit 9 Crime solvers; Lessons 1-2 ①原因を表す従属節を用いて、面白い物語を作ることができるようになる。②must/might/can't haveなどの助動詞を用いて過去の出来事について推測したことを表現できるようになる。					
10	Unit 9; Lessons 3-4 ①関係代名詞を用いて記事が書けるようになる。②本課のまとめ。					
11	Unit 10 Mind matters; Lessons 1-2 ①再帰代名詞を用いて、自分の信条や意見について議論できるようになる。②動名詞や不定詞を用いて、人の見解に対する賛成・反対意見を書くことができるようになる。					
12	Unit 10; Lesson 3 様々な条件節を用いて、後悔や決意を話すことができるようになる。					
13	Unit 10; Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の理解確認					
14	Units 8-10の単元テスト、外部テスト（㊸特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。 ②内容把握・理解ができているか。 ③運用力が身についているか。 ④指示通りの取り組み・発表（協力）になっているか。		単元テスト・期末テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①ホームワークが適切に行われているか。 ②リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkBookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明と資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE135C 英語C I		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	クリスタル ランキート					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語コミュニケーション能力が日常的にも求められるようになりつつある。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのB1+～B2（職場・学校・余暇に加え抽象的な話題で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	学科指定の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。 Unit 1 Relationships; Lesson 1 助動詞を用い一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。					
2	Unit 1; Lessons 2-3 ①単純現在と現在進行形を用いて、くだけた電子メールを書くことができるようになる。②現在完了と単純現在を用いて、読んだり聞いたりしたことを自分の言葉で言い換えることができるようになる。（導入）					
3	Unit 1; Lessons 3-4 ①現在完了と単純現在を用いて、読んだり聞いたりしたことを自分の言葉で言い換えることができるようになる。（展開）②本課のまとめと理解確認。					
4	Unit 2 In the media; Lessons 1-2 ①受動態を用いて賛成・反対意見を述べることができるようになる。②関係代名詞節を用いて問題解決場面での質問や助言ができるようになる。（導入）					
5	Unit 2; Lessons 2-3 ①関係代名詞節を用いて問題解決場面での質問や助言ができるようになる。（展開）②単純過去と過去進行形を用いて、自分の人生で大切な出来事について描写することができるようになる。					
6	Unit 2; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 3 Home sweet home; Lesson 1 現在進行形、be going to、willを用いて、未来の事を話したり、Home Exchangeで借りた家について、クレームの手紙を書いたりすることができるようになる。					
7	Unit 3; Lessons 2-3 ①比較級や最上級を用いて、都市の比較をすることができるようになる。②未来形を用いて、形式ばった電話をかけることができるようになる。（導入）					
8	Unit 3; Lessons 3-4 ①未来形を用いて、形式ばった電話をかけることができるようになる。（展開）②本課のまとめと理解確認。 Units 1-3のまとめと理解確認。					
9	ロールプレイングテスト Units 1-3の単元テスト（中間テスト）					
10	Unit 4 Wealth; Lessons 1-2 ①付加疑問文を用いておしゃべりすることができるようになる。②義務や禁止を表す助動詞を用いて、招待したり招待への返答ができるようになる。（導入）					
11	Unit 4; Lessons 2-3 ①義務や禁止を表す助動詞を用いて、招待したり招待への返答ができるようになる。（展開）②if/when/unless/as soon asから始まる節を含む文を用いて、広告を書くことができるようになる。					
12	Unit 4; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 5 Spare time; Lesson 1 現在完了形と現在完了進行形を用いて、自分の考えを提案したり他人の考えに返答したりすることができるようになる。					
13	Unit 5; Lessons 2-3 ①動名詞／不定詞を目的語にする動詞を用いて映画や本の描写をすることができるようになる。②加算名詞・不加算名詞を用いて、レストランを推薦することができるようになる。（導入）					
14	Unit 5; Lesson 3-4 ①加算名詞・不加算名詞を用いて、レストランを推薦することができるようになる。（展開）②本課のまとめと理解確認。					
15	Units 4-5のまとめと理解確認、外部テスト（㊸特記事項参照）による到達度確認、リフレクション提出					
成 績 評 価 方 法 と 基 準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解ができていないか。③指示通りの取り組み・発表になっているか。		テスト（中間・期末）	50	①学習した語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①ホームワークが適切に行われているか。②リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkBookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②予習・復習等の課題がほぼ毎回出されるので、期日を守って提出すること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークでは積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明と資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE140C 英語CII		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	クリスタル ランキート					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。</p> <p>グローバル社会を迎えた今日、英語コミュニケーション能力が日常的にも求められるようになりつつある。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのB1+～B2（職場・学校・余暇に加え抽象的な話題で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語C I」を履修した者（単位未修得でも可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Travel tales; Lesson 1 過去完了形を用いて思い出深い写真を描写できるようになる。					
2	Unit 6; Lessons 2-3 ①likeの様々な用法を用いて、行ったことのない場所に行くために、読んだり話したりすることができるようになる。②冠詞を用いて、自分の興味や驚いたことについて、読んだり話したりすることができるようになる。（導入）					
3	Unit 6; Lessons 3-4 ①冠詞を用いて、自分の興味や驚いたことについて、読んだり話したりすることができるようになる。（展開）②本課のまとめと理解確認。					
4	Unit 7 Lifelong learning; Lessons 1-2 ①疑問詞が主語/目的語の疑問文を用いて、学習経験について読んだり話したりできるようになる。②used to/wouldを用いて、昔習った先生について描写することができるようになる。（導入）					
5	Unit 7; Lessons 2-3 ①used to/wouldを用いて、昔習った先生について描写することができるようになる。（展開）②能力を表す助動詞を用いて過去から現在に至るまでの能力について読んだり話したりできるようになる。					
6	Unit 7; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 8 Making changes; Lesson 1 仮定法過去を用いて原因と結果を述べることができるようになる。					
7	Unit 8; Lessons 2-3 ①副詞を用いて世界的課題について話すことができるようになる。②仮定法過去完了を用いて重大な決断による効果について描写することができるようになる。（導入）					
8	Unit 8; Lessons 3-5 ①仮定法過去完了を用いて重大な決断による効果について描写することができるようになる。（展開）②本課のまとめと理解確認。 Units 6-8のまとめと理解確認。					
9	グループプレゼン Units 6-8の単元テスト（中間テスト）					
10	Unit 9 On the job; Lessons 1-2 ①make/let/allowを用いて自分の意見をグループメンバーに伝えることができるようになる。②間接話法を用いて情報を伝達することができるようになる。（導入）					
11	Unit 9; Lessons 2-3 ①間接話法を用いて情報を伝達することができるようになる。（展開）②過去の義務/許可を表す表現を用いて、仕事に必要な日課をこなすために何を学ばねばならなかったのか表現することができるようになる。					
12	Unit 9; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 10 Memories of you; Lessons 1 I wish/if onlyの表現を用いて願いごとを言うことができるようになる。					
13	Unit 10; Lessons 2-3 ①過去時制を用いて過去の出来事や人物について討論することができるようになる。②動詞を用いて別れを告げる表現を学び適切に使えるようになる。（導入）					
14	Unit 10; Lessons 3-4 ①句動詞を用いて別れを告げる表現を学び適切に使えるようになる。（展開）②本課のまとめと理解確認。					
15	Units 9-10のまとめと理解確認、外部テスト（㊦特記事項参照）による到達度確認、リフレクション提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解ができていないか。③指示通りの取り組み・発表になっているか。		テスト（中間・期末）	50	①学習した語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①ホームワークが適切に行われているか。②リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①授業は予習型で進められる。単語（発音・強勢も含む）や文の意味、使用する場面</p> <p>①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。</p> <p>③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進捗と合わせて計画的に進めること[30分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	<p>①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。</p> <p>②予習・復習等の課題がほぼ毎回出されるので、期日を守って提出すること。</p> <p>③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークでは積極的な態度で臨むこと。</p> <p>④授業には辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	<p>『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell &amp; Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627283</p> <p>『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell &amp; Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132628945</p>	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<p>①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明&amp;資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある。</p> <p>②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。</p>	

授業科目名	LE125C 英語D I		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	細川 真衣					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語コミュニケーション能力が日常的にも求められるようになりつつある。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのA2+B1（身近な話題・外国の行事や習慣・新聞記事等で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	学科指定の者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。 Unit 1 Your day; Lesson 1 likes, dislikesの構文を用いて個人の好みについて話すことができるようになる。					
2	Unit 1; Lessons 2-3 ①単純現在と頻度を表す副詞を用いて日々の決まった行動について尋ねたり応えたりできるようになる。②現在進行形を用いて自分の最近の生活についてメールを書いて知らせることができるようになる。					
3	Unit 1; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 2 Musical tastes; Lesson 1 単純現在を用いて個人の過去の出来事について述べることができるようになる。					
4	Unit 2; Lessons 2-3 ①単他人と自分を比較し、so and neitherを用いて相手の意見に同意したり反対したりすることができるようになる。②現在完了形と単純過去を用いて、経験や達成したことについて述べるようになる。					
5	Unit 2; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 3 Fine cuisine; Lesson 1 be going toを用いて自分の将来の計画について友人に伝えることができるようになる。					
6	Unit 3; Lessons 2-3 ①関係代名詞を用いて親しい人に招待状を書くことができるようになる。②友人と計画を立て現在進行形を用いて必ず実行するということを述べるようになる。					
7	Unit 3; Lesson 4 ①本課のまとめと理解確認。 Units 1-3の理解確認					
8	ロールプレイングテスト Units 1-3の単元テスト（中間テスト）					
9	Unit 4 Survival; Lesson 1-2 ①比較級を使って人を比較することができるようになる。②最上級を使って感謝状を書くことができるようになる。					
10	Unit 4; Lessons 3-4 ①間接疑問文を用いて丁寧な質問をすることができるようになる。 ②本課のまとめと理解確認。					
11	Unit 5 Life events; Lessons 1-2 ①should, can, have toを用いて友人と意見を交わすことができるようになる。②for/sinceを伴う現在完了形を用いて個人のプロフィールを書くことができるようになる。					
12	Unit 5; Lessons 3-4 ①used toを用いて今より若かったころの自分について描写することができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
13	Unit 6 Destinations; Lessons 1-2 ①willを用いて将来について予測を述べるようになる。②too, too much/many, enoughを用いて何かを選んだ時の理由を述べるようになる。					
14	Unit 6; Lessos 3-4 ①likeの様々な用法を用いて好きな場所の描写ができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
15	Units 4-6のまとめと理解確認、外部テスト（㊸特記事項参照）による到達度確認、リフレクション提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解ができていないか。③指示通りの取り組み・発表になっているか。		テスト（中間・期末）	50	①学習した語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①ホームワークが適切に行われているか。②リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②予習・復習等の課題がほぼ毎回出されるので、期日を守って提出すること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークでは積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 3』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627276 『English in Common with Workbook 3』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132628808	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明と資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE130C 英語DII		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	細川 真衣					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語コミュニケーション能力が日常的にも求められるようになりつつある。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのA2+B1（身近な話題・外国の行事や習慣・新聞記事等で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語DI」を履修した者（単位未修得でも可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 7 Mind and body; Lessons 1-2 ①if節を用いて身体的な様子を描写することができるようになる。②動名詞と不定詞を用いて人の性格について描写することができるようになる。					
2	Unit 7; Lessons 3-4 ①because/so that/in order toを用いて病気について述べたり助言をしたりできるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
3	Unit 8 Life in the fast lane; Lessons 1-2 ①受動態の現在時制を用いて、変化を描写することができるようになる。②様々な疑問文を駆使して、個人情報を探し出すことができるようになる。					
4	Unit 8; Lessons 3-4 ①過去進行形と単純過去を用いて、過去の行動について尋ねたり答えたりできるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
5	Unit 9 Careers; Lessons 1-2 ①英語による就職面接における平易な質問に答えることができるようになる。②can, could, be able toを用いて自分の能力を伝えることができるようになる。					
6	Unit 9; Lessons 3-4 ①受動態の過去形を用いて短い記事を書くことができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
7	Units 7-9のまとめと理解確認 グループプレゼン準備					
8	グループプレゼン Units 7-9の単元テスト（中間テスト）					
9	Unit 10 Animal planet; Lessons 1-2 ①自分に影響を与えた人物について述べるができるようになる。②加算・不加算名詞を用いてブログに対する短いコメントが書けるようになる。					
10	Unit 10; Lessons 3-4 ①定冠詞theを用いて音や絵について推測し、その内容を表現できるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
11	Unit 11 World travel; Lessons 1-2 ①just, yet, alreadyを伴う現在完了形を用いて、一緒に旅行したら楽しい人を見つけることができるようになる。②直接目的語・間接目的語を取る動詞を用いて、習慣について一般化して述べるができるようになる。					
12	Unit 11; Lessons 3-4 ①過去完了を用いて旅行したい場所について書くことができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
13	Unit 12 Money matters; Lessons 1-2 ①仮定法過去を用いて、仮想した状況に自分がいたらどうするかを言うことができるようになる。②間接話法を用いて人が自分に話したことを伝えることができるようになる。					
14	Unit 12; Lessons 3-4 ①both, neither, eitherを用いて相違点や類似点について描写することができるようになる。②本課のまとめと理解確認					
15	Units 10-12のまとめと理解確認、外部テスト（㊸特記事項参照）による到達度確認、リフレクション:提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解ができていないか。③指示通りの取り組み・発表になっているか。		テスト（中間・期末）	50	①学習した語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション:等）	10	①ホームワークが適切に行われているか。②リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkBookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②予習・復習等の課題がほぼ毎回出されるので、期日を守って提出すること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークでは積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 3』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627276 『English in Common with Workbook 3』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132628808	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明と資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE115C 英語E I		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	林 剛司・白井 雅代 (代表教員 林 剛司)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語コミュニケーション能力が日常的にも求められるようになりつつある。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのA2（旅行や公共の乗り物などで使用される表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	学科指定の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。 Unit 1 Getting to know you; Lesson 1 be動詞と人称代名詞の主格（肯定文）を用いて出身地について述べるようになる。					
2	Unit 1; Lessons 2-3 ①所有を表す'sや所有形容詞、be動詞のyes/no疑問文を用いて、自分の家族についての情報をやりとりできるようにする。②冠詞a/anとbe動詞（否定文）を用いて、平易な文を理解でき、自分でも作ることができるようになる。					
3	Unit 1; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 2 Work and leisure; Lesson 1 I/you/weを主語とした単純現在を用いて、自分の日課について述べるようになる。					
4	Unit 2; Lessons 2-3 ①he/she/itを主語とした単純現在を用いて、他人の日課について述べるようになる。②this/that/these/thoseなどの指示代名詞や名詞の複数形を用いて、日常的に使用する品物が何か英語で伝えることができる。					
5	Unit 2; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 3 Your free time; Lessons 1 単純現在の否定文を用いて自分のフリースタイルについて述べるようになる。					
6	Unit 3; Lessons 2-3 ①can/can'tを用いて自分のできることやできないことについて述べるようになる。②How about...?/Let's.../Why don't we...?などの表現を用いて電話でメッセージを残したり、聞き取って理解することができるようになる。					
7	Unit 3; Lesson 4 本課のまとめと理解確認 Units 1-3のまとめと理解確認					
8	ロールプレイングテスト Units 1-3の単元テスト					
9	Unit 4 Food; Lessons 1-2 ①How much/many?や可算・不可算名詞を用いて、数量について述べるようになる。②a/an/some/anyを用いて自分の食事やライフスタイルについて述べるようになる。					
10	Unit 4; Lessons 3-4 ①代名詞の目的格を用いて、カフェで食事を注文することができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
11	Unit 5 Around the house; Lessons 1-2 ①there is/areの構文（肯定文と疑問文）を用いて、自分の家について話すことができるようになる。②have/hasを用いて大切な持ち物について尋ねたり話したりすることができるようになる。					
12	Unit 5; Lessons 3-4 ①very/pretty/reallyなどの修飾語を用いて自分の国について略式（打ち解けた）メールを書くことができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
13	Unit 6 Around town; Lessons 1-2 ①be動詞や規則動詞の過去形を用いて、自分の過去について話すことができるようになる。②規則・不規則動詞の単純過去を用いて、簡単な道順を教えたり理解したりすることができるようになる。					
14	Unit 6; Lessons 3-4 ①単純過去の否定文を使って一番最近の旅行について描写できるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
15	Units 4-6のまとめと理解確認、外部テスト（㊸特記事項参照）による到達度確認、リフレクション提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解ができていないか。③指示通りの取り組み・発表になっているか。		テスト（中間・期末）	50	①学習した語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①ホームワークが適切に行われているか。②リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkBookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②予習・復習等の課題がほぼ毎回出されるので、期日を守って提出すること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークでは積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 2』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627252 『English in Common with Workbook 2』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132628716	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明と資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE120C 英語E II		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	林 剛司・白井 雅代 (代表教員 林 剛司)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語コミュニケーション能力が日常的にも求められるようになりつつある。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのA2（旅行や公共の乗り物などで使用される表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語E I」を履修した者（単位未修得でも可）					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション Unit 7 Describing people; Lessons 1-2 ①代名詞one/onesを用いて、家族について打ち解けた手紙を書くことができるようになる。②所有代名詞を用いて、品物が誰のものか伝えることができる。					
2	Unit 7; Lessons 3-4 ①不規則動詞の単純過去を用いて、書かれた記事を理解することができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
3	Unit 8 Dressing right; Lessons 1-2 ①頻度を表す副詞を用いて、同僚に助言のお願いの手紙を書くことができる。②様子を表す副詞を伴った現在進行形を用いて、自分が何をしているのか述べるができる。					
4	Unit 8; Lessons 3-4 ①単純現在と現在進行形を用いて、天気等事実に関する会話に参加することができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
5	Unit 9 Entertainment; Lessons 1-2 ①比較級を用いて、情報を得る手段を速度・手軽さ・値段等を比較することができるようになる。②最上級を用いて、短い映画の批評を書くことができるようになる。					
6	Unit 9; Lessons 3-4 ①like+名詞/動名詞を用いて、好みについて読んで理解したり話したりすることができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
7	Units 7-9のまとめと理解確認 グループプレゼン準備					
8	グループプレゼン Units 7-9の単元テスト					
9	Unit 10 Going places; Lessons 1-2 ①I/you/we/theyを主語とした現在完了形+ever/neverを用いて経験したことについて話したり聞いたりすることができるようになる。②he/she/itを主語とした現在完了形を用いて読み物のポイントを把握したり、絵葉書を書いたりすることができるようになる。					
10	Unit 10; Lessons 3-4 ①主語としての動名詞を用いて旅行チケットの予約をすることができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
11	Unit 11 Education; Lessons 1-2 ①許可を表すcan/can'tや義務を表すhave to/don't have toを用いて標識や規則を理解することができるようになる。②wh-疑問文を用いて簡単な説明文を理解したり自分で作成したりすることができるようになる。					
12	Unit 11; Lessons 3-4 ①未来を表す現在進行形を用いて未来の計画について話すことができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
13	Unit 12 Your goals; Lessons 1-2 ①意志を表すbe going toを用いて決めたことを話すことができるようになる。②目的を表す不定詞を用いて、くだけた手紙を書くことができるようになる。					
14	Unit 12; Lessons 3-4 ①動詞+動名詞/不定詞を用いて好みや目標を話すことができるようになる。②本課のまとめと理解確認。					
15	Units 10-12のまとめと理解確認、外部テスト（㊤特記事項参照）による到達度確認、リフレクション提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解ができてきているか。③指示通りの取り組み・発表になっているか。		テスト（中間・期末）	50	①学習した語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①ホームワークが適切に行われているか。②リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkBookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②予習・復習等の課題がほぼ毎回出されるので、期日を守って提出すること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークでは積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 2』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627252 『English in Common with Workbook 2』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132628716	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明と資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE105C 英語F I		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	朝倉 秀之・須田 久美子 (代表教員 朝倉 秀之)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。</p> <p>グローバル社会を迎えた今日、英語コミュニケーション能力が日常的にも求められるようになりつつある。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基いた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA1（日常生活で使用する身近な表現や、簡単な語彙や基礎的な表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、リスニング）、講義（文法）					
履修条件	学科指定の者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。 Unit 1 - Introductions; Lesson 1 be動詞を用いて、ホテルへのチェックインができるようになる。					
2	Unit 1; Lessons 2-3 ①be動詞の短縮形を用いて空港でのあいさつができるようになる。②be動詞を用いたwhereから始まる疑問文を使って、人を紹介したり、会話を始めたりすることができるようになる。(導入)					
3	Unit 1; Lessons 3-4 ①be動詞を用いたwhereから始まる疑問文を使って、人を紹介したり、会話を始めたりすることができるようになる。(展開) ②本課のまとめと理解確認					
4	Unit 2 - Family and friends; Lessons 1-2 ①whoから始まる疑問文や所有形容詞myを用いて、自分の家族について基本的情報を提供することができるようになる。②whatから始まる疑問文や所有形容詞yourを用いて、個人情報について尋ねたり答えたりできるようになる。(導入)					
5	Unit 2; Lessons 2-3 ①whatから始まる疑問文や所有形容詞yourを用いて、個人情報について尋ねたり答えたりできるようになる。(展開) ②所有形容詞his/her、冠詞a/anを用いて他人についての情報を伝えたり短いプロフィールを書くことができるようになる。					
6	Unit 2; Lessons 3-4 ①所有形容詞his/her、冠詞a/anを用いて他人についての情報を伝えたり短いプロフィールを書くことができるようになる。②本課のまとめ					
7	Units 1-2の理解確認と単元テスト(中間テスト) Unit 3 - Traveling; Lesson 1 we/they areや所有形容詞our/theirを用いて簡単な旅行のメールを書くことができるようになる。					
8	Unit 3; Lessons 2-3 ①名詞の複数形やbe動詞の否定形を用いて自分のスーツケースの中身について話せるようになる。②be動詞のyes/no疑問文を用いて観光スポットについて尋ねることができるようになる。(導入)					
9	Unit 3; Lessons 3-4 ①be動詞のyes/no疑問文を用いて観光スポットについて尋ねることができるようになる。(展開) ②本課のまとめと理解確認。					
10	Unit 4 - Stores and restaurants; Lessons 1-2 ①依頼を表すcanを用いて、コーヒーショップで食べ物や飲み物を注文することができるようになる。②this/that/these/thoseなどの指示代名詞を用いて、値段を尋ねたり理解したりできるようになる。(導入)					
11	Unit 4; Lessons 2-3 ①this/that/these/thoseなどの指示代名詞を用いて、値段を尋ねたり理解したりできるようになる。(展開) ②所有格の'sを用いてものについて尋ねたり簡単なやり取りをしることができるようになる。					
12	Unit 4; Lesson 4 本課のまとめと理解確認、Unit 5 - Things to see and do; Lesson 1 there is/areの肯定文を用いて場所の描写をすることができるようになる。					
13	Unit 5; Lessons 2-3 ①there is/areの否定文を用いて新しい土地についての情報を求めたり理解したりすることができるようになる。②能力を表すcan/can'tを用いて一般的な能力について話すことができるようになる。(導入)					
14	Unit 5; Lessons 3-4 ①能力を表すcan/can'tを用いて一般的な能力について話すことができるようになる。(展開) ②本課のまとめと理解確認					
15	Units 1-5の総まとめと理解確認、外部テスト(㊤特記事項参照)による到達度確認、リフレクション提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解ができていないか。③指示通りの取り組み・発表になっているか。		テスト(中間・期末)	50	①学習した語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	①ホームワークが適切に行われているか。②リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkBookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②予習・復習等の課題がほぼ毎回出されるので、期日を守って提出すること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークでは積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 1』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN:978-0-13-247003-2 『English in Common Workbook 1』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN:978-0-13-262864-8	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明&資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE110C 英語F II		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	朝倉 秀之・須田 久美子 (代表教員 朝倉 秀之)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語コミュニケーション能力が日常的にも求められるようになりつつある。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのA1（日常生活で使用する身近な表現や、簡単な語彙や基礎的な表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、リスニング、発表）、講義（文法）					
履修条件	「英語F I」を履修した者（単位未修得でも可）					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 6 - All about you; Lesson 1 I/you+単純現在形+代名詞目的格の文型を用いて自分の好き嫌いを表すことができるようになる。					
2	Unit 6; Lessons 2-3 ①we/theyを主語としたWH疑問文を用いて知らない人と会話することができるようになる。②3人称単数現在形を用いて知人の日常的な行動について表すことができるようになる。（導入）					
3	Unit 6; Lessons 3-4 ①3人称単数現在形を用いて知人の日常的な行動について表すことができるようになる。（展開）④本課のまとめ					
4	Unit 7 - A day at work; Lessons 1-2 ①命令文を用いた文を聞いたり読んだりして簡単な指示を理解することができるようになる。②頻度を表す副詞を用いて自分の行動がどのくらい頻繁に行われるか表すことができるようになる。（導入）					
5	Unit 7; Lessons 2-3 ①頻度を表す副詞を用いて自分の行動がどのくらい頻繁に行われるか表すことができるようになる。（展開）②好みや申し出を表すwould likeを用いて仕事場で客を歓待することができるようになる。					
6	Units 7; Lesson 4 本課のまとめ、Units 6-7の理解確認					
7	Units 6-7の単元テスト（中間テスト）、Unit 8 - Your likes and dislikes; Lesson 1 like/want+動名詞/不定詞の文型を用いて自分がなぜある行動をしたいのか説明することができるようになる。					
8	Unit 8; Lessons 2-3 ①have/hasを用いて自分の所有物について表すことができるようになる。②which/howを用いた疑問文を用いてレストランの予約をしたり注文をしたりできるようになる。（導入）					
9	Unit 8; Lessons 3-4 ①which/howを用いた疑問文を用いてレストランの予約をしたり注文をしたりできるようになる。（展開）②本課のまとめ					
10	Unit 9 - Your life; Lessons 1-2 ①be動詞の単純過去（肯定文）を用いて歴史上の人物について簡単な文を作ることができるようになる。②be動詞の単純過去（否定文・疑問文）を用いて過去の経験について短く描写することができるようになる。（導入）					
11	Unit 9; Lessons 2-3 ①be動詞の単純過去（否定文・疑問文）を用いて過去の経験について短く描写することができるようになる。（展開）②can/could Iを用いて簡単な依頼や許可を求めることができるようになる。					
12	Unit 9; Lesson 4 本課のまとめ、Unit 10 - Past and future events; Lesson 1 過去形（規則動詞）を用いて、過去の出来事について書かれた文を理解できるようになる。（導入）					
13	Unit 10; Lessons 1-2 ①過去形（規則動詞）を用いて、過去の出来事について書かれた文を理解できるようになる。（展開）②過去形（不規則動詞）を用いて、世間を騒がすような出来事についてまとめることができるようになる。					
14	Units 10; Lessons 3-4 ①be going toの文型を用いて短期的・長期的計画について表すことができるようになる。②本課のまとめ					
15	Units 6-10の総まとめと理解確認、外部テスト（㊦特記事項参照）による到達度確認、リフレクション提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・発表等	20	①語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解ができていないか。③指示通りの取り組み・発表になっているか。		テスト（中間・期末）	50	①学習した語彙や文法が定着しているか。②内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	①ホームワークが適切に行われているか。②リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 ③毎日行う課題として、テキストと連動したWorkBookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	<p>①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②予習・復習等の課題がほぼ毎回出されるので、期日を守って提出すること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークでは積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	<p>『English in Common with Active Book 1』Maria Victoria Saumell &amp; Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN:978-0-13-247003-2 『English in Common Workbook 1』Maria Victoria Saumell &amp; Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN:978-0-13-262864-8</p>	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<p>①1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明と資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②外部テストはPC教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。</p>	

授業科目名	LE165C アクティブ・イングリッシュA		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江・林 剛司 (代表教員 宮浦 国江)						
標準履修年次	1・2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べるができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills (福島県)では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>①自分の言いたいことを効果的に述べるができるようになる。  ②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。  ③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。  ④英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。  ⑤異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものかを知る。  ⑥異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。  ⑦異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。</p>				
教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。						
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修（福島県）に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) ※参加希望者は必ず出席すること。						
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。						
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。						
4	British Hills (以下BH) (1) Interview Orientation: BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。						
5	BH(2) Skills for presentation: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶ。						
6	BH(3) Travel in UK (the United Kindom): 英国の主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの国の知識を深める。最後には実際にその国へ旅行するための計画を立てる。						
7	BH(4) British Wedding: イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。						
8	BH(5) Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化を感じとる。世界の文化や考え方の違いからどのような問題があるのかを認識して知識を広げる。						
9	BH(6) 事前学習してきた事柄について改良し、プレゼンテーションをする。自己評価、相互評価、BHスタッフ・教員評価を行う。						
10	BH(7) World of Music: 世界の様々なジャンルの音楽を知り、同時に音楽に関する表現・フレーズ・楽器について学ぶ。コミュニケーションのやりとりや、リスニングを組み合わせた、音楽を楽しく学ぶ。						
11	BH(8) Dance: 英国に伝わる伝統的な、様々なスタイルのダンスを覚える。体育館に設置されている、大きなダンススタジオのような鏡を使って、ステップの練習する。(※受講者が8名に満たない場合には別のテーマになる)						
12	BH(9)最終プレゼンに向けて、自分のプレゼンテーションを仕上げ、練習する。						
13	BH(10)最終プレゼン 自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。						
14	BH(11)まとめ プレゼンおよびBHでの英語漬け+英語プレゼンについて学んだことや今後の課題・抱負などについて発表する。						
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
事前学習	20	①ミニ・プレゼンテーション積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げる。 ②ミニ・プレゼンテーションで聞き手に分かりやすく発表する。 ③必要な英語表現を身に付ける。		BH研修参加態度	50	①British Hillsで規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 ②多くの人と積極的にコミュニケーションをとる。	
英文日誌	10	①授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分] ②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] ③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はそのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]				随時行う			
受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。 ②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③新白河駅集合・解散。④団体生活であるため、学生生活上問題があると判断された学生については参加を許可しないことがある。⑤事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。		

授業科目名	LE170C アクティブ・イングリッシュB		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・須田 久美子（代表教員 伊藤 雄二）					
標準履修年次	1・2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
2017年9月に14日間の予定でカナダ・オンタリオ州ソーセントマリー市アルゴマ大学(Algoma University)での語学研修・地域でのボランティア活動・ホームステイを通して、カナダの文化と社会について学ぶ。海外研修中は毎日、英文日誌をつける。 事前学習で、海外渡航・生活面・日本文化紹介・プレゼンテーションについて学び準備を整える。帰国に事後学習としてレポートを提出するとともに、成果発表会でプレゼンテーションを行う。 本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置づけられている。			①海外語学研修の準備を通じて、グローバル社会の一員として必要な基礎知識を体験的に学ぶ。 ②英語で積極的にコミュニケーションがとれる。 ③異文化理解への開かれた態度を持つとともに、日本文化にも目を向け英語で紹介する。 ④ホームステイを通じてホスピタリティを体験し、理解する。 ⑤語学研修・ボランティア活動を通じて、カナダの社会・文化の側面を理解するとともに、英語力を向上させる。 ⑥語学研修の経験を英語によるプレゼンテーションで報告する。			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、研修先での諸活動					
履修条件	「異文化コミュニケーション論」を履修する（している）ことが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	【事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) ※参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。カナダでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	アルゴマ大学での英語研修・自己紹介を含む、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
5	アルゴマ大学での英語研修・日本文化紹介プレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
6	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
7	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
8	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
9	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
10	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
11	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
12	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
13	アルゴマ大学での英語研修・研修成果についてのプレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
14	アルゴマ大学での英語研修・修了式、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、研修先での発表に基づきプレゼンテーションを行う。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
事前学習	20	①ミニ・プレゼンテーション積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げる。 ②ミニ・プレゼンテーションで聞き手に分かりやすく発表する。 ③必要な英語表現を身につける。		カナダ研修参加態度	50	①カナダ・アルゴマ大学、ホームステイ先で規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 ②多くの人と英語やジェスチャーを用いて交わろうとしている。
英文日誌	10	①授業（活動）の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
・渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。[30分] ・どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。[毎日60分] ・集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。				随時行う		
受講生に望むこと	・渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。 ・どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、積極的に取り組むこと。 ・集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2	
指定図書参考書等	【参考書】 『今日から使える! 留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	・履修登録者が10名に満たない場合、実施しない。また、学生生活や学業等において問題があると判断した場合、参加を認めないこともある。 ・事前学習以外にも、必要に応じてオリエンテーションが行われることがあるので、必ず参加すること。 ・事後学習としての成果発表会以外にも、研修について発表する可能性がある。	

授業科目名	LE175C アドバイザー・イングリッシュC		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
英語力向上または自分の研究課題の調査を目的とした3週間（授業時数にして45コマ分）以上の海外留学を対象とする。本学の提携大学との正規留学もしくはESLプログラムへの参加、現地における調査などを行う。現地における英語研修、寮滞在、アドバイザーの指導の下に行う調査などを通して、現地の人びとや国際色豊かな人々と交流し、国際的な視野を広げ、学びを深める。			①英語力をワンランク上げる。 ②自立した学び（目的に沿って計画・立案・実施・評価）ができる。 ③国際的な視点を持ち日本の常識とは異なるものがあることを知る。 ④異文化理解への態度・スキルを身に付ける。			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、現地における正規留学／英語研修／調査研究					
履修条件	学科指定の者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	渡航に関するオリエンテーション①：計画書含む諸書類のファイル作成、現地に関する事前学習					
2	渡航に関するオリエンテーション②：計画書含む諸書類のファイル提出、課題の確認					
3	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
4	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
5	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
6	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
7	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
8	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
9	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
10	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
11	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
12	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
13	現地における英語学習／調査研究、ホームステイまたは寮滞在					
14	事後学習①：レポート等の作成・提出					
15	事後学習②：海外留学報告（プレゼンテーション）					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
留学への取り組み	10	出発前の準備（計画書含む諸書類ファイル作成）に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する		留学先での英語研修・調査に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的（目安は2週間ごと）に留学に関する報告書（1000文字程度）が提出されているかどうかを評価する		留学後報告（レポート&プレゼンテーション）	20	帰国後にレポート（5000文字程度）を提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること〔毎日40分〕。英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等ができるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。〔毎日30分〕				適宜行う		
受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要性に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	【参考書】『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN：978-4757426658）			その他・特記事項	英検2級程度以上の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。	

授業科目名	LC100C 中国語 I		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	張 榮眉						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>基礎的、実用的な中国語の表現能力を習得する。また辞書の使い方を始め、自ら学ぶ意欲や力を養うとともに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。中国の言語や文化に対する関心を深めるとともに日本語や日本文化を比較する上での国際理解の基礎を培う。具体的には、発音記号ピンインを習いながら、基本的な単語を教え、詩の朗読や簡単な挨拶、会話の練習によって発音に慣れる。日本人が持っている能力（漢字、辞書調べ）を最大に生かし、習う意欲を高め、日本人にとって難しく弱い部分（発音）を重点において色々な角度から多く繰り返して練習する。</p>			<p>①中国語の発音記号ピンインを習得する。 ②中国語の特有な発音に慣れ、挨拶ことば、自己紹介及びそれに関する会話ができるようになる。 ③中日、日中辞書の使い方を習得し、自分で予習・学習ができるようにする。</p>				
教授方法	講義とペアワーク等による会話練習。						
履修条件	なし。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	簡単挨拶と発音記号ピンイン（声調）の習得（声調）。						
2	簡単挨拶と発音記号ピンイン（単母音）の習得とそれの発音練習。						
3	発音記号ピンイン（複母音）の習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
4	発音記号ピンイン（子音）の習得と親族呼称の発音練習。						
5	発音記号ピンイン（鼻音）の習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
6	発音記号ピンイン（規則と注意点）の習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
7	発音総合練習—発音記号の習得と辞書の使い方をまとめ。						
8	「形容詞述語文」の習得と以上の挨拶と会話の復習。						
9	「形容詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
10	「形容詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と練習。						
11	「動詞述語文」の習得と以上習った挨拶と会話の復習。						
12	「動詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
13	「動詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と練習。						
14	自己紹介文を中心とする総合練習と復習。						
15	口頭で中国語で自己紹介とその関する教師の質問を答え。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。 授業の内容を予習する。 宿題の完成度。		挨拶・自己紹介の表現と発音	70	文の表現の正確さ。 発音の正確さ。 教員から質問に対する理解と答えの正確さ。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
授業前に次回の授業の内容を予習する。[45分] 授業後の宿題の完成。[30分]			前期に発表した自己紹介文について、次学期初めに直して配布します。				
受講生に望むこと	テキストを買う必要がなく、辞書が必要である。 授業する時に必ず辞書を携帯すること。		教科書・テキスト	自編集『中国語入門教案』（印刷物 2016年修訂） 杉本達夫ら『中日日中ディクショナリーコンサイス辞書』第3版 （三省堂）ISBN978-4-385-12168-0			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	LC110C 中国語Ⅱ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	張 榮眉						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>前期で習った基礎的、実用的な表現を復習しながら、新しい単語や文法を加え、文章の解説を重点に置いて翻訳する能力を養う。中級レベルの中国事情に関する文章を独り自立的に翻訳することによって、解説する能力や辞書の使い方をより上手にする。自分翻訳してから得られた中国事情や日本事情を比較して感想文を書く、それを発表することによって、クラスの皆と共有し、中国の言語や文化に対する関心を深めるとともに日本語や日本文化を比較する上での国際理解の基礎を培う。前期のように演習する。翻訳については一人ひとり個別テーマにして翻訳を試み、教師は個別に対応して、指導する。資料を探す方法を説明し、比較感想文の書き方を例によって、明らかにし、纏めた比較感想文を発表によって自分の考えをハッキリし、また皆さんに共有する。</p>			<p>①中日、日中辞書を実用的に引くことができるようにする。  ②習った単語や文法を応用する力を身につける。  ③辞書を利用しながら、中級レベルの文章を自力で翻訳する能力を身につける。  ④自分のテーマに相関する資料を探す能力、纏める能力をアップする。  また、自分の考え方を述べる能力もアップする。</p>				
教授方法	講義とペアワーク等による会話練習。						
履修条件	『中国語Ⅰ』の単位を修得済みの者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前期で習ったものの復習＋「助教詞」の習得。						
2	「助教詞」と「存在の表現」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説の練習。						
3	「存在の表現」と「選択疑問文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説の練習。						
4	「助教詞」と「存在の表現」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説練習。						
5	「助教詞」、「存在の表現」と「選択疑問文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説練習。						
6	「存在の表現」や「年齢の言い方」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説の練習。						
7	「存在の表現」と「疑問代詞」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
8	「存在の表現」と「年齢の言い方」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説の練習。						
9	「存在の表現」と「疑問代詞」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
10	「存在の表現」、「年齢の言い方」、「疑問代詞」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解説練習。						
11	学んだ内容を復習する上で各自が興味ある文を選んで翻訳する。						
12	各自の翻訳しつ、コンピュータで翻訳した文を仕上げする。						
13	各自の翻訳した文に基づいて、自分テーマの相関する資料を探し、「比較感想文」を書く。						
14	「比較感想文」を書いて、コンピュータで「比較感想文」を仕上げする。						
15	再び口頭で自己紹介(中国語)をし、「比較感想文」を口頭で(日本語)述べる。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。 授業の内容を予習する。 宿題の完成度。		翻訳文	20	原文に対する理解度、表現の正確さ。	
比較感想文	30	自分のテーマに相関する資料を見つけているか、比較が妥当か、自分の観点があるかとその新鮮さ。		口頭で発表	20	自己紹介がより流暢か、印象深い文を中国語で読めるか、「比較感想文」が分かり易いか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業前に次回授業の内容を予習する。[45分] 授業後の宿題の完成。[30分]				メールのアドレスを教えてください。学生に対して、「比較感想文」は後期末(3月末)まで、評価とコメントをつけてメールで送ります。			
受講生に望むこと	テキストを買う必要がなく、辞書が必要である。 授業する時に必ず辞書を携帯すること。			教科書・テキスト	自編集『中国語入門教案』(印刷物) 杉本達夫ら『中日日中ディテールコンサイス辞書』第3版 (三省堂) ISBN978-4-385-12168-0		
指定図書参考書等	なし/荒原勲他『中国と日本』(朝日出版社、2000年改訂版) 荒原勲他『中国人暮らしのステップ』(朝日出版社、1998年) 布目善雄『中国現勢文化史』(岩波書店、1995年) 中尾善雄『中国文化伝承事典』(川出書房新社、1999年) 年島徳次郎『言語』『中国文化叢書』第1巻(大修館、1967年) 広澤正隆『日本文化と中国』『中国語文化叢書』第5巻(大修館、1968年) 實感ら『歳ももって笑と泣き・現代中国の我』(平凡社、2000年) 島尾伸三『中国国民生活図引*9』(弘文堂、2001年) 島尾伸三『中国国民生活図引*10』(弘文堂、2001年) など			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LF100C フランス語 I		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
フランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説します。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化について、様々な角度から知り、体験していきたいと思ひます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。			①フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 ②言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が拓がることです。フランス語という言語を通してその実感を体験しましょう。			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	フランス語の基礎・発音・挨拶 Eléments de base, prononciation, salutations, tu/vous					
2	自己紹介・国籍・名前 Est-ce que tu es japonais? Moi aussi. Moi non plus.					
3	国籍・職業・形容詞の女性形・男性形 masculin / féminin					
4	規則動詞 -er の活用 verbes réguliers, habiter, travailler					
5	住んでいるところや出身地について話す。疑問文や否定文の作り方。 Tu es de Tokyo?					
6	交通手段について話す。動詞venir, 疑問詞を使った疑問文 Questions ouvertes. Tu viens ici comment?					
7	定冠詞と不定冠詞 article, verbe parler					
8	アルバイトについて話す。 Parler des petits boulots.					
9	願望の表現 C'est +adjectif, expression de la volonté					
10	ペットなどについて話す。 Est-ce que tu as un chien?					
11	動詞avoir . 不定冠詞 article indéfini. Parler de ses animaux domestiques.					
12	科目・先生について話す。数学の先生は好きですか? Est-ce que tu aimes bien le prof de maths?					
13	科目の名称・定冠詞・形容詞の性数の一致 Parler des matières et des profs.					
14	食べ物について話す・部分冠詞 Parler de ce qu'on mange. article partitif					
15	家事について話す。 Qui fait la cuisine chez toi? C'est moi qui fait la cuisine.					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。		受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]				付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。		
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを開き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。			教科書・テキスト	『Moi, je . . . コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuysse 他著 (アルマ出版) 2015年 ISBN 978-4-905343-03-5	
指定図書参考書等	授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	LF110C フランス語Ⅱ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明します。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していきたいと思えます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。</p>			<p>①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス後表現を理解できるようにする。  ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。  ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が広がることです。言語を通してその実感を体験しましょう。</p>				
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	家族について話す・所有形容詞 mon / ton について Parler de sa famille.						
2	数字 1-6 9・3人称単数形、複数形 Ton frère a quel âge?						
3	クラブ活動について話す・課外活動はしていますか? 動詞faire Parler des loisirs.						
4	習慣について話す・よく肉を食べますか? 頻度を表す語彙・否定疑問文 Parler de ses habitudes.						
5	週末の過ごし方について話す・近接未来形・動詞aller Parler du week-end.						
6	時間について話す・何時ですか? 曜日・代名動詞 Parler de l'heure. Il est quelle heure?						
7	休暇中の活動について話す・複合過去形について Parler des vacances. Passé composé.						
8	経験について話す・外国へ行ったことがありますか? Il y aへの使い方、Tu es déjà allé à l'étranger?						
9	地理について話す・場所を表わす前置詞・地方について話す Tu connais Lille? Localisation						
10	天気について話す・天気を表す語彙 Parler du temps. Il fait quel temps à Paris?						
11	過去について話す・半過去形 Est-ce que tu faisais du sport au lycée? Imparfait						
12	道を尋ねる・パリの観光名所 Demander son chemin. Découvrir Paris.						
13	レストランで注文する・メニューの見方 Commander au restaurant. Une carte.						
14	カフェで飲み物を注文する Un café, s'il vous plaît.						
15	買い物をする・数量と値段・店員との会話 Faire les courses. Acheter dans un magasin.						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。		受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>講義内容に関して指示されたことに基き予習、復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習・復習をして下さい。[120分]</p>				<p>付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。  質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。</p>			
受講生に望むこと	<p>語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを開き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。</p>			教科書・テキスト	『Moi, je・・・コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuyse 他著 (アルマ出版) ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書参考書等	<p>授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。</p>			その他・特記事項	なし		

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA (ゴルフ)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。</p> <p>健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① ゴルフの競技特性を理解する。</p> <p>② ゴルフの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。					永山
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。					永山
3	ショットの基礎①：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ボスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。					永山
4	ショットの基礎②：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。					永山
5	ショットの基本③：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。					永山
6	ショットの基本④：ボール弾道の法則とフェースコントロール…スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。					永山
7	ショットの基本⑤：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。					永山
8	ショットの基本⑥：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。					永山
9	ショットの基本⑦：グリーン周りの技術～パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。					永山
10	ショットの基本⑧：ショートアイアンとミドルアイアン ショートアイアンとミドルアイアンを使い分け、クラブによって距離をコントロールすることを理解する。					永山
11	ショットの基本⑨：ウッドクラブ これまで学習してきた内容を元に、ウッドクラブのスウィング技術を習得する。					永山
12	ターゲットバードゴルフ① ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。					永山
13	ターゲットバードゴルフ② ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドする。					永山
14	ターゲットバードゴルフ③ これまでのスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドし、ゲームを楽しむ。					永山
15	ショートゲームテストとまとめ。					永山
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7 MICO ケンメディア			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA(テニス)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。</p> <p>健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「テニス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、スポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① テニスの競技特性を理解する。</p> <p>② テニスの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明					田邊
2	グリップング、ラケットワーク					田邊
3	基本ストローク（フォア） 1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
4	基本ストローク（フォア） 2：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。					田邊
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
6	簡易ゲーム（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊
13	ゲーム 3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。					田邊
14	ゲーム 4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。					田邊
15	ゲーム 5：クラス内でリーグ戦の続きを行う。結果を集計し、その結果を踏まえこれまでの授業での学びを各自で振り返る。					田邊
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に屋外テニスコートで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子などを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA (バドミントン)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子・奥村 明義・宮本 勝裕 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「バドミントン」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、スポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① バドミントンの競技特性を理解する。          ② バドミントンの基本的技術を習得する。          ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。          ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。          ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス、種目選択、グルーピング、用具の説明					奥村、宮本
2	バドミントンの楽しみ方1：ラケット競技の特性を理解し、楽しむための基本的な知識を得る。 ラケットワーク(グリップ、操作方法など)を習得する。					宮本
3	バドミントンの楽しみ方2：バックハンド、フォアハンドなどの技術を理解し、基本ストローク(サーブ)が打てるようになる。					宮本
4	バドミントンの基礎(基本ストローク)1：下から上への基本ストローク(ロブ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
5	バドミントンの基礎(基本ストローク)2：下から上への基本ストローク(ヘアピン)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
6	バドミントンの基礎(基本ストローク)3：上からの基本ストローク(ハイクリアー)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
7	バドミントンの基礎(基本ストローク)4：上から下への基本ストローク(スマッシュ、カット、ドロップ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
8	バドミントンの基礎(基本ストローク)5：横からの基本ストローク(ドライブ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
9	バドミントンの基礎(基本ストローク)6：その他の基本ストローク(プッシュ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
10	中間レベル確認1：これまでに学習した基本ストローク技術(1～3)の習得度合いを確認する。					宮本
11	中間レベル確認2：これまでに学習した基本ストローク技術(4～6)の習得度合いを確認する。					宮本
12	ゲーム1：ダブルス・シングルのルール及び審判方法を学習し、ゲームができるようになる。					宮本
13	ゲーム2：学習したルールに則り、ダブルスゲームを楽しめるようになる。					宮本
14	ゲーム3：ダブルスゲームのリーグ戦を行う。					宮本
15	ゲーム4：ダブルスゲームのリーグ戦の続きを行う。まとめ					奥村、宮本
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
課題レポート	20	生涯スポーツとしてのバドミントン競技の意義をどの程度理解しているか				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館で実技を行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA (ゴルフ)		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。</p> <p>健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① ゴルフの競技特性を理解する。</p> <p>② ゴルフの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。					永山
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。					永山
3	ショットの基礎①：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ボスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。					永山
4	ショットの基礎②：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。					永山
5	ショットの基本③：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。					永山
6	ショットの基本④：ボール弾道の法則とフェースコントロール…スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。					永山
7	ショットの基本⑤：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ること、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。					永山
8	ショットの基本⑥：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。					永山
9	ショットの基本⑦：グリーン周りの技術～パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。					永山
10	ショットの基本⑧：ショートアイアンとミドルアイアン ショートアイアンとミドルアイアンを使い分け、クラブによって距離をコントロールすることを理解する。					永山
11	ショットの基本⑨：ウッドクラブ これまで学習してきた内容を元に、ウッドクラブのスウィング技術を習得する。					永山
12	ターゲットバードゴルフ① ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。					永山
13	ターゲットバードゴルフ② ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドする。					永山
14	ターゲットバードゴルフ③ これまでのスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドし、ゲームを楽しむ。					永山
15	ショートゲームテストとまとめ。					永山
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1～7 MICO ケンメディア			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA (テニス)		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。</p> <p>健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「テニス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、スポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① テニスの競技特性を理解する。</p> <p>② テニスの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明					田邊
2	グリップング、ラケットワーク					田邊
3	基本ストローク（フォア） 1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
4	基本ストローク（フォア） 2：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。					田邊
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
6	簡易ゲーム（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊
13	ゲーム 3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う					田邊
14	ゲーム 4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う					田邊
15	ゲーム 5：クラス内でリーグ戦の続きを行う。結果を集計し、その結果を踏まえこれまでの授業での学びを各自で振り返る。					田邊
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
<p>運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。</p>				<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。</p>		
受講生に望むこと	<p>実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。</p> <p>運動のできる服装で参加して下さい。</p> <p>主に屋外テニスコートで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子などを用意して下さい。</p> <p>詳しくは初回ガイダンスにて説明します。</p>			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	<p>運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。</p> <p>(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)</p>	

授業科目名	PE110C 生涯スポーツB		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実技科目として採用する。</p> <p>ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいと考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業（本頁）」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）</p>			<p>① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。</p> <p>② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>				
教授方法	スポーツ実技						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。						
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。						
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。						
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。						
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。						
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。						
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。						
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。						
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。（ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）						
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。						
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）						
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。						
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。 タグラグビーの基礎的技術を習得する。						
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。						
15	まとめ：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとしてスポーツに親しむ礎とする。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。 その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。				
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。		教科書・テキスト	なし			
指定図書／参考書等	なし		その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）			

授業科目名	PE110C 生涯スポーツB (集中講義：ゴルフセミナー)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは4日間にわたる集中講義で行う。ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーヤーの格安化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関連していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーもさることながら、職域や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多岐からではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることで、ゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー(本頁)」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する</p> <p>※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>① ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。</p> <p>② ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。</p> <p>③ グリップ、ポストチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。</p> <p>④ ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。</p> <p>⑤ 距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。</p> <p>⑥ 基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。</p> <p>⑦ ゴルフを通じた人間関係能力を養う。</p>			
教授方法	ゴルフ実技 (大学グラウンド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習)。					
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握/用具の準備。					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午前Ⅰ】 開講式/レッスン①：スタンスの確認 (グリップ、ポストチャー、エイミング) ショートスイング ～ スリークオータースイング (9I)					永山、田邊
3	【実習 1 日目 午前Ⅱ】 レッスン②：スリークオータースイング ～ ハーフスイング (9I)					永山、田邊
4	【実習 1 日目 午後Ⅰ】 レッスン③：ハーフスイング ～ フルスイング (9I)					永山、田邊
5	【実習 1 日目 午後Ⅱ】 レッスン④：ハーフスイング ～ フルスイング (9I、7I、5I)					永山、田邊
6	【実習 2 日目 午前Ⅰ】 レッスン⑤：9I、7I、5Iまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。/VTR 撮影					永山、田邊
7	【実習 2 日目 午前Ⅱ】 レッスン⑥：「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。/ VTR撮影					永山、田邊
8	【実習 2 日目 午後Ⅰ】 レッスン⑦：ウッドクラブによるスイング (ゴルフ練習場)。					永山、田邊
9	【実習 2 日目 午後Ⅱ】 レッスン⑧：パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前Ⅰ】 レッスン⑨：VTR によるフィードバック/クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。					永山、田邊
11	【実習 3 日目 午前Ⅱ】 レッスン⑩：ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習/グルーピング/打ち込み。					永山、田邊
12	【実習 3 日目 午後Ⅰ】 レッスン⑪：グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。					永山、田邊
13	【実習 3 日目 午後Ⅱ】 レッスン⑫：グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。ラウンド方法に慣れ、コースマネージメントの考え方を学習する。					永山、田邊
14	【実習 4 日目 午前】 レッスン⑬：民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。					永山、田邊
15	【実習 4 日目 午後】 ラウンド実習⑭：本コース 9ホール of ハーフラウンド体験を行う。/閉講式					各担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。2. 本セミナーの経験を、生涯にわたるスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習 (事前・事後学習等)						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。[1回60分程度]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。[1回60分程度]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。4日間の集中講義になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは事前オリエンテーションにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE110C 生涯スポーツB (集中講義: スキーセナー)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。また、本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県穂池高原スキー場にて3泊4日の合宿形式にて行う。</p> <p>スキーはウィンタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、スキー技術について基礎から応用まで各々のレベルで身に付けることをねらうが、単にスキーの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会スキルの醸成なども合宿を通して学習し、「スキーセナー」としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた班別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「スキーセナー(本頁)」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。  ※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>① スキー特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。  ② スキーに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。  ③ スキーの技能改善のための知識批判力と方法的な能力を修得する。  ④ ウィンタースポーツを通じた人間関係能力を養う  ⑤ ウィンタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める  ⑥ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。  ⑦ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを实践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スキー実技					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション: ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握 用具の準備(用具とその使用法の説明、パッキング)					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午後 I】 開講式/クラス編成確認(技術レベル別に編成)					各班担当者
3	【実習 1 日目 午後 II】 クラス別レッスン①					各班担当者
4	【実習 1 日目 夜】 講義: スキー技術の変遷/スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
5	【実習 2 日目 午前 I】 VTR 撮影/クラス別レッスン②					各班担当者
6	【実習 2 日目 午前 II】 クラス別レッスン③					各班担当者
7	【実習 2 日目 午後 I】 クラス別レッスン④					各班担当者
8	【実習 2 日目 午後 II】 クラス別レッスン⑤/ VTR 撮影					各班担当者
9	【実習 2 日目 夜】 VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/スキーのメンテナンス					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前 I】 VTR 撮影/クラス再編成/クラス別レッスン⑥					各班担当者
11	【実習 3 日目 午前 II】 クラス別レッスン⑦					各班担当者
12	【実習 3 日目 午後 I】 クラス別レッスン⑧					各班担当者
13	【実習 3 日目 午後 II】 クラス別レッスン⑨/ VTR 撮影					各班担当者
14	【実習 3 日目 夜】 VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
15	【実習 3 日目 午前】 クラス別レッスン⑩/開講式					各班担当者
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。2. 本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。実習に参加する前に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。【最低1日】ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。3泊4日の合宿になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは初回のガイダンスにて説明いたします。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/日本スキー協定		その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)		

授業科目名	HC100C キャリアデザイン I		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業のねらいは、本学において、学生生活の目的や目標を明確にし、計画的な日々を送ることができるようになることにある。同時に、将来の職業世界への関心を深め、働くことの意義や職業世界の構造について知ることを通して、意欲的な人生設計の実現に向けた実践的な選択行動がとれるようにする。また、キャリアデザインのカリキュラムを通して、計画的な人生の送り方や人生設計の基本を学び、産業や職業への理解を深め、職業世界への理解を深めると共にキャリアデザインの立て方の基礎を学んでいく。</p>			<p>① 自分自身を知り、社会を知って、自らの夢や目標を明確化する。  ② その夢や目標の実現に向け、大学生活をどう過ごすかを考え、実践に繋げていく。  ③ 卒業後どのような生き方、働き方をしたいかを自ら主体的に考える姿勢を持つ。</p>				
教授方法	講義と個人ワーク、ペアワーク、グループワーク						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション -キャリアとは何か、キャリアデザインとは何か、および授業の進め方について理解する-						
2	学生生活とキャリア -社会で働くために必要な力と 態度について考え、現在の自分の基礎力測定とその向上プランを作成する-						
3	自分を知る (1) (キャリアアンカー) -自分のこだわりを知り、そのこだわりを育てる方法を理解する-						
4	社会人としてのマナー (1) (傾聴) -傾聴とは何か、そして学生生活において傾聴スキルを身に付ける意味を理解する-						
5	社会人としてのマナー (2) (アサーション) -アサーションとは何か、そして学生生活において傾聴スキルを身に付ける意味を理解する-						
6	自分を知る (2) (一皮むけた経験) -自分が成長した経験を振り返り、どんな経験が自分を成長させるのかを知る。今後の学生生活へのヒントを学ぶ-						
7	就職活動を知る -今後の就職活動の流れと、その準備について理解する-						
8	働くということ -働くこととは何かを学び、将来のために、今、何をすべきかの ヒントを手に入れる-						
9	業界・企業研究 -業界研究・企業研究の方法を学び、今から準備すべきことを考える-						
10	会社と仕事 (1) -会社の中にはどのような部門がありどのような仕事を行っているか、その仕事のためにはどのような能力が必要かを学ぶ-						
11	会社と仕事 (2) -会社の中にはどのような部門がありどのような仕事を行っているか、その仕事のためにはどのような能力が必要かを学ぶ-						
12	キャリアと雇用形態 -雇用形態と諸問題を理解した上で将来をプランし、学生生活ですべきことを学ぶ-						
13	学生生活を面白くする (セレンディビティ: 計画された偶発性) -どんな行動が幸運につながるのかを知り、日常生活でその行動を心掛ける-						
14	学生生活のデザイン -これまでの授業を振り返り、学生生活をどのように過ごすかのプランを作成する-						
15	まとめ-全体の振り返り-						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
最終課題	50	授業の到達目標への達成度を評価する。	授業課題	40	毎回の振り返りシート、キャリアインタビューなどの提出課題を評価する。		
授業への参加態度	10	授業への取り組み状況。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
① 事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加すること [30分] ② 授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと [30分]			① 振り返りシートから理解度や要望を把握し次回以降の授業内容に反映する ② 提出課題にはコメントをつけ返却する				
受講生に望むこと	Reaize Your Mission -自分のミッションを見つけ出し、またその準備のための充実した学生生活を送るために、真剣に授業に取り組んでほしい。		教科書・テキスト	なし (毎回資料を配布する)			
指定図書参考書等	なし / 「キャリアデザイン入門 I (基礎力編)」第2版 大久保幸夫 日経文庫 2016年 ISBN978-4-532-11352-0 「学生のためのキャリアデザイン入門<第3版>」渡辺峻他編著 中央経済社 2015年11月 ISBN978-4-502-17061-4		その他・特記事項	なし			

授業科目名	HC100C キャリアデザイン I		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業のねらいは、本学において、学生生活の目的や目標を明確にし、計画的な日々を送ることができるようにすることにある。同時に、将来の職業世界への関心を深め、働くことの意義や職業世界の構造について知ることを通して、意欲的な人生設計への実現に向けた実践的な選択行動がとれるようにする。</p>			<p>① 自分自身を知り、社会を知って、自らの夢や目標を明確化する          ② その夢や目標の実現に向け、大学生活をどう過ごすかを考え、実践に繋げていく          ③ 卒業後どのような生き方、働き方をしたいかを自ら主体的に考える姿勢を持つ</p>				
教授方法	講義と個人ワーク、ペアワーク、グループワーク						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション -キャリアとは何か、キャリアデザインとは何か、および授業の進め方について理解する-						
2	学生生活とキャリア -社会で働くために必要な力と 態度について考え、現在の自分の基礎力測定とその向上プランを作成する-						
3	自分を知る (1) (キャリアアンカー) -自分のこだわりを知り、そのこだわりを育てる方法を理解する-						
4	社会人としてのマナー (1) (傾聴) -傾聴とは何か、そして学生生活において傾聴スキルを身に付ける意味を理解する-						
5	社会人としてのマナー (2) (アサーション) -アサーションとは何か、そして学生生活において傾聴スキルを身に付ける意味を理解する-						
6	自分を知る (2) (一皮むけた経験) -自分が成長した経験を振り返り、どんな経験が自分を成長させるのかを知る。 今後の学生生活へのヒントを学ぶ-						
7	就職活動を知る -今後の就職活動の流れと、その準備について理解する-						
8	働くということ -働くこととは何かを学び、将来のために、今、何をすべきかの ヒントを手に入れる-						
9	業界・企業研究 -業界研究・企業研究の方法を学び、今から準備すべきことを考える-						
10	会社と仕事 (1) -会社の中にはどのような部門がありどのような仕事を行っているか、その仕事のためにはどのような能力が必要かを学ぶ-						
11	会社と仕事 (2) -会社の中にはどのような部門がありどのような仕事を行っているか、その仕事のためにはどのような能力が必要かを学ぶ-						
12	キャリアと雇用形態 -雇用形態と諸問題を理解した上で将来をプランし、学生生活ですべきことを学ぶ-						
13	学生生活を面白くする (セレンディビティ：計画された偶発性) -どんな行動が幸運につながるのかを知り、日常生活でその行動を心掛ける-						
14	学生生活のデザイン -これまでの授業を振り返り、学生生活をどのように過ごすかのプランを作成する-						
15	まとめ-全体の振り返り-						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業課題	40	毎回の振り返りシート、キャリアインタビューなどの提出課題を評価する。		最終課題	50	授業の到達目標への達成度を評価する。	
授業への参加態度	10	授業への取り組み状況。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
① 事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加すること [30分] ② 授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと [30分]				① 振り返りシートから理解度や要望を把握し次回以降の授業内容に反映する ② 提出課題にはコメントをつけ返却する			
受講生に望むこと	Reaize Your Mission -自分のミッションを見つけ出し、またその準備のための充実した学生生活を送るために、真剣に授業に取り組んでほしい。			教科書・テキスト	なし (毎回資料を配布します)		
指定図書参考書等	なし / 「キャリアデザイン入門 I (基礎力編)」第2版 大久保幸夫 日経文庫 2016年 ISBN978-4-532-11352-0 「学生のためのキャリアデザイン入門<第3版>」渡辺峻他編著 中央経済社 2015年11月 ISBN978-4-502-17061-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC110C キャリアデザインII		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	中谷 智一・瀬戸 裕子 (代表教員 中谷 智一)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>キャリアデザインでは、自己と社会を知り、今後の意思決定に役立つ理論や考え方を学ぶ。本授業では、前期のキャリアデザインⅠを踏まえて、就職活動に備えた実践的な学びに重点を置き、就職活動に必要な知識や能力を習得する。</p>			<p>①志望する職種、業界、具体的な企業などについて知識を得る (特に、栄養士・管理栄養士の職務内容について) ②会社と仕事の種類や、求める人材について理解する ③就職活動のテクニカルな能力を習得する ・会社説明会参加の留意点 ・情報の収集方法 ・履歴書・エントリーシートの書き方 ・面接・グループディスカッション対策 ④ワーク・ライフ・バランスや労働関係の法律の概略を理解する ④社会人としてもとめられるマナーについて理解する。</p>				
教授方法	講義とグループワーク						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションとクラスルール：授業の全体像について理解する					中谷智一	
2	業界・企業研究：北陸地域にどのような業界とどのような企業があるかを理解する					中谷智一	
3	栄養士・管理栄養士とは：栄養士・管理栄養士の職務内容と、他の領域について					中谷智一	
4	会社と仕事：会社の種類・部門部署と、そこで働くにはどんな能力が必要か理解する					中谷智一	
5	求められる人材：グローバル化や情報化といった環境変化に伴い、現在及び今後求められる人材について学ぶ					中谷智一	
6	WORK LIFE BALANCE：「仕事と生活の両立」の現状と、企業の取り組み、国の支援等について理解する。					中谷智一	
7	就職活動①会社説明会：就職活動の全体の流れを理解し、会社説明会参加の留意点を学ぶ。					中谷智一	
8	就職活動②履歴書・エントリーシートの書き方その1：その意味と内容について					中谷智一	
9	就職活動③履歴書・エントリーシートの書き方その2：自己PRの書き方					中谷智一	
10	就職活動④：面接・グループディスカッション対策＝面接の心得とグループディスカッションの留意点「					中谷智一	
11	マナー講座①					瀬戸裕子	
12	マナー講座②					瀬戸裕子	
13	マナー講座③					瀬戸裕子	
14	マナー講座④					瀬戸裕子	
15	労働と法律およびまとめ：学生支援課の活用方法を含む					中谷智一	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加態度	50	グループワークでの参加態度・貢献度を評価する		課題レポート	50	毎回授業後に課されるミニレポート、最終レポートを評価する	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
①事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加する。[30分] ②授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと。[30分]				随時行う			
受講生に望むこと	本授業は、一方的な講義方式の授業ではありません。グループメンバーとともに創り上げていく授業です。真剣にグループワークに取り組み、積極的に発言し、メンバーの意見にはしっかり耳を傾けてください。			教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布します）		
指定図書参考書等	なし／「キャリアデザイン入門Ⅰ（基礎力編）」大久保幸夫 日経文庫 2006年3月 ISBN978-4-532-11096-3 「学生のためのキャリアデザイン入門＜第3版＞」渡辺峻他編著 中央経済社 2015年11月 ISBN978-4-502-17061-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC110C キャリアデザインII		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>キャリアデザインIIでは、自己と社会を知り、今後の意思決定に役立つ理論や考え方を学ぶ。本授業では、前期のキャリアデザインIを踏まえて、キャリア開発セミナーBと連動しながら、各分野の専門家からの話を聞いたり、社会人インタビューをするなど、複数のトピックスを通じて働くことの理想と問題を知る。なお、開講日の曜日(終日)はスーツデーとし、スーツ着用で受講する。</p>			<p>①働くことの理想と問題点を知る。 ②自己効力感を持ち、幸せになる決意ができる。 ③前向きな姿勢で、一歩踏み出す。 ④未来志向力の必要性を知る。 ⑤多様性を知り、自分のケースを考え、目標を決める。</p>				
教授方法	①講義、②インタビュー、③個人ワーク、④グループディスカッション、⑤全体プレゼンテーションの組み合わせ。						
履修条件	キャリアデザインIを履修し、単位修得していること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション -科目の必要性と「キャリア開発セミナーB」との関連を理解し、授業の全体像を把握する-						
2	インターンシップ・他活動の報告会準備 <グループディスカッション> -グループディスカッションを通して論点を詰めるとともに課題を見いだす-						
3	インターンシップ・他活動の報告会(1) <プレゼンテーション> -聴衆に自己の意見を的確に伝えることができるようになる-						
4	インターンシップ・他活動の報告会(2) <プレゼンテーション> -聴衆に自己の意見を的確に伝えることができるようになる。振り返りを通して新たな課題に気づく-						
5	「自己分析・自己PR」(1) <グループディスカッション・プレゼンテーション> -社会の理解と友人から学ぶ- [キャリア開発セミナーBと連動]						
6	インタビュー(聞き取り調査法)について <講義> -リサーチの基本的知識を習得する-						
7	「企業研究」<グループディスカッション・プレゼンテーション> -企業についての知識を深める- [キャリア開発セミナーBと連動]						
8	「ライフサイクルと個人のライフプラン」<講義と個人ワーク> -ライフサイクルを理解し、個人のライフプランを立てる-						
9	「自己分析・自己PR」(2) <グループディスカッション・プレゼンテーション> -自己理解を深めて「履歴書・エントリーシート」の自己PRをまとめる- [キャリア開発セミナーBと連動]						
10	キャリアコンサルタント(社会保険労務士)による講演 -キャリアデザインやライフプランの設計に必要な知識を習得する-						
11	社会人インタビューの成果報告(1) <グループディスカッション・プレゼンテーション> -インタビューで得た成果を聴衆に的確に伝えることができる-						
12	社会人インタビューの成果報告(2) <グループディスカッション・プレゼンテーション> -インタビューで得た成果を聴衆に的確に伝えることができる-						
13	「学内企業セミナー」等への参加:卒業生に就職活動について聞く -経験者の体験から就職の実際を聞く-						
14	「学内企業セミナー」等への参加報告<グループディスカッション・プレゼンテーション> -視聴から得た成果を聴衆に的確に伝えることができる。振り返りを通して新たな課題に気づく-						
15	「自分の将来・キャリア」<グループディスカッション・プレゼンテーション> -自分の将来やキャリアについて具体的に認識し、表現できるようになる-						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業課題	50	毎回の振り返りシート、社会人インタビュー、プレゼンテーション等の授業課題を評価する。		最終課題	30	理解度、到達目標の達成度を評価する	
授業参加状況	20	授業出席および授業態度(スーツ着用)を評価する					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加すること [30分] ②授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと [30分]				①振り返りシートから理解度や要望を把握し次回以降の授業内容に反映する ②提出課題にはコメントをつけ返却する			
受講生に望むこと	①授業外での積極的な学修を心がける。 ②授業においても能動的(自主的)に活動する。 ③グループワークにおいて自分の役割を考える。 ④グループワークにおいて他者への配慮に注意する。 ⑤個人の発表では相手に十分に伝わるように注意する。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/「キャリアデザイン入門I(基礎力編)」大久保幸夫 日経文庫 2006年3月 ISBN978-4-532-11096-3 「学生のためのキャリアデザイン入門<第3版>」渡辺峻他編著 中央経済社 2015年11月 ISBN978-4-502-17061-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC160C 情報機器演習A		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>①学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。  ②電子メールの送受信ができるようになる。  ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。  ④Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。  ⑤Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信の正しい知識を身につける。					
2	Windows7の基礎操作を習得する。情報倫理に関する知識を身につける。					
3	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。					
4	Excel関数①：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。					
5	Excel関数②：条件分岐関数の操作方法を習得する。					
6	Excel関数③：表引き関数の操作方法を習得する。					
7	Excel小テスト： 以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。					
8	Excelデータ加工①：データの加工・並べ替え方法を習得する。					
9	Excelデータ加工②：基本的なグラフの作成方法を習得する。					
10	Excel課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。					
11	Word文書作成①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。					
12	Word文書作成②：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。					
13	Word文書作成③：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。					
14	総合課題①：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。					
15	総合課題②：レポートを完成させ、提出する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。		Excel関数小テスト／課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%)／適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[30分]  ②14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。[60分以上]</p>				<p>①小テスト（電子メール・情報倫理）は、採点し次回の授業の冒頭で返却する。  ②小テスト（EXCEL）は、点数を次回の授業の冒頭で連絡する。  ③EXCEL課題は、コメントを付けて次回の授業の冒頭で返却する。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2010対応』 第1版 noa出版 2010年出版 『2017年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 2017年出版	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC160C 情報機器演習A		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	池村 努						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	医療管理秘書士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>①学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。  ②電子メールの送受信ができるようになる。  ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。  ④Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。  ⑤Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信の正しい知識を身につける。						
2	Windows7の基礎操作を習得する。情報倫理に関する知識を身につける。						
3	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。						
4	Excel関数①：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。						
5	Excel関数②：条件分岐関数の操作方法を習得する。						
6	Excel関数③：表引き関数の操作方法を習得する。						
7	Excel小テスト：以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。						
8	Excelデータ加工①：データの加工・並べ替え方法を習得する。						
9	Excelデータ加工②：基本的なグラフの作成方法を習得する。						
10	Excel課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。						
11	Word文書作成①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。						
12	Word文書作成②：レポートの構成・形式を理解し、画像の挿入、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。						
13	Word文書作成③：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。						
14	総合課題①：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。						
15	総合課題②：レポートを完成させ、提出する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。		Excel関数小テスト／課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%)／適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)	
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[30分]  ②タイピング練習サイトを用いて、タッチタイピングに取り組むこと。[30分]  ③14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。[90分]</p>				<p>授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。  タイピング練習のフィードバックは毎時間行なう。</p>			
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2010対応』 第1版 noa出版 2010年出版 『2017年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 2017年出版		
指定図書参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC170C 情報機器演習B		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	富岡 和久					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションや画像・音声・動画編集加工ソフトの基本的操作を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。この授業は、全学共通であるキャリア教育科目の1つである。</p>			<p>①Excelで複合グラフが作成できる。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そのような資料を作成して発表できるようになる。 ④⑤のようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑤簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	「情報機器演習A」の履修済みが望ましい。(単位未修得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習Iで学んだ関数の振り返りを行う。					
2	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。					
3	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。					
4	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。					
5	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。					
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。					
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。					
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。					
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
12	画像・音声・動画ファイルの編集加工：画像・音声・動画ファイルについて、基本的な編集加工方法を習得する。					
13	マルチメディア作品の制作①：オリジナルのテーマを設定し、素材となる画像・音声・動画ファイルの編集加工を行う。					
14	マルチメディア作品の制作②：マルチメディア作品を作る。					
15	マルチメディア作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
Excel関数の応用とグラフ作成	10	関数を利用した実用的な表が作成できるか。複合グラフが作成できるか。		プレゼンテーション	35	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
マルチメディア作品	25	テーマに沿った作品であるか。音声画像・動画ファイルの切替えのタイミングに合っているか。		授業参加態度	30	出席状況、授業への取組み姿勢。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①6回目に発表用のスライドを作成する。7回目の授業までに完成させること。 ②7回目に発表用の原稿を作成する。8回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。 ③8回目のリハーサルで指摘されたこと、気づいたことに対して、発表用スライドの修正を行い、9回目の授業の前までに提出する。 ④9-11回目のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように、十分な練習をする。 ⑤パソコンの操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 これら①～⑤について合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>				<p>原則、課題を提出したよく週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2010対応』 第1版 noa出版 2010年出版	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC170C 情報機器演習B		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	医療管理秘書士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションや画像・動画編集加工ソフトの基本的操作を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。</p>			<p>①Excelで複合グラフが作成できる。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そのような資料を作成して発表できるようにする。 ④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑤簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	「情報機器演習A」の履修済が望ましい。(単位未修得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習Aで学んだ関数の振り返りを行う。					
2	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。					
3	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。					
4	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。					
5	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。					
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。					
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。					
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。					
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
12	画像・動画ファイルの編集加工：画像・動画ファイルについて、基本的な編集加工方法を習得する。					
13	マルチメディア作品の制作①：オリジナルのテーマを設定し、素材となる画像・音声・動画ファイルの編集加工を行う。					
14	マルチメディア作品の制作②：マルチメディア作品を作る。					
15	マルチメディア作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
Excel関数の応用とグラフ作成	10	関数を利用した実用的な表が作成できるか。複合グラフが作成できるか。		プレゼンテーション	35	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
マルチメディア作品	25	テーマに沿った作品であるか。音声画像ファイルの切替のタイミングに合っているか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取り組み姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①6回目に発表用のスライドを作成する。7回目の授業までに完成させること。[45分] ②7回目に発表用の原稿を作成する。8回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。[45分] ③8回目のリハーサルで指摘されたこと、気づいたことに対して、発表用スライドの修正を行い、9回目の授業の前までに提出する。[30分] ④9-11回目のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように、十分な練習をする。[60分以上] ⑤パソコンの操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[30分]</p>				<p>プレゼンテーションについて、改善点を中心としたコメントを次の冒頭で配布する。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2010対応』 第1版 noa出版 2010年出版	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	



# 食物营养学科



授業科目名	FB110C 学びの基礎		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	村上 吉春・坂井 良輔・中谷 智一・西 正人 (代表教員 村上 吉春)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>短期大学部食物栄養学科へ入学した学生の、初年次教育に位置づく科目である。したがって、大学での授業の聴き方や心構え、ノートのとり方やレポートの書き方、卒業後のライフプランを踏まえた2年間の短大生活プラン設計等について、演習を通して学ぶ。</p>			<p>①大学での授業に臨む準備やノートテイクの要領等を理解し、入学当初から講義や大学生活に円滑に移行できるようにする。          ②レポート作成の基本的な手法を理解するとともに、学んだことを生かして作法に則ったレポートが実際に書けるようになる。          ③計画的な学生生活を送り、卒業後の社会生活へ円滑に移行できるよう、在学中と将来の各自のライフプランを作成し、目標に向けて努力することを意識できる。</p>			
教授方法	講義、演習、グループワークほか					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーションと仲間づくり 初年次教育としての授業のねらいや進め方の説明、人間関係づくりのグループ活動を学ぶ。					全員
2	大学で学ぶということ アクティブ・ラーニングに必要なスタディ・スキルの概要を知り、大学での学び方を理解する。					全員
3	学生生活と食物栄養学科での学び 将来のなりたい自分に向けた2年間のカレッジライフ・プランを、見える化する。					全員
4	大学でのノートのとり方 講義中のノート・テイキングは、どうすればよいか、ミニ模擬講義での演習を通して理解する。					全員
5	グループ協議の進め方 グループ協議のねらい、司会等の役割分担を学び、実際の進め方を演習を通して理解する。					全員
6	リーディング・スキル① 大学で書籍や資料を読みこなす上で必要となる、リーディングの基本スキルを理解する。					全員
7	リーディング・スキル② 内容をより深く読み取るために必要な、要約スキルとその要領について、演習を通して理解する。					全員
8	レポート作成の基本 レポートと作文の違い、レポートの基本的な構成及び作成手順等について理解する。					全員
9	効果的なアカデミック・ライティング わかりやすいレポートを書くために、必要な文章構成や作成上の作法を理解する。					全員
10	食物栄養学科で求められるレポート 学習内容毎に種類が異なる複数のレポート形式に関して、基本的な書き方を理解する。					全員
11	レポート作成のまとめ 既習事項を総合化するための確認演習を通して、レポート作成能力の定着を図る。					全員
12	報告レポート作成演習 栄養士として知っておくべき食べ物と生活習慣病との関わりを学び、内容を受講レポートにまとめる。					全員
13	課題レポート作成演習 食に関する問題を扱ったDVD視聴後、自分でテーマを設定してレポートにまとめる。					全員
14	大学図書館の活用① 大学図書館での情報収集や利用に求められる、基本事項やルールを理解する。					全員
15	大学図書館の活用②と科目の総括 情報の効率的な収集や文献リスト作成法を学ぶとともに、本科目での学習内容を総括する。					全員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
プリント作成と提出状況	40	授業中に演習する各種プリントの期限までの提出と量的・質的な内容		レポートの提出とその成果	40	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び演習への参加状況	20	演習への能動的な参加(発言・応答) + グループ活動等における積極的な役割分担				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①原則として、次時に予定する学習範囲の該当ページを指示するから、テキストで予習して出席のこと。その際、意味不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。[30分] ②毎回のよう提出を求める演習プリント類は、期限を厳守すること。[60分]				提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で、次時の授業で返却する。		
受講生に望むこと	プリントを中心とする演習を通して学ぶことが多いため、提出を求められたプリント類は必ず期限までに提出のこと。同時に、授業やグループ協議では自分の意見を述べることや質問できることを歓迎する。			教科書・テキスト	『知へのステップ(第4版) ~大学生からのスタディ・スキルズ~』 学習技術研究会 くらしお出版 2015 ISBN 978-4-87424-650-4	
指定図書参考書等	なし ・レポート・論文作成法 井下千以子編 慶大出版会 2013 ISBN 978-4-7664-2013-5 ・大学生学びのハンドブック 世界思想社編集部編 世界思想社 2012 ISBN 978-4-7907-1540-5			その他・特記事項	普段からジャンルを問わず、様々な分野の書籍に親しむよう心がけることが望ましい。特に新聞や食物関係の雑誌を読むことを薦める。	

授業科目名	FB120C キャリア実践演習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	田中 康司						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>①社会科学の領域について、政治・経済・国際・社会・環境（以上社会科学領域）の各分野にわたって最重要事項に焦点を当て、新聞記事を素材として活用しながら、背景説明、ディスカッションを通して、これらの事項への関心を高め、理解を深めます。また、SPIテスト等から抽出された、先の重要事項に関する問題を解き、その後解説を行い、更なる理解を深めます。</p> <p>②副テーマとして『女性の社会進出』を取り上げています。育児休業制度といった制度から始め、さまざまな社会問題を取り上げ、問題点や新しい動きについて一緒に考えていきます。</p> <p>③もう一つの副テーマとして『さまざまな働き方』を取り上げていきます。非正規労働に焦点を当て、問題点や新しい動きについて一緒に考えていきます。</p>			<p>①本講座では、学生としての『基礎的な教養』を身に付けることを目的とします。社会人には様々な状況での「判断力」が求められます。この判断力を身に付けるには、学生時代から基礎的な教養をしっかりと身に付けることが大切です。そのために、社会科学の領域について、最重要事項に焦点を当て、新聞記事を素材として活用しながら、背景説明、ディスカッションを通して、これらの事項への関心を高め、理解を深めていきます。</p> <p>②「コラムを読もう」について、「天声人語」「春秋」「余録」から取り上げられたコラムについて、キーワードを探し出し、タイトルを付けることを通して、「読解力」「文章作成能力」を高めることを目的とします。</p>				
教授方法	講義及び実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション / 講義テーマ：日本国憲法について学ぼう①－人権思想の発達と民主政治、日本国憲法の制定 / 新聞を読もう：日本経済新聞等の全国紙を対象に、記事の構成や読み方を学ぶことにより、新聞が身近な存在となります / コラムを読もう①						
2	講義テーマ：日本国憲法について学ぼう②－人権に関する重要宣言、日本国憲法と基本的人権 / 小テスト①－日本国憲法の制定 / コラムを読もう②						
3	講義テーマ：日本国憲法について学ぼう③－選挙と政党 / 小テスト②－日本国憲法と基本的人権 / コラムを読もう③						
4	講義テーマ1：日本国憲法について学ぼう④－国民を代表する国会 II：女性の社会進出について考えよう① / 小テスト③－選挙と政党 / コラムを読もう④						
5	講義テーマ1：日本国憲法について学ぼう⑤－行政権を持つ内閣 II：女性の社会進出について考えよう② / 小テスト④－国民を代表する国会 / コラムを読もう⑤						
6	講義テーマ1：日本国憲法について学ぼう⑥－人権を守る裁判所 II：女性の社会進出について考えよう③ / 小テスト⑤－行政権を持つ内閣 / コラムを読もう⑥						
7	講義テーマ1：日本国憲法について学ぼう⑦－地方自治と住民の政治参加 II：女性の社会進出について考えよう④ / 小テスト⑥－人権を守る裁判所 / コラムを読もう⑦						
8	講義テーマ1：わたしたちの社会生活について学ぼう①－わたしたちの生活と経済 II：女性の社会進出について考えよう⑤ / 小テスト⑦－地方自治と住民の政治参加 / コラムを読もう⑧						
9	講義テーマ1：わたしたちの社会生活について学ぼう②－商品の流通と価格 II：女性の社会進出について考えよう⑥ / 小テスト⑧－わたしたちの生活と経済 / コラムを読もう⑨						
10	講義テーマ I：わたしたちの社会生活について学ぼう③－通貨制度と金融の仕組み II：女性の社会進出について考えよう⑦ / 小テスト⑨－商品の流通と価格 / コラムを読もう⑩						
11	講義テーマ1：わたしたちの社会生活について学ぼう④－生産のしくみと企業 II：女性の社会進出について考えよう⑧ / 小テスト⑩－通貨制度と金融の仕組み / コラムを読もう⑪						
12	講義テーマ1：わたしたちの社会生活について学ぼう⑤－職業の意義と労働条件の改善 II：さまざまな働き方を学ぼう① / 小テスト⑪－生産のしくみと企業 / コラムを読もう⑫						
13	講義テーマ I：わたしたちの社会生活について学ぼう⑥－財政のはたらきと租税 II：さまざまな働き方を学ぼう② / 小テスト⑫－職業の意義と労働条件の改善 / コラムを読もう⑬						
14	講義テーマ I：わたしたちの社会生活について学ぼう⑦－社会保障と国民の福祉 II：さまざまな働き方を学ぼう③ / 小テスト⑬－財政のはたらきと租税 / コラムを読もう⑭						
15	講義テーマ：働くための法律の基礎知識 / コラムを読もう⑮ / まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
講義参加態度	20	講義への参加態度及びディスカッションについては、テーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができるかという観点から評価します。		小テスト、事後の課題・レポート	80	小テストについては講義内容を的確に把握しているかという観点から、レポートについては課題の意図を的確に理解し、論理的に表現しているかという観点から評価します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①講義において、講義テーマのテキストを配布します。講義終了後、テキスト、新聞・インターネット等からの最新のデータ資料をもとに講義内容を復習してください。[60分]</p> <p>②「新聞を読む」習慣を身に付けることは社会人になるための必要条件です。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から、新聞を通して社会との関わりを持つことが大切です。「日経新聞」「朝日新聞」「毎日新聞」「読売新聞」等の全国紙を読む習慣を是非付けてください。[30分]</p>			<p>毎回実施する小テストについては、採点し、次の冒頭に返却します。</p>				
受講生に望むこと	<p>毎回出席確認を行います。</p> <p>講義中の私語は、真面目に、真剣に講義を受けている周囲の学生にとって迷惑行為にあたりますから、禁止します。ただし、グループ討論を行うときはこの限りではありません。</p>		教科書・テキスト	講義毎にレジュメ・資料を配布する。			
指定図書参考書等	<p>なし / 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 金井壽宏著 PHP新書187 (PHP研究所) 2002年10月</p> <p>『仕事の中の曖昧な不安』 玄田有史著 中公文庫 (中央公論新社) 2005年3月</p> <p>『学生のためのキャリアデザイン入門&lt;第2版&gt;』 渡辺峻・伊藤健市編著 中央経済社 ISBN 978-4-502-08020-3</p> <p>他に、講義時に紹介する。</p>		その他・特記事項	なし			





授業科目名	FB130C 栄養士への道A		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・中谷 智一・村上 吉春・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子（代表教員 新澤 祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>栄養士としての学びをはじめるとに当たり、まず、基本的な学びへの姿勢、学びの方法を修得する。また、環境、運動、食文化、食育など様々な視点から、特に、体験学習などもおして現代の食環境での課題を探究し、それに対処できる能力を修得しながら栄養士という職業への理解を深める。</p>			<p>①栄養士を目指すために必要な学びとは何かを理解する。 ②栄養士の役割と業務の基礎的知識を理解できる。 ③栄養士業務に必要な基礎的知識を修得している。</p>				
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：栄養士の学びを始めるにあたり、この学科目の意義を理解する					全員	
2	特別オリエンテーション：先輩の体験談より、学びの意義を理解する。					全員	
3	栄養士を取り巻く諸問題：廃棄物の問題を考える。					全員	
4	栄養士を取り巻く諸問題：食と健康の問題を考える－1－					全員	
5	栄養士を取り巻く諸問題：食と健康の問題を考える－2－					全員	
6	栄養士を取り巻く諸問題：食の安心・安全を考える					全員	
7	栄養士を取り巻く諸問題：食における地域の課題を考える					全員	
8	食育のためのグループ演習1					全員	
9	食育のためのグループ演習2					全員	
10	体験学習（食育1）					全員	
11	体験学習（食育2）					全員	
12	体験学習（食文化）：箸の使い方から、日本の食文化を理解する。					全員	
13	体験学習（流通）：卸売市場の見学により、流通の仕組みを理解する。					全員	
14	体験学習（運動）：運動施設における運動体験により運動の必要性を科学的に理解する。					全員	
15	体験学習（環境）：環境に関する研究施設と廃棄物処理施設の見学により環境問題への理解を深める。					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加態度	50	①授業へ積極的に関わる。 ②授業に向けて十分に準備する。		提出課題	50	①質的量的に適切である。 ②指定期日迄の提出	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
各取組毎に内容をまとめる。[30分]※必要なことはその都度指示をする				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				レポートは返却しないこともある。			
受講生に望むこと	日々自身の生活習慣、食習慣を意識する。与えられた課題には、積極的に取り組み、問題点を見いだすよう努力する。			教科書・テキスト	『まずはここからナビゲーション』小野章史編 第一出版 ISBN：978-4-8041-1291-6		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FB140C 栄養士への道B		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・中谷 智一・村上 吉春・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子（代表教員 新澤 祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>現代社会において栄養士に求められている役割を理解するため、地域社会との連携もふまえて、体験的に学びを深める。また、地域で働くための必要なスキルも修得する。特に栄養士として社会での活動のための基本的な知識を会得する。さらに、今の食の課題を取り上げながら、1年次の基礎と専門の学びを確かなものとした。</p>			<p>①栄養士を目指すために必要な学びとは何かを理解する。          ②栄養士の役割と業務の基礎的知識を理解できる。          ③栄養士業務に必要な基礎的知識を修得している。          ④栄養士として働くために、社会人としての基本的役割を理解できる。</p>				
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：社会における栄養士の役割と働き方を考え、これからの学びの方法と意義を理解する。					全員	
2	マナー講座オリエンテーション。マナーの重要性					外部講師	
3	好感のもたれる身だしなみ、姿勢					外部講師	
4	正しいお辞儀の方法1					外部講師	
5	正しいお辞儀の方法2					外部講師	
6	面接の受け方1：姿勢、態度、立居振舞					外部講師	
7	面接の受け方2：姿勢、態度、立居振舞					外部講師	
8	面接の受け方3：集団面接					外部講師	
9	マナー講座のまとめ：美しく、正しい姿勢態度					外部講師	
10	体験学習：地域との連携による食育活動					全員	
11	各職種における栄養士の仕事（就職特別セミナー）1					全員	
12	各職種における栄養士の仕事（就職特別セミナー）2					全員	
13	校外実習報告会					全員	
14	1年次のまとめ1：総合テスト					全員	
15	1年次のまとめ2：総合テストの解説					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加態度	50	①授業へ積極的に関わる。 ②授業に向けて十分に準備する。		提出課題	50	①質的量的に適切である。 ②指定期日迄の提出	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各取組内容をまとめる。[30分]※必要なことはその都度指示をする				レポートは返却しないこともある。			
受講生に望むこと	日々自身の生活習慣、食習慣を意識する。			教科書・テキスト	『まずはここからナビゲーション』小野章史編 第一出版 ISBN：978-4-8041-1291-6		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FB220C 栄養士への道C			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・中谷 智一・村上 吉春・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子（代表教員 新澤 祥恵）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
1年次の学びを受けて、栄養士としての専門科目を学ぶための基礎となる知識を確認し、専門的なスキルを習得するために必要な技能を理解する。また、より専門的な体験学習をとおして現代の食生活での問題を見つけ、それに対処できる能力を修得する。				①栄養士の役割と業務の応用的な知識も理解できる。 ②栄養士の社会的な役割を理解できる。			
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	特別オリエンテーション：栄養士の役割の理解						全員
2	栄養士業務実践のための知識1：1年次の復習						全員
3	栄養士業務実践のための知識2：2年次の学びに向けて						全員
4	栄養士に必要な基本的態度の学び1：栄養士の活動分野						田中
5	栄養士に必要な基本的態度の学び2：栄養士に求められる接遇						田中
6	栄養士に必要な基本的態度の学び3：栄養士に求められる文章作成						田中
7	栄養士に必要な基本的態度の学び4：栄養士に求められる表現力						田中
8	栄養士業務実践のための演習1						全員
9	栄養士業務実践のための演習2						全員
10	栄養に関する課題への取組1：個々の栄養問題						全員
11	栄養に関する課題への取組2：家庭の栄養問題						全員
12	栄養に関する課題への取組3：地域の栄養問題						全員
13	栄養に関する課題への取組4：世界の栄養問題						全員
14	食育の実践1：小児の食育						全員
15	食育の実践2：高齢者の食育						全員
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度	50	①授業に積極的に関わる ②授業に向けて十分準備する			課題提出	50	①量的・質的に適切である ②提出期日までの提出
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
各授業内容に添って事前学習することと、事後は授業内容をまとめる。 [30分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
自身生活習慣・食習慣を意識する。				レポートは返却しないこともある			
受講生に望むこと				教科書・テキスト	担当者が配布する資料		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FB230C 栄養士への道D			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・中谷 智一・村上 吉春・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子（代表教員 新澤 祥恵）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
卒業に向けて、これまでに学んだ栄養士としての専門知識を確認し、より専門的な技能と様々な課題に対処できる能力を修得する。				①栄養士の役割と業務の応用的な知識も理解できる。 ②栄養士の社会的な役割を理解できる。 ③栄養士業務に必要な知識を総合的に理解している。			
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	栄養士の専門知識 1, 2 : 食品学総論、公衆衛生学						坂井、俵
2	栄養士の専門知識 3, 4 : 基礎栄養学、公衆栄養学						新澤、三田
3	栄養士の専門知識 5, 6 : 栄養指導論、調理学						三田、新澤
4	栄養士の専門知識 7, 8 : 応用栄養学、生化学						俵、坂井
5	栄養士の専門知識 9, 10 : 給食管理、解剖生理学						田中、西
6	栄養士の専門知識 11, 12 : 食品衛生学、食品学各論						西、坂井
7	栄養士の専門知識 13, 14 : 人体構造学、まとめ						坂井、田中
8	栄養士の専門知識 : まとめ						全員
9	栄養士の専門知識 : まとめ						全員
10	栄養士のための社会常識の学び						全員
11	栄養士業務の実際 1 : 先輩栄養士に学ぶ (医療)						全員
12	栄養士業務の実際 2 : 先輩栄養士に学ぶ (在宅栄養)						全員
13	栄養士業務の実際 3 : 先輩栄養士に学ぶ (地域活動)						全員
14	食に関わる企業の理解						全員
15	栄養士の道のまとめ						全員
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度	50	①授業に積極的に関わる ②授業に向けて十分準備する			課題提出	50	①量的・質的に適切である ②提出期日までの提出
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
各授業内容に添って事前学習することと、事後は授業内容をまとめる。 [30分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				レポートは返却しないこともある			
受講生に望むこと	自身の生活習慣・食習慣を意識する。			教科書・テキスト	担当者が配布する資料		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FB090C 科学の基礎		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	自由	
担当教員名	坂井 良輔・西 正人 (代表教員 坂井 良輔)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
高等学校において理科系科目の理解度の差を鑑み、栄養士養成課程専門科目群履修に必要なと思われる基礎的知識(化学・生物)の再確認を行う。			1年生が専門科目を受講するにあたり、必要不可欠な知識の完全習得を目標とする。				
教授方法	テキストに基づき、高等学校に学んだことの確認、そして確認された事項が専門科目の何処に繋がるのか、説明を行いたい。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	履修到達度を確認するために復習テストを行う、2回目の講義より2クラスに分ける。						
2	物質の構造：原子の構造と周期表、放射能について学ぶ。						
3	物質の構造：様々な化学結合と分子間に働く力について学ぶ。						
4	物質の三態：個体、液体、気体と物質が溶液にとけるしくみを理解する。						
5	物質の三態：コロイド溶液の性質、モル濃度と規定濃度、気体の体積と圧力を理解する。						
6	物質の変化：化学反応、酸と塩基、酸化と還元について理解する。						
7	物質の変化：エネルギーの定義、エネルギーの単位について理解する。						
8	物質の変化：エネルギーの種類、食物のエネルギーについて理解する。						
9	無機化合物：無機化合物の化学構造、その特徴を学ぶ						
10	無機化合物：生態を構成している無機質とその働きについて学ぶ。						
11	食品中の有機化合物：有機化合物の種類と生活とのかかわり、生体や食品における有機化合物について学ぶ。						
12	エネルギー代謝：生化学の視点からATP、ミトコンドリア、電子伝達系について学ぶ。						
13	物質代謝(糖代謝・脂質代謝)：解糖系、クエン酸回路、ペントースリン酸経路、脂肪酸のβ酸化について学ぶ、脂肪酸の生合成について学ぶ。						
14	物質代謝(アミノ酸代謝)：アミノ酸も分解、尿素回路、アミノ酸の生合成、核酸代謝、について学ぶ。						
15	核酸の生化学：DNAの複製、転写、翻訳について学ぶ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	70	講義を行った事項が理解と習得されているかを確認する		取り組み姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
高校時に履修した理科系科目の教科書を再度通読し、問題意識をもって講義に臨んでもらいたい。この科目を学びながら、学んだあとにも他科目でも、用語、項目、概念は再出するのでそのつど、復習してもらいたい。[30分]				特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。			
受講生に望むこと	なるべく平易、簡便な方法での講義を目指すので、苦手意識を克服してもらいたい。			教科書・テキスト	栄養科学シリーズ NEXT 『基礎化学』 辻 英明・中村 宜督 講談社サイエンティフィック ISBN978-4-16-155350-7 これだけ!生化学 稲垣賢二監修 生化学若い研究者の会著 秀和システム ISBN978-4-7980-4226-8		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FB095C 栄養士のための計算入門		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	自由	
担当教員名	中谷 智一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
前年度までの「数学の基礎」の食物栄養学科向けバージョンである。四則計算から、溶液の作製のための知識くらいまでを履修する。			基本的な考えを理解し、問題を解けるようになる。専門科目に出てくる数学的な考え方に対応できる力をつける。				
教授方法	演習プリントへの取り組みと解説、個別指導。						
履修条件	学科指定の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	クラスルールとオリエンテーション						
2	整数の計算とその考え方						
3	分数の計算とその考え方						
4	少数の計算とその考え方						
5	割合と比						
6	連立一次方程式						
7	前半5回の復習と解説・補足説明						
8	整数の計算の上級問題						
9	分数の計算の上級問題						
10	少数の上級問題						
11	割合と比の上級問題						
12	溶液についての基本的な考え方						
13	後半5回の復習と解説						
14	グラフと表						
15	まとめとふりかえり						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
達成度確認試験	40	履修項目全体の理解度を見る。		課題への取り組み状況	40	各人の盲力には個人差があるが、どれだけ向上したか、どれだけ意欲的に取り組んだかを見る	
出席状況	20	規定回数のお席					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
自学自習・復習を自主的に行うこと[30分]				随時行う			
受講生に望むこと	各回での基本的な考え方の理解につとめること 計算問題への取り組み			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FH100C 公衆衛生学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	押野 榮司						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・社会福祉主事任用資格				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>公衆衛生とは、地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命を延長し、身体的並びに精神的能力を増進するための技術であり科学であると定義されている。公衆衛生活動は、主に衛生行政のなかで行われ、その課題は社会状況とともに変化し、健康増進、疾病予防に加え、重症化予防さらには社会復帰へと広がりを見せ、栄養士になるための基本的な知識を習得することを目的とする。</p>			<p>本講座では、社会や環境と健康との関係を理解するとともに、保健、医療、福祉、介護システムの概要について学ぶ。また、集団の健康を評価する方法として「保健統計」、「疫学」を学ぶ。さらに、公衆衛生活動を分野ごとに幅広く学ぶ。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	健康と公衆衛生 授業概要の説明：公衆衛生の概念 公衆衛生の歴史を通して、栄養士になるために、なぜ「公衆衛生」を学ぶのか。「公衆衛生」とは何かを知る。						
2	環境と健康 地球規模の環境破壊、環境汚染と健康影響について学び、環境衛生について知る。						
3	健康、疾病、行動にかかわる統計 人口動態統計、人口動態統計を学び、公衆衛生課題を知る。						
4	疫学 疫学疫学とは何か、疾病の原因を明らかにする方法、因果関係の判定について理解する。						
5	生活習慣病の疫学と予防対策 生活習慣（ライフスタイル）の現状からがん、循環器疾患、骨粗しょう症など主要疾患の疫学研究結果と栄養の関係について学ぶ。						
6	感染症対策 感染症を感染源、感染経路、免疫力といった疫学的手法で理解し、主要な感染症についても学ぶ。						
7	精神保健対策 精神障がい者の現状とその対策を学び、今日の課題であるストレス、自殺、虐待暴力対策について知る。						
8	保健・医療・福祉のしくみ 公衆衛生活動は、国、都道府県において衛生行政として、また住民に身近な栄養改善活動は市町村で行われていることを知る。						
9	医療制度・福祉制度 社会保険としての医療制度と国民医療費の現状、社会福祉としての障がい者対策を知る。						
10	地域保健・母子保健 住民に身近な保険サービスの法的根拠と母子保健法に基づく保健サービスを学び、栄養士活動との関りを理解する。						
11	成人保健 生活習慣病の発症予防と重症化予防と特定健診・特定保健指導について知る。						
12	高齢者保健と介護 介護保険法と要介護認定、地域包括ケアシステムについて学ぶ。						
13	産業保健 職業性疾患と労働衛生管理と産業給食の現状と将来について学ぶ。						
14	学校保健 学校保健は、児童、生徒、学生及び教職員の健康増進とともに学校給食法に基づく栄養士が関わる給食や食育について学ぶ。						
15	国際保健 地球規模の健康問題と食料の確保世界保健機関などについて学ぶ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験	80	試験範囲、形式、評価基準等は後日示す。		授業参加状況	20	受講態度、授業外の学習、学生の望むことを参考にする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>事前に該当する範囲のテキストを読み、疑問点を明確にして講義に臨むこと。[40分] 授業に関するニュースが多く報道されるため、これを理解しておくこと。[20分]授業終了後に講義内容を復習して、次の講義に臨むこと。[60分]</p>			<p>課題等につきましては、リアクションペーパーを用いる場合は、次の冒頭にコメントします。</p>				
受講生に望むこと	栄養士に相応しい態度		教科書・テキスト	社会・環境と健康 公衆衛生学 2017年版 /柳川洋著 / 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-70678-7			
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	この授業は、栄養士の免許を取得するための必須科目であり、ほとんどの医療職が学んでいます。			

授業科目名	FH200C 社会福祉概論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	前川 直樹						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・社会福祉主事任用資格				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業では、わが国の社会福祉の理論や歴史的経緯、制度や実施体制等の現状について、広く学びます。高齢者や障害者、児童家庭福祉等の各対象分野別の内容を中心に、新たな制度改革の経過や動向も取り入れながら学習をすすめ、社会福祉全般の実践の場を整理し、栄養士の社会福祉分野における役割や実務を理解することをめざします。			①社会福祉の理論や歴史、現状を理解する。 ②社会福祉の援助と視点を理解する。 ③社会福祉分野における栄養士の役割を理解できるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業のすすめ方、社会福祉を学ぶ意義と目的：社会福祉を学ぶ意義と目的を考える。						
2	社会福祉の意味と対象：社会福祉の歴史や定義、理念と対象となる人たちについて学ぶ。						
3	社会保障制度の概要Ⅰ：社会保障制度の全体像を学ぶ。						
4	社会保障制度の概要Ⅱ：社会保険制度について学ぶ。						
5	生活保護制度のしくみ：生活保護の基本原則・原則、生活保護の実際について学ぶ。						
6	生活保護制度のしくみ：生活保護の基本原則・原則、生活保護の実際について学ぶ。						
7	高齢者の福祉Ⅱ：介護保険制度の概要について学ぶ。						
8	児童と家庭の福祉：少子化の進行と家庭環境の変化、児童家庭福祉の動向について学ぶ。						
9	障害者の福祉Ⅰ：障害者福祉の理念、障害者の状況について学ぶ。						
10	障害者の福祉Ⅱ：障害者総合支援法の概要について学ぶ。						
11	地域福祉：今日の生活問題や地域福祉の内容、担い手等について学ぶ。						
12	社会福祉基礎構造改革以降の動向と権利擁護：成年後見制度や利用者保護のしくみについて学ぶ。						
13	社会福祉援助の方法：社会福祉の援助と方法、視点について学ぶ。						
14	社会福祉の機関と専門職：社会福祉の実施機関や施設、専門職について学ぶ。						
15	社会福祉分野における栄養士：社会福祉分野で働く栄養士の立場と役割を考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	80	講義内容の理解を筆記試験で評価します。		授業参加状況	20	受講態度を評価します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
テキストを読み、各回の内容の予習、復習に努めてください。[60分]				課題ではありませんが、講義後に提出された意見や質問には、次の冒頭に口頭でコメントを行います。			
受講生に望むこと	社会福祉をより身近なものとしてとらえ、栄養士の業務や他の科目で学んだ内容と関連づけながら、関心をもって授業に臨んでください。			教科書・テキスト	「五訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉」 岩松珠美・三谷嘉明 編、株式会社みらい ISBN978-4-86015-344-1		
指定図書参考書等	なし／授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP100C 人体構造学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	井関 尚一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>栄養学の目的は、食生活を通じて人の健康を維持・増進していくことである。生活習慣病を始めとして、食生活と深く関係のある病気は多い。健康や病気のことを理解するには、まず人体のしくみを理解する必要がある。この授業では、人体を構成する細胞、組織、器官の基本的構造を学び、健康および病的状態における人体機能の理解を助けることを目的とする。</p>			<p>人体を構成する細胞の構造と機能を説明することができる。人体を構成する組織の構造と機能を説明することができる。人体を構成する器官と器官系の構造と機能を説明することができる。</p>				
教授方法	パワーポイントとプリントを使用した講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	細胞の構造： 細胞膜、細胞小器官、細胞骨格、核の構造と機能を説明できる。						
2	組織と器官の構造： 上皮、支持、筋、神経の4大組織および10大器官系の構造と機能を説明できる。						
3	骨格系の構造： 骨組織の構造と機能、骨形成のしくみ、全身の骨格系の構造と機能を説明できる。						
4	筋系の構造： 筋組織の構造と機能、筋収縮のしくみ、全身の筋系の構造と機能を説明できる。						
5	循環系 (1) 心臓と血管の構造： 心臓および全身の血管系の構造と機能を説明できる。						
6	循環系 (2) リンパ系と血液の構造： 血液、リンパ系、造血系の構造と機能を説明できる。						
7	消化器系 (1) 消化管の構造： 口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能を説明できる。						
8	消化器系 (2) 消化腺の構造： 肝臓、胆道系、膵臓 (外分泌部と内分泌部) の構造と機能を説明できる。						
9	呼吸器系の構造： 鼻腔、喉頭、気管と気管支、肺の構造と機能を説明できる。						
10	泌尿器系の構造： 腎臓、尿管、膀胱、尿道の構造と機能を説明できる。						
11	生殖系 (男性生殖器和女性生殖器) の構造： 精巣、精路、卵巣、子宮の構造と機能を説明できる。						
12	内分泌系の構造： 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎の構造と機能を説明できる。						
13	神経系 (1) 中枢神経の構造： 神経組織の構造と機能、脊髄と脳 of 構造と機能を説明できる。						
14	神経系 (2) 末梢神経の構造： 脊髄神経系、脳神経系、自律神経系の構造と機能を説明できる。						
15	感覚器系 (皮膚、眼、耳) の構造： 皮膚、眼、耳の構造と機能を説明できる。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	100	60点以上を合格とする。再試験あり。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
授業前に教科書を読んで予習すること [各回90分]。その日に習った授業範囲のプリントを家で読んで復習し、わからないところは教科書や参考書で調べること [各回90分]。試験前にはプリントの内容を繰り返し繰り返し音読すること。				試験成績不良者に対して再試験としてレポートを課し、コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	授業中は講義に目と耳で集中し、プリントは復習に用いること。私語を慎むこと。			教科書・テキスト	『管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト』岩堀修明著 文光堂 ISBN978-4-8306-0035-7		
指定図書参考書等	なし/図書館にある解剖生理学関係の参考書			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP200C 生理学 (含運動生理学)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>健康な生活を生涯にわたって続けるには、生活に適切な運動を取り入れ、栄養状態の改善を図るなどの生活習慣の確立が重要である。また、スポーツ栄養、健康維持増進、高齢者や病人の介抱や日常生活を助ける専門家は運動を含めた栄養生理を学ぶ必要があることから、本科目では運動生理や栄養生理について学習する。</p>			<p>運動、トレーニングと生理的適応に関するメカニズムを理解する。また、食事と継続的な食生活が人体に及ぼす影響についてそのメカニズムを理解する。これらの理解をとおして様々な個人に対する適切な運動や食生活を処方するための考え方を習得する。</p>				
教授方法	テキスト、パワーポイントなどを使った講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	消化器別の消化・吸収における働きと栄養素別の消化吸収機構を理解する。運動と消化・吸収に及ぼす影響について理解する。						
2	物質代謝1 吸収された栄養素がどのようにしてエネルギーを生み出しているかを物質代謝、エネルギー代謝の面から理解する。						
3	物質代謝2 基礎代謝と基礎代謝に影響を与える因子について理解する。日常の生命活動や運動時におけるエネルギー代謝を理解する。						
4	呼吸器系、循環器系の機能とそれらの調節機構について理解する。						
5	運動時の呼吸・循環機能と運動時の酸素摂取の問題について理解することにより、エネルギー代謝における問題、健康の保持増進のための運動処方の方針について学ぶ。						
6	泌尿器系と排泄 泌尿器系が生体内部環境の恒常性を保つ働きについて理解する。						
7	内分泌系1 ヒトにおける内分泌器官や組織の働きと調節機構について理解する。						
8	内分泌系2 外部環境の変化や運動などにおける内分泌系の生体調節作用について理解する。						
9	神経系 自律神経系の働きや運動器系と神経の関係を分子レベルで理解する。						
10	運動（身体的トレーニング）による身体各組織・器官の生理的効果について理解する。						
11	健康や体力の維持・増進において栄養や運動が及ぼす影響や関連性とそのしくみについて学ぶ。						
12	運動と各栄養素との関連や働きなどを理解する。						
13	筋肉の収縮機構とエネルギー代謝について分子レベルで理解する。						
14	運動処方：基礎調査、スクリーニング検査、運動負荷検査、体力検査、運動処方内容の決定までを学習する。						
15	ヒトの免疫系細胞、生理活性物質とそれらの働きについて理解する。また、免疫系と神経系、内分泌系の相互作用について学習する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	60	授業内容の理解と学んだことを活用できるかを評価する。		授業外課題	40	課題の意図を理解し、的確な論理に基づいて回答が導かれているかを評価する。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
授業後にはテキストや配布されたプリントを使って授業内容を振り返り、疑問や理解できないことは質問または、専門書で調べておく。[40分]				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
				課題レポート提出後に解答、考え方について解説する。			
受講生に望むこと	人体構造学や栄養生化学で学んだことも必要に応じて復習しながら取り組むこと			教科書・テキスト	『ネオエスカ 運動・栄養生理学 第二版』 橋本勲 編著 同文書院 2011年 ISBN 978-4-8103-1285-0		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP110C 栄養生化学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
ヒトのからだを作っている基本単位である細胞について学習する。その上で、食物やヒトのからだを作っている糖質・脂質・たんぱく質・核酸などの分子がどのような形をして、どのような性質や働きがあるかについて学ぶ。次に、食物に含まれる成分がどのようにして体に入り、利用されるかについての概要について学ぶ。さらに、ヒトのからだをつくっている分子が常に壊されたり、また作られていること（物質の代謝）を分子レベルでの変化として詳細に学習する。また、生体を維持するために必要なエネルギーを栄養素からどのようにして獲得しているかの仕組み（エネルギー代謝）について学ぶ。これらの代謝がどのように調節されているのかや代謝の異常と疾病の関連についても学習する。			①細胞の構造と機能について理解する。②食物または生体関連物質の構造と機能・性質について理解する。③糖質・脂質・たんぱく質・核酸の代謝について理解する。④代謝の相互関係と調節の仕組みを理解する。⑤代謝の異常と疾病との関連について理解する。栄養素の生体内における利用と適正な食物摂取について生化学的に理解する。また、栄養素の生理作用、様々な疾患の発症原因を考える上で必要な知識や考え方を習得する。				
教授方法	パワーポイントなどを使った講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	細胞の構造と機能：①細胞の基本構造 ②細胞内小器官 ③生体膜の構造と機能 ④細胞接着、について理解する。						
2	糖質：①糖質の基礎 ②単糖類 ③糖の構造と異性体 ④糖の誘導体 ⑤二糖類 ⑥多糖類、について理解する。						
3	脂質：①脂質の基礎 ②単純脂質 ③複合脂質 ④誘導脂質 ⑤エイコサノイド、について理解する。						
4	アミノ酸：①アミノ酸の構造と種類 ②アミノ酸の性質、について理解する。						
5	ペプチドとたんぱく質：①ペプチドの基礎 ②生体活性ペプチド ③たんぱく質の基礎 ④たんぱく質の高次構造 ⑤たんぱく質の性質、について理解する。						
6	核酸とヌクレオチド：①ヌクレオチドの基礎 ②核酸の基礎 ③核酸と遺伝子、について理解する。						
7	酵素：①酵素の基礎 ②酵素の分類と名称 ③アインザイム ④アインザイムと逸脱酵素 ⑤酵素活性の調節、ついて理解する。						
8	補酵素とビタミン：①ビタミンの基礎 ②水溶性ビタミンと補酵素 ③脂溶性ビタミン、について理解する。						
9	生体エネルギー学：①高エネルギーリン酸化合物 ②生体酸化 ③呼吸鎖と酸化的リン酸化、について理解する。						
10	糖質の代謝（1）：①糖代謝の概要 ②糖質の消化と吸収 ③解糖系、について理解する。						
11	糖質の代謝（2）：①クエン酸回路 ②グリコーゲンの合成・分解 ③ペントースリン酸回路 ④糖新生、について理解する。						
12	脂質の代謝（1）：①脂肪酸の合成 ②脂肪酸の分解 ③ケトン体、について理解する。						
13	脂質の代謝（2）：①コレステロールの代謝 ②脂質の体内輸送、について理解する。						
14	たんぱく質の分解とアミノ酸代謝：①たんぱく質の分解とアミノ酸プール ②アミノ酸の炭素部分の代謝 ③アミノ酸の窒素部分の代謝 ④アミノ酸から合成される生体物質、について理解する。						
15	遺伝情報：①DNAの複製 ②転写と翻訳の仕組み、遺伝情報の発現などについて理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	60	学期末に行う試験の成績		授業外学習課題	40	レポート提出 授業の理解や応用力などを評価する。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
講義の前、そして講義の後などに教科書を読み、分からないこと・理解できないことを見つけ、自らの課題をみつめて授業にのぞむ。[40分]学習課題は、テキストや他の科目でも関連があると思われるものも参考にして取り組む。[50分]				課題提出締め切りの次回講義に解説を行う。			
受講生に望むこと	些細な疑問でも放置せずに調べるか質問し解決しておく。質問は他の学生の理解を深めることにつながるので積極的な質問をのぞむ。			教科書・テキスト	『系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[2]生化学 第13版』三輪一智 医学書院 2016年 ISBN：978-4-260-01836-4		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP210C 病気のしくみ			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	井関 尚一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>病気の原因と経過、病気による形態的・機能的変化について正確な知識をもつことで、病気の予防や治療について理解する。膨大な医学知識、専門用語を要領よく的確に理解することに焦点を置き、特に食事や生活習慣と病気の関連に注目し、栄養指導を行う上での基本的知識を習得する。生活習慣病や代謝・栄養疾患の背景や病態の理解は病気の治療に必要であるのみならず、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防に広がっていくことを理解する。</p>				<p>①病気の症状を理解する。 ②病気の原因を理解する。 ③病気の治療法について理解し、特に食事療法について説明できる。 ④病気と食習慣の関係について理解できる。 ⑤病気の予防としての食習慣について関心を持つことができる。</p>			
教授方法	パワーポイントとプリントを使用した講義。最終日にはグループディスカッションを行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	診断のための検査：病態生理を評価するための検査法を学ぶ。						
2	栄養・代謝系疾患Ⅰ（糖尿病、脂質異常症）：糖尿病・脂質異常症の病態生理について学ぶ。						
3	栄養・代謝系疾患Ⅱ（肥満・代謝系疾患）：肥満・メタボリックシンドロームの病態生理について学ぶ。						
4	内分泌系疾患：内分泌疾患の病態生理について学ぶ。						
5	消化管疾患：口腔から肛門までの消化管の疾患の病態生理について学ぶ。						
6	肝・胆・膵疾患：消化器に付属する腺、特に肝臓、胆嚢、膵臓の疾患の病態生理について学ぶ。						
7	循環器系疾患：心臓病、高血圧の病態生理について学ぶ。						
8	腎・尿路系疾患：腎臓および尿路の疾患の病態生理について学ぶ。						
9	神経・精神系疾患：神経・精神系疾患の病態生理について学ぶ。						
10	呼吸器系疾患：呼吸器系疾患の病態生理について学ぶ。						
11	血液・造血器系疾患：血液疾患の病態生理について学ぶ。						
12	産婦人科疾患：女性生殖系系の疾患の病態生理、および、妊娠から出産までの生理を学ぶ。						
13	運動器（骨格系）疾患、皮膚系疾患：運動器（骨格系）疾患、皮膚系疾患の病態生理について学ぶ。						
14	免疫アレルギー系疾患：免疫アレルギー系疾患の病態生理について学ぶ。						
15	まとめ：課題についてグループディスカッションを行い、各自がレポートを提出する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	40	課題に対して主体性をもって取り組み、自分の考えでまとめる。			定期試験	60	レポートと試験を合わせて60点以上を合格とする。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
<p>予習においてはテキストをしっかりと読んでくる[各回90分]。講義の後は、テキストに加え、講義プリントをよく読み、理解する[各回90分]。</p>				<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>レポートはコメントをつけて返却する。レポートと試験を合わせた成績不良者には再試験として別のレポートを課す。</p>			
受講生に望むこと	<p>病気のしくみは学習範囲が広く、授業ではカバーできない部分が多い。よって、テキストや配付資料に基づいた講義の予習復習はもとより、日頃より、健康問題に関心を持って、新聞等のマスメディアの記事にも積極的に目を通すことを望みます。</p>			教科書・テキスト	<p>「臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版（栄養科学イラストレイテッド）」田中 明（編集）、宮坂 京子（編集）、藤岡 由夫（編集） 羊土社；改訂第2版（2015/12/3）、ISBN-10:4758108811、ISBN-13:978-4758108812</p>		
指定図書参考書等	<p>「疾病の成因・病態・診断・治療」第2版 竹中優編 医歯薬出版</p>			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP220C 生理学実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>食物栄養科学を学ぶものにとって、食物という供給物質について学ぶことはもとより、供給される側の人体の基本的な構造と機能を理解することも大切である。ヒトが食物を摂取することは、消化、吸収、排泄の一連の過程と関連しており、栄養となることは、すべての器官、組織、細胞の構造や機能の健全な成長及び維持に役立っている。すでに学んだこれらの構造と機能について、実習を通して理解を深めることをねらいとしている。実習では、骨標本、人体模型、組織標本などを観察しながら構造や機能的特徴などを学修する。</p>				<p>(1) 人体の構造を巨視的（系統的）及び微視的（顕微鏡的）に説明できる。  (2) 人体の臓器や組織、細胞における特徴的な構造とその機能を関連づけて理解する。人体の構造と機能について体系的に理解する。</p>			
教授方法	講義と実習、視聴覚教材を用いる場合もあります。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、人体の構造と機能に関する概論。						
2	骨格標本の観察（上肢骨、下肢骨）：人体の骨格を構成する骨の形状や大きさ、特徴を理解する。						
3	骨格標本の観察（頭蓋骨、体幹骨）：骨の構造と特徴、機能を理解する。						
4	人体模型の観察（胸部部の観察）：胸部内臓の構造、配置および大きさを観察して理解し、それらの特徴と機能を関連づけて理解する。						
5	人体模型の観察（腹部の観察）：腹部内臓の構造、配置および大きさを観察して理解し、それらの特徴と機能を関連付けて理解する。						
6	組織学研究法：顕微鏡の原理と使い方を理解する。組織標本の作製・観察法を理解する。スケッチの作法を理解する。						
7	組織標本の観察（食道、動脈）：食道組織の顕微鏡観察と消化管の基本構造を理解する。動脈の構造と特徴を理解する。						
8	組織標本の観察（心筋、骨格筋）：心筋、骨格筋の組織標本の観察を行い、両者の特徴や違いからその働きを理解する。						
9	組織標本の観察（胃、小腸）：組織や細胞の構造や特徴と機能を関連付けて理解する。						
10	組織標本の観察（結腸、舌乳頭）：組織や細胞の構造・特徴と機能を関連付けて理解する。						
11	消化器系の臓器とその働きと相互作用、臓器の機能がどのように調節されているか内分泌系や自律神経などの働きとの関連などを視聴覚教材を用いて理解し、説明できるようになる。						
12	内分泌系の器官、組織、細胞の構造や働きについて理解する。また、内分泌の調節機構、自律神経との関連性などについて理解し、説明できるようになる。						
13							
14							
15							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	実習内容の理解度を評価する。			実習レポート	40	実習課題に対する理解度と到達度
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
実習内容と関連性のある「人体構造学」や「生理学」の項目についてあらかじめ読んでおく。[30分]				実習課題について作成中に解説を行う。課題については解説後再提出を求める場合もある。			
受講生に望むこと	実習課題に取り組む過程で生じた疑問などは実習中に調べる、質問などし、解決しておく。			教科書・テキスト	『人体の構造と機能 解剖生理学実習』 森田規之・河田光博・松田賢一 編 講談社 2015年 ISBN 978-4-06-155377-4		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP230C 栄養生化学実験		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>タンパク質・糖質・脂質・ビタミン・無機質などの栄養素を実験試料としてそれぞれの定性・半定量実験について学ぶ。栄養素を分解する消化酵素を使った実験も行う。それらの実験を通して各栄養素の構造や性質、体内での働きへの理解を一層深める。実験に慣れるために身近なもの、現象を対象にした平易なものからスタートし、未知試料を同定させるなどのクイズ形式のまとめ実験などを組み込み、学生が興味・関心を失わないように工夫する。</p>			<p>①実験器具の名称を覚える②実験機器の使用法を覚える③各栄養素の化学変化に興味を持つ④実習書の書かれてあることを具体的な操作へと具現化できる様にする⑤段取り、手順をたてられる様にする⑥安全に実験を行うことを身につける。</p>				
教授方法	実験のねらい、操作、計算法、諸注意の説明の後、実験を行う。指定期限内にレポートを提出するものとする。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	実験に際しての注意 実験を行う際の最低限の基礎知識を身につけることを目標とする。						
2	pH による野菜色素の呈色変化 自然界にある様々な化学物質が色素として使えることを知ることを目標とする。						
3	タンパク質の性質 - 等電点, 加熱変性 - タンパク質の基本性質を知ることを目標とする。						
4	タンパク質の性質 -凝固- 沈殿- タンパク質の基本性質を知ることを目標とする。						
5	タンパク質, アミノ酸の呈色反応 タンパク質、アミノ酸の基本性質を知ることを目標とする。						
6	糖の定性 糖の基本性質を知ることを目標とする。						
7	まとめⅠ -タンパク質, 糖の未知試料の同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認することを目標とする。						
8	脂質、脂溶性ビタミンの定性 脂質、脂溶性ビタミンの基本性質を知ることを目標とする。						
9	まとめⅡ -脂質、脂溶性ビタミンの同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認することを目標とする。						
10	水溶性ビタミン、無機質の定性 水溶性ビタミン、無機質の基本性質を知ることを目標とする。						
11	まとめⅢ -水溶性ビタミン、無機質の同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認することを目標とする。						
12	酵素・アミラーゼによるデンプン分解反応 代表的な消化酵素の働きを知ることを目標とする。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	70	実習書、プリント、レポート、それらのコピーを持ち込み可とし、実習したことが身についているか確認する。		取り組み姿勢・態度	15	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。	
レポート提出状況	15	提出枚数をと内容を点数化し加点する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
1年次に履修した栄養生化学、栄養学の知識を再確認することを実習と平行して行うこと。[30分]実習書をよく読んで、文章で書かれたことを、操作に変換する訓練をする。[30分]また期末試験のためにレポート整理、データ整理などを怠りなく行う習慣をつける。[30分]				毎回のレポートにおいての質問をしっかりと調べ記入すること。同一内容を試験問題とする場合がある。レポートにある質問にはレポート締め切り期限が過ぎた次の講義の際、正解例を口頭で学生へ伝える。			
受講生に望むこと	はじめて化学実験を行う人は、化学実験の楽しさを知って欲しい。栄養素の化学的性質を知ること、栄養学の理解を深めてもらいたい。			教科書・テキスト	『栄養生化学実験』 坂井良輔（第一回目実験開始時に配布します）		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	白衣と安全メガネ（ゴーグル）着用のこと		

授業科目名	FP120C 食品学 I		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>高等学校で学んだ化学・生物・理科の基礎知識の上にたち、それらの様々な事柄が日々の生命活動、食生活をはじめとする社会生活の中でどのように関わっているかを確かめてみる。食品の栄養素や化学成分が人体にどのように働き、関わっているかを知る。それを通して食品学を身近な学問、役に立つ知識と認識してほしい。また担当教員が係わり、成果として特許共同出願に至った産学官共同研究を紹介し、実験や研究の面白さなどを伝えたい。</p>			<p>食品・栄養・健康を食品学の知識を通して理解を深める。また食品の摂り方は生活習慣病などの疾病にも深く関係しており、生涯にわたって自分の健康についても、注意し続ける姿勢を学びたい。また、数年後に取り組みと思われる就職活動のために、食品産業・業界に關係する企業等の活動や業務内容の情報も提供するので、活用してほしい。</p>			
教授方法	授業は教科書、板書、プリント、パワーポイントなどを使った講義形式によって行う。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食品とは あらためて、フードマイレージ、食糧受給率、地産地消、等の観点から食品について考えることを目標とする。					
2	食品の分類・食品成分表 同じ食品が様々な観点、視点から分類されていることを知ることを目標とする、また食品成分表記載の成分測定法を詳しく説明する					
3	水 生命活動の基本である水が食品とどのような関わりをもつか学ぶことを目標とする。					
4	タンパク質 様々のタンパク質の構造と分類と働きについて理解することを目標とする。					
5	炭水化物 様々の炭水化物の構造と分類と働きについて理解することを目標とする。					
6	脂質 様々の脂質の構造と分類と働きについて理解することを目標とする。					
7	ビタミン 様々のビタミンの構造と分類と働きについて理解することを目標とする。					
8	無機質 様々の無機質の構造と分類と働きについて理解することを目標とする。					
9	色素成分 様々の色素成分の構造と分類と働きについて理解することを目標とする。					
10	呈味成分 様々の呈味成分の構造と分類と働きについて理解することを目標とする。					
11	香気成分 様々の香気成分の構造と分類と働きについて理解することを目標とする。					
12	食品の物性と官能評価 食品の物性の測り方、装置、それから何がわかるのか、また観桜検査とはどんな検査なのかを学ぶ。					
13	食品成分間反応 食品中の各成分同士が酵素、加工、等により化学反応を起こし、新たな成分が合成される不思議さを学ぶことを目標とする。					
14	食品の機能性 栄養成分 嗜好成分以外の第三の成分の構造と働きについて学ぶことを目標とする。食品物性と官能検査 物性の測定法に、官能検査の原理について理解することを目標とする。					
15	バイオテクノロジー - と食の安全・安心 石川県で生まれたクローン牛を中心に、バイオテクノロジー技術と問題点を探ることを目標とする。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
期末テスト	70	教科書、プリント、それらのコピーを持ち込み可とし、学習したことが身につけているか確認する。		取り組み姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
この講義の開始前に高校で履修した化学、生物、理科に関する部分を再度通読しておく。また、分からない用語はインターネット、辞典等で調べ、疑問点を後に残さないようにする。[30分]			特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。			
受講生に望むこと	口頭で述べる、板書する、教科書に書かれてある、それぞれの内容を上手くまとめ、関連させ、体系的に理解する力を身につける。さらにそのような学習が 将来、専門分野を学ぶにあたっての基礎力となることを目標とする。また、学んだことを日常の食生活、自分の健康維持に活かして欲しい。		教科書・テキスト	『食べ物と健康、食品と衛生 NEXT食品学総論 第3版』講談社サイエンティフィック 社 英明/海老原 清/渡邊浩幸/竹内弘幸・編 ISBN978-4-06-155386-6		
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	特になし		

授業科目名	FP240C 食品学Ⅱ		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要			授業の到達目標				
各食品名と実物を一致させることから始める。各食品の分類、成分、由来、歴史、それらを使用した代表的料理、加工品等を紹介しながら理解を深める。各項目において金沢、石川県、北陸の御当地食材、特産物、等を詳しく説明を行いたい。			多くの食物、食品を知り、豊かな健康な食生活をおくる基礎知識を身につけてもらいたい。また、地産地消、フードマイレージ、食糧自給率などにも目を向け、様々な角度から食をを考える力を身に付ける。				
教授方法	授業は教科書、板書、プリント、パワーポイントなどを使った講義形式によって行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	講義のオリエンテーション，食品とは 講義の進め方を理解する。食品についてももう一度再認識することを目標とする。						
2	食品の分類，食品の需要 食品学Ⅰで学んだ復習と食品輸入国日本の食品需要について学ぶことを目標とする。						
3	穀類 様々な穀類の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
4	いも類，甘味類 様々ないも類、甘味類の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
5	豆類，種実類 様々な豆類、種実類の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
6	野菜類 様々な野菜類の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
7	果実類 様々な果実類の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
8	きのこ類，藻類 様々なきのこ類、藻類の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
9	魚介類 様々ないも類、甘味類の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
10	肉類・卵類 様々な肉類・卵類の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
11	乳類 様々な乳類の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
12	食用油脂 様々な食用油脂の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
13	菓子類 様々な菓子類の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
14	嗜好飲料 様々な嗜好飲料の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
15	調味料および香辛料類，調理加工食品類 様々な調味料および香辛料類、調理加工食品の分類と成分と特徴について理解することを目標とする。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	70	教科書、プリント、それらのコピーを持ち込み可とし、学習したことが身につけているか確認する。		取り組み姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
日常の食事と関連づけて、口に入る食材すべてに興味を持つ。その都度、教科書を開け、知識を確認することが望ましい。[30分]			特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。				
受講生に望むこと	日常の調理、料理、食材、食品を再度見直す機会としてもらいたい。		教科書・テキスト	『食べ物と健康、食品と衛生 食品学各論 第3版』 小西 洋太郎 辻 英明 渡邊 浩幸 細谷 圭助 講談社サイエンティフィク ISBN978-4-06-155385-3859 20138596/4/6 発行			
指定図書参考書等	特になし		その他・特記事項	特になし			

授業科目名	FP250C 食品衛生学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目では、食品を衛生的な側面から捉え、健康を保つためにどんな食品を選択し、食品の保存や調理加工において食品を衛生的な状態に保つためにはどうすればよいかを実践するための知識や考え方を学ぶ。授業では、食品の衛生的側面からヒトの健康維持・増進に必要な科学的知見をテキストおよびスライドを使って説明する。</p>			<p>日本における食品衛生行政の施策について理解する。食品の変質や成分間反応の機構とそれらの健康への影響について理解する。油脂の変敗や油脂の変質試験とその特徴について理解する。細菌性、ウイルス性食中毒についてその原因となる微生物の特徴や予防方法について説明できる。食中毒の原因となる自然毒、化学物質の性質と人体への影について理解する。代表的な食品添加物の用途、安全性に対する考え方、化学的性質、健康への影響について理解する。残留農薬、遺伝子組み換え食品、放射線照射食品の現状と法的な規制について理解する。代表的な保健機能食品について特徴や表示法などを理解する。</p>				
教授方法	テキスト、パワーポイントなどを使った講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	食品衛生行政における施策の基本的な考え方、食品関連法規がどのように確立されてきたのか、また今後の食品行政の課題について理解する。						
2	食品の変質と防止（食品の腐敗や変質（酸敗）についてそれらの機構、人体への影響、予防法等を理解する。油脂が酸化する機構を説明し、油脂の変質試験とその特徴を理解する。						
3	食品の変質防止法、鮮度・腐敗・酸敗の判定方法について理解する。						
4	食中毒の分類と発生状況（日本において発生する食中毒の分類、病因物質、特徴）等を理解する。						
5	細菌性食中毒の分類、原因菌、人体への影響、予防、特徴や関連法規について理解する。						
6	細菌性食中毒とウイルス性食中毒の原因微生物、人体への影響、予防、特徴、関連法規について理解する。						
7	自然毒食中毒の分類、中毒症状、予防方法、発生状況等の特徴について理解する。						
8	化学性食中毒、食物アレルギーなどの原因物質と発生メカニズム、人体への影響、予防、関連法規等について理解する。						
9	食品による感染症・寄生虫症などに関する原因、関連法規、発生状況等について理解する。						
10	食品中の汚染物質（カビ毒、化学物質）の人体への影響と予防法関連法規について理解する。						
11	食品中の有害元素、放射性物質の物理化学的性質と人体への影響、関連法規について理解する。						
12	食品の異物混入の発生要因、防止方法等について理解する。						
13	食品添加物の有用性と安全性（分類、安全性評価、規格基準）について理解する。						
14	食品添加物の種類と用途、化学的性質、添加物としての特徴や性質、法的な規制等について理解する。						
15	食品衛生管理における考え方、器具・容器包装と関連法規、食品汚染と防止について理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	70	授業内容の理解度と食品衛生を実践するために必要な考え方を評価する。		授業外課題	30	課題の意図を理解し、専門知識に基づいた考えによって回答が導かれているかを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>受講後はテキストを中心として振り返りを行い、疑問や理解できないことは、調べるか質問する。[40分] 日常生活においても食品衛生に関する情報に関心をもつこと。</p>			<p>課題提出後に解答・解説を行う。</p>				
受講生に望むこと	日常生活においても食品衛生に関する情報に関心を持ち、食品衛生を実践するとより実践力をつけることにつながる。		教科書・テキスト	『食べ物と健康 食品の安全』 有菌幸司 編 南江堂 2013年 ISBN 978-4-524-26847-4			
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	FP260C 食品学実験		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要			授業の到達目標				
食品学Ⅱで学んだ各食品に含まれる栄養素を定量する。そして食品成分表に載っている値と比較して、食品と栄養素への認識を新たにする。食品学Ⅰと食品学Ⅱで学んだことを実際に確認してみる。			栄養生化学実験で学んだことを踏まえ、①使用器具の名前と使い方を覚える②試薬の性質と扱い方を注意する③どんな栄養素がどのような食品に含有されるのかを知る。				
教授方法	実験のねらい、操作、計算法、諸注意の説明の後、実験を行う。指定期日以内にレポートを提出するものとする。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	化学実験の基礎知識説明，中和滴定による酸力価とアルカリ力価検定 今後の実験に使う基本となる酸、アルカリ試薬を調整し、力価計算が出来るようになることを目標とする						
2	中和滴定による酸力価検定，食酢中の酢酸の定量① 中和滴定により、さらに実験技法を高めることを目標とする。						
3	酢酸の定量②，塩分の定量 身近な食品の化学成分も定量出来ることを知り、実験技法のさらなる上積みを目指とする。						
4	水酸化ナトリウム再滴定，総窒素の定量・水分の定量 濃度が高い酸、アルカリ試薬の取り扱いの技法を習得する、蒸留装置を組めることになることを目標とする。						
5	バター，マーガリンのケン化価，ヨウ素価による油脂の化学特数の測定 環流装置を組めるようになることを目標とする。						
6	ソモギー変法による清涼飲料水，機能性飲料水中の還元糖の定量 短時間に多くの操作を行える力をつけることを目標とする。						
7	牛乳，乳飲料，機能性飲料中のカルシウムの定量 キレート滴定の原理を理解し、微妙な色の変化を識別出来る様になることを目標にする。						
8	ホウレン草中の鉄の定量①，シュウ酸の定量① 灰化操作、化学成分の抽出を習得することを目標とする。						
9	ホウレン草中の鉄の定量② 光度計の原理と使い方を習得することを目標とする。						
10	食品の酵素的褐変、非酵素的褐変を再現し、その仕組みと防止する条件を探る。						
11	柑橘類のビタミン C の定量 柑橘類にビタミン C が本当に多いのか？数種類をものを対象に測定し、比較することを目標とする。						
12	ワインのアルコールの定量 ワインを対象として選び、記載濃度と測定結果を比較し、考察することを目標とする。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	70	実習書、プリント、レポート、それらのコピーを持ち込み可とし、実習したことが身についているか確認する。		取り組み姿勢・態度	15	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。	
レポート提出状況	15	提出枚数およびその内容を点数化し加点する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
この実験で扱う食品の多くは、日常の食生活や実習で使用するものである。日々、それらを食品学実験から得た知識の上にならって、扱い、活用する習慣をつける。[30分]				毎回のレポートにおいての質問をしっかりと調べ記入すること。同一内容を試験問題とする場合がある。レポートにある質問にはレポート締め切り期限が過ぎた次の講義の際、正解例を口頭で学生へ伝える。			
受講生に望むこと	目に見えない化学成分で栄養素の含有を実感してもらいたい。成分表が栄養素の化学成分測定・定量から成り立っていることを再認識してもらいたい。			教科書・テキスト	『食品学実験』 坂井良輔（第一回目実験開始時に配布します）		
指定図書参考書等	特になし			その他・特記事項	白衣と安全メガネ（ゴーグル）着用のこと		

授業科目名	FP270C 食品衛生学実験		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>食品の安全性を担保することは食品を扱う者にとって人の命に関わる最も重視すべき事柄であるといえる。食の安全を保証する手段として、試験・検査を行い、適切な判断を下して正確な情報を提供することが栄養士の業務において要求されるといえる。実習では市販の食品を試料として実験を展開する。その内容は微生物やその代謝産物に関する項目、食品添加物、水質基準、食品の物理化学的性質と保存性との関連などをテーマとして扱い、食品衛生に関する基礎的な知識の獲得さらに、実験的手法を通して食品衛生の理解や実践能力を養う。</p>			<p>(1)食品検査に関する公定法やこれを補完する「食品衛生検査指針」や「衛生試験法・注解」が利用されている。これらの基本的な原理や方法の概要の理解さらに、食品衛生に関する「試験・検査」および「判定」の目的と意義を理解する。  (2)実験では大きく分けて微生物学的実験と理化学的実験を行うが、両実験をとおしてサンプルの扱い方や器具、試薬、操作方法の基礎を習得する。(3)実験後のレポート作成を通して、データ整理や統計処理など実験・研究において必要な報告書作成の基本を習得する。  (4)本実験を通じて食品衛生学の基本的な知識の確認を行う。</p>				
教授方法	講義と実験						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	理化学実験における注意事項、実験器具と操作方法、有効数字や統計処理など実験データなどの数値の扱い方を学習する。						
2	食品の保存性や保存条件を考慮する評価項目として食品の水分活性がある。水分活性の測定における実験を通して、その測定原理やコンウェイ拡散ユニットの取扱、実験結果の評価方法などを学ぶ。						
3	水道法に基づく水質基準項目について市販のミネラルウォーターや市水を用いて測定を行う。さらに試飲を行い、サンプルの理化学的特徴と官能的评价との関連を調べる。						
4	食品の腐敗や変質などの品質劣化の程度の指標となる一般生菌数について、生食野菜で測定する。一般生菌数の測定に必要な消毒や滅菌、無菌操作、培地の調整などの微生物試験の基礎を実践する。さらに、実験結果からデータの作成と評価方法についても実践する。						
5	光学顕微鏡（明視野顕微鏡）を用いて、食品サンプル中の細菌を観察する。観察では細菌の染色などの標本の作成方法や光学顕微鏡を使った細菌の観察方法などを習得する。また、実験を通して細菌の形態的知識の理解度を深める。						
6	魚肉の自己消化によって生じたペプチドやアミノ酸を微生物が分解することによって生じる揮発性塩基窒素量をコンウェイ微量拡散法を用いて測定し、魚介類の鮮度判定の手法や判定における知識などを習得する。						
7	魚肉の自己消化によって生じたペプチドやアミノ酸を微生物が分解することによって生じる揮発性塩基窒素量をコンウェイ微量拡散法を用いて測定し、魚介類の鮮度判定の手法や判定における知識などを習得する。						
8	分離・精製された酸性タール色素についてペーパークロマトグラフィーや可視光線における吸収スペクトルの極大波長による定性試験を行う。それら色素の定性試験による判定の論理的考え方や色素分離に用いる羊毛染色法の原理について学習する。(1)						
9	分離・精製された酸性タール色素についてペーパークロマトグラフィーや可視光線における吸収スペクトルの極大波長による定性試験を行う。それら色素の定性試験による判定の論理的考え方や色素分離に用いる羊毛染色法の原理について学習する。(2)						
10	漂白剤として用いられている亜硫酸塩を蒸留によって留出・精製する。実験では蒸留装置の組み方や蒸留の原理を習得する。また、二酸化硫黄の簡易定性試験方法として亜硫酸イオンの定量試験紙を用いた方法を習得する。						
11	市販の加工食品から、ソルビン酸又は、ソルビン酸 K を水蒸気蒸留によって留出・精製する。水蒸気蒸留の原理や水蒸気蒸留装置の組み方や実験操作を習得する。						
12	水蒸気蒸留によって精製したソルビン酸をチオバルビツール酸と反応させ比色定量する。ソルビン酸の理化学的性質や比色計を使った測定方法などを習得する。また、ソルビン酸と他の食品添加物や食品成分との反応生成物についても学習する。						
13							
14							
15							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実験レポート	60	実験の目的を理解し、データを適切に統計処理する。実験結果や既存の知見などから実験を全体をとおして推察できることが述べられているかを評価する。		期末試験	40	実験で用いた原理、授業で触れた食品衛生に関わる専門知識の理解を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
レポート作成時に食品衛生学で学んだことや食品衛生学のテキストなども参考にすることでより食品衛生に関する理解が深まる。[40分]				実験の説明時にレポート作成におけるポイントなども説明する。			
受講生に望むこと	実験は失敗しても構いませんので積極的に参加してください。実験操作や手順などを振り返り、なぜ失敗したかを検証することで失敗から多くのことを学ぶことができます。			教科書・テキスト	『食品衛生学実験』 杉山章 岸本満 和泉秀彦 編 みらい 2016年 ISBN 978-4-86015-396-0		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD100C 基礎栄養学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	新澤 祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト・社会福祉主事任用資格				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>栄養とは生物が外界から必要物質を取り入れて生命活動を営むことである。人間が健康な生活を営むためには、適切な食物摂取が必要であり、取り入れたものを消費するための生活活動など広い視点からの取組が求められる。この授業では、これらを考える上での基礎となる栄養素について、その種類と機能、消化・吸収、代謝などを取り上げ、人体と栄養素の関わりについて理解を深める。</p>			<p>①栄養とは何か、その意義を理解する。          ②栄養と遺伝素因との関連を理解する。          ③健康の保持・増進、疾病予防・治療における各栄養素の役割を理解する。          ④人間の摂食行動から消化・吸収、代謝と栄養素の流れを理解する。          ⑤エネルギー代謝、各栄養素の代謝とその意義を理解する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	栄養の概念：栄養、栄養素、健康と食生活、各年齢ステージの栄養、栄養学の歴史などを理解する。						
2	食物の摂取と栄養素の補給：人間の食物摂取行動とその調節の仕組みを理解する。						
3	消化吸収と体内動態：栄養素の消化吸収など摂取後の体内動態の仕組みを理解する。						
4	糖質の栄養Ⅰ：糖質の種類と代謝の仕組みを理解する。						
5	糖質の栄養Ⅱ：糖質代謝と他の栄養素との関連を理解する。						
6	脂質の栄養Ⅰ：脂質の構造と代謝の仕組みを理解する。。						
7	脂質の栄養Ⅱ：脂質の体内動態と他の栄養素との関連を理解する。						
8	たんぱく質の栄養Ⅰ：たんぱく質の構造とたんぱく質の代謝を理解する。						
9	たんぱく質の栄養Ⅱ：たんぱく質の栄養価や他の栄養素との関連を理解する。						
10	ビタミンの栄養：脂溶性ビタミンと健康との関連を理解する。						
11	ビタミンの栄養：水溶性ビタミンと健康との関連を理解する。						
12	無機質の栄養：無機質の意義、過不足により健康障害、代謝などを理解する。						
13	水・電解質等の代謝と食物繊維：水の役割、水・電解質・アルコールの代謝と食物繊維を理解する。						
14	エネルギー代謝：エネルギーの概念、エネルギー代謝とそれに及ぼす要因などを理解する。						
15	分子栄養学と栄養摂取の意義を理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
筆記試験	70	問題の正答率		課題レポート	20	課題の主旨を理解し、適切にまとめられているか	
授業態度	10	授業への参加意欲					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、基礎栄養学の学びを把握する。          ②毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。          ③授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。          [毎回30分]</p>				レポートは返却する。			
受講生に望むこと	<p>①他の学科目とも関連させながら勉強して欲しい          ②健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと</p>			教科書・テキスト	『イラスト 基礎栄養学』田村明他 東京教学社 ISBN：978-4-8082-6036-1 『現代人のための健康づくり』平下政美編 北国出版社 ISBN：978-4-8330-1972-9		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD200C 応用栄養学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	俵 万里子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>応用栄養学では、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを目的とする。まず、栄養管理の基本的な手技の習得を目指す。次に、日本人の食事摂取基準（2015年版）の考え方を理解し、ライフステージの変化に伴う生理的特徴や栄養状態に対応した栄養管理の考え方や方法を学習する。さらに、運動時及び特殊環境における栄養管理の習得を目指すこととする。</p>			<p>①身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（栄養ケアマネジメント）の考え方を理解する。  ②日本人の食事摂取基準（2015年版）の考え方を理解する。  ③各ライフステージにおける生理的な変化や栄養状態の特徴、それらに対する栄養管理のあり方を理解する。  ④運動時や特殊環境下での代謝変化やその際の栄養摂取方法を理解する。</p>				
教授方法	講義。教科書、パワーポイント、プリントを用いて行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	栄養ケアマネジメント：①栄養ケアマネジメントの定義やプロセス②栄養スクリーニング③栄養ケア計画の実施・モニタリング・評価、について理解する。						
2	日本人の食事摂取基準（2015年版）：食事摂取基準の①目的と策定の基本方針、活用のための理論と方法②各指標の定義、について理解する。						
3	日本人の食事摂取基準（2015年版）：エネルギーおよび各栄養素の算定根拠について理解する。						
4	妊娠期：妊娠期の生理的特徴を理解する。						
5	妊娠期：妊娠期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。						
6	授乳期：授乳期の生理的特徴を理解する。						
7	授乳期：授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。						
8	新生児・乳児期：新生児・乳児期の生理的特徴を知り、その未熟性を理解する。						
9	新生児・乳児期：新生児・乳児期の栄養ケアマネジメントと栄養補給方法を理解する。						
10	成長期：成長期の生理的特徴を理解する。						
11	成長期：成長期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。						
12	成人期：①成人期の生理的特徴②成人期に特徴的な食生活と生活習慣病との関連③生活習慣病予防のための栄養ケアマネジメント、について理解する。						
13	高齢期：①高齢期の生理的特徴②高齢期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメント、について理解する。						
14	運動・スポーツと栄養：①運動時の生理的特徴とエネルギー代謝②運動と栄養ケアマネジメント、について理解する。						
15	環境と栄養：ストレスおよび特殊環境条件下における生理的特徴と栄養ケアマネジメントについて理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験	80	講義内容についてどれだけ理解しているか		授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
事前学習：教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] 事後学習：教科書・配布プリントを参照し、授業で扱った内容の理解を深める。[30分]			①毎回、前回の授業内容について質問し、理解できているか確認を行う。				
受講生に望むこと	応用栄養学は栄養士の実践活動の根幹をなすものです。将来、様々な状況に対応できる応用力のある栄養士となれるよう、栄養管理の基礎を意欲的に学んでください。			教科書・テキスト	『カレント 応用栄養学』 辻悦子編著、建帛社、2014年 ISBN 978-4-7679-0511-2		
指定図書参考書等	なし/日本人の食事摂取基準2015年版（第一出版）			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD210C 臨床栄養学 I		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	三井 悦子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は学科必修科目であり、資格取得に必要な学びを行なうための入門科目である。実際の病院での献立例、栄養指導、栄養アセスメントなどの実例を交えながら、テキストを中心に病態と栄養管理の基礎を概説する。また、管理栄養士の国家資格を取得する際の臨床栄養の基礎的な内容である。			①傷病者の病態と栄養との関係を理解する。 ②適切な栄養管理を行うための、栄養ケアプランの作成、実施、評価の流れを理解する。 ③食品と医薬品の相互作用を知り実践に役立てることができる。 ④食物から人体が構成されていることの認識を深めることができ、家族や自己の健康のための栄養管理が実践できるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	病院での管理栄養士、栄養士の業務、また最近の新しい話題について紹介する。：臨床栄養とはどんなものなのかイメージできるようにする。 食事摂取基準について：栄養管理の基本となる食事摂取基準の意味、使用方法を習得する。						
2	人体の構成、代謝、消化と吸収について：主に人体の構成、ホメオスタシスについて理解する。						
3	食品の栄養素と機能について：食品の機能を理解し特定保健用食品と特別用途食品、食品と薬との相互作用を理解する。						
4	栄養補給法について：経口栄養法 経管、経静脈栄養法について理解する。						
5	医療施設、介護福祉施設の栄養ケアについて：栄養管理システム、栄養ケア、マネジメント、クリニカルパス、リスクマネジメントの意味を理解する。						
6	栄養アセスメントと栄養量の算出について：栄養スクリーニング、栄養パラメータ、検査値について理解する。						
7	チーム医療について：病院のチーム医療、緩和、褥瘡、摂食、嚥下リハビリテーション、地域連携について、またクリティカルケア、ICUの意味を理解する。						
8	栄養記録について：POS、POMR、SOAPの意味を理解する。						
9	栄養障害：低栄養（褥瘡を有する）、及びブレイデンスケールについて：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
10	代謝疾患（肥満症、メタボリックシンドローム）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
11	代謝疾患（糖尿病、妊娠糖尿病）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
12	代謝疾患（脂質異常症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
13	代謝疾患（高尿酸血症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
14	消化器疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
15	消化器疾患（胃・十二指腸潰瘍、胆石症・胆嚢炎）：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	50	各回の講義内容のポイントを理解しているか。試験範囲、形式、評価基準は後日掲示する。		毎回のレポート提出	30	指定の用紙を使い、テーマのポイントを講義やテキスト、他の資料などを参考にして毎回記載し、提出する。	
授業参加状況態度	20	出席状況、授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①シラバスに準じて事前にテキストに目を通し予習をして授業に臨む。[30分] ②レポートを記載する際には、講義、テキストの他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより、理解を深める。[90分]			①レポートは2週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 ②評価やコメントに対するの質疑にはその都度対応する。				
受講生に望むこと	臨床栄養は自己や家族の栄養、健康管理に必ず役に立つことを踏まえて毎回の講義に臨むことを期待する。また将来管理栄養士を目指す学生にとっても臨床の基礎的な内容であるためテキストの熟読を望む。提出物の期限を守り、返却されてレポートは保管すること。			教科書・テキスト	『新しい臨床栄養管理 第3版』渡邊早苗他編（医歯薬出版株式会社）2010年3月 ISBN：978-4-263-70575-9 『日本人の食事摂取基準 2015年版』（第一出版）2014年8月 ISBN：978-4-8041-1312-8 『栄養素の役割がみるみるわかる！臨床栄養にすぐ活かせるイラスト生化学入門』川崎英二編（MCメディア出版）2013年1月 ISBN：978-4-8404-4464-4		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD220C 臨床栄養学Ⅱ		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択必修	
担当教員名	三井 悦子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は学科必修科目であり、資格取得に必要な学びを行なうための入門科目である。実際の病院での献立例、栄養指導、栄養アセスメントなどの実例を交えながら、テキストを中心に病態と栄養管理の基礎を概説する。また、管理栄養士の国家資格を取得する際の臨床栄養の基礎的な内容である。			①適切な栄養管理を行うための、栄養ケアプランの作成、実施、評価の流れを理解する。 ②病態別の食事内容について理解し使用可能食品や不可食品、特別用途食品、形態などを知りその使用を習得する。 ③病院では特に多職種との連携が必要であり、また栄養指導においても優れた感性、コミュニケーション能力が要求される。その技法を習得する。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	消化器疾患（肺炎、肝炎）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
2	消化器疾患（肝硬変、脂肪肝）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
3	循環器疾患（高血圧症、妊娠高血圧症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
4	循環器疾患（心疾患、動脈硬化症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
5	腎疾患（急性腎炎・急性腎不全）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
6	腎疾患（糖尿病性腎症、透析）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
7	腎疾患（ネフローゼ症候群、小児腎疾患）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
8	内分泌疾患（甲状腺機能亢進症）、感覚器・神経疾患（脳梗塞）・クリティカルケア（外傷・熱傷）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
9	血液疾患（貧血）、筋骨格疾患（骨粗鬆症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
10	癌（胃癌）、術前・術後（短腸症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
11	嚥下機能障害（嚥下障害）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
12	乳幼児・小児疾患（先天性代謝異常症、食物アレルギー）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
13	外来患者（個人）への栄養管理と栄養食事相談について：個人と集団の指導の違いを理解しコーチング法を習得する。						
14	外来患者（集団）への栄養管理と栄養食事相談について：個人と集団の指導の違いを理解しコーチング法を習得する。						
15	QOLの向上について：ターミナルケアとホスピス、在宅医療、障害者への取り組みと栄養士の関わりを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	50	各回の講義内容のポイントを理解しているか。試験範囲、形式、評価基準は後日掲示する。		毎回のレポート提出	30	指定の用紙を用い、テーマのポイントを講義やテキスト、他の資料などを参考にして毎回記載し、提出する。	
授業参加状況態度	20	出席状況、授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①シラバスに準じて事前にテキストに目を通し予習をして授業に臨む。[30分] ②レポートを記載する際は、講義、テキストの他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより、理解を深める。[90分]			①レポートは2週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 ②評価やコメントに対するの質疑にはその都度対応する。				
受講生に望むこと	臨床栄養は自己や家族の栄養、健康管理に必ず役に立つことを踏まえて毎回の講義に臨むことを期待する。また将来管理栄養士を目指す学生にとっても臨床の基礎的な内容であるためテキストの熟読を望む。提出物の期限を守り、返却されたレポートは保管すること。			教科書・テキスト	『新しい臨床栄養管理 第3版』渡邊早苗他編（医歯薬出版株式会社）2010年3月 ISBN：978-4-263-70575-9 『日本人の食事摂取基準 2015年版』（第一出版）2014年8月 ISBN：978-4-8041-1312-8 『栄養素の役割がみるみるわかる！臨床栄養にすぐ活かせるイラスト生化学入門』川崎英二編（MCメディア出版）2013年1月 ISBN：978-4-8404-4464-4		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD230C 応用栄養学実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	俵 万里子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「応用栄養学」で学んだ知識を基に、各ライフステージの身体的、栄養学的特徴を踏まえた適正な栄養管理について、講義、献立作成、調理実習を通して理解し、実践的な技術、知識を身につける。実習は特に配慮が必要な乳幼児期、高齢期を中心に行う。</p>			<p>①各ライフステージにおける特性と問題点を理解する。 ②各ライフステージの栄養管理に必要な衛生上、調理上の技術を習得する。 ③対象者の身体状況、食生活状況を捉え、栄養学的配慮がなされた献立を作成することができるようになる。</p>			
教授方法	講義、調理実習、献立演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	講義：栄養管理の基礎について理解する。					
2	実習：調乳・冷凍母乳・離乳食；生後5,6ヵ月頃（無菌操作法による調乳法を習得する。冷凍母乳の方法を理解する。離乳食を調理し、進め方の目安を理解する。）					
3	実習：離乳食；生後7,8ヵ月頃（生後7,8ヵ月頃の離乳食を調理し、食べ方の目安、食事の目安を理解する。）					
4	実習：離乳食；生後9～11ヵ月頃（生後9～11ヵ月頃の離乳食を調理し、食べ方の目安、食事の目安を理解する。）					5
5	講義：幼児期の栄養管理について理解する					
6	実習：保育所給食3歳未満児（3歳未満児の昼食と間食を調理する。3歳以上児との給食形態の違いや調理法、分量などを理解する。）					
7	実習：保育所給食3歳以上児（3歳以上児の昼食と間食を調理するとともに、その献立材料から各班自由に離乳食を展開してみる。）					
8	実習：幼児の間食（幼児期の間食の必要性和与え方を学び、子どもの心と体を育む間食を考える。）					
9	実習：幼児の弁当（弁当の特徴や調理上の留意点を学ぶ。調理法、詰め方は各班で工夫する。）					
10	実習：行事食；クリスマス会（行事のもつ意味を考えながら楽しい雰囲気演出する。各班ごとに工夫する。）					
11	講義：献立演習；献立作成について理解し、幼児の献立を作成する。					
12	実習：高齢者の食事（高齢者の身体面、精神面の変化を理解し、健康な高齢者を対象としたメニューを実習する。）					
13	実習：高齢者の食事（高齢者の食生活に変化と潤いを与える行事食について理解する。）					
14	実習：食物アレルギー対応食（幼児期の食物アレルギー対応食の特徴や調理上の留意点などを調理実習を通して理解する。）					
15	実習：作成献立の実習・評価（班ごとに作成献立の調理を行い、試食と評価を行う。）					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習のレポート	60	指定の用紙を用い、テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書などを参考にして必ず記載する。調理実習のポイント、反省、盛り付け図などを記載する。		幼児の献立演習	30	幼児の特性に応じた献立を立てる。
授業参加状況	10	受講態度、調理実習中の取り組み				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①応用栄養学で学んだ知識を生かせるよう復習しておく。[30分] ②作成献立による実習は事前に試作を行う。[90分] ③レポートをまとめ、1週間以内に提出する[60分]				①レポートは学期内に評価とコメントをつけて返却する。		
受講生に望むこと	①実習の目的と内容を十分理解して授業に臨んで下さい。②提出物は期限までに必ず提出すること。③返却されたレポートは保管すること。			教科書・テキスト	プリント配布	
指定図書参考書等	なし/日本人の食事摂取基準 2015年版（第一出版）			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FD240C 臨床栄養学実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	上田 広美					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
臨床栄養学は医学・栄養学の進歩に伴う食事療法の在り方を常に考慮していかなければならない。臨床栄養学の講義で学んだ基礎知識を踏まえ、疾病の改善に欠くことのできない栄養ケアの実践について学ぶ。調理実習や献立演習を通して、個々の患者のニーズに合わせて、病態や栄養状態に基づいて適正な栄養管理ができるよう学びを深める。疾患別の栄養ケアの先に、栄養ケアの概念及び基礎（栄養補給法や基礎実習）を学ぶ。			①栄養ケアの概要を理解する。 ②栄養補給法について、種類や適応を理解する。 ③疾患別の栄養ケアについて、各疾患の概要を理解する。 ④「糖尿病治療のための食品交換表」を理解し、患者に指導ができるようになる。 ⑤調理実習では、まず基礎実習をしっかりと身につける。さらに各疾患の特徴を十分に理解したうえで、そのニーズに合わせた実習を行い、試食により味や舌触りを体験する。 ⑥ビデオを視聴することにより、摂食・嚥下障害の実際を理解する。			
教授方法	講義、調理実習（プリントを配布する）、献立演習、ビデオ視聴					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	講義：栄養ケアの概要・栄養ケアの基礎（栄養ケアの概要を理解する。栄養補給法の種類を学び、その長所・短所、適応と禁忌、合併症などを理解する。）、調理実習に入る前の病院における衛生管理について。					
2	実習：栄養ケアの基礎実習Ⅰ－流動食－（流動食の種類、適応を理解する。具体的に流動食を実習し試食することにより、流動食しか食べることのできない状況を理解する。）					
3	実習：栄養ケアの基礎実習Ⅱ－五分粥食－（軟食の種類を理解し、五分粥食を実習する。五分粥に合わせた副菜を考える。）					
4	実習：栄養ケアの基礎実習Ⅲ－全粥食－（流動食、三分粥食、五分粥食、七分粥食、全粥食と段階を経て常食になることを理解する。）					
5	講義：疾患別の栄養ケアⅠ－高齢者の栄養管理、口腔障害、摂食・嚥下障害－（口腔障害、摂食・嚥下障害の概要及び機能評価と栄養ケアを関連付けて理解する。食事摂取量の低下の原因と改善の必要性を理解する。）					
6	実習：疾患別の栄養ケアⅠ－介護食（段階別）－（ステップ1から3の段階別に調理実習を行うことにより、摂食・嚥下機能に合った傾向からの食事の形態を体験し、調理する技能を身につける。）					
7	講義：疾患別の栄養ケアⅡ－内分泌・代謝疾患－（肥満症、糖尿病、高尿酸血症、甲状腺機能低下症・亢進症、先天性代謝異常症について各疾患の概要を理解する。）					
8	講義：献立演習－糖尿病食－（フードモデルを使って「糖尿病食事療法のための食品交換表」の使い方を理解し、1日分の献立を立てる。）					
9	実習：疾患別の栄養ケアⅡ－低エネルギー食－（肥満症や糖尿病などエネルギーのコントロールが必要な疾患において、エネルギーを低くおさえる工夫を考える。）					
10	講義：疾患別の栄養ケアⅢ－肝・胆・膵臓疾患、骨・関節疾患－（肝炎、肝硬変・肝不全、脂肪肝、胆石症、膵炎について各疾患の概要を理解する。骨粗鬆症、くる病、骨軟化症について各疾患の概要を理解する。）					
11	実習：疾患別の栄養ケアⅢ－骨粗鬆症の予防－（カルシウムを多く含む食材を用いて調理実習を行い、普段の食事の中にどのように取り入れるかを考える。カルシウムの摂取量を食事摂取基準と比較してみる。）					
12	講義：疾患別の栄養ケアⅣ－腎臓・尿路疾患、循環器疾患－（急性腎臓病、慢性腎臓病、腎不全、透析療法などについて各疾患の概要を理解する。「腎臓病食品交換表」の基本を理解する。脂質異常症、高血圧症、虚血性心疾患、心不全について各疾患の概要を理解する。）					
13	実習：疾患別の栄養ケアⅣ－腎臓病食－（腎臓病疾患において、特に問題となるたんぱく質、エネルギー、食塩、水分について栄養ケアの実際を考える。腎臓病治療のための治療用特殊食品を調理実習で使用し、試食することにより体験する。）					
14	講義：疾患別の栄養ケアⅤ－胃・腸疾患、鉄欠乏性貧血－（胃炎、消化性潰瘍、下痢・便秘、潰瘍性大腸炎・クローン病について各疾患の概要を理解する。鉄欠乏性貧血の概要・診断基準を理解する。）					
15	実習：疾患別の栄養ケアⅤ－鉄欠乏性貧血食－（鉄含有量の多い食材を使って調理実習を行い、造血機能を高める具体的な栄養ケアを理解する。鉄の摂取量を食事摂取基準と比較してみる。）					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習レポート評価	60	指定の様式を用い、テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書などを参考にして必ず記載する。調理実習のポイント、感想、盛付図、振り返りなどを記載する。		糖尿病の献立演習	20	糖尿病の栄養ケアについて講義及び実習で学んだことを生かし、「糖尿病食事療法のための食品交換表」を用いて1日分の献立を立てる。
授業参加状況	20	出席状況、受講態度、調理実習中の取り組み。				
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
①初回授業において「臨床栄養学実習予定表」を配布するので、テキストにより予習して授業に臨む。[30分] ②定期試験を行わず、レポートにより評価するので、レポートを記載する際は、テキスト以外に図書館にある参考書などを参考に自分の覚書でなく、提出することを意識して作成しましょう。[60分] ③献立演習は、2週間後までの課題とするので時間をかけてしっかり取り組むこと。[120分]				①レポートは3週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 ②献立演習は4週間以内に添削をして返却する。狙いの理解がみられるまで再提出と添削・返却を繰り返す。 ③評価やコメント等に関する疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。		
受講生に望むこと	①疾患ごとの病態や食事療法の方法を理解し、個々のニーズに合わせた栄養ケアをしっかりと学んでください。 ②実習はまず出席し、グループの仲間と計画的・能率的に行うことが大切です。積極的に取り組んでください。 ③提出物は必ず期限を守ってください。 ④返却されたレポートは保管してください。			教科書・テキスト	「トリーナーガイド 栄養食事療法の実際 第10版」 本田佳子編 医歯薬出版 2015年 (ISBN:978-4-263-70633-6) 「糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版」 日本糖尿病学会編 文光堂 2013年 (ISBN:978-4-8306-6046-7)	
指定図書参考書等	なし／「第8版 腎臓病食品交換表 治療食の基準」黒川清監修 中尾俊之他編 医歯薬出版 2008年 新しい臨床栄養学 改定第6版 後藤昌義ほか著（南江堂）2014年 日本人の食事摂取基準 2015年版（第一出版）2014年			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FG100C 栄養指導論 I		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	三田 陽子					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>栄養指導・栄養教育は、食品の持つ多様な機能が人間の身体面だけでなく精神面へ果たす役割も踏まえ、一人の人間を理解しこころを捉えたものであってはじめて、対象者の望ましい食行動への変化と実践の習慣化につながります。その基本となるのが、対象者を取り巻くさまざまな環境条件を考慮した実態・現状の把握とそれに基づく栄養アセスメント・栄養マネジメントを行うことであり、そのために必要な基礎知識と方法について学びます。</p>			<p>①栄養指導・栄養教育の目的と意義を理解している。  ②国民の栄養や食事の現状と課題を理解している。  ③栄養指導・栄養教育に必要な基礎知識を習得している。  ④栄養教育に関する行動理論を理解している。  ⑤栄養アセスメント、栄養マネジメントの手順や方法を理解している。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	栄養指導・栄養教育の概念（栄養指導・栄養教育とは何か、その目的と必要性を理解する。）					
2	食生活の変遷と環境（食生活の移り変わりや食生活を取り巻く環境について理解する。）					
3	栄養士の歴史と活躍分野（栄養士の歴史と活躍分野を学び、時代に合わせた栄養士の活躍と今後の可能性について理解する。）					
4	栄養関係法規（栄養士業務に関する法律、栄養指導・栄養教育の法的根拠がわかるようになる。）					
5	栄養教育①（栄養教育の基本と心構え、傾聴の姿勢を理解する。）					
6	栄養教育②（楽しいコミュニケーション、楽しさを伝える方法を理解する。）					
7	行動変容①（行動変容について学び、健康行動とは何か理解する。）					
8	行動変容②（栄養教育に活かす行動理論について理解する。）					
9	行動変容③（栄養カウンセリングの専門用語、技法を理解する。）					
10	栄養マネジメント①（栄養マネジメントの流れを理解する。対象者のニーズに応じた目標設定を理解する。）					
11	栄養マネジメント②（対象者主体の目標設定のあり方を理解する。）					
12	栄養マネジメント③（評価の方法の期間の設定、記録、報告のあり方を理解する。）					
13	情報収集①（正しい栄養情報の探し方を理解する。）					
14	情報収集②（栄養教育に必要な基礎資料を理解する。―― 日本食品標準成分表、食品群、食生活指針、食事バランスガイド）					
15	情報収集③（栄養教育に必要な基礎資料を理解する。―― 日本人の食事摂取基準、国民健康・栄養調査、健康日本 21）					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	栄養指導・栄養教育に必要な基礎知識が理解できているか。		提出物	30	授業内容を理解してまとめているか。
授業参加態度	10	テキスト等必要なものを準備し、積極的な参加姿勢がみえるか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①予習：教科書を読み、キーワードについて調べる。[20分]  復習：教科書、配布資料を確認しながら理解を深める。疑問点はそのままにせず、質問するか、調べるかして解決する。[30分]  ②指定図書を読んで、自分の行動の評価と今後の課題を検討する。[60分以上]</p>				<p>提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。</p>		
受講生に望むこと	対象者に栄養指導・栄養教育を行うときは、まず栄養士自身が健やかであることが大切です。栄養士を目指す学生として、自分の生活時間、食生活をしっかりと自己管理して下さい。			教科書・テキスト	「栄養教育論」 今中 美栄 他著 化学同人 2016年 ISBN 978-4-7598-1448-4 「2017年度版管理栄養士栄養士必携」公益社団法人日本栄養士会編 第一出版 2017年	
指定図書参考書等	「科学が証明する新朝食のすすめ」 香川 靖雄著 女子栄養大学出版部 2007年 ISBN 978-4-7895-5351-3			その他・特記事項	必要に応じて視聴覚教材を使用する。	

授業科目名	FG200C 栄養指導論Ⅱ		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	三田 陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
「栄養指導論Ⅰ」に続く、基礎知識の習得と理解のうち、ライフステージ別、特定給食施設別の栄養指導・栄養教育の在り方を学びます。さらに栄養教育の演習を行うことでその学びを深めていきます。			①ライフステージ別の栄養指導・栄養教育の意義を理解し、必要な基礎知識を習得している。 ②特定給食施設別の栄養指導・栄養教育の意義を理解し、必要な基礎知識を習得している。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ライフステージ別の栄養教育①妊娠・授乳期（妊娠・授乳期の理解と栄養教育・支援の在り方を理解する。）						
2	ライフステージ別の栄養教育②乳児期・離乳期（乳児期・離乳期の理解と栄養教育・支援の在り方を理解する。）						
3	ライフステージ別の栄養教育③幼児期（幼児期の理解と栄養教育・支援の在り方を理解する。）						
4	ライフステージ別の栄養教育④学童期（学童期の理解と栄養教育・支援の在り方を理解する。）						
5	ライフステージ別の栄養教育⑤思春期・青年期（思春期・青年期の理解と栄養教育・支援の在り方を理解する。）						
6	ライフステージ別の栄養教育⑥成人期・壮年期（成人期・壮年期の理解と栄養教育・支援の在り方を理解する。特定健康診査・特定保健指導について学ぶ。）						
7	ライフステージ別の栄養教育⑦高齢期（高齢期の理解と栄養教育・支援の在り方を理解する。）						
8	特定給食施設別の栄養教育①病院（病院における栄養教育の在り方を理解する。）						
9	特定給食施設別の栄養教育②福祉施設（福祉施設での栄養教育の在り方を理解する。）						
10	特定給食施設別の栄養教育③事業所（事業所給食での栄養教育の在り方を理解する。）						
11	特定給食施設別の栄養教育④学校給食（学校給食での栄養教育の在り方を理解する。）						
12	特定給食施設別の栄養教育⑤その他（その他の施設で働く栄養士の業務内容を理解する。）						
13	栄養教育の実践演習①対象者の設定と教育計画の作成（対象者の特性に応じた栄養教育計画作成を検討できるようになる。）						
14	栄養教育の実践演習②必要な教材等の作成、発表練習（対象者の行動変容につながる実施案を検討できるようになる。）						
15	栄養教育の実践演習③発表と相互評価（発表と相互評価を通して、対象者の行動変容につながる栄養教育への理解を深める。）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	ライフステージ別、特定給食施設別の栄養指導・栄養教育に必要な基礎知識が理解できているか。		提出物	20	授業内容を理解しまとめているか。	
栄養教育の演習	30	授業内容を理解して積極的に準備、発表、評価ができたか。		授業参加態度	10	テキスト等必要なものを準備し、積極的な参加姿勢がみえるか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①予習：教科書を読み、キーワードについて調べる。[20分] 復習：教科書、配布資料、ノートを確認しながら理解を深める。疑問点はそのままだにせず、質問するか、調べるかして解決する。[20分] ②指定図書を読んで、自分の行動の評価と今後の課題を検討する。[60分以上]				提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。			
受講生に望むこと	対象者に栄養指導・栄養教育を行うときは、まず栄養士自身が健やかであることが大切です。栄養士を目指す学生として、自分の生活時間、食生活をしっかりと自己管理して下さい。			教科書・テキスト	「栄養教育論」 今中 美栄 他著 化学同人 2016年 ISBN 978-4-7598-1448-4 「2017年度版管理栄養士栄養士必携」（公益社団法人日本栄養士会編 第一出版 2017年		
指定図書参考書等	「フードファディズム」 高橋久仁子著 中央法規出版 2007年 ISBN 978-4-8058-3004-8			その他・特記事項	必要に応じて視聴覚教材を使用する。		

授業科目名	FG210C 公衆栄養学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	梶 真知子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>地域等の健康・栄養問題とそれらを取り巻く諸問題に関する情報を収集・分析し、総合的に評価・判定する能力を養う。集団の健康・栄養改善に必要な公衆栄養プログラムを展開するために、公衆栄養マネジメントの概念、プログラム計画策定・実施の手法、栄養疫学・栄養アセスメント手法、プログラム評価のための指標・情報収集の方法を学ぶ。また、わが国の栄養政策、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題等も学習する。</p>			<p>①地域等の健康・栄養問題に関心が持てるようになる。 ②公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する手法を理解する。 ③わが国及び諸外国の健康・栄養問題の現状、課題、政策について理解する。 ④栄養関係法規を理解する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	公衆栄養学と関連の深い『公衆衛生学』を履修済み又は受講していることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	公衆栄養学の概念と公衆栄養活動（公衆栄養学とは何か、公衆栄養活動の変遷について理解する）						
2	公衆栄養マネジメント総論（公衆栄養マネジメントとは何かを理解する）						
3	公衆栄養マネジメント各論Ⅰ（公衆栄養アセスメントとは何か、プログラムの計画・目標設定を理解する）						
4	公衆栄養マネジメント各論Ⅱ（プログラムの実施について理解する）						
5	公衆栄養マネジメント各論Ⅲ（プログラムの評価について理解する）						
6	栄養疫学概論（栄養疫学とは何か、食事摂取量の測定方法、栄養疫学の研究方法を理解する）						
7	わが国の栄養問題の現状（健康状態・食生活・食習慣・食環境の移り変わりについて理解する）						
8	わが国の栄養問題の課題（健康状態・食生活・食習慣・食環境の課題について理解する）						
9	わが国の栄養政策Ⅰ（公衆栄養活動の歴史、栄養関係法規を理解する）						
10	わが国の栄養政策Ⅱ（国民健康・栄養調査について理解する）						
11	わが国の栄養政策Ⅲ（健康づくり対策の流れ、ライフステージ別の栄養政策を理解する）						
12	わが国の栄養政策Ⅳ（食品に関する栄養情報提供について理解する）						
13	食事摂取基準の概要（食事摂取基準とは何かその概要を理解する）						
14	食事摂取基準の活用（その活用上の留意点を理解する）						
15	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題と政策（公衆栄養活動や栄養士養成制度を理解する）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験	60	各回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加意欲	20	授業中の受講態度・読み取り学習の取り組み姿勢が良好か。	
読み取り学習	20	各回に配布する講義内容に関連した新聞記事や資料についてどれだけ読み取れるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回、教科書より予習をして授業に臨む。[30分] ②授業後は、教科書・配付資料をよく読み理解を深める。[30分] ③日頃から新聞等に目を配り、健康・栄養（食生活、食習慣、食環境等）に関する様々な情報を収集しておく（新聞記事の切り抜き、写し等）。公衆栄養学は、栄養士から管理栄養士をめざす場合にも重要な教科書であるため、関連のある「公衆衛生学」とあわせて理解を深める。[30分]</p>				読み取り学習の提出物は添削・コメントをして全ての回の評価終了後に返却する。			
受講生に望むこと	日頃から健康・栄養（食生活、食習慣、食環境等）に関する情報に敏感になってほしい。			教科書・テキスト	『公衆栄養学』第四版 古畑・松村・鈴木編著 光生館 2016年発行 ISBN 978-4-332-02101-8		
指定図書参考書等	なし／『国民健康・栄養の現状』国立研究開発法人医療基盤・健康・栄養研究所監修 第一出版			その他・特記事項	必要に応じて資料の配布、視聴覚教材の使用あり。		

授業科目名	FG220C 栄養指導論実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	三田 陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
「栄養指導論Ⅰ・Ⅱ」で学ぶ栄養指導の理論や基礎知識を、個人や集団を対象とした現場で実際に活用するための技術・方法を学びます。			①栄養摂取状況から、各種実態の把握、評価、診断の栄養アセスメントができるようになる。 ②PDCA サイクルに基づいた栄養指導計画を作成できるようになる。 ③対象者の行動変容につながる聴き方、話し方を検討できるようになる。 ④対象者の特性を考慮し、栄養指導の内容が効果的に伝わる媒体を作成できるようになる。				
教授方法	講義と実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション 栄養指導論実習の意義を理解する。 基礎演習①栄養価計算・食品群・食品構成 (栄養士業務に必要な栄養価計算が確実にできるようになる。)						
2	基礎演習②食品群と加重平均成分表、食品構成 (食品群について理解し、加重平均成分表の作成ができるようになる。作成した加重平均成分表を活用して食品構成をたてることができるようになる。)						
3	基礎演習③食事摂取基準 (「日本人の食事摂取基準」を理解し、食事摂取基準を活用した食事評価ができるようになる。)						
4	アセスメント(実態の把握) ① 食物摂取状況・生活時間状況・身体状況を調査する。 ② 身体計測に基づく判定・評価、自覚症状による判定・評価ができるようになる。						
5	アセスメント(実態の把握) ③ 食事調査の栄養価計算をし、食事摂取基準、食品群を用いた評価ができるようになる。						
6	アセスメント(実態の把握) ④ 食事調査の結果について栄養比率や食事バランスガイド等を用いた評価ができるようになる。						
7	アセスメント(実態の把握) ⑤ 生活時間調査を整理し、結果から消費エネルギー及び身体活動レベルを算出できるようになる。						
8	PDCAサイクルを用いた栄養指導① アセスメント結果より栄養指導計画、実施案をたてられるようになる。						
9	聴く・話す技術① 栄養カウンセリングの手法を用いて、相手の話を正確に、共感的に「聴く」ことを学び、対象者の行動変容につながる聴き方について検討できるようになる。						
10	聴く・話す技術② スピーチを通して発表の技術を学び、対象者の行動変容につながる話し方について検討できるようになる。						
11	栄養指導の教材①媒体作成 (手描き媒体の作成と評価を通して、対象者の特性に合わせた媒体の作成・検討ができるようになる。)						
12	栄養指導の教材②媒体作成 (パソコンソフトを利用した媒体を作成できるようになる。さらにその作成と評価を通して、対象者の特性に合わせた媒体の作成・検討ができるようになる。)						
13	栄養指導の教材③媒体作成 (各種調査をグラフ化し、それを用いた媒体の作成と評価を通して、対象者の特性に合わせた媒体の作成・検討ができるようになる。)						
14	PDCAサイクルを用いた栄養指導②-1 (様々な場と対象者を想定し、実態の把握、それに基づいた計画と実施案の作成を通して、PDCAサイクルを用いた栄養指導計画が立てられるようになる。)						
15	PDCAサイクルを用いた栄養指導②-2 (実施案の評価、改善案の検討を通してPDCAサイクルを用いた栄養指導計画の検討ができるようになる。)						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題	50	授業内容を理解しまとめているか。		グループ演習	40	お互いに学びと理解を高め合えるような取り組み姿勢が見えるか。	
授業参加態度	10	必要なものを準備し、積極的に参加する姿勢が見えるか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
次回までに調べる必要のあることを調べる、授業時間内に仕上がらなかった課題を完成させるなど、次の段階に進むために必要な学習を確実に行って下さい。[30分]				提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。			
受講生に望むこと	授業で学んだことを毎日の生活の中で応用することに挑戦してみてください。			教科書・テキスト	「栄養教育・指導実習」関口紀子 編著 建帛社 2016年 ISBN 978-4-7679-0568-6 『日本食品成分表七訂本表編』医歯薬出版編 医歯薬出版 ISBN 978-4-263-70677-0 『2017年度版 管理栄養士栄養士必携』日本栄養士会 編 第一出版 2017年		
指定図書参考書等	指定図書:「もっと変な給食」 幕内 秀夫著 ブックマン社 2012年 ISBN 978-4-893-08768-3 参考図書:なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FC200C 給食実務論(含計画)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
給食とは、特定の人に対し継続的に提供される食事であり、単なる栄養補給のための食事提供ではなく、実際に食べる量・味・盛り付けも栄養教育の媒体であり栄養管理の一環である。特定給食施設での食事は、喫食者の健康の保持増進や疾病をもつ人の治療を目的としている。病院、学校、事業所、福祉施設等の各特定給食施設の対象者の健康保持・増進、心身の健全な発育・発達、疾病の治療・予防などを目的とした給食の計画、実施、評価までの一連の業務内容を学習し、対象者の栄養改善に寄与しうる適切な栄養管理を行うための知識を習得する。更に栄養士、管理栄養士の役割を理解するとともに、給食の運営や関連する業務について、具体的方法を修得する。また関係法令や行政指導等についても学ぶ。			①特定給食施設における給食の目的や栄養士の役割、関連法規を理解することができるようになる。 ②給食施設での調理従事者の衛生管理、大量調理施設衛生管理マニュアルを学び、衛生事故の予防と対策を理解することができるようになる。 ③給食施設ごとの給食の目標や特徴、栄養管理の方法を理解することができるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	給食の歴史、特定給食施設での定義及び目的について学ぶ。						
2	給食に関しての経営管理について学ぶ。						
3	栄養食事管理について、栄養計画・食事計画・評価を通じて学ぶ。						
4	給食システムの品質管理・品質保証について学ぶ。						
5	給食の会計・原価管理・情報処理管理について学ぶ。						
6	食材料管理の理論について学ぶ。						
7	生産管理の目標と目的及び計画について学ぶ。						
8	大量調理の注意点について、方法と技法を学ぶ。						
9	洗浄、消毒、清掃作業管理について学ぶ。						
10	安全・衛生管理の目的をはじめ、災害時の給食についても学ぶ。						
11	給食施設内のいろいろな設備について学ぶ。						
12	実務業務の遂行に役立つことを目的とし、医療機関における栄養士の役割と業務内容について学ぶ。						
13	学校給食の意義について学び、食に関する指導と給食管理を職務とする栄養教諭の果たす役割を理解できるようにする。						
14	事業所給食の意義と経営状態について学び、栄養士の基本的な業務について学ぶ。						
15	福祉施設の種類を把握し、それぞれの利用者に応じた適切な食事提供ができる給食運営について学ぶ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
単位認定試験	60	学んだ知識が理解できているか。	課題	20	課題のねらいを理解して書かれているか。		
授業参加意欲	20	授業に対して積極的であるか。(授業態度も含む)					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習、復習してください。[30分] ②関連教科とリンクさせ、主体的に学ぶことが大切です。とくに、課題の取り組みでは、図書館を利用して知識を定着させる努力をしてください。[30分]			講義内容に関する疑問や質問には、随時対応します。				
受講生に望むこと	校外実習にも生かせるように、基本的なことはしっかり理解できるように努力してください。		教科書・テキスト	『給食経営管理論』外山健二・幸林友雄他編著 講談社 ISBN978-4-06-155371-2 『給食経営管理用語辞典』日本給食経営管理学会監修 第一出版 ISBN978-4-8041-1251-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会 第一出版 ISBN978-4-8041-1285-5			
指定図書参考書等	日本人の食事摂取基準 [2015年版] 第一出版		その他・特記事項	なし			

授業科目名	FC100C 調理学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
調理は、日常生活では実習が先になるが、合理的に美味しく調理しようとすれば、科学的な理論を理解することが調理技術の効果的な習得に繋がる。特に将来栄養士として食の指導に携わる場合、技術のみならず理論を熟知することが必要となる。調理の過程は、食事計画→食材調達→調理操作→供食であり、これにより食品を料理（食物）とすることになり、栄養素の摂取を具現化することができる。この授業では、①調理の概念②美味論③調理操作論④各食品の調理特性⑤調理器具について理解をすることができる。			①調理の概念と食生活における位置づけ、栄養士の学びでの位置づけを把握する。 ②おいしいとはどういうことを科学的に理解する。 ③調理の課程と其中的調理操作の特徴を理解し、適切な調理操作を選択できるようにする。 ④調理に必要な機器や設備を理解する。 ⑤食品毎の調理性を理解する。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	調理学の意義、食事計画論、調理文化論：この授業への導入として調理学で何を学ぶかを把握する。さらに、食事計画の概念、調理の文化的視点を理解する。					
2	調理操作論－非加熱操作：「洗浄」「浸漬」「攪拌・混合」など、各非加熱操作の目的や特徴・留意点など理解する。					
3	調理操作論－加熱操作Ⅰ（湿熱加熱）：「茹でる」「煮る」「蒸す」など、湿熱加熱の特徴や留意点などを理解する。					
4	調理操作論－加熱操作Ⅱ（乾熱加熱）：「揚げる」「焼く」「炒める」など、乾熱加熱の特徴や留意点などを理解する。					
5	食べ物のおいしさⅠ（化学的要因）：おいしさについて、味覚で感ずる味を中心に、その種類や感じ方を理解する。					
6	食べ物のおいしさⅡ（物理的要因）：おいしさについてテクスチャーや温度との関係などを理解する。					
7	食品の調理性（砂糖、でんぷん）：砂糖が様々な食品の調理に及ぼす影響や、でんぷんの糊化や老化の過程や意義を理解する。					
8	食品の調理性（穀類）：炊飯、米粉、小麦粉の調理に関わる特徴を理解する。					
9	食品の調理性（芋類、豆類）：じゃがいも、さつまいもなどの芋類と大豆や小豆などを調理する際の特徴を理解する。					
10	食品の調理性（穀類）：炊飯、米粉、小麦粉の調理に関わる特徴を理解する。					
11	食品の調理性（野菜類、果実類）、調理におけるたんぱく質の変性：野菜の調理とあくの除去、果実の調理の特徴を理解する。動物性食品の調理性を学ぶにあたりたんぱく質の変性を理解する。					
12	食品の調理性（獣肉肉類・魚介類）：牛肉、豚肉、鶏肉などの調理と魚介類の調理の特徴と差異を理解する。					
13	食品の調理性（卵類・乳類）：卵と牛乳の調理性を理解する。					
14	食品の調理性（油脂類・ゲル化材料）：調理に関連する油の特徴とゲル化材料の差異を理解する。					
15	調理の設備、器具、エネルギー：調理場、台所における貯蔵設備、加熱器、熱源、その他の調理器具などの特徴を学ぶ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率		課題レポート	20	課題への取り組み方とまとめ方
授業態度	10	授業への参加意欲				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、調理学の学びを把握する。 ②毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。 ③授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。 ④日常生活の中で、調理に関心を持つ。 【毎回30分】				レポートは返却する。		
受講生に望むこと	調理学実習との関連で理解をして欲しい。さらに、食品学や栄養学とも関連させて学びを深めて欲しい。			教科書・テキスト	『新版 調理学』下村道子・和田淑子編著 光生館 ISBN：978-4-332-05031-5	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FC110C 調理学実習A		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・中村 喜代美 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
調理は献立立案からはじまり、適切な食品を選び、それに調理操作を行って、美味しい食べ物に仕上げ、盛りつけし、喫食することまでが対象となる。この授業では、基礎的な調理技術(煮る、焼く、揚げるなどの加熱操作や計量、混合・攪拌などの非加熱操作)の理解と習得を目標に、日本調理様式より、出し・炊飯等よりはじめ、代表的な料理を取り上げて実習を進める。また、基礎的な調理学実験(卵の加熱、ゲル化素材の調理、小麦粉の調理、揚げ物の仕組み等)も組み入れ、理論と実際に起きる現象を確かなものとする。			①基礎的な調理方法を理解し、その技術を習得する。 ②基本的な切り方などは、一定の水準に達すること(適切な速度で正しい包丁の使い方が出来る)。 ③日常的に利用する食材の扱い方を習得する。 ④基礎的な保存食品の調理技術を習得する。 ⑤理論と実技を関連させて理解し、実践できる。			
教授方法	講義の後、グループに分かれて実習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	日本調理の概要：日本料理の特徴、歴史等を理解する。調理実習を始めるにあたり調理の基本操作を学ぶ					新澤
2	炊飯、清汁(混合だし)、浸し：炊飯とその理論、出汁のとり方、緑黄色野菜の茹で方を学ぶ					新澤
3	味付け飯、煮物、漬物、米粉の調理：味付け飯の調味比率と留意点、煮物の留意点、漬け物の原理、米粉調理のうち、もち米粉の調理を学ぶ					中村
4	味付け飯、酢の物(二杯酢)、煮物、味噌汁：かやくご飯の副材料の使い方、酢の物の合わせ酢の比率、煮物の調味比率の計算、味噌汁の調理を学ぶ。					中村
5	煮魚、酢の物(三杯酢)、米粉の調理他：煮魚の方法(煮汁の調味割合など)、三杯酢の調味、うるち米粉の調理を学ぶ。					中村
6	煮魚、酢の物(酢味噌和え)、潮汁：魚の調理(三枚おろし)、魚の酢締めの方法と理論、魚介類の旨味について理解する。					新澤
7	揚げ物調理、漬け物：天ぷらなどの調理をとおして、揚げ物の理論を理解し、調理方法を学ぶ。					中村
8	蒸しもの調理、寄せもの(寒天)：赤飯、茶碗蒸しの調理をとおして、蒸し物の原理と材料による差異を理解する。また、ゲル化材料としての寒天の調理法を理解する。					中村
9	焼き物調理、寄せもの(寒天)、めん類、保存食の調理：魚の姿焼きと鍋焼きにより、焼き物料理の特徴と直接焼き、間接焼きの差異を学ぶ。また、寒天の凝固温度の理解と、麺類の扱い方を学ぶ。保存食として梅干しの調理法を学ぶ(1)					新澤
10	すし、寄せもの(でんぶん)：すし飯の調理を学び、でんぶんの糊化調理を理解する。					中村
11	エコッキング、保存食の調理：環境に負担をかけない調理法について考えるきっかけとする。保存食としての梅干しの調理法を学ぶ(2)					中村
12	調理学実験1：鶏卵の熱凝固を理解する。寒天の凝固に及ぼす要因を理解する。					新澤
13	調理学実験2：揚げ物における油の吸収率の計算方法や、ルーの特徴を理解する。					新澤
14	調理学実験3：小麦粉の膨化を理解する。					新澤
15	調理の基本と切り方：切砕の技術を習得するため、基本切りの実際について理解を深める。					中村
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況		実技試験	20	①基本的な切り方テスト等の試験結果
課題レポート	30	まとめとしての課題レポート、実験レポート等の記載内容				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①食材に関心を持ち、出回りの時期や価格に注意する。 ②常に計量する習慣をつける(料理に使う材料の重量を把握できるようにする) ③授業で習った調理の復習をする。特に実習で関わることの出来なかったところを勉強する。 ④実習内容をまとめる。[毎回30分]				レポートは返却する。		
受講生に望むこと	①授業前にテキストを読んでくる。 ②失敗を恐れず授業内容に取り組む。 ③自分自身の体調管理を行う。 ④日常的に調理に携わる。			教科書・テキスト	日本調理テキスト	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。	

授業科目名	FC120C 調理学実習B		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	俵 万里子					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、西洋料理、中国料理の中から代表的な料理を取り上げ、日本調理様式と比較しながら、各料理の特性や調理法、食材の扱い方などを学ぶ。また、切碎などの基本的な操作技術が会得できるよう、その技術の理論やコツの習得を目指す。実習は、デモンストレーション、調理、評価、試食、後片付けという流れで行う。			①基礎的な調理技術を習得する。 ②衛生面、安全面を考慮し、食材を適切に扱うことができる。 ③西洋調理様式、中国調理様式の特徴を理解する。 ④グループ実習でコミュニケーション能力や積極性を身につける。			
教授方法	講義、実習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	講義：西洋料理、中国料理の概要、調理の基本操作（計量、調理、調理器具、調味、切り方の基本について理解する。）					
2	実習：野菜の切り方、マヨネーズ、フレーズマルキーズ（基本切り、卵黄の乳化性、生クリームの泡立ての要点について学ぶ。）					
3	実習：サンドイッチ、ヨーグルトゼリー、紅茶（サンドイッチの要点、ゼラチンの調理性、紅茶の入れ方について学ぶ。）					
4	実習：鮭のベシヤメルソースがけ、マセドアンサラダ、ブラマンジェ（魚の蒸し物、ルーとソースの作り方、でんぷんの糊化について学ぶ。）					
5	実習：トマトソース、スコッチエッグ、イカのマリネ（基本のソース揚げ物の要点、イカの扱い方について学ぶ。）					
6	実習：ブラウンソース、ハンバーグ、コーンポタージュ、サラダ（基本のソース、挽肉の調理、ポタージュの要点について学ぶ。）					
7	実習：ジャム、パン（果実類の加工、パン生地の膨化について学ぶ。）					
8	実習：エビフライ、ミネストロンスープ、パパロア（エビの扱い方、フライの材料と役割、トマトの調理について学ぶ。）					
9	実習：コンソメスープ、鯖のパピヨット、オムレツ（魚の三枚おろし、コンソメ、オムレツの要点について学ぶ。）					
10	実習：拌菜、炒菜、溜菜、点心（中国料理の炒め物、あんかけ料理について学ぶ。）					
11	実習：炒菜、溜菜、烩菜、点心（中国料理の薄く煮料理について学ぶ。）					
12	実習：炒菜、焼菜、点心（中国料理の煮しめ料理について学ぶ。）					
13	実習：煎菜、炸菜、炒菜（中国料理の油焼き料理について学ぶ。）					
14	実習：湯菜、拌菜、点心（中国料理の和え物、スープ、点心について学ぶ。）					
15	実習：ポークソテーハワイアン、マカロニグラタン、ヨーグルトサラダ（ルーを用いた調理について学ぶ。）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習状況と実習記録	40	実習中の取り組み姿勢や実習記録の記載状況		実技試験	30	加熱調理（炒飯）の試験結果
課題レポート	30	課題レポートの記載内容				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①実習前にテキストにより予習し、調理の段取りを把握しておく。[30分] ②実習内容に関連する調理理論についてレポートをまとめ、1週間以内に提出する。[30分]				①レポートは学期内にコメントをつけて返却する。		
受講生に望むこと	①実習前にテキストを読み、内容を理解して実習に臨む。 ②失敗を恐れず、積極的に実習に取り組む。 ③家庭でできるだけ調理を行う。			教科書・テキスト	『NEW 調理と理論』山崎清子他共著、同文書院 ISBN978-4-8103-1395-6 西洋料理テキスト 中国料理テキスト	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FC130C 調理学実習C		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	新澤 祥恵・中村 喜代美 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、日本調理様式の料理を中心とし基礎的調理より応用的、食文化的視点により展開し、郷土食、行事食、供応食などを中心に、実習を進めていく。郷土食では、石川県の食材や代表的な郷土料理を、行事食としてはおせち料理や祭礼料理を、供応食では会席料理の献立形式に就いて実習をすすめ、これらへの関心・理解を深めたい。また、漬物などの加工的調理も実習する。さらに、美味しさに関する実験により、理論的な理解に繋げる			①基礎的なものに加え、応用的な調理方法を理解し、その技術を習得する。 ②多様な調理器具の使い方を会得する。 ③日常的に利用する食材に加え、特殊食材の扱い方を習得する。 ④日本料理の献立形式を理解する。 ⑤郷土料理を知り、その調理法を習得する。 ⑥日本の食文化を理解する。 ⑦理論と実技を関連させて理解し、実践できる。			
教授方法	講義の後、グループに分かれて実習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	調理学実験 4：味の評価方法を理解する（官能検査により）。					新澤
2	味付け飯、煮物他：栗、蓮根など季節の食材の調理を理解する。					中村
3	味付け飯、田楽他：季節の食材の利用と合理的な調理方法を学ぶ。					中村
4	雑炊、刺身他：雑炊の調理を学び、鯛の様々な調理を学ぶ。					中村
5	刺身、粕汁、和菓子：さしみの基本を学ぶ。小麦粉の膨化の調理を学ぶ					中村
6	郷土料理 1：祭礼の献立を学ぶ。押し寿司、えびすなど 当地の郷土料理の理解をする。					新澤
7	郷土料理 2：郷土食の内、特に、じぶ煮や鯛のから蒸しなどの供応食の調理を学ぶ。					新澤
8	郷土料理 3：いわしの団子汁、イカめしなど総菜的な郷土食を学ぶ。					新澤
9	青果物の調理の基本：特に地場産の農産物などを取り上げた調理を学ぶ。					新澤
10	正月料理：おせち料理の意義を理解し、その調理法を知る。					中村
11	日本料理の献立形式と伝統的保存食：我が国の供応食から日常食までの献立形式を理解する。伝統的な保存食を学ぶ。					新澤
12	鍋料理：鍋料理（寄せ鍋）の特徴と調理法を学ぶ。					中村
13	会席献立 1：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。					新澤
14	会席献立 2：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。					新澤
15	魚の調理の基本：魚の調理技術を習得する。					中村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況		実技試験	20	加熱調理（だし巻き卵）の試験結果
課題レポート	30	まとめとしての課題レポート、実験レポート等の記載内容				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①食材に関心を持ち、出回りの時期や価格に注意する。 ②常に計量する習慣をつける（料理に使う材料の重量を把握できるようにする） ③授業で習った調理の復習をする。特に実習で関わることの出来なかったところを勉強する。 ④実習内容をまとめる。[毎回30分]				レポートは返却する。		
受講生に望むこと	①授業前にテキストを読んでくる。 ②失敗を恐れず授業内容に取り組む。 ③自分自身の体調管理を行う。 ④日常的に調理に携わる。		教科書・テキスト	日本調理テキスト		
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。		

授業科目名	FC140C 調理学実習D		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	俵 万里子・中村 喜代美 (代表教員 俵 万里子)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、西洋調理・中国調理様式の料理を中心とし、基礎的調理より行事食・供応食などへ応用的に展開する。行事食ではクリスマス料理などを、また、欧風の供応形式として正餐コースを取り上げる。中国調理では大菜と点心の特徴を学ぶ。さらに魚介類の取扱など多少難易度の高い調理操作なども会得できるよう実習を進める。			①基本的な調理技術をもとに、より実践的な技術を習得する。 ②行事食、供応食などの調理に必要な知識と技術を習得する。			
教授方法	実習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	実習：クラムチャウダー、ポークピカタ、オレンジドロップクッキー（貝の調理、豚肉の調理、ピカタの要点について学ぶ。）					俵
2	実習：エビピラフ、ロールキャベツ、フルーツサラダ（ピラフ、ロールキャベツの調理の要点について学ぶ。）					俵
3	実習：ミートソース、フリッター、シェフサラダ（日本の天ぷらとの違いを理解する。）					俵
4	実習：シーチキンサブゲティ、クレープ、ポーチドエッグサラダ（クレープの調理の要点について学ぶ。）					中村
5	実習：豚肉のロベール、グリーンサラダ、アップルパイ（パイ生地の膨化について学ぶ。）					中村
6	実習：ビーフカレー、スクランブルエッグ、コンビネーションサラダ、（カレーのルーについて学ぶ。）					俵
7	実習：ボルシチ、カニのコキール、レアチーズケーキ（ロシア料理を作り、体験する。）					中村
8	実習：若鶏のクリーム煮、ピーマンの肉詰め、シュークリーム（シューの膨化について学ぶ。）					俵
9	実習：ビーフシチュー、クリームコロッケ、バナナケーキ（牛肉の部位と調理について学ぶ。）					中村
10	実習：鱈のムニエル、ワドルフサラダ、トリュフ（鱈の三枚おろし、ムニエルの要点について学ぶ。）					俵
11	実習：デコレーションケーキ（スポンジケーキの膨化について学ぶ。各自デコレーションを工夫する。）					中村
12	実習：オードブル、鶏のチーズ焼き（クリスマスメニューを作り、演出を学ぶ。）					中村
13	実習：溜菜、拷菜、拌菜、点心（中国料理の直火焼き料理について学ぶ。）					中村
14	実習：正餐コース前半（正餐のテーブルセットとマナーについて学ぶ。）					俵
15	実習：正餐コース後半（ステーキの焼成の要点について学ぶ。）					俵
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習状況と実習記録	40	実習中の取り組み姿勢や実習記録の記載状況		実技試験	30	魚の調理（3枚おろし含む）の試験結果
課題レポート	30	課題レポートの記載内容				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①実習前にテキストにより予習し、調理の段取りを把握しておく。[30分] ②実習内容に関連する調理理論についてレポートをまとめ、1週間以内に提出する。[30分]				①レポートは学期内にコメントをつけて返却する。		
受講生に望むこと	①実習前にテキストを読み、内容を理解して実習に臨む。 ②段取りよく調理ができるように、作業手順を工夫する。 ③実習で行った料理を家庭でも作り、技術の向上を目指す。			教科書・テキスト	『NEW 調理と理論』山崎清子他共著、同文書院 ISBN978-4-8103-1395-6 西洋料理テキスト 中国料理テキスト	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FC160C 給食管理実習 I		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
給食業務を行うために必要な食事の計画や、調理を含めた給食サービス提供に関する知識の習得を目的とする。特定給食施設における栄養管理として、給与栄養目標量、食品構成の作成および献立計画等について演習する。また、学内実習室において、栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方の理解とその実践力を養うことを目標に実習を行う。講義で学んだ知識をもとに計画 (plan)、実施 (do)、検討 (check)、修正のための実行 (action) のPDCAサイクルを利用し、給食対象者に適切な食事を提供することを学ぶ。講義・演習以外はクラスをグループに分け業務を分担して実習を行う。			栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方を理解しその実践力を養うことができる。				
教授方法	講義・演習と実習						
履修条件	学科指定の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	実習オリエンテーションを行う。大量調理における献立計画の基本、献立表の記載方法を学ぶ。						
2	大量調理における切り方の練習および機器の取り扱いについて学ぶ。						
3	特定給食施設の給与栄養目標量の算出、食品構成の作成について理解する。						
4	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
5	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
6	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
7	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
8	実習を振り返り、作業管理、衛生管理（大量調理施設衛生管理マニュアル、HACCP）、諸帳票類（栄養出納表ほか）について理解する。						
9	特定給食施設の献立作成について理解し、演習を行う。						
10	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
11	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
12	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
13	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
14	実習献立の栄養出納表を作成・評価し、献立作成演習を行う。						
15	嗜好調査、残量調査について学ぶ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験	50	試験形式で、特定給食施設や大量調理について理解できているかを評価する。		献立作成演習・実習	20	献立作成における栄養評価の確認、実習時における遅刻、身なり、作業の効率性などを評価する。	
提出物	20	実習報告書の提出、レポートの提出などを評価する。		授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①食材の仕入れ時期や価格について日頃から関心を持ってください。 ②食材を使用する際には、はかりで測ることを心掛け、目安量を把握できるように努力してください。[30分] ③大量調理では、食材を早くていねいに切ることが求められるので、包丁をうまく使えるように練習してください。[15分] ④実習前の準備や持ち物の確認をしてください。 ⑤実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。時間を確保して丁寧に記載してください。[30分]				課題及びレポートについては、内容に不備がある場合は添削後、再提出、返却を繰り返します。			
受講生に望むこと	授業中（実習も含む）の私語は慎んでください。調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行ってください。体調管理をしてください。			教科書・テキスト	『四訂 給食経営管理実習』井上明美・木村知子・平光美津子編著（株）みらい ISBN978-4-86015-186-7 『給食経営管理用語辞典（第2版）』日本給食経営管理学会監修 第二出版 ISBN978-4-8041-1339-5 『管理栄養士・栄養士必携 2017年度版』日本栄養士会 第一出版		
指定図書参考書等	日本人の食事摂取基準[2015年版] 第一出版 献立作成等で各自が必要と認めたもの			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FC210C 給食管理実習Ⅱ		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
給食管理実習Ⅰで学んだ知識をもとに計画（plan）、実施（do）、検討（check）、修正のための実行（action）のPDCAサイクルを活用し、給食対象者に適切で、豊かな食事を提供するため、自主的に実習する。給食の運営管理の理論を実践し、給食施設の栄養士業務の計画、実施、評価を体得し、給食施設を管理するための技能と栄養士の役割について学習することを目的とする。			①給食業務を行うために必要な食事の計画や、調理を含めた給食サービス提供に関する知識が理解できるようになる。 ②栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方を理解し、その実践力を身につけることができるようになる。				
教授方法	講義・演習と実習						
履修条件	学科指定の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	献立計画（対象別献立作成）を行う。						
2	調理作業計画：栄養管理（実施献立表と給与栄養目標量の評価・嗜好調査及び残食調査のまとめ）を理解する。						
3	調理作業計画：食材管理（食材日計表による材料費の評価・食材在庫管理）を理解する。						
4	食数管理（発注作業など）、栄養指導媒体作成を行う。						
5	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
6	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
7	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
8	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
9	評価、振り返り、栄養指導媒体作成を行う。						
10	食数管理（発注作業など）、調理作業計画、HACCP に基づく衛生管理チェックを理解する。						
11	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
12	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
13	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
14	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。						
15	振り返り、まとめを行う。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験	50	試験形式で、どれだけテキストの内容が理解できているかを評価する。		提出物	20	実習報告書の提出、レポートの提出など。	
献立作成、実習・演習の評価	20	献立作成において栄養評価の確認ができているか、実習時の遅刻、身なり、作業の効率性などを評価する。		授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①1年次に履修した「給食管理実習Ⅰ」の内容を復習し授業を受けてください。[30分] ②媒体作成等は、授業時間のほか授業外の学習時間を利用して丁寧に仕上げてください。[60分] ③実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。校外実習においても重要なため前向きに取り組んでください。[30分] ④実習前の準備や持ち物の確認をしてください。				課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返します。			
受講生に望むこと	グループ作業が多いため役割分担するので、常に協力して行う姿勢で取り組んでください。実習中の私語は慎んでください。調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行ってください。体調管理をしてください。			教科書・テキスト	『四訂 給食経営管理実習』井上明美・木村知子・平光美津子編著（株）みらい ISBN978-4-86015-186-7 『給食経営管理用語辞典』日本給食経営管理学会監修 第一出版 ISBN978-4-8041-1251-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会 第一出版		
指定図書参考書等	日本人の食事摂取基準 [2015年版] 第一出版			その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合がある。		

授業科目名	FC150C 食事計画実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	新澤 祥恵・田中 弘美・俣 万里子・三田 陽子					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>栄養士業務の基本となる食事計画の基礎的実践力を養うことを目標とする。この授業は、養成課程入学初期の学科目として授業を進める。まず、献立作成のために、食事摂取基準や食品成分表の基本の理解からはじめ、必要栄養量の設定や栄養価計算の基本技術の会得を目指し、さらに日常食の評価などにより、食事計画の基礎を学ぶ。特に、成人期の日常食を中心に献立作成から、調理へ実習を進めてその評価を行い、これをもとに、ライフステージを拡大しての食事計画へ進めたい。</p>			<p>①食事計画の意義と手順を理解できる。  ②食品成分表を用いて栄養価計算ができる。  ③必要栄養量を算出できる。  ④必要栄養量より食品構成を作成できる。  ⑤献立作成に必要とする調理に必要な食品やその使用目安量を把握できる。  ⑥日常食の評価ができる。  ⑦1日分から連続した数日分の献立作成を食品構成に基づいて作成できる。</p>			
教授方法	演習（献立作成等） 実習（調理） 講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食事計画実習の内容と意義：食事計画の意義とその手順を学修する。併せて、計算機の操作法も習得する。					全員
2	食品成分表と使い方①：食品成分表について学修し、その活用方法を理解する。					全員
3	食品成分表と使い方②：モデル献立の栄養価計算をすることにより、食品成分表の使い方を会得する。					全員
4	食品の目安量：食品の目安量や常用量を会得し、献立作成に必要な食品の数量化を学ぶ					全員
5	栄養必要量の算定：性、年齢、活動量などをふまえて個人の必要な栄養量の算定方法を学ぶ。					全員
6	食事の評価①：自身の食事内容を記録し、摂取栄養量の算出ができるよう数量化する技術を学ぶ。					全員
7	食事の評価②：食事記録より栄養価計算により、栄養量を算出する技術を学ぶ。					全員
8	食事の評価③：自身の必要栄養量を算出し、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。					全員
9	発表と意見交換：食事評価結果を発表し、意見交換を行うことにより、食事評価結果の表現方法を学ぶ。					全員
10	献立作成の基本－講義－：献立の形式、バランスのとれた献立に必要なこと、作成の手順など、献立作成に必要な基本的技術を学ぶ。					全員
11	基本献立の作成1：1食分の献立の作成方法を学ぶ。					全員
12	基本献立の作成2①：1日分の献立の作成方法を学ぶ。					全員
13	基本献立の作成2②：1日分の献立を作成・評価する技術を学ぶ。					全員
14	食品構成の作成①：必要栄養量より食品構成の作成方法を学ぶ。					全員
15	食品構成の作成②：必要栄養量より食品構成の作成方法を学ぶ。					全員
16	応用献立作成①：必要栄養量より、食料構成を作成し、連続した3日分の献立の作成技術を学ぶ。					全員
17	応用献立作成②：連続した3日分の献立の作成技術を学ぶ（栄養価計算）。					全員
18	応用献立作成③：連続した3日分の献立の作成技術を学ぶ（献立の評価）。					全員
19	調理実習献立の作成①：献立（1日分）作成を行い、調理実習のための食事を選ぶ。					全員
20	調理実習献立の作成②：献立より、料理のレシピを作成し、食品の購入計画を立てる技術を学ぶ。					全員
21	作成献立の調理：献立、レシピに沿って調理を行い、試食などにより、評価する。					全員
22	献立作成から調理実習の反省とまとめを行い、その結果を発表し、意見交換する。					全員
23						
24						
25						
26						
27						

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
28					
29					
30					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
各テーマにおける課題やレポート	90	授業内容の目的に応じて適切に作成されているか ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出	受講態度	10	授業参加意欲
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①家庭における食事の際、使用される食品、そこからできる料理に留意する。 ②様々な場面で提供される食事の内容に関心を持ち、記録する。 ③毎回の課題の整理[毎回30分]			レポートは返却する。		
受講生に望むこと	①各段階で出される課題に丁寧に取り組み、期限を守って提出する。 ②授業中は説明を良く聞き、課題等にはきちんと取り組む。		教科書・テキスト	『日本食品成分表七訂本表編』 医歯薬出版編 医歯薬出版 ISBN 978-4-263-70677-0 『調理のためのベーシックデータ』第4版 松本伸子監修 女子栄養大学出版部ISBN 978-4-7895-0317-4	
指定図書／参考書等	参考書 「栄養教育・指導演習」 関口紀子 編著 建帛社 「管理栄養士・栄養士必携」 日本栄養士会 第一出版 「日本調理」実習テキスト 「西洋調理」実習テキスト 「中華調理」実習テキスト 「調理と理論」 山崎清子他著 同文書院		その他・特記事項	なし	

授業科目名	FC220C 校外実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美・三田 陽子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
医療施設・学校・福祉施設など特定給食施設において、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を習得することが目的である。特定給食施設の実際を通して、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術・概要について理解するとともに給食の実務等を習得することをねらいとする。			①栄養士免許取得のために必要な専門科目の授業・実習で学んだ知識技術と、実際の現場で学んだ事柄の統合を図ることができるようになる。			
教授方法	講義及び実習					
履修条件	「1年次に開講された栄養士免許取得のために必要な科目」の単位を履修済みの者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	実習前の指導：実習に向けての心得。					田中
2	実習先：施設別給食組織の概要と特徴を理解する。					担当栄養士
3	実習先：施設別献立及び給与栄養目標量の算出について理解する。					担当栄養士
4	実習先：オーダーリングシステムを理解する。					担当栄養士
5	実習先：給食の食数管理を理解する。					担当栄養士
6	実習先：食材料管理を理解する。					担当栄養士
7	実習先：大量調理について理解する。					担当栄養士
8	実習先：機械、機具の取り扱いについて理解する。					担当栄養士
9	実習先：衛生管理について理解する。					担当栄養士
10	実習先：給食関係諸報告書等の作成について理解する。					担当栄養士
11	実習先：対象者に対する栄養教育及び栄養相談について理解する。					担当栄養士
12	実習先：対象者の嗜好、喫食状況を調査・集計する。					担当栄養士
13	実習先：対象者の栄養アセスメント・ケアプランを理解する。					担当栄養士
14	反省とまとめ					全員
15	実習報告会					全員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習先からの評価	60	担当栄養士による評価となる。		報告会の準備・発表	20	報告会の準備を積極的に行ったか。実習における反省を生かし、今後の課題を見つけ、社会に貢献しようとしているか。
事前レポート及び準備	10	積極的な取り組み姿勢であるかを評価する（事前訪問も含む）。		報告書の提出	10	実習後の整理がきちんとできているかを評価する（実習先へのお礼状を含む）。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
1年次に履修済みの栄養士免許取得に必要な科目の復習を十分行ってください。[30分] 図書館などを利用して疑問点を解決できるように努力してください。[30分]				課題及びレポートについては、内容に不備がある場合は添削後再提出、返却を繰り返します。		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生としての立場を忘れず意欲的に取り組んでください。</li> <li>・事前訪問で指示されたことはきちんと守ってください。</li> <li>・包丁がうまく使えるように努力してください。</li> </ul>			教科書・テキスト	『臨地・校外実習のてびき』木戸詔子・福井富徳編 ISBN978-4-7598-1195-7 『給食経営管理用語辞典』日本経営管理学会 第一出版 ISBN978-4-8041-1251-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会 第一出版 ISBN978-4-8041-1285-5	
指定図書参考書等	日本人の食事摂取基準 [2010年版] 第一出版 食事療養のための食品交換表 第6版 日本糖尿病学会編			その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等に問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合がある。 実習先の栄養士による評価が「不可」の場合は、単位認定されない。	

授業科目名	FS200C 食品の消費と流通		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	新澤 祥恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				
授業の概要			授業の到達目標				
食は人間の生命維持に不可欠であり、食料の安定供給は、我々の日常生活においては重要な課題である。今日、様々な技術の進歩により、食料の生産から消費者に至るまでの流通過程は拡大し、一方で、社会環境、生活環境の変化に伴い、消費者の食生活は大きく変容している。現在の我が国における食品の流通構造を理解し、そこからもたらされる様々な課題を考える。			①今日の食市場を理解する。 ②食品の生産から消費者に至る流通過程を理解する。 ③外食・中食産業を理解する。 ④フードマーケティングの考え方を理解する。 ⑤食料消費に関わる問題を理解する。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	食市場の変化1：豊かな食生活を支える食市場の理解						
2	食市場の変化2：食品消費の変化と食生活の多様化の検証						
3	卸売流通を理解する						
4	小売り流通を理解する						
5	外食・中食産業のマーチャンダイジングを理解する						
6	商品の分類における食品の位置づけを理解する						
7	個々の主要食品の流通を理解する1						
8	個々の主要食品の流通を理解する2						
9	個々の主要食品の流通を理解する3						
10	フードビジネスとフードマーケティングを理解する						
11	食料消費における環境問題を理解する						
12	食品流通の安全確保の仕組みを理解する						
13	食料消費を取り巻く課題を理解する						
14	食と農・水産業の課題を考える						
15	これからの食品の消費の在り方考える						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	70	記述式として記載内容の適切度を評価する		授業参加	30	毎授業への取組姿勢	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
①テキストにより、事前に学習内容の把握をする ②授業内容をまとめる [各30分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①資格試験科目の授業として、テキストの内容を確実に理解し、修得すること ②様々な統計資料などに関心を持つこと				毎回の小テストは次の授業で返却・解答			
受講生に望むこと				教科書・テキスト	『三訂食品の流通と消費』日本フードスペシャリスト協会 建白社 ISDN：978-4-7679-0538-9 C3077		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FS210C フードコーディネータ論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				
授業の概要			授業の到達目標				
現代の「食」の営みの環境は流動的に変化しており、それに対応するためにもフードビジネスの担い手となるフードスペシャリストが期待される。フードコーディネータ論では、食文化、調理文化、礼儀作法を始め、食に関連したコーディネータの基本知識を学び、消費者の視点に立った快適な食全般を提供できることを目指す。			①授業を通して、食に関するコーディネータに必要な知識の習得と実践力を身につけることができるようになる。 ②食生活の諸問題を広い視野に立って考え、解決しようとすることができるようになる。				
教授方法	テキスト及び配布資料による講義。DVD 視聴もある。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	五感によってとらえられる生理的なおいしさ、その他、おいしさに及ぼす影響、おいしさの本質を理解し、ホスピタリティやアメニティについて学び、フードコーディネータの基本理念であるもてなしの心について理解する。						
2	食事とは何かを概観したうえで、日本人の食生活の歴史的な成り立ちを学ぶことを通して、人間の食事は単に生命維持のためばかりではなく、文化的社会的に大きな役割を担うものであることを理解する。						
3	世界の国々の食事の特徴や進行しつつある食のフュージョン（融合）やスローフード運動などのついて考え、日本人の食事がどのように変化しながら現代に至ったかを理解する。						
4	日本料理、中国料理、西洋料理について、各料理様式の基本的な食器・食具などのテーブルウェアと食卓のコーディネータ（テーブルコーディネータ）を理解する。						
5	食卓のコーディネータでは、6W3H にふさわしい食事・料理形式に適した食卓のスタイルを構成することを理解する。また、食器・食具の配置（テーブルセッティング）については、国によってそれぞれの決まりごとがあるので、それらの基本知識を身につける。						
6	食卓におけるホスピタリティの精神の重要性及びサービスとマナーについての基本理念と学び、日本、中国、西洋の各料理のサービスとマナーの特徴を理解する。						
7	第 6 回に引き続き、日本、中国、西洋の各料理のサービスとマナーの特徴を理解する。						
8	ディナーとブッフェ形式およびワインについてやパーティの種類とパーティプランニングの基本事項を理解する。						
9	献立と献立を構成する料理内容の企画立案であるメニュープランニングの目的を学び、各国の料理様式の基本構成を理解する。						
10	第 9 回に引き続き、各国の料理様式の基本構成を理解する。						
11	食空間のコーディネータの基礎を学び、食空間を売り場、食事空間、キッチンに区別した素ぞれに対応したコーディネータを理解する。						
12	食空間のコーディネータの基礎を学び、食空間を売り場、食事空間、キッチンに区別した素ぞれに対応したコーディネータを理解する。						
13	フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本についての概要を理解したうえで、フードサービス店舗（レストラン）の企業を前提にして、コンセプトの作成について理解する。						
14	フードサービス店舗（レストラン）の企業を前提にして、立地選定、店舗選定、投資計画・収支計画の作成、損益分岐点売上高の算出などを事例を通して理解する。						
15	実践現場における食企画の基本的な流れと企画を実践するための必要不可欠な基礎スキルについて理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験	60	試験形式で、どれだけテキストの内容が理解できているかを評価する。		レポート課題	30	テキストの内容に応じた課題に対する取り組み姿勢を評価する。	
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[30分] ②フードサービスが身近に感じるデパートなどの食品売場を題材にしてレポート課題に取り組むときは、自分の目で見たり聞いたり調べたりしてください。[30分] ③図書館を利用し、教養を身につけ視野を広げる努力をしてください。[30分]				授業に関する確認問題を行い、次回に返却します。 質問には随時応じます。			
受講生に望むこと	毎日の生活に活かすことのできる内容ですから、自分の生活に取り入れてください。 関連することや興味を持ったことを調べるなど、知識を広げていく努力をしてください。			教科書・テキスト	『三訂 フードコーディネータ論』（社）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2012年 ISBN978-4-7679-0440-5		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FS100C フードスペシャリスト論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>フードスペシャリスト論では、フードスペシャリストの意義とその概要、さらにその活用について理解する。また、他の科目の殆ど扱われてはいない項目でも、フードスペシャリストとして備えるべき知識をとして身につけてもらいたい。本講では、食文化とその変遷、食品産業、食品の品質規格と表示、食情報と消費者保護制度などについて社会的、歴史的な背景も含めて幅広く理解を深め、同時に学んだ知識を使いこなす能力を養う。</p>			<p>本講では、フードスペシャリストが学ぶべき専門科目の概要についての理解とフードスペシャリストが持つべき基礎知識や考え方を身につけることを目標とする。</p>				
教授方法	テキスト及び配布資料を使った講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	フードスペシャリストの概念、業務、活躍分野などについて理解し、フードスペシャリスト資格を活かした仕事に対する自覚と責任を理解する。						
2	フードスペシャリストの養成と資格に関する制度を理解する。健全な食産業への貢献を実践するための知識や考え方を習得する。						
3	フードスペシャリストが食育を実践するために必要な知識や考え方を習得する。						
4	健康と快適な食生活、食育、健全な食産業ならびに地球環境改善に貢献するためにフードスペシャリストが果たす役割について学習する。						
5	人類の食物史、食品加工保存技術に関するこれまでの歴史を理解する。						
6	フードスペシャリストとして、グローバル化の現代にも対応できるように世界の食事情について、世界各地の食作法、宗教による食にまつわる禁忌、よく食べられる食材や重要な食糧について学習する。						
7	日本人の食生活の変遷や「新しい食」の起源を理解する。また、気候や風土によって食文化は大きく異なることや、伝統食、伝統野菜、独特の調味料など、それらの特色を学習する。						
8	戦後から現在における食生活の変化や現在の日本における食生活の特徴や消費生活、食糧自給、環境と食との関わりなどを理解し、現代や将来の日本に適した食生活について考える。						
9	外食産業、食品流通、食品製造業などの食品に関わる産業の社会的役割を理解する。						
10	食品の品質規格や表示に関わる制度、JAS（日本農林規格）の規格、表示について理解する。						
11	食品衛生法による規格とそれに基づく表示について理解する。健康増進法の制度や規格・表示について理解する。また、Codex 規格について、日本における食品の規格や表示制度などとの関連を中心に理解する。						
12	食品の安全について、食品添加物の安全基準、表示、添加物に使用される物質の特徴について理解する。消費者保護制度について理解する。						
13	食品情報の管理、食情報の有効利用について考える。また、食情報の氾濫による危険性を理解する。						
14	フードスペシャリスト資格認定試験に関連する問題演習によって、フードスペシャリスト論の内容について理解を確実にする(1)。						
15	フードスペシャリスト資格認定試験関連する問題演習によって、フードスペシャリスト論の理解を深めていく(2)。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	試験は授業内容及び認定試験に頻出の内容から出題し、理解度により評価します。		受講態度	20	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
授業後はテキストを読み、内容の確認と理解をする。[30分]また、授業内容と関連する認定試験過去問題を行うことで知識の定着や理解が確実になる。食文化や食に関する問題や事件に関する新聞記事や食産業の業界紙、雑誌などに触れることも授業内容の理解を深めることに役立つ。[30分]				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
				特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。			
受講生に望むこと	本科目の理解が他の科目の理解の助けになります。またその逆もありますので、他の科目の内容との関連についても考えながら授業に取り組んで下さい。			教科書・テキスト	『四訂 フードスペシャリスト論 [第3版]』（公社）日本フードスペシャリスト協会 編 健帛社 2016年 ISBN 978-4-7679-0573-0		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FS220C 官能評価・鑑別論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	三田 陽子					
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>食品評価の方法には理化学的測定（化学的・物理的）によるものと官能評価がある。現代の食環境は多種多様な食品が流通しており、食品を適切に評価するための知識や技能も多岐にわたっている。この授業では、食の専門家として適切な食品選択が出来るように、食品の評価の中でも官能検査、化学的評価、物理的評価を学ぶ。さらに各食品ごとの鑑別法について理解を深める。</p>			<p>①官能評価の特徴と方法について理解している。  ②食品そのものを評価するための基準や指標がわかる。  ③食生活の様々な場面で、適切な評価の方法をあてはめて考えることができる。  ④消費者の食品選択において適切な助言をするための知識を習得している。</p>			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食品の品質とは：食品の特性と品質について理解する。					
2	官能評価とは：官能評価の意義と問題点について理解する。					
3	官能評価の実施法：官能評価を実施する際の、パネル構成、試験の管理、手法の選択などを理解する。					
4	官能評価の手法（演習）①：2点比較法（クッキー、紅茶）を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。					
5	官能評価の手法（演習）②：3点比較法（りんごジュース）を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。					
6	官能評価の手法（演習）③-1：評点法（チョコレート）を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。					
7	官能評価の手法（演習）③-2：実験結果から平均値と標準偏差を求め、評点法の解析方法について理解を深める。					
8	官能評価の手法（演習）③-3：分散分析を行い、評点法の解析方法について理解を深める。					
9	化学的評価①：食品の品質としての水分と色を学び、食品成分と品質との関係について理解する。					
10	化学的評価②：食品の糖度及び酸度や魚の鮮度、油脂の変敗度を学び、食品の品質を化学的に評価する方法を理解する。また、近年登場した新しい評価法を学ぶ。					
11	物理的評価①：食品の物理的な状態について理解する。					
12	物理的評価②：食品のレオロジー、テクスチャーについて理解する。					
13	まとめ①：官能評価を総合的に理解する。					
14	まとめ②：化学的評価、物理的評価を総合的に理解する。					
15	個別食品の鑑別法①（米）：米の品質評価について理解する。					
16	個別食品の鑑別法②（麦）：麦類の品質評価について理解する。					
17	個別食品の鑑別法③（トウモロコシ、雑穀、イモ類）：トウモロコシ、雑穀、イモ類の品質評価について理解する。					
18	個別食品の鑑別法④（豆類、種実類）：豆類、種実類の品質評価について理解する。					
19	個別食品の鑑別法⑤（野菜類、キノコ類）：野菜類、キノコ類の品質評価について理解する。					
20	個別食品の鑑別法⑥（果実類、海藻類）：果実類、海藻類の品質評価について理解する。					
21	個別食品の鑑別法⑦（魚介類）：魚介類の品質評価について理解する。					
22	個別食品の鑑別法⑧（肉類、卵とその加工品）：肉類、卵とその加工品の品質評価について理解する。					
23	個別食品の鑑別法⑨（乳と乳製品）：乳と乳製品の品質評価について理解する。					
24	個別食品の鑑別法⑩（油脂類、菓子類）：油脂類、菓子類の品質評価について理解する。					
25	個別食品の鑑別法⑪（酒類、茶類、コーヒー・ココア、清涼飲料）：酒類、茶類、コーヒー・ココア、清涼飲料の品質評価について理解する。					
26	個別食品の鑑別法⑫（醸造食品、調味料、香辛料）：醸造食品、調味料、香辛料の品質評価について理解する。					
27	個別食品の鑑別法⑬（その他食品）：インスタント食品、機能性食品などの品質評価を理解する。					

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
28	まとめ③個別食品の鑑別について総合的に理解する。				
29	まとめ④フードスペシャリスト業務における官能評価と食品鑑別の意義を理解する。				
30	まとめ⑤栄養士業務における官能評価と食品鑑別の意義を理解する。				
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
筆記試験	40	官能評価、化学的評価、物理的評価、食品の鑑別についての理解度	実験レポート	30	実験の内容を理解しまとめているか
課題	20	授業の内容を理解しまとめているか	授業参加態度	10	必要なものを準備し、積極的に参加する姿勢が見えるか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
予習：教科書を読み、重要語句を整理する。[20分] 復習：教科書、配布資料を確認しながら理解を深める。[30分]			提出されたレポートや課題は確認作業が終わり次第返す。課題によっては返却しないものもある。		
受講生に望むこと	日常生活の中で、食品の品質に関心を持ち、授業で学んだことを応用することに挑戦して下さい。		教科書・テキスト	「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2014年 ISBN：978-4-7679-0367-5	
指定図書／参考書等	なし		その他・特記事項	なし	

授業科目名	FT200C 学校栄養教育論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 弘美・宮丸		慶子・堀 栄子 (代表教員 田中 弘美)				
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>栄養士と教員の資格を併せもつ栄養教諭の役割と職務について学ぶ。栄養教諭が食に関する授業を行うにあたって必要な理論や知識を学ぶ。それには、学校給食の歴史・変遷や給食を「生きた教材」とするために日本の食文化も理解する。加えて、児童・生徒の発達や健康状態の把握と実態に合わせた効果的な授業の工夫が必要であり、学校組織としての取り組みを考える全体計画、また家庭や地域との連携・調整も必要であることなどを学ぶ。</p>			<p>栄養教諭の役割と職務内容である「学校給食の管理」と「食に関する指導」を理解する。  ①栄養教諭制度および食育基本法を理解し、栄養教諭の役割の重要性を理解する。  ②「学校給食の管理」では、栄養管理、衛生管理、物品管理を理解する。  ③「食に関する指導」では各教科や道徳・特別活動、総合的な学習の時間、給食の時間と食に関する指導内容との関わりを理解する。  ④食に関する全体計画作成とその展開を理解し、「生きた教材」としての給食の意義を知る。</p>				
教授方法	講義及び演習						
履修条件	「1年次に開講された栄養士免許取得のために必要な科目」の単位を履修済みの者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	栄養教諭誕生の背景と意義（食に係わる法令、諸制度、国民栄養の現状について）を理解する・					宮丸	
2	児童・生徒の食に関する指導の現状と課題を学ぶ。					宮丸	
3	日本と世界の食文化とその歴史（学校給食の歴史と意義を含む）を学ぶ					宮丸	
4	栄養教諭の職務内容、使命、役割について理解する。					堀	
5	学校給食等施設における栄養管理、衛生管理、物品管理について理解する。					田中	
6	給食の時間における食に関する指導について学び、理解する。					田中	
7	家庭科における食に関する指導について学び、理解する。					田中	
8	保健体育科における食に関する指導について学び、理解する。					堀	
9	道徳・特別活動における食に関する指導について学び、理解する。					堀	
10	総合的な学習の時間における食に関する指導について学び、理解する。					堀	
11	学校・家庭あるいは学校・地域が連携した食に関する指導（アレルギー、肥満傾向等の個別指導の在り方を含む）について学び、理解する。					堀	
12	食に関する指導とその方法 演習①食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う）					宮丸・堀・田中	
13	食に関する指導とその方法 演習①食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う）					宮丸・堀・田中	
14	食に関する指導とその方法 演習④食に関する指導案の発表と相互評価を行う。					宮丸・堀・田中	
15	食に関する指導とその方法 演習④食に関する指導案の発表と相互評価と全体のまとめを行う。					宮丸・堀・田中	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験	30	設問を理解した解答がされているか。		演習	30	発表の意欲・内容と相互評価への参加態度	
レポート課題	20	学び取った内容が自分の言葉で表現されているか。		授業参加意欲	20	指導案作成・教材作成への意欲	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[30分] ②集中講義の開講前に指定図書のリポートを提出してください。[30分] ③指導案作成、教材作成は授業時間も確保しますが、授業外の学習時間をしっかり確保してください。[60分]				指導案作成や教材作成のサポートをします。 授業に関する質問には随時応じます。			
受講生に望むこと	1年次に履修した「教育者論」、「教育方法論」を復習し、教育実習生として授業を行うことを自覚した授業参加姿勢を望みます。			教科書・テキスト	「学校栄養教育概論」 上田伸男編著 化学同人 ISBN978-4-7598-1071-4、「小学校学習指導要領」文部科学省編 東京書籍 ISBN978-4-487-28695-9、「中学校学習指導要領」 文部科学省編 東京書籍 ISBN978-4-8278-1461-3		
指定図書参考書等	指定図書：「学校見聞録 学びの共同体の実践」 佐藤学 小学館 参考図書：「食に関する指導の手引」 文部科学省			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FT100C 教育者論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	村上 吉春						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、教職の意義や教師の心構え、学校のしくみなど、学校教育の概要を把握し、他の教職科目をより深く学ぶための入門科目である。学生は将来教職を目指す者として、学校の教育活動や指導者として必要な資質・能力等を理解するために、教職の意義、教育の目的、学習指導要領、学校の組織編成、生徒指導等について、講義および演習を通して学ぶ。			①教職の意義や教員としての職責、必要な資質・能力を理解し、教職に対する意識を高める。 ②学校教育の目的や目標、学習指導要領の位置づけを理解する。 ③学校の教育活動の全体像を理解するとともに、指導に必要な基礎・基本の知識や技術を習得する。				
教授方法	講義、グループワーク、レポート作成並びに演習等						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション及び教職の意義 科目の到達目標、評価方法等について知るとともに、教職の意義を理解する。						
2	栄養教諭と教育委員会制度 進路選択肢としての栄養教諭採用のしくみ、任用・配置、教育委員会制度について理解する。						
3	教員の種類と職務 校長、教頭、栄養教諭など様々な職種及び職務（主任）内容について、校種間差も含めて理解する。						
4	教員免許制度 免許の種類や校種区分等について免許法の規定を学ぶとともに、教員免許改革の方向性についても理解する。						
5	学習指導要領と学校教育 学習指導要領の概要を学ぶとともに、その法的拘束性や基準性などを理解する。						
6	学校教育の目的と教師に求められる資質・能力 学校教育の目的や目標並びに今後の教員に求められる資質・能力を理解する。						
7	学校の組織と校務分掌 学校の組織がどのように編成されて機能しており、校務分掌とは如何なるものかについて理解する。						
8	教育活動の理解 参観課題を設定した上で小学校の授業参観を行い、まとめレポートの作成を通して指導上の工夫を学ぶ。						
9	生徒指導の基礎理解① 生徒指導の目的、方法、内容等の基本的な事項を学び、学校教育が直面する生徒指導課題を理解する。						
10	生徒指導の基礎理解② 教育上の特別な支援が必要な児童生徒に対する指導の基本など、特別支援教育について理解する。						
11	高等学校教育の特性 高校教育における課程の違いなど教育の特性と当面する教育課題について理解する。						
12	学習指導案の基礎知識 栄養教諭が作成する食育の学習指導案について、形式や記載内容など基本的な事項を理解する。						
13	給食指導模擬授業 試作した給食指導案に基づいて模擬授業を行い、初歩的な授業体験を通して指導法を実践的に学ぶ。						
14	教育法規① 教員の研修について学び、教員に課される基本的な義務としての研修の重要性や研修体系を理解する。						
15	教育法規② 教員の服務や任用について学び、職業人としての教員の職責や基本的な権利を理解する。また、履修カルテの入力を通して、1年次前期終了時点での指導力を自己分析しレポートにまとめる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポートおよび演習成果	50	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容、模擬授業等での演習成果		小レポート	30	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容	
予習及び授業への参加	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋予習状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①毎回、次時に予定する学習範囲の該当ページを指示するから、テキストで予習して出席のこと。その際、意味不明な用語や内容は授業で質問できるようにチェックのこと。なお、予習記録は定期的に提出を求める。[45分] ②原則として、毎回提出を求める課題レポート等は、期限を厳守すること。[90分]			提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。				
受講生に望むこと	レポート重視のため課題レポートや小レポートの提出回数が多くなるが、指示に従って期限厳守で提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書くことが重要である。同時に、授業では自分の意見を述べることや質問できることを歓迎する。		教科書・テキスト		『教職論（第2版）教員を志すすべてのひとへ』ミネルヴァ書房 教職問題研究会編 ISBN 978-4-623-05305-6 desu.		
指定図書参考書等	なし／中学校学習指導要領（文部科学省）東山書房 2008 ISBN 978-4-8278-1461-3、小学校学習指導要領（文部科学省）東京書籍 2010 ISBN 978-4-487-28695-9		その他・特記事項		学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。		

授業科目名	FT110C 教育原理		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	辻 直人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>教育学とは、歴史的にどのような課題を追究してきた学問なのだろうか。「教育」は誰もが主体的経験を持っている行為である。そのため、自らの経験から教育をイメージしやすい。しかし教育は時代と共に様々な要求を受け、また課題に応じて変化してきた側面がある。一方で、本質的に時代を超えて受け継ぐべき課題もあると考えられる。本講義では、これまでの教育学が射程としてきた課題を整理し、受講者各自の持つ教育観を自覚的に反省しながら、教育的行為の本質を考察していく。この授業を通して得た知見をもとに、現代の教育問題を読み解く視座の習得を目指す。</p>			<p>①いくつかの教育観の違いについて説明できる。 ②現代社会の教育に求められている傾向に対して、授業内容を参考にして自分なりの意見を述べられる。 ③自らの教育観を絶えず問い直す姿勢を持つ。</p>				
教授方法	講義中心だが、グループディスカッションや報告の場も作る。また、毎回授業終了時に、授業にまつわる課題について用紙に記入し提出すること。						
履修条件	教職課程登録者に限る						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、「教育」は誰のためのものか？ 教育の目的は何か？						
2	教育的行為の本質① 飼育者と動物の関わりから教育の本質を探る						
3	教育的行為の本質② 「Education＝教育」？言葉の意味を探る						
4	教育的行為の本質③ 教育から学びへ 学びが深まる時とは（学びの必然性、当事者性について）						
5	教育的行為の本質④ 学ぶこと、わかること、変わること						
6	教育制度・場所・環境① 古代の教育思想：大学教育の目的						
7	教育制度・場所・環境② ルソー『エミール』の教育史的意義：「子ども」の誕生とライフサイクル論						
8	教育制度・場所・環境③ ペスタロッチ、フレーベル：庶民の教育、幼児教育の発展						
9	教育制度・場所・環境④ 公教育制度（学校制度）の確立、拡大と限界						
10	教育制度・場所・環境⑤ 新教育運動の登場						
11	教育制度・場所・環境⑥ 家庭と地域：教育環境について						
12	教育問題・逸脱行動は何故起こるのか：学校制度の行き詰まりと今後のあり方について						
13	教師の役割について						
14	キリスト教と教育						
15	教育に希望は語れるのか：教育の語る「希望」とは何か						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間課題	40	①授業内容について、正確に理解している。 ②授業であつた様々な教育観に対して、自分なりの見解を言うことができる。		定期試験	40	①授業内容について、正確に理解している。 ②授業であつた様々な教育観に対して、自分なりの見解を言うことができる。	
小課題	10	①授業を自分の言葉として捉えることができる。 ②与えられた質問や課題に即して回答している。		授業態度	10	①積極的に授業に参加している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業中指示した教科書の該当箇所を、予習復習としてよく読み理解すること。分からない語句は各自調べておくこと[20分]。毎回の授業終了時に課題を出すので、期日までに自分の考えをまとめて提出すること[30分]。</p>				<p>リアクション・ペーパーは毎回コメントを入れて返却する。また、代表的な内容に対しては授業で触れる。中間試験は返却の上解説する。その他、授業への質問はいつでも受け付ける。</p>			
受講生に望むこと	毎回授業終了時に渡す小課題用紙の記入や、授業中にもグループワークなどを取り入れるので、積極的な参加態度を求める。常に自らの教育観を問い直す姿勢を持って、授業に臨んで欲しい。自らの言葉で教育を語れるようになって欲しい。			教科書・テキスト	『新・教育課程シリーズ 教育理念・歴史』田中智志・橋本美保編、一藝社、2013年、ISBN:978-4-86359-057-1		
指定図書参考書等	なし／『人間と教育を考える－教育人間学入門－』田井康雄編 学術図書出版社 2003年 ISBN:4-87361-767-7、『教育学入門』藤田英典他 岩波書店 1997年 ISBN:4-00-003959-8			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FT120C 発達心理学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	中谷 智一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>栄養教諭の資格取得を目指す学生の必修科目である。人間の発達（継時的変化）について理解し、各発達段階における発達の諸様相を知り、それらの各発達段階での問題と援助の在り方について考える。</p>			<p>人間の発達のな変容やその意味を理解し、ライフステージの各男系での心身の様相や機能の変化の過程とその規定要因について知り、幼児・児童及び生徒の心身の発達や学習の過程とそれに伴う諸問題について理解できるようになる。</p>				
教授方法	講義の形式をとる。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションとクラスルール						
2	発生・出生・発達とアタッチメント・ホスピタリズム：養育者の存在の重要性						
3	発達課題：それぞれの発達段階でやっておかなければならないこと						
4	各発達段階での大人と子供の関係：大人と子どもの関係は変化していく						
5	ここまでの「おさらいと確認」＝人生初期の発達の重要性						
6	第4回目の授業の深まり＝発達に伴う親子関係の変化：「親＝自分の一部」から「他者」へ						
7	遊びと仲間集団の発達＝発達readinessと早期教育の危険性						
8	通過儀礼：次の発達段階へ移行する際の儀式						
9	第7回目の授業の深まり＝子どもの集団とは？						
10	互恵性と言語の獲得：言葉の内的的操作＝思考の発達						
11	数の保存：具体的操作段階から形式的操作段階へ						
12	児童期以降、繰り返し行われる作業：自己の形成と修正						
13	自己概念と自己受容						
14	自己実現						
15	まとめとふりかえり						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への積極的参加	50	授業中や授業外での質問の回数とその内容など		期末論述試験	50	相互的理解	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>予習の必要はないが、授業後に「何が話されたのか？」について振り返る時間を持つことを要求する。[30分]</p>				随時行う			
受講生に望むこと	自分や兄弟・親がどのように育ってきたのかについて授業のたびに思い起こしてほしい。			教科書・テキスト	使用しない。教員自作のレジメを使用する。		
指定図書参考書等	指定しないが、興味深い文献や報道などがあれば授業中にその都度紹介する。			その他・特記事項	なし。		

授業科目名	FT130C 教育方法論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	村上 吉春						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、実際の授業展開に必要な教育方法・技術を学ぶ科目である。具体的には、授業づくりの基礎理論、学習指導案の構成、学力をめぐる現状と課題などを学ぶ。また、レポート作成、グループワーク等を併用して、学んだ内容を実際の授業や指導に活かせるよう知識・技術の定着を図る。			①児童・生徒の積極的な学びを引出す基本的な指導法を理解する。 ②学習指導案作成に必要な基本的事項を理解する。 ③学力をめぐる教育の現状と今日的課題を適切に把握する。				
教授方法	講義、グループワーク、レポート作成						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション 到達目標、評価方法、レポート提出の方法等を知り、前期の教職科目における学びを後期で深める。						
2	学習指導の原理と形態 問題解決学習と系統学習、一斉学習とグループ学習等を対比しながら、それらの特性を理解する。						
3	授業デザイン① 授業をデザインするためのテーマの設定、教材の選択から授業展開に至るまでのプロセスを理解する。						
4	授業デザイン② 授業を展開するとはどのようなことか、導入、展開、整理の一連の流れを通して理解する。						
5	学習指導案と授業づくり① 学習指導案の形式や記載が必要な項目、それらの記載内容等を精査して理解する。						
6	学習指導案と授業づくり② 実際に、簡略な学習指導案（給食指導）の作成を通して、指導案づくりに慣れる。						
7	教育評価① 指導と評価の一体化に関わって、評価の種類や目的、効果的な評価の在り方などを理解する。						
8	教育評価② 指導要録と通知表、調査書などについて、それらの機能や特性を理解する。						
9	授業から学ぶ① 優れた授業展開をAV教材を通して学ぶとともに、どうしたら上手に取り入れることが出来るかを考える。						
10	授業から学ぶ② 優れた授業をAV教材で学ぶとともに、その指導案の復元を通して、指導案づくりをより深く理解する。						
11	教育実践理解① 参観課題を設定した上で学校の教育活動を参観し、学んだことを課題レポートにまとめる。						
12	教育実践理解② 参観課題を設定した上で学校の教育活動を参観し、学んだことを課題レポートにまとめる						
13	学力の現状と課題① わが国の児童・生徒がめざす学力の現状について、国際比較を含めて実態を理解する。						
14	学力の現状と課題② 児童・生徒に身に付けさせたい学力と、実現に向けての課題を理解する。						
15	情報化時代の授業づくり 時代の変化に対応して、AV機器等を利用した授業の効果や課題について理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポートおよび演習成果	50	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容、グループ協議等における成果		小レポート	30	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容	
予習及び授業への参加	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋予習状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回、次時に予定する学習範囲の該当ページを指示するから、テキストで予習して出席のこと。その際、意味が不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。なお、予習記録は定期的に提出を求める。[45分] ②原則として、毎回提出を求める課題レポート等は、期限を厳守すること。[90分]				提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。			
受講生に望むこと	レポート重視のため課題レポートや小レポートの提出回数が多くなるが、指示に従って期限厳守で提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書くことが重要である。同時に、授業では自分の意見を述べることや質問できることを歓迎する。			教科書・テキスト	『教育方法の理論と実践』小川哲生・菱山覚一 著 明星大学出版部 2011 ISBN 978-4-89549-154-9		
指定図書／参考書等	なし／教育内容・方法 根津ほか 培風館 2014 ISBN 978-4-563-05853-1 模擬授業・場面指導 野口芳宏 一ツ橋書店 2013 ISBN 978-4-565-15391-3			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。		

授業科目名	FT140C 教育課程論(特別活動・道徳を含む)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	村上 吉春・辻 直人					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>教育者論での総論的学習に続く、各論の学習開始に位置づく科目の一つである。教育課程編成の意義やねらいの学習に続いて、教育課程の必須の内容である道徳及び特別活動について、特に栄養教諭による食育との関わりにおいて、その内容を学習する。道徳の内容では食育の指導目標の一つである感謝の心、社会性の育成につながる指導を、また、特別活動にあつては、学習指導要領上で給食が位置づけられている学級活動に重点を置いて学ぶ。</p>			<p>①教育課程編成の意義を理解し、栄養教諭が行う食育と道徳・特別活動との関わりが理解できる。 ②5分間給食指導の模擬授業をとおして、栄養教諭が教育課程内で行う食育指導を実践的に理解できる。</p>			
教授方法	講義、グループワーク、レポート作成					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育課程編成のねらいと意義 オリエンテーションに続いて、教育課程の構成や内容等を、指導要領の規定をとおして学ぶ。					村上
2	特別活動の位置づけ 特別活動の学習指導要領及び教育課程上の位置づけと、何を目的とする活動であるかを理解する。					村上
3	特別活動の種類と目標 特別活動がいくつかの種類で構成され、それらがどのような目標の下に展開されるかを理解する。					村上
4	特別活動の教育的意義と食育との関わり 特別活動がもつ教育的意義を学ぶとともに、食育とどのように関わるかを理解する。					村上
5	学級活動(ホームルーム活動)の内容と特性 毎週実施される学級活動の内容や他の特別活動との違い(特性)を理解する。					村上
6	道徳教育はなぜ必要か なぜ道徳を教科にする必要があるのか、その目的は何かを考え理解する。					辻
7	道徳教育の歴史と現状 道徳教育が日本の学校教育においてどのように行われてきたのか、その歴史経緯を学び、道徳教育の目的や方法の変遷を理解する。					辻
8	学習指導要領と教材の検討 現行学習指導要領が定める道徳教育の目標と、それを基にして開発された教材の特徴について理解を深める。					辻
9	道徳教育方法論の検討 道徳教育の方法も様々に開発が進んでいる。複数の道徳教育方法論を学ぶことで、現代社会における道徳教育の在り方について検討する。					辻
10	クラブ活動、児童(生徒)会活動の内容と特性 クラブ及び児童(生徒)会活動の内容と特性を、校種別に対比して理解する。					村上
11	学校行事の内容と特性 必要に応じて実施される学校行事の内容や他の特別活動との違い(特性)を理解する。					村上
12	学級活動「食育」模擬授業① 5分間給食指導模擬授業を行い、意見交換を通して食に関する指導への実践的な理解を深める。					村上
13	学級活動「食育」模擬授業② 5分間給食指導模擬授業を行い、意見交換を通して食に関する指導への実践的な理解を深める。					村上
14	「食育」模擬授業と評価 給食指導の模擬授業実施後にルーブリック評価を行ない、評価についても実践的に理解を深める。					村上
15	指導力の確認 履修カルテの入力結果を基に、1年次終了時点での指導力の定着状況を自己分析し、レポートにまとめる。					村上
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
課題レポートおよび演習成果	60	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容、模擬授業等の演習における成果		小レポート	20	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び授業への参加	20	授業への能動的な参加(発言・応答)+グループ活動等における積極的な役割分担+予習状況				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>①毎回、次時に予定する学習範囲の該当ページを指示するから、テキストで予習して出席のこと。その際、意味が不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。なお、予習記録は定期的に提出を求める。[45分] ②原則として、毎回提出を求める課題レポート等は、期限を厳守すること。[90分]</p>				<p>提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。</p>		
受講生に望むこと	レポート重視のため課題レポートや小レポートの提出回数が多くなるが、指示に従って期限厳守で提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書くことが重要である。同時に、授業では自分の意見を述べることや質問できることを歓迎する。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領』(文部科学省)東京書籍 2010 ISBN 978-4-487-28695-9	
指定図書参考書等	なし/特別活動 林尚示 培風館 2013 ISBN 978-4-563-05855-5 特別活動研究 高橋ほか 教育出版 2012 ISBN 978-4-316-80245-9			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	

授業科目名	FT210C 教育相談（生徒指導法を含む）		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	中谷 智一・村上 吉春（代表教員 中谷 智一）					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
生徒の健全な成長を援助するための学校の営為としての教育相談の基本概念から、生徒指導・進路指導・「開発的教育相談」・「予防的教育相談」・「問題解決的教育相談」などまでを概観する。			相談とはどういうものか、を理解できるようになる。そのためにどのような配慮が必要か、またどのように他の教員と連携していくのか、校長・教頭との関係、生徒指導や養護教諭との関係などについても知識を得て、協働できる準備ができるようになる。			
教授方法	講義・授業参観・ロールプレイング・ディスカッション					
履修条件	発達心理学					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
第1回	教育相談とは何か？「教育相談」ができた背景から学ぶ。					中谷智一
第2回	教育相談と生徒指導：ともすれば対立しているように受け取られがちな両者について。					中谷智一
第3回	教育相談の基本：何が本当の基本なのか？について考える。					中谷智一
第4回	生徒理解の方法①：具体的にどのように生徒と向かい合うのか？について考える。					中谷智一
第5回	生徒理解の方法②：様々な手法がある。それらの概観と考え方の基本を学ぶ。					中谷智一
第6回	生徒援助の方法①：学校内のいろんな教職員の担当について理解する。					中谷智一
第7回	生徒援助の方法②：学校内外にある「社会資源」の活用について考える。					中谷智一
第8回	生徒指導実践理解①：中学校における授業参観を通して、教科指導における生徒指導の手法を実践的に理解する。					村上吉春
第9回	生徒指導実践理解②：いくつかの生徒指導課題について、その指導法をロールプレイングを通して実践的に理解する。					村上吉春
第10回	生徒指導の教育法規：生徒指導にかかわる教育法規の内容を具体例を通して理解する。					村上吉春
第11回	問題行動への対応①：様々な問題行動の実態・原因・対応等の現状について理解する。					村上吉春
第12回	問題行動への対応②：学校におけるいじめ・不登校の実態と原因・指導上の留意点について理解する。					村上吉春
第13回	問題行動の意味：様々な問題行動にはそれぞれ意味がある。そのことへの着目の重要性について理解する。					中谷智一
第14回	相談と指導：ここまでのおさらいとして、教育相談・生徒指導・進路指導について再確認する。					中谷智一
第15回	まとめとふりかえり：何を学んだのか、何を経験したのかを受講生全員で共有する。					中谷智一
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	どのくらい積極的に授業に参加したのか、質問の回数・内容など		期末試験	40	総合的理解
小レポート	20	個々の単元についての理解度				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
いま、学校で何が問題となっているか？ 報道や書物などを通じて情報を積極的に入手すること。[45分]				随時行う		
受講生に望むこと	諸君らが自分たちの小・中・高校でどのような援助や指導を受けてきたか？また、それらがどのくらい有効であったかを常に思い起こして受講してもらいたい。			教科書・テキスト	『生徒指導提要』 文部科学省著 教育図書 2010 ISBN 978-4877302740	
指定図書参考書等	島崎政男 教育相談基礎の基礎 学事出版 2007			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FT250C 教職実践演習（栄養教諭）		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	村上 吉春・堀 栄子（代表教員 村上 吉春）					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、2年間の教職課程学習のまとめとして、実際の教育現場で役立つ知識・技術を、総合的かつ実践的に身につけるために学ぶ科目である。このため、具体的な課題に基づくグループディスカッション、模擬授業、ロールプレイング、プレゼンテーション等の演習等により、栄養教諭の職務に必要な様々な指導力の定着を図る。			①学校組織の一員として、指導に必要な基本的な知識・技術を身につける。 ②食育にかかる学習指導案と教材の作成、それらを使った指導ができる。 ③栄養教諭としての自己の適性を再確認する。			
教授方法	演習（グループディスカッション、模擬授業、ロールプレイング等）、レポート作成等					
履修条件	1年次からの全教職科目の履修					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーションおよび指導力の確認 科目の到達目標、評価方法、授業方法等を理解するとともに履修カルテを入力して、現時点で身につけた指導力を自己分析する。					村上
2	学級経営のヒント 学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議を通して自分の考えを深める。					村上
3	優れた授業から学ぶ① 優れた模擬授業を教材で視聴後、学習指導案を復元することにより、学習指導案の作成能力を磨く。					村上
4	教育相談のヒント① 生徒指導に関するロールプレイングを通して、学校組織の一員としての指導力を高める。					村上
5	優れた授業から学ぶ② 優れた研究授業を学習指導案に基づいて教材で視聴し、指導の工夫や気づきを通して指導力を養う。					村上
6	教育相談のヒント② 進路指導に関するロールプレイングを通して、学校組織の一員としての指導力を高める。					村上
7	授業づくりのヒント 学習指導上の具体的事例についてグループ討議し、討議結果の発表を通して指導力の向上を図る。					村上
8	栄養教諭の意義・役割、職務内容 学校における栄養教諭の実務や役割の重要性等について具体的に理解する。					堀
9	食に関する指導の意義と内容 学校における食育推進の今日的意義とその内容、課題について理解する。					堀
10	食に関する指導の実際 児童・生徒や保護者に対する個別対応の指導力を、ロールプレイングを通して育成する。					堀
11	給食指導案と評価表の作成 対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。					村上
12	給食指導模擬授業 最も自信が持てるテーマによる5分間の模擬指導を行い、意見交換を通じて指導力の一層の向上を図る。					村上
13	「給食だより」と評価表の作成 給食だよりの原案検討と評価表の作成を通して、プリント作成の基礎技術を身につける。					村上
14	給食だより作品発表 給食だよりの作品発表や他の学生の作品発表を通して、保護者向けプリント類の作成技術を磨く。					村上
15	教員としての指導力の確認 履修カルテの入力結果をもとに、教職課程の全科目終了時点での指導力の定着状況を自己分析して、成果をレポートにまとめる。					村上
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
演習成果	40	模擬授業や場面指導など、様々な演習における成果		課題レポート	40	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋演習準備				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①原則として、毎回提出を求める課題レポートや模擬指導準備等は、期限を厳守すること。[90～120分]				原則として、提出をうけた課題は、コメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。また、演習や発表等を行った場合は、その場で指導講評を行う。		
受講生に望むこと	授業では演習に対する積極性や粘り強さ、事前準備の良否等を重視する。このため、これまでに学んだ知識・技術を意図的に演習の中に取込むことが大切である。また、これまでの学びや調べたことを基にして、自分流の方法を工夫することによって、知識や技術、指導力の一層の深化・総合化を図る。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	なし／教職実践演習ワークブック 西岡ほか ミネルヴァ書房 2013 ISBN 978-4-623-06651-3			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	

授業科目名	FT230C 栄養教育実習指導		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	村上 吉春・田中 弘美・堀 栄子 (代表教員 村上 吉春)					
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、栄養教育実習の円滑な実施ならびに実習成果の確実な定着のために学ぶ科目である。事前学習では実習に臨むに際しての準備や心構え、学校の実務、学習指導案づくり等を学ぶほか、模擬授業により実際の指導を演習する。事後学習では研究授業の振り返り等による課題の明確化を行うとともに、実習報告書の作成・発表などを通して、必要な実践的指導力を確実に定着させる。			①教育実習の意義や目的、心構えなどを理解する。 ②学習指導案作成、教材・教具の作成など、実習に必須の基本的な知識・技術を習得する。 ③教職に対する自己の適性を再認識し、教職への意識を一層高める。			
教授方法	講義、演習、グループワーク、レポート作成					
履修条件	科目「栄養教育実習」の並行履修					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、採用と配置 科目の概要、科目の到達目標、学習方法、評価方法等について理解するとともに、栄養教諭の採用状況や採用の方法等を理解する。					村上
2	教育実習の目的・意義 教育実習の目的や意義を深く理解し、必要な準備に積極的に取り組もうとする。					村上
3	教育実習の形態 校種別、教科別の教育実習の一般的な形態及び栄養教育実習特有の形態について理解する。					村上
4	教育実習の事前準備 教育実習の開始までに必要な準備と事前打合せ、実習校の概要の調べ方等について理解する。					村上
5	教育実習のあらまし 校種別・教科別の教育実習及び栄養教育実習の期間や内容等について、それらの概要を理解する。					村上
6	教育実習生の一週間 教育実習生の毎日の日課と1週間で実習する内容を具体的に理解する。					村上
7	教育実習生の心構え 教師に求められる資質や能力、心構えなど、教育実習で知っておくべき基本的な事項を理解する。					村上
8	研究授業と整理会の進め方 教育実習における研究授業の位置づけや進め方について学ぶとともに、その重要性を理解する。					村上
9	学習指導案の基本① 一時間の授業で使用する学習指導案の構成(形式)や記載内容について、必要な事項を確認する。					村上
10	学習指導案の基本② 学習指導案の記載項目への理解を深めるとともに、簡易な構成である給食指導案の書式をマスターする。					村上
11	授業研究① 現役の栄養教諭による授業DVDの視聴を通して、研究授業準備の重要性を理解する。					村上
12	授業研究② 優れた授業のDVD視聴を通して、導入、発問、まとめなどの指導の工夫や授業の流れを理解する。					村上
13	栄養教育実習の実務① 栄養教諭の教育実習に特有な業務について、その実態や意義等を学ぶ。					堀
14	栄養教育実習の実務② 栄養教諭としての教育実習の実務を中心に、その具体的な内容を理解する。					堀
15	食に関する指導の実際① 授業や給食時間中の食育指導で用いる学習指導案づくりの実務を学ぶ。					堀
16	食に関する指導の実際② 給食時間中における食に関する指導案づくりや、アナウンスによる指導の基本を学ぶ。					堀
17	食に関する指導の実際③ 授業や給食指導で用いる教材・教具の作り方や使い方の基本を学ぶ。					堀
18	食に関する指導の実際④ 示範授業の参観を通して、臨床的場面における食に関する指導法を実践的に学ぶ。					堀
19	給食指導模擬授業① 模擬授業を通して指導力を磨くとともに、級友との意見交換により指導案作成や実際の指導に慣れる。					村上
20	給食指導模擬授業② 模擬授業を通して指導力を磨くとともに、級友との意見交換により指導案作成や実際の指導に慣れる。					村上
21	学習指導案構想① 教育実習での研究授業を想定して、学習指導案のテーマや内容、教材・教具等を構想する。					田中・村上
22	学習指導案構想② 教育実習での研究授業を想定して、学習指導案のテーマや内容、教材・教具等を構想する。					田中・村上
23	先輩の実習に学ぶ① 過年度の実習に参加した学生の指導(授業・給食)ぶりを、DVDの視聴を通して学ぶ。					田中・村上
24	先輩の実習に学ぶ② 過年度の実習に参加した学生の指導(授業・給食)ぶりを、DVDの視聴を通して学ぶ。					田中・村上
25	学習指導案づくり① 学習指導案の原案を作成し、グループで話し合ったり担当教官の指導を受けて検討を進める。					田中・村上
26	学習指導案づくり② 学習指導案の原案を作成し、グループで話し合ったり担当教官の指導を受けて進化させる。					田中・村上
27	学習指導案づくり③ 学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。					田中・村上

授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標				担当教員	
28	学習指導案づくり④ 学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。				田中・村上	
29	模擬授業① 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。				田中・村上・堀	
30	模擬授業② 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。				田中・村上・堀	
31	模擬授業③ 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。				田中・村上・堀	
32	模擬授業④ 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。				田中・村上・堀	
33	模擬授業⑤ 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。				田中・村上・堀	
34	模擬授業⑥ 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。				田中・村上・堀	
35	模擬授業⑦ 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。				田中・村上・堀	
36	模擬授業⑧ 作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。				田中・村上・堀	
37	実習成果の振り返り① 教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。				田中・村上	
38	実習成果の振り返り② 教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。				田中・村上	
39	実習成果の振り返り③ 教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。				田中・村上	
40	実習成果の振り返り④ 教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。				田中・村上	
41	教育実習報告会準備① 成果発表の資料や原稿づくりを通して、実習成果を定着させるとともにプレゼン能力を向上させる。				田中・村上	
42	教育実習報告会準備② 成果発表の資料や原稿づくりを通して、実習成果を定着させるとともにプレゼン能力を向上させる。				田中・村上	
43	教育実習報告会準備③ 準備した資料に基づいてリハーサル発表を行い、全員が各自の分担を最終確認する。				田中・村上	
44	教育実習報告会① 資料を提供し実習成果を発表するとともに、下学年の学生への質疑応答を通して実習成果を確認する。				田中・村上・堀	
45	教育実習報告会② 資料を提供し実習成果を発表するとともに、下学年の学生への質疑応答を通して実習成果を確認する。				田中・村上・堀	
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
課題レポート及び演習成果	40	課題レポートの期限までの提出と質的・量的な内容、模擬授業での成果と指導案の完成度		実習成果としての報告や発表	40	実習成果としての報告書、研究授業、成果発表の取り組みや発表技術
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋実習準備				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
原則として、毎回提出を求める課題レポートや模擬授業のための準備等は、期限を厳守すること。[90～180分]			提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。			
受講生に望むこと	栄養教育実習で最も重要なのは研究授業に対する周到な準備・実施と事後の振り返りである。このため、時間を惜しまず万全の準備を整えて真摯な態度で模擬授業等に臨むことが大切である。		教科書・テキスト	『栄養教諭養成のための栄養教育実習マニュアル』赤松利恵 他著 現代図書 2009 ISBN 978-4-86299-015-0		
指定図書参考書等	なし／教育実習の常識～事例にもとづく必須66項～ 教育実習を考える会編 蒼丘出版 2008 ISBN 978-4-915442-11-7 栄養教諭養成における実習の手引(第二版) 市場ほか 東山書房 2011 ISBN 978-4-8278-1444-6		その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。		

授業科目名	FT240C 栄養教育実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	村上 吉春・田中 弘美 (代表教員 村上 吉春)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、大学で学んだ知識・技術を実地に応用し、体験を通して確実に習得するための科目である。このため、学校現場での児童・生徒への食に関する指導の基本、校務分掌、給食指導など栄養教諭に求められる様々な知識・技術を、実習を通して深化・総合化する。なお、実習は小学校(中学校)における1週間の校外実習(栄養士資格取得)と1週間の栄養教育実習から成る。			①大学で学んだ知識・技術を学校現場で実際に応用できる。 ②実習校での教育活動及び給食管理実務で基本的な知識・技術を定着させる。 ③児童・生徒との直接の触れ合いを通して、教職への意識を一層高める。			
教授方法	栄養教育実習(研究授業、給食指導、授業参観など)、給食管理実習					
履修条件	科目「栄養教育実習指導」の並行履修					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	実習オリエンテーション及び実習校の学校経営 服務等の諸注意並びに実習校の管理・運営方針等について説明を受ける。					校長、教務主任、栄養教諭
2	学校の概要と校務分掌 児童生徒の現状や校務分掌組織等の説明を受け、実習に関わる連絡等が必要な部署を確認する。					教頭、学年主任、栄養教諭
3	教育活動の参観・補助① 学級活動や給食の時間(配膳指導や後片付け指導)等での、食に関する指導の参観、補助を行う。					担任、栄養教諭
4	教育活動の参観・補助② 朝の会や終わりの会、担任の授業、特別活動、清掃、他学年の授業などの参観、補助を行う。					担任、栄養教諭
5	給食管理作業の参観・補助 厨房における調理作業の確認・補助と、各教室への配送までの経路を参観・補助する。					栄養教諭
6	学習指導案づくり① 教育実習校での研究授業テーマの決定と、必要な準備や手順について担任・栄養教諭から指導を受ける。					担任、栄養教諭
7	学習指導案づくり② 研究授業用指導案の作成を進め、疑問点を相談するなどして担任・栄養教諭から必要な指導を受ける。					担任、栄養教諭
8	教材・教具等の作成① 学習指導案に基づく板書計画、教材プリント等について、担当教諭に原案を示して必要な指導を受ける。					担任、栄養教諭
9	学習指導案づくり③ 研究授業指導原案を完成させて提出するとともに、関係者に回覧し必要な指導を受ける。					管理職、担任、栄養教諭
10	学習指導案づくり④ 指摘を受けた箇所を改善して学習指導案を完成させ、校長等への配付を兼ねて当日の参観を依頼する。					担任、栄養教諭
11	教材・教具等の作成② 当日の授業をイメージして、教材・教具を完成させ、必要数を期限までに確実に準備する。					担任、栄養教諭
12	研究授業の準備 準備した学習指導案および教材・教具、教室等の最終確認と、本番をイメージしてのリハーサルを行う。					担任、栄養教諭
13	研究授業の実施 学習指導案に基づいて、参観者を前にして児童・生徒を対象とした45(50)分間の授業を実践する。					田中、村上ほか学校関係者
14	研究授業反省会 授業終了後、関係者に授業所感を発表するとともに、改善点等の指導を受けて指導力の一層の向上を図る。					担任、栄養教諭ほか関係者
15	実習記録簿等の整理 研究授業準備等の実習記録、日々の学びや所感等の記録を行い、毎日放課後に担当者の指導を受ける。					担任、栄養教諭
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習状況	70	実習校で誠実に勤務し、かつ研究授業をはじめとする実習プログラムに積極的に取組んで実習成果を得るとともに、学校教職員と望ましい人間関係を保つ。		実習記録簿	15	実習記録簿の各項目及びまとめ報告に正確かつ十分な記載があり、指定期日までに提出する。
実習校での研究授業	15	研究授業における成果、研究授業のために作成した学習指導案				
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>				<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>		
①期間中における翌日の実習のための事前準備[60~120分] ②実習中及び実習後の提出課題の作成[30分]				実習校における研究授業を担当教官が参観するとともに、大学へ戻ってからのクラス報告発表では、課題の整理や指導講評を行う。		
受講生に望むこと	誠実な態度で、時間に余裕をもって教育実習に臨むことが重要である。特に研究授業に必要な学習指導案の作成や教材・教具の準備に関しては万全を期す必要がある。また、児童・生徒や実習校の教員に関わる問題については、自分勝手な判断をしないで、必ず教職員の誰かに速やかに連絡・相談して、指示を受けて対処することが必須である。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	"なし/食に関する指導の手引き(文部科学省) 東山書房 2011 ISBN 978-4-8278-1492-7"			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	

授業科目名	FT150C 日本国憲法		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	今井 竜也					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
憲法、および人権の基本原則を理解し、人権の中でも特に自由権と呼ばれる権利の性質について、並びに国会、内閣、裁判所という統治機構の仕組みについて、学説や判例等を交えながら解説する。			憲法で保障されている基本的人権が、いかなる理論を基礎として形作られているのか、それが私たちの社会生活といかに密接に関係しているのか、統治機構が国民の人権を保障するためにどのような働きをしているのかを知ることで、憲法に対する理解と見識を深めるとともに、「国のかたち」を示す憲法の重要性を理解し、私たちの国や社会がどうあるべきかについて改めて考えなおすきっかけを提供する。			
教授方法	レジュメ、資料集を配布し、講義形式で行う。重要な論点については適宜板書を書いて説明するので、各自、必要に応じ板書を取る。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	憲法とは何か — 「憲法」のおおまかなイメージをつかむ (イントロダクション、憲法を学ぶことの意義、憲法の内容と意味、規範としての特質と分類)					
2	人権の設計図① — 人権の概念と種類 (人権を生み出した自然権という概念とはどのようなものであり、人権はその性質にあわせてどのような分類が出来るのかについて学ぶ)					
3	人権の設計図② — 人権の主体と範囲 (人権とはどのような人がそれを享有し、行使することが出来、その効力はどの範囲にまで及ぶものなのかについて学ぶ)					
4	法の下での平等① — 「平等」の持つ意味 (憲法上の権利と平等とはどのような関係性を持つのか、現代社会における平等のあり方を正義の実現という観点から学ぶ)					
5	法の下での平等② — 平等原則と差別の禁止 (憲法14条に規定されている法の下での平等の意味について、家族、教育に関する事件の判例から法の下での平等が何を要求しているのかを学ぶ)					
6	精神的自由権① — 思想・良心の自由 (人間の精神活動の中で最も基本的・かつ絶対的なものとして位置づけられる思想・良心の自由の内容について学ぶ)					
7	精神的自由権② — 信教の自由、学問の自由 (近代自由主義の礎として意味づけられる信教の自由、真理探求という営みにおける学問の自由のあり方について学ぶ)					
8	経済的自由権① — 職業選択の自由、居住・移転の自由 (特権から人権となった経済活動の自由を保障するものとしての職業選択、居住・移転の自由について学ぶ)					
9	経済的自由権② — 財産権の保障 (自由権から社会権への流れとともに変容する財産権の性質と保障のあり方について学ぶ)					
10	人身の自由① — 奴隷的拘束および苦役からの自由、適性手続の保障 (権力者による恣意的な処罰、身体に対する不当な拘束、威嚇に対抗する権利としての人身の自由について学ぶ)					
11	人身の自由② — 被疑者の権利と被告人の権利 (不当な逮捕、抑留や拘留に対抗する権利、公正で迅速な公開裁判を受ける権利という、被疑者、被告人が有する権利の内容について学ぶ)					
12	国会 — 立法を司る機関の仕組み (国民の代表で構成され、法律を制定する権限である立法権を有する統治機構である国会の地位、権能、活動について学ぶ)					
13	内閣 — 行政を司る機関の仕組み (国家における行政を担い、国政の中心的役割を果たす内閣の組織と権限、立法府である国会との関係、行政の意義について学ぶ)					
14	裁判所① — 司法権の意味と司法権の独立 (裁判所が有する司法権の概念、裁判所の組織構成と権能、および司法権の独立がどのような意義や内容を有しているのかについて学ぶ)					
15	裁判所② — 違憲審査制、国民の司法参加と裁判員制度 (憲法81条に規定されている違憲審査制の法的性質とその対象、方法と効力、ならびに国民の司法参加を目的として創設された裁判員制度について学ぶ)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
筆記試験	80	授業内容の基本的な理解と、身につけた知識を応用する能力を見る。筆記試験の詳細については、授業内で指示する。		出席状況および授業アンケート記載内容	20	毎時間、出欠状況と授業の理解度確認のため行う授業アンケートに記載されている内容(授業内容についての意見、感想、質問等)で評価する。
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
予習は余力のある場合のみで良いので、とくに復習に力を入れること。その週の授業内容については、理解の不十分な箇所については各自、参考書なども参照しながらレジュメや板書を読み返しておくこと。[30分] 憲法改正議論など、今後、社会においてタイムリーな話題として憲法問題が扱われることが多くなると思われるので、可能な限り新聞やテレビのニュース等に目を通して、社会で起きている出来事についても、アンテナを張りめぐらせること。[30分]			毎時間行う授業アンケートに記載されている疑問、質問等の内容から、特に補足が必要と思われるトピックについては、次週の冒頭において適宜、復習を行います。			
受講生に望むこと	一見すると、日常生活からは遠い存在のように見える憲法は、実は私たちの社会生活と密接な関わりを持っています。特に、憲法改正が現実味を帯びてきている昨今、私達1人1人も、国や社会のあり方について、相応の見識を持つことが必要になります。授業を通じ、憲法を始めとする法の役割を知るだけでなく、広く社会に対し興味関心をもって欲しいと思います。		教科書・テキスト	使用しない		
指定図書参考書等	なし/特に指定はしないが、予習復習のため、初学者用の日本国憲法概説書(2000年前後で、出版年の新しいもの)を各自一冊、手元に用意しておくことが望ましい。最近出たものとして、『教職教養憲法15話 改訂2版』加藤一彦著 北樹出版 2014年、定評のある入門書として『憲法1 人権 第5版』渋谷秀樹・赤坂正浩著 有斐閣アルマ 2013年を紹介しておく。		その他・特記事項	各週の授業内容については、出席と授業内容の理解度確認のために毎時間行う授業アンケートを元に、次回の授業冒頭で補足を加える。受講者の疑問や質問、意見、感想などはなるべく全体で共有し、各自の授業内容理解に役立てたいと考えています。		



# コミュニティ文化学科



授業科目名	CL200C 初教と生活			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
キリスト教的視点から日常生活における生活環境の課題とあり方について学ぶ。				生活の意義について理解している。現代社会における生活課題に気づいている。家庭生活の経済の現状を理解している。環境問題と生活の関係について理解している。			
教授方法	講義と一部演習形式で行う。また、一部教室外活動を取り入れる。						
履修条件	特になし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	生活とは何かについて科学的に考える。 目標：生活の定義、生活の意義について理解できている。						
2	家族と家庭と福祉について考える。 目標：家族と家庭の意義と関係について福祉の視点から理解できている。						
3	私たちにとっての家族とは何かについて考える。 目標：授業の1・2回を踏まえて、家族と家庭の在り方についてグループで話し合い、考えを共有する。						
4	家庭における現代的課題について家庭や家族を取りまく現状から考える。 目標：現代社会における家庭の抱えている課題について理解している。						
5	自分流のライフスタイルについて考える。 目標：ライフステージと生活課題について理解し、自分のライフスタイルのあり方について述べるができる。						
6	家庭経営と個人の生活について考える。 目標：家庭経営のあり方と現在における個人の生活への影響を理解できている。						
7	自然保護とライフスタイルについて考える。 目標：自然はなぜ守るべきものなのかについて、自然の利用の目的や自然保護がもたらす利益から自分の意見を述べられる。						
8	イエスの時代の生活と私たちの生活について考える。 目標：私たちの生活に根ざすキリスト教的生活観について、比較し述べるができる。						
9	『12の贈り物』から人生に必要なものについて考える。 目標：私たちに与えられた豊かな人生を送るために必要なものを述べられる。						
10	『人生の四季 発達と成熟』から人生のあり様について考える。 目標：ライフステージの各時期を充実したものにするために必要な事について述べられる。						
11	ビジネスとしてのブライダルについて考える。 目標：ブライダル産業における“結婚式”の位置づけについて理解している。						
12	ビジネスとしてのブライダルについて考える。(教室外授業) 目標：チャペルウェディングの施設を訪問を通して、ブライダル産業の実際について理解している。						
13	教会における結婚式について考える。 目標：キリスト教的観点から“結婚式”の意味を理解している。						
14	教会における結婚式について考える。(模擬体験授業) 目標：キリスト教的観点からの“結婚式”について、体験を通して理解を深めている。						
15	講義の最終振り返り 目標：グループワークを通じて、キリスト教的価値観から私たちの生活にのあり方について共有できている。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
ミニテスト	50	授業中に行われる5回のミニテストで、講義の理解状況を測る。			授業外学習レポート	40	授業外学習での学びの深さ等のレポートの完成度を見る。
授業への参加度	10	グループワークの参加度や積極的な発言の有無など					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。[合計20時間] ブライダル産業の現状について事前に調べる。[5時間] キリスト教の教会における“結婚式”について模擬結婚式を通して学んだ事や疑問に思ったことについて調べる。[5時間]				ミニテストは翌週に返却する。 授業学習レポートも講義終了後に返却する。			
受講生に望むこと	何気なく過ごす、日常生活における、「普通」や「当たり前」がいかに重要で難しいことかを意識して考えてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	【参考図書】 ・シャーリー・コスタンゾ 著、黒井健 訳『12の贈り物』ポプラ社2003年 ・ポール・トゥルニエ 著、三浦安子 訳『人生の四季 発達と成熟』日本キリスト教出版社 2007年			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CL210C 初級教とホスピタリティ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>商業ベースでは「おもてなし」として、顧客満足度を上げるキーワードとしてホスピタリティが使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。これらの違いを学ぶと共に、日常生活或いは福祉にまで視点の配意を広げ、現代社会におけるホスピタリティのあり方について学ぶ。</p>			<p>ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。						
2	社会福祉とホスピタリティ ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。						
3	宗教とホスピタリティ 種々の宗教におけるホスピタリティについてその違いを理解している。						
4	海外のキリスト教社会福祉から考える。 海外のキリスト教社会福祉の歴史について理解している。						
5	日本のキリスト教社会福祉から考える。 日本のキリスト教社会福祉の歴史について理解している。						
6	キリスト教の慈善事業から考える。 キリスト教の弾圧と慈善事業の関係について理解している。						
7	外国人に対する社会的支援から考える。 観光の視点からのホスピタリティについて理解している。						
8	茶道に見るおもてなしの原点。 茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。						
9	ヤヌシュ・コルチャックに学ぶ。 ヤヌシュ・コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。						
10	ヘレン・ケラーに学ぶ。 ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。						
11	マーティン・ルーサー・キング・ジュニアに学ぶ。 マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。						
12	マザー・テレサに学ぶ。 マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。						
13	賀川豊彦に学ぶ。 賀川豊彦の活動から他者への思いやりについて理解している。						
14	洋画にみるホスピタリティ 洋画を通して、海外でのホスピタリティの事例を理解している。						
15	邦画にみるホスピタリティ 邦画を通して、日本でのホスピタリティの事例を理解している。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ミニテスト	50	授業中に行われる5回のミニテストで、講義の理解状況を測る。		レポート	40	主張の明確さ等で完成度を見る。	
授業への参加度	10	グループワークの参加度や積極的な発言の有無など					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。[合計18時間] 授業で取り上げられた人物について調べる。[4時間] 授業で取り上げられた映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。[8時間]</p>				レポート類は採点の後、講義終了後に返却する。			
受講生に望むこと	ビジネスとしてではなく、生活を送る上でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	<p>【映画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『アイ・アム・サム』 ジェシー・ネルソン 監督作品</li> <li>『ホテルワング』 テリー・ジョージ 監督作品</li> <li>『ハッピーフライト』 矢口史靖 監督作品</li> <li>『おくりびと』 滝田洋二郎 監督作品</li> </ul>			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り上げた自分物については講義回前に調べておくこと。</li> <li>・映画に関しては、各自が講義回前に視聴しておくこと。</li> </ul>		

授業科目名	CL130C 青年の心理			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	中谷 智一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
諸君らが現在過ごしている時期＝青年期について考える。人生全体から見てどんな時期で何をしておかなければならないのか？発達心理学で言う「青年期の発達課題」とは何か？を基本に細かく見ていきたい。				青年期の心理の特性について概ね理解できる。自分自身の中でいま、何か起こりつつあるのか、今後どうなっていくのか、について或る程度の予想が可能となり、対策を講じることができるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーションとクラスルール						
2	代表的な青年期観：様々な青年期の「見方」とその位置づけ						
3	青年心理へのアプローチと課題：それぞれの特徴						
4	身体的発達と心理的影響：ボディイメージ・性の問題・「らしさ」：男らしい・女らしい」とは？						
5	自己意識：自分とは何か？＝考えれば考えるほどわからなくなる「自分」						
6	対人関係・社会参加・進路決定と学歴社会＝就職と就社：自分に適した職業などあるのか？						
7	モノは豊かにあるけれど…：待てなくなった若い人たち・・・なぜか？						
8	適応：適応障害と過剰適応＝適応すればよいというものではないらしい。						
9	自立：ピーターパンとシンデレラ＝身近にいるかも知れない人たちの特徴とは？						
10	自立の視点：自立とは何か？						
11	大人になること：義務と責任＝責任のない自由はないし、義務のない権利もあり得ない。						
12	自分を生きるその1：ペルソナ＝社会的「人格」は自分とどのように違うのか？						
13	自分を生きるその2：本当の自分＝素顔の自分はどこにいる？						
14	青年心理の今日的課題＝今の青年たちの置かれている状況を考える。						
15	まとめとふりかえり						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への積極的参加	50	授業中・授業外での質問の回数やその内容など			期末論述試験	50	総合的理解
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の講義で触れる話題について「自分との関係」を常に考えてほしい。必要であれば、「授業で考えたこと（小レポート）」の提出を求める。				随時行う			
受講生に望むこと	「自分の問題」という大前提を忘れないでほしい。			教科書・テキスト	使用しない。教員自作のレジメを使用する。		
指定図書参考書等	指定しないが折に触れて授業中に紹介することがある。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CL220C 結婚と家族形成			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
結婚し、家庭をもつ（家族を形成する）ことはごくあたり前のことと長らく思われてきた。ところが近年では社会状況の変化から、晩婚化や非婚化などの現象がクローズアップされている。これらの現象が生じている要因は、個人にあるのだろうか、それとも社会にあるのだろうか。授業では、社会における「結婚」「家族」「家庭」の意味を社会学の視点から考える。				①日本における結婚および家族形成について現状を把握する。 ②日本における結婚および家族形成に係る課題について考察することができるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する						
2	社会学の基礎：社会学とはどのような学問なのか						
3	家族社会学の基礎：家族の種類と機能						
4	主婦の誕生：近代化と女性の主婦化						
5	家事の誕生：家事とは何なのかを「主婦論争」から考える						
6	結婚の動向(1)：恋愛結婚 婚姻率 離婚率 初婚年齢 結婚への志向についてのデータを読む						
7	結婚の動向(2)：収入と結婚 できちゃった婚 事実婚 国際結婚についてのデータを読む						
8	近代化と子どもの数の減少：経済学的要因と社会的要因						
9	子どもの誕生：「子ども」の概念とその価値						
10	母の誕生：「母親」という役割は重要か						
11	核家族化：人口学的特殊性から考える						
12	子育て：親はだめになったのか						
13	高齢化社会と家族(1)：実態と見通し						
14	高齢化社会と家族(2)：家制度の崩壊						
15	多様化する家族：個人単位の社会へ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
発表	30	①テーマ選択は適切か。 ②論理的な構成となっているか。 ③質疑への応答ができているか。			提出物	20	①指定された期日に提出しているか。 ②指定された書式にしたがっているか。 ③自分の意見を書くことができているか。
期末試験	50	授業内容について理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
グループ発表を課すので、グループでテーマを決め、それについて調べ、ディスカッションを重ねながら発表準備を行うこと。配布資料を事後に確認し、復習を行うこと。[60分]				各グループの発表に対してコメントする。			
受講生に望むこと	授業に関連するニュース等に関心を持ち、それについて考えるようにしてください。授業中の討議では、積極的に発言するように心がけてください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CL110C 健康論		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。</p>			<p>① 健康的な生活の意義を理解する。  ② 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。  ③ 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。						
2	健康的な生活①：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。						
3	健康的な生活②：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。						
4	健康的な生活③：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。						
5	健康を脅かすもの①：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。						
6	健康を脅かすもの②：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。						
7	健康を脅かすもの③：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。						
8	健康を脅かすもの④：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。						
9	健康を脅かすもの⑤：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」						
10	健康を脅かすもの⑥：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」						
11	運動習慣と疾病の関係①：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。						
12	運動習慣と疾病の関係②：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。						
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方①：健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。						
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方②：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。						
15	まとめ：これまでに学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	60	受講態度を重視する。・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させているか		学期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行う。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
<p>①各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。〔30分〕  ②各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。〔30分〕  なお、事前・事後学習内容の詳細は授業内で説明する。</p>				<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</p> <p>小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。</p>			
受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎として下さい。			教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。		
指定図書参考書等	「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著 北國新聞社 2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CL230C 社会心理学の基礎			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	中谷 智一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
社会心理学の広範な知見の中から最低限のものを紹介してうえで、学生諸君らの興味のあるテーマについて考えていく。社会現象から読み解く「群れとしての人間の行動や考えの癖」について見ていきたい。				社会心理学の知見を用いて、社会現象の読み解きがある程度できるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーションとクラスルール						
2	社会心理学とは何か？科学とは何か？＝事実判断と価値判断の違いについて						
3	社会的態度：どのようにして形成されるのか？						
4	印象形成：印象を決定づけるkey wordは何か？						
5	コマーシャルの作られ方						
6	性差：男女の違いについての諸説と性差を招く社会の側の枠組みについて						
7	差別と偏見：プロトタイプと個人的経験の及ぼす影響について						
8	デマ・噂・都市伝説の原則						
9	えせ科学：なぜ信じてしまうのか？						
10	この学期のテーマによる社会の読み解き						
11	対人魅力その1：魅かれる要因						
12	対人魅力その2：恋愛の原則						
13	かわいさの原則その他						
14	現代の若者の姿：昔の若者と同じところ・違うところ						
15	まとめと振り返り						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	授業中・授業外での質問の回数と内容など、積極的参加度と取り組み方。			期末試験	40	総合的理解
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
新聞やTVなどの報道に日々触れること。[20分/日] 日本では・世界で何が問題となっているのか？について常に関心を持たなければ、社会心理学受講の意味が半減する。				随時行う			
受講生に望むこと	携帯・スマホ以外からの情報の入手を十分に行うことを強く望む。			教科書・テキスト	使用しない。教員自作のレジメを使用する。		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CL120C 現代社会の基礎知識		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目では、社会（集団）に適応して生きていくための思考と行為についての基本的事項、社会学の対象分野や分析方法について講義すると同時に、皆と共に考えていきたい。そうすることで、自立的人間として成長していく基礎力を養成したいと考える。公務員等の試験にも多く出題される内容を含んだ科目なので、幅広く講義する予定である。</p>			<p>①社会学の基本的な理論・概念を適切に説明することができる。  ②社会学の基本的な理論・概念を具体的な事例に当てはめて説明することができる。  ③現代社会を様々な切り口から理解することができる。  ④人間や社会に関わる様々な事柄について自ら問題関心を持って観察することができる。  ⑤自らの問題関心や意見に沿って、他者との意見交換や共有を積極的に行うことができる。</p>				
教授方法	講義・グループディスカッション						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：社会学とはどういった学問であるのか、何を学ぶことができるのかといったことについて理解する。						
2	社会集団論：一般的な社会集団を例に挙げながら、自己と他者、個人と社会の関係について理解する。						
3	集合行動論：組織・集団という明示化された枠組みを超えた領域における人間行動について、社会というフィルターを通して理解する。						
4	地域社会・都市：生活圏としての地域社会・都市が人々にとって持つ意味を理解すると共に、地域社会・都市をめぐるマクロな変動について理解する。						
5	個人・家族：親密圏としての家族が個人にとって持つ意味を理解すると共に、マクロ社会の変化に伴って家族が持つ意味を再考し、理解する。						
6	ジェンダー論：自己と他者の関係構築や家族の構成といった論点の応用から、現代社会におけるセクシャリティ・ジェンダー問題について理解する。						
7	社会病理現象：時代や文化によって異なる社会病理現象について理解すると共に、病理性を規定する社会という存在そのものについても理解する。						
8	逸脱行動論：逸脱行動と社会病理現象の異同について理解すると共に、代表的な逸脱行動論についても理解する。						
9	医療・看護と社会：「医療・看護」を切り口に感情社会学や臨床社会学について学ぶと共に、現代社会論から価値の変容についても理解する。						
10	少子・高齢化と福祉政策：少子・高齢化現象をマクロな視点から理解し、それらをめぐる福祉政策実践についても理解する。						
11	消費社会論：消費行動の変容を切り口に、マクロ社会の変動と共に自己と他者の関係性の変容についても理解する。						
12	リスク社会論：大規模災害や食中毒事件等の問題を素材としながら、リスク社会論について理解する。						
13	情報社会論：情報技術の発達によってもたらされた現代の情報社会が成立した過程を理解すると共に、それが人々に与えた影響について社会学的観点から理解する。						
14	国際化と多文化共生：情報といった形の無いものだけではなく、実際のヒトとモノの流動性が高まった現代社会のあり様を理解し、それによって我々が直面しなければならない問題・課題について考える。						
15	グループディスカッション：これまでの学習内容を踏まえて、「社会」とは何か、「社会学」とは何か、「社会学的思考様式」とはどういったものであるのかについて、他者との意見交換や共有を通して、自らの考えを深める。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。		グループディスカッション	20	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。	
レポート	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の授業で学習した社会学理論や社会学的視点、社会学用語について、様々な事例に応用できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習する。[45分]  ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>				<p>・各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。</p>			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から社会の様々な事柄に対してアンテナを張り巡らせ、疑問を持つことが望ましい。</li> <li>・問題意識を高めること、多様な視点・観点から捉え直すことによって社会学的な思考様式の獲得は大いに進むと思われるが、自分が興味を持っている事柄について考えることをその入り口とするところから始めていただきたい。</li> </ul>			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書参考書等	<p>&lt;参考書&gt;  『社会学がわかる事典 ― 読みこなし使いこなし活用自在』  森下伸也 日本実業出版社 2000年  ISBN:978-4534031730</p>			その他・特記事項	<p>・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。</p>		

授業科目名	CS100C スタートアップセミナー		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>大学における学びは学問を通して、社会人として教養と自立した活動を行うための知識や技術を身につけることを目的としている。 本授業ではその為の基礎として読む力、書く力、数量的な概念及び伝える力を身に付けるために、様々なグループワークの手法、ライティング、リーディング、プレゼンテーションの各技術の理論を修得する。</p>			<p>グループワークにおける自己の役割を理解している。 プレゼンテーションの技法が身についている。 大学での学びの姿勢が身についている。</p>				
教授方法	講義形式で基本的知識を学ぶと共に、グループワークおよびプレゼンテーションの実践をとおり、スキルを向上する。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：本授業の全体の流れを理解する。また、ルーブリックを用いて達成目標を理解する。						
2	グループワーク<基礎1> グループワークの全体像をつかむと共に、メンバーの役割について理解する。						
3	グループワーク<基礎2> 様々なグループワーク事例の特徴を理解し、場面に応じて使い分ける基礎を築く。						
4	グループワーク<応用1> 実践形式で、グループワークを体験し、メンバーの役割の中から自分の位置を見つけ出す。						
5	グループワーク<応用2> グループワークにおける自分のグループ内でのスキルを向上させる。						
6	グループワーク<まとめ> 2回目から5回目を踏まえ、グループワークについて個人とグループで振り返ると共に、知識を共有する。						
7	プレゼンテーションの基本 プレゼンテーションの基本について理解する						
8	プレゼンテーションの準備作業（1） プレゼンテーションツールの作り方についての解説、テーマの決定及び資料の収集をする						
9	プレゼンテーションの準備作業（2） プレゼンテーションツールの作り方についての解説、資料の収集および資料の整理						
10	プレゼンテーションツールの作成（1） 収集資料に基づき、全体の流れを構成すると共に、ツールを作成する。						
11	プレゼンテーションツールの作成（2） 引き続きツールを作成すると共に、全体を俯瞰し修正を行う。						
12	プレゼンテーションの練習 作成したツールを用いて実際に発表を行うと共に、相互に評価し合う事により、修正を図る。						
13	総合発表（1） 全員の前で最終報告を行うと共に、他の学生に評価をしてもらう。						
14	総合発表（2） 全員の前で最終報告を行うと共に、他の学生に評価をもらう。						
15	振り返り 2回から14回の振り返りをグループで行い、自分の課題を見つける。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
グループ活動	60	グループ活動に積極的に参加しているかをルーブリックを使用して評価する		最終プレゼンテーション	40	基準に沿ったプレゼンテーションが出来ているかをルーブリックを使用して評価する	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の終わりに次回に向けての課題を出すので必ず事前学習をしておくこと。 学習時間は合計30時間分を、その都度の進行状況によって指示する。				原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。			
受講生に望むこと	様々なグループワークの手法を紹介するので、自分に合ったものを探すと共に、自分の役割を見いだしてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CS110C 基礎ゼミⅠ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	沢田 史子・池村 努・富岡 和久・野林 晴彦・須田 久美子・林 剛司 (代表教員 沢田 史子)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>短期大学生としての基本的な学びの姿勢、知的探究の方法を少人数グループで習得する。まず、大学の講義受講に必要な、ノートテイキングの手法を確認する。そしてレポート作成に必要な「読む・書く」のリテラシーと図書館の利用やインターネットの情報収集について、求められる水準を満たすよう基本を強化する。同時に他教科との関連を知ることで、一つの教科の学びで得られた知識を他の教科で応用し、アレンジすることにより、学びを積み上げ、深めることが出来るようになる。</p>			<p>①短期大学の学びを行う上で必要となるノートテイキング・リーディング・アカデミックライティングの基本的スキルを身につける。 ②図書館の利用方法を身につける。 ③グループディスカッションに参加し、自分の意見を述べる事ができる。 ④与えられた課題について、指定された文字数や書式などに従いレポートが作成できる。 ⑤与えられた課題について、自分の意見をまとめ発表ができる。</p>				
教授方法	全体で集合する場合と、グループ単位に分かれて演習を行う場合がある。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「基礎ゼミⅠ」の使い方と使用するテキストとの関連について説明する。					全員	
2	スタディスキル：年間・週間スケジュールを作成し、自らスケジュールを立てる際のノウハウを学ぶ。(テキスト第1章)					全員	
3	ノートテイキングのスキル：学生として必要なノートの取り方について学ぶ。(テキスト第2章)					全員	
4	図書館利用オリエンテーション：図書の種類な検索方法について学ぶ。					全員	
5	リーディングのスキル：文章を読む場合に気をつけるポイントについて学ぶ。(テキスト第3章)					全員	
6	グループワークの事前学習とグループディスカッションの練習：「北陸学院セミナー」に向けてディスカッションを行う場合の注意点などを学ぶ。					全員	
7	グループワークの事前学習とグループディスカッションの練習：前回に引き続き「北陸学院セミナー」に向けてディスカッションを行い、効果的な意見交換について練習する。					全員	
8	北陸学院セミナーの振り返り：「北陸学院セミナー」で考えた内容を元に意見交換を行い、学びの内容を深める。					全員	
9	より深いリーディングのために①：テキストを読んで、要約する技法を学ぶ。(テキスト第4章)					全員	
10	より深いリーディングのために②：テキストを読んで、感じたこと・考えをまとめる。(テキスト第4章)					全員	
11	アカデミックライティングの基本：文章構成を意識したレポート作成の方法について学ぶ。(テキスト第8章)					全員	
12	効果的なアカデミックライティング：わかりやすい文章と視覚的にわかりやすい表現方法について学ぶ。(テキスト第9章)					全員	
13	調査活動：「基礎ゼミⅠ」で学んだ内容を活かすためのレポート作成に向け、テーマを選び調査活動を行う。					全員	
14	レポート作成：調査した結果を基にレポートを作成する。期限を決め、ゼミ担当教員のチェックを受けながらレポートを作成する。					全員	
15	レポート提出とゼミ内発表会：レポートを提出し、ゼミ内で発表する。					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	60	ワークシートの内容や授業中の発言など積極的参加を重要視する。		レポート	40	学んだ内容を反映した結果となっているかを重視する。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
①予め「知へのステップ」該当箇所を読み、予定されている内容を把握しておく。[30分] ②事後は行った内容について、テキスト・ノート・配布資料を読み復習する。[20分] ③指示されたレポート作成を期日までに進行。[60分]			①授業中に実施したワークシートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却する。 ②期末レポートは、夏休み前までに採点およびコメントを付けて返却する。				
受講生に望むこと	高校までと異なる「大学ならではの学び」のための基礎を身に付けて欲しい。			教科書・テキスト	『知へのステップ（第4版）』学習技術研究会編 ころしお出版 2015年 ISBN:978-4-87424-650-1		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CS120C 基礎ゼミⅡ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	沢田 史子・池村 努・富岡 和久・野林 晴彦・須田 久美子・林 剛司 (代表教員 沢田 史子)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「基礎ゼミⅠ」で確立した学ぶ姿勢の発展として研究を行う。EnglishCampや 伝統文化体験の実習を通して地域や時代を超えた異文化を学び、自分のテーマを設定し学びを深める。後半の発表では、ゼミ単位で研究を共有し、多様性を知り自分の視野を広げることができる。最後に全体発表会を行うが、これらの活動は、課題やテーマを見つけ、情報収集し発表して他からアドバイスを受け改善して次の研究に繋げるものであり、2年次の「専門ゼミⅠ・Ⅱ」で行われる研究の土台となる。</p>			<p>①興味のあるテーマを設定し、レポート作成に必要な文献などの情報を集めることができる。 ②設定したテーマについて、アカデミックライティングのルールに沿ったレポートが作成できる。 ③設定したテーマについて、パワーポイントを用いてプレゼンテーションができる。</p>				
教授方法	全体で集合する場合と、グループ単位に分かれて演習を行う場合がある。						
履修条件	「基礎ゼミⅠ」の単位を修得済の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「基礎ゼミⅡ」の使い方と後期スケジュールについて説明する。					全員	
2	EnglishCamp/ 伝統文化体験：異文化交流 (EnglishCamp) と金沢の歴史探究 (伝統文化体験) から一つを選び参加する。					全員	
3	ゼミのプランニング：研究対象を決め、調査・レポート作成の計画を立てる。					全員	
4	調査活動①：レポート作成のため、図書館やインターネットなどを用いて情報収集を行う。					全員	
5	調査活動②：レポートのアウトラインを考え、情報を整理する。					全員	
6	調査活動③：最終的な構成を考え、参考文献リストを添えて提出する。					全員	
7	レポート作成①：構成に基づき、レポートを作成する。適宜ゼミ教員から指導を受ける。					全員	
8	レポート作成②：評価ポイントに従い、レポートをチェックする。適宜ゼミ教員から指導を受ける。					全員	
9	表現する・伝える：プレゼンテーションを行う際に注意すべき点を学ぶ。					全員	
10	わかりやすいプレゼンテーションのために：プレゼンテーションで正確に伝える上で重要となる視覚資料の使い方について学ぶ。					全員	
11	レポート作成③：ゼミ教員から指導を受け、レポートを修正する。					全員	
12	プレゼンテーション準備①：ゼミ内発表に向けスライド作成を行う。					全員	
13	プレゼンテーション準備②：ゼミ内発表に向けリハーサルを行う。					全員	
14	ゼミ内プレゼンテーション：全体プレゼンテーションに向けゼミ内発表を行い、ゼミ毎に代表を選出する。					全員	
15	プレゼンテーション大会：ゼミ代表者による「基礎ゼミⅡ」調査結果の発表を行う。					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	ゼミ実施時の積極的参加を重要視する。		レポート	40	学んだ内容を反映した結果となっているかを重視する。	
プレゼンテーション	20	プレゼンテーション (レポート発表の内容・スライド・発表態度) について評価する。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
<p>①参考文献として選んだ書籍を読む。[120分以上] ②指示されたレポート作成を期日までに行う。[90分] ③ゼミ内プレゼンテーションの練習を行う。[60分]</p>				<p>①授業中に実施したワークシートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却する。 ②期末レポートは、春休み前までに採点およびコメントを付けて返却する。</p>			
受講生に望むこと	「専門ゼミ」につながる「主体的学び」を学習する機会として、自らを選んだテーマに対して、積極的に取組んでほしい。			教科書・テキスト	『知へのステップ (第4版)』学習技術研究会編 ころしお出版 2015年 ISBN:978-4-87424-650-4		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CS200C 専門ゼミⅠ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	富岡 和久・池村 努・沢田 史子・野林 晴彦・クリスタル ランキート・須田 久美子・林 剛司（代表教員 富岡 和久）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
各ゼミで示されるゼミプランにしたがい、ゼミ担当教員の専門分野と関連させながら、各自の問題関心に沿った内容について、共同あるいはグループで学習を進める。専門分野に関する文献を多く読み、理解に努める。その後、ゼミ担当教員の指導のもとに、各自が研究テーマの設定に向けて文献・資料検索、データ収集などを行う。前期の研究テーマ設定に基づき、後期の「専門ゼミⅡ」に繋げ、自分の研究テーマをより深めていく。			①基礎ゼミで身につけた学習および研究方法を土台として、選択したゼミ担当教員のもとで問題関心を具体化する。 ②グループディスカッションにより課題・問題を共有し、考え方の多様性を知る。 ③グループによる協働学習から研究テーマの設定を導く。 ④必要な作業実施に向けた計画（段取り・調整）を行う。				
教授方法	演習						
履修条件	「基礎ゼミⅡ」の単位を修得済の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「専門ゼミ」概要説明					全教員	
2	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）①					全教員	
3	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）②					全教員	
4	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）③					全教員	
5	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）④					全教員	
6	:研究テーマ検討					全教員	
7	研究テーマ（仮）提					全教員	
8	研究スケジュール及び方法立案					全教員	
9	資料収集、調査実施、データ確認①					全教員	
10	資料収集、調査実施、データ確認②					全教員	
11	資料収集、調査実施、データ確認③					全教員	
12	レポート作成およびチェック①					全教員	
13	レポート作成およびチェック②					全教員	
14	レポート作成およびチェック③					全教員	
15	ゼミ内発表					全教員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加態度	60	グループワークやディスカッションへの積極的な参加 調査・研究に対する意欲	レポート	40	調査・研究結果・中間発表をまとめるに当たり、文献調査を確実にし、内容を精査しているか		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
事前事後の学修は合計で30時間分をゼミ教員の指導に従い行う。			原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。				
受講生に望むこと	積極的に参加すること。		教科書・テキスト	なし			
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	CS210C 専門ゼミⅡ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	富岡 和久・池村 努・沢田 史子・野林 晴彦・クリスタル ランキート・須田 久美子・林 剛司（代表教員 富岡 和久）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
各自、テーマの掘り下げ、方向付け、文献や資料の収集をしながら、自分で設定したテーマについてゼミ担当教員の指導を受けながら研究を進める。ゼミ担当教員の指導のもとで研究発表についてゼミ生相互の検討や意見交換などを行う。最後に学科全体でゼミ発表会を行う。			①「専門ゼミⅠ」で決めた研究方法に基づいて、専門分野で設定したテーマに沿ってレポート等をまとめる。 ②最終レポートを提出し、学科全体の発表会で発表する。 ③卒業後に取り組みであろう様々な課題に対する探求姿勢が身につく。				
教授方法	演習						
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「専門ゼミⅡ」スケジュール確認					全教員	
2	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）①					全教員	
3	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）②					全教員	
4	本テーマ確定					全教員	
5	資料収集、調査実施、データ確認①					全教員	
6	資料収集、調査実施、データ確認②					全教員	
7	資料収集、調査実施、データ確認③					全教員	
8	資料収集、調査実施、データ確認④					全教員	
9	レポート作成①					全教員	
10	レポート作成②					全教員	
11	レポート作成③					全教員	
12	レポート作成④					全教員	
13	レポートを指導教員に提出					全教員	
14	グループ別発表（リハーサル）					全教員	
15	全体発表					全教員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加態度	40	調査・研究時の積極的参加を重要視する。また、最終プレゼンテーションも含める。	レポート	60	調査・研究結果をまとめるに当たり、文献調査を確実にし、内容を精査して提出すること。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
事前事後の学修は合計で30時間分をゼミ教員の指導に従い行う。			原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。				
受講生に望むこと	積極的に参加すること。		教科書・テキスト	なし			
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	CC110C キャリア開発ゼミナール-A		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久・瀬戸 裕子・竹下 正弘 (代表教員 富岡 和久)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
書く・話す、などの日本語の基礎力と、立ち居振る舞いなど、ビジネスマナーを含めた社会で通用する基本動作を身につける。マナーの意義と必要性を確認し、自分が周囲に与える印象を考える。同時に相互理解を深め、クラスとしてチームを形成する意識を醸成する。就職活動を成功させるためのノウハウやハウツーといった表面的なものではなく、言葉や態度の意味を知り、心をこめた自然な言動となって醸し出される教養を身につける。			①他とコミュニケーションするときの言動の重要性を知る。 ②人に不快感を与えず、よい関係を作る方法を知る。 ③対人関係の土台となる挨拶ができるようになる。			
教授方法	①複数の教員による演習、②グループディスカッションなど。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 就職活動の概要と流れ：卒業後や将来の進路として就職する場合もそうでない場合も、組織に必要な人材になるにはどのようなことが重要か等概要を説明。 目標：その就職活動の概要と流れを理解理解して、受講意識を高める。					学生支援課・富岡
2	自己理解・目的を知る講義の目指すものの共有化を図る。 目標：講義の目指すものの共有化できている。 良好な関係を築くには何が必要なのか、目指すイメージをもちマイブランディング意識を持つ。					瀬戸
3	自己理解（自己のコミュニケーションスタイルを知る） 目標：「自己理解のためコミュニケーションスタイルの確認、『今ここの自分を知る』：IAエゴグラム。良好な関係を築くには何が必要なのか、目指すイメージをもちマイブランディング意識を持つ。					瀬戸
4	社会で求められるジンザイ要素を考える（その内的要素・外的要素） 目標：社会の現状を知り 働く意味を考え その求められているジンザイの要素を考える。 内的キャリア・外的キャリアーモチベーションは何処からくるのかを理解する。					瀬戸
5	好感度の本質・実際 目標：「印象を決定づけているものは何か」を考え、他者評価の視点を考え、知ることで自身の在り方を振り返る。					瀬戸
6	挨拶・お辞儀の重要性と実際（1） 目標：トレーニングをとおして品格が伝わる挨拶を日常的に使える様にトレーニングする。課題をクリアすることで、生活の中に挨拶への意識付けを促進する。					瀬戸
7	挨拶・お辞儀の重要性と実際（2） 目標：トレーニングをとおして品格が伝わる挨拶を日常的に使える様になる。課題をクリアすることで、生活の中に挨拶への意識付けを促進する。					瀬戸
8	自己紹介する。 目標：ショートスピーチ、人前で話すトレーニングは過度の緊張の緩和になる。就職活動では避けて通れない面接の基礎練習とする。					瀬戸
9	総仕上げ 目標：好感度の高い挨拶（立居振舞・笑顔・声・自己紹介）をマスターする。					瀬戸
10	敬語とマナー：「日本語表現法Ⅰ」で学習した事項を復習する。 目標：企業の採用面接を想定して使う技術を習得する。					竹下
11	要約と説明 目標：企業の採用面接を想定して、言いたいことを要約した上で相手に分かるように説明できる力を身につける。					竹下
12	心に伝える手紙 目標：文例を参考に、会社訪問の依頼文を手書きで作成できるようになる。					竹下
13	連絡メールの心遣い 目標：企業の人事担当者へのEメールが作成できるようになる。					竹下
14	相手に伝わる作文 目標：企業の採用試験に出題されたテーマについて作文し、実践に備える。					竹下
15	自己紹介文 目標：『日本語表現法Ⅰ』で学習した事項を復習することにより、履歴書やエントリーシートを想定して自己紹介文を書けるようになる。					竹下
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
毎回提出される振り返りシート	60	2～9回は、学んだことや、今後の改善など前向きな項目の記載を求める。 10～14回は、正しい日本語で目的に適合した内容を求める。		自己紹介の作文	10	具体的なエピソードなど、読み手が想像できるような記載があるかどうか。 正しい日本語で、適切な段落構成ができているかどうか。
授業での取り組み姿勢	30	教員の問いかけに適切なリアクションをとり、円滑なムード作りに貢献すれば加点とする。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
正しい日本語は、短期間に習得できるものではないため、日頃から積極的に活字に触れてほしい。 月に教冊の読書を自分で目標とし、日記や感想を書きとめることを推奨する。 上記を含み、授業後の振り返り、次回授業準備として60分程度必要。				課題提出後に添削の上で返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。		
受講生に望むこと	日常生活で使っている言葉に敏感になり、相手を考えて使い分けることを試みるのもよい。			教科書・テキスト	『自分科学ノート！実践！記入式』 加賀博 著 日本生産性本部生産性労働情報センター 2015年 ISBN 978-4-88372-496-3 就活ナビ＜学生支援課から配布＞	
指定図書参考書等	『プラクティカル日本語 文章表現編 一成功する型一 改訂版』清水明美 ほか おうふう 2011 ISBN 9784273036324 『仕事のための12の基礎力』 大久保幸夫 日経BP社 2004 ISBN 9784822244095			その他・特記事項	なし	

授業科目名	CC120C キャリア開発セミナー-B			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「キャリア開発セミナーA」で固めた基礎と教養を、就職活動を意識したリハールとして就職活動の流れを学びながら実践する。自己表現の方法を実践で活かせるように教員や学生支援課の指導を受ける。模擬面接や書類の作成において表現力やコミュニケーション能力を高める一方で、実際の就職活動を目前に、企業研究をして、現実社会に就職していく自分を想定する。情報を集めると同時に、求人現状と自分の能力の現実を受け入れ、就労や就職に希望を持って準備する。</p>				<p>①自信をもって就職活動を始める準備ができるようになる。 ②就職活動の障害を排除する方法を知る。 ③適切な就職活動のための、正しい情報収集法を知り、実行できる。</p>			
教授方法	①複数の教員による講義、②グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション・「立食パーティー・マナー講座」事前準備と情報の共有 目標：科目の必要性と全体の流れを把握するとともに、今後の自分のすべき事を理解する。「和食」に関する事前知識を習得する。和食に関する情報の共有と深化。						富岡
2	「立食パーティー・マナー講座」 目標：実際の現地での体験を通して、自己の知識の修正をする。						富岡
3	「立食パーティー・マナー講座」：振り返り（グループワーク） 目標：事前の知識習得と現地で得たことを共有化して振り返る。						富岡
4	就職活動の進め方 目標：2019年度就職環境・就職活動のスケジュールを理解する。3月前までの就職活動準備の大切さを知り、第5回目以降の講義において前向きに取り組むことができるようになる。						富岡
5	自己分析・自己PR<基礎> 目標：自己分析の基本的方法を学び、実際にワークを通して自己理解を深める。一現時点でも、何がしかの力を持っているという認識をし、自身の方を見る事の大事さを感じる。						学生支援課・富岡
6	自己分析・自己PR<応用> 目標：<基礎>で行った自己分析を、企業視点を踏まえた上でPR文章として組み立てることができるようになる。						学生支援課・富岡
7	業界・企業研究<基礎> 目標：企業研究の基本的方法を学び、実際にワークを通して「広げる」方法を身に付ける。まずは視野を広げる大切さを理解し将来の選択肢の幅を増やす。						学生支援課・富岡
8	業界・企業研究<応用> 目標：「広げた」「深める」方法を学び、同業他社比較ワークを通し、個社比較を行うことでより深い企業理解ができるようになる。志望動機を書く際も個社の違いを踏まえたうえで、書くことができるようになる。						学生支援課・富岡
9	履歴書・エントリーシート<基礎> 目標：各々の基礎知識と、企業が見ているポイントについて理解する。						学生支援課・富岡
10	履歴書・エントリーシート<応用> 目標：第6回～第10回までを踏まえ、自己PR・志望動機を実際に記入し完成させる。						学生支援課・富岡
11	グループディスカッション 目標：「面接・グループディスカッションの基礎知識」→各々の基本知識と、企業が見ているポイントについて理解する。「グループディスカッションの実践」→テーマに沿って、実際にディスカッションを実践。他者との意見の違いや、時間内にまとめることの難しさを認識することができる。						学生支援課・富岡
12	面接 目標：「面接のポイント確認」→話し方、話す内容の確認。面接のチェックポイント（声の大きさや視線）を伝え、意識する。「面接の実践」→第10回で作成した自己PR・志望動機をもとに、グループで面接練習を実践。学生同士で実施し、お互いに励ます事で、客観的な視点を持つとともに、自身の課題への認識を深める。						学生支援課・富岡
13	キャリアガイダンス（2コマ分の1） 目標：実際の企業の人事担当者による講話と就職内定者の話を通して就職試験の実際を知る。また、就職の内定した先輩との交流を通して就職活動の実際について知る。						外部特別講師
14	キャリアガイダンス（2コマ分の1） 目標：実際の企業の人事担当者による講話と就職内定者の話を通して就職試験の実際を知る。また、就職の内定した先輩との交流を通して就職活動の実際について知る。						外部特別講師
15	キャリアガイダンスの振り返り 目標：グループディスカッションを通して知識の共有と深化を図る。						富岡
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
講義への取り組み	50	グループワークの準備・チームワーク			総合評価	50	レポート等複数の成果物
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習：各テーマの予習を十分に行う。 事後学習：講義の振り返りと疑問点などの抽出及び疑問点解決のための取り組み [60分程度]				課題提出後に添削の上で返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。			
受講生に望むこと	この科目は就職活動そのものに近い部分まで指導や活動を行うものである。授業時間にしっかりと活動を行うこと。外部とのかかわりでイレギュラーな日程で授業が行われるため、欠席をしないように気を付けること。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	授業時間内で適時配布予定			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CC200C キャリア開発セミナーC		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	富岡 和久・瀬戸 裕子（代表教員 富岡 和久）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「キャリア開発セミナーB」を踏まえ、就職時期において実践レベルである事を理解するとともに、自己概念の確立と社会人として身につけておくべき基礎力の点検と発揮を学ぶ。</p> <p>多くの一般社会人に共通して必要な能力・知識・心得などを知識と実践の両面で高める。企業から選ばれる人材の要素は業種や企業やその歴史などで様々であるが、多くの新社会人に共通に必要なものの一つに、社会性や社会力がある。</p> <p>社会を形成する一個人としての自覚を持ち、知識を得ると同時に、実践して社会力を高め、企業から選ばれる人材への成長につなげる。</p>			<p>①社会性とは何かを知り、必要性を認識し、自分に得意な部分と不得意な部分を明らかにする。不得意な部分は補う方法を探す。得意な部分は人に理解されるように表現する方法を確立する。</p> <p>②社会人基礎力の詳細を理解し、具体的なケースでも把握する。</p> <p>③地域の任意の活動に参加して、社会力の重要性和コミュニティでの自分の存在価値を肌で感じる。</p>				
教授方法	講義・演習形式						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション 目標：就職活動のコンピテンシーを習得する。就職活動やその準備で、具体的なチェック項目を確認する。現状の自分を把握できる。					富岡	
2	働くことは あなたに何をもちらすのか 目標：社会人になるとは何かを理解する。仕事の軸見つける。					瀬戸	
3	【自己理解】 金の糸で見つける自分らしさ 目標：自己PRの検証を通して、強みをセレクト。ロジカルに考える力を身につける。					瀬戸	
4	【企業研究】 適職とは何か 目標：3つのキーワードから自分の適職とは何かを知る。企業研究の視点を身につける。自分の価値観を知る。					瀬戸	
5	【自己表現】 面接で実力を出そう 目標：実際の面接において想定外の質問に困惑しても対応できるようになる。面接の実際を検証する。 緊張を味方にして、自分らしさを伝える力を身につける。					瀬戸	
6	自己表現】 面接で伝える 目標：自分の良さについて自信を持って伝えられるようになる。面接のノウハウを踏まえて、その時自己表現ができる人になる。					瀬戸	
7	【コミュニケーションスキル】 グループディスカッションのキモ 目標：グループワークで企業が知りたい個所を押さえる。様々なグループワークで、自分のすべき事、協働を考える力を身につける。					瀬戸	
8	【ケースメソッド】 社会人になるということ 目標：「働くとはどんなことか」について知ることで働く意味を理解する。内的キャリアと外的キャリアを理解する。ケースメソッドで課題解決力をつける。					瀬戸	
9	キャリアビジョン 目標：これからの自分・人生・考え方について認識を深める。労働法とコンプライアンスを理解する。私の5年後・10年後を考え、発表する。					瀬戸	
10	キャリア開発活動の振り返り① 目標：活動によって得られたものを羅列、自己分析して、自身を振り返る。					富岡	
11	キャリア開発活動の振り返り② 目標：活動結果をまとめてグループディスカッションする事により、自分の活動を他と情報交換し比較して、自己認識を深化する。					富岡	
12	キャリア開発活動の振り返り③ 目標：自己分析とグループでの情報交換の結果をレポートにまとめて、文章として理解する。					富岡	
13	キャリア開発活動の振り返り④ キャリア開発活動の発表の準備を行う。 目標：ポスターやプレゼンテーションなどの発表素材の完成。					富岡	
14	目標：キャリア開発活動のまとめ①：成果発表会① 目標：自己の成果発表と他者の成果発表を通して、成果の共有化を図る。					富岡	
15	キャリア開発活動のまとめ②：成果発表会② 目標：自己の成果発表と他者の成果発表を通して、成果の共有化を図る。					富岡	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
取り組み姿勢	30	演習態度、グループ活動への参加の積極性や貢献度		成果発表会の内容	70	社会人基礎力などの能力やスキルに当てはめて自分のどんなところがどのように伸びたかを、具体例で表現することを求める。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>実際の活動は授業外に及ぶ。計画をしっかり立てることがポイント。</p> <p>個人活動となるため、授業時間内の一括指導では行き届かない部分があることから、報告のために授業外の活動や学びは記録すること。</p> <p>事前事後の学習時間の割り振り合計30時間分を随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>			<p>原則、課題を提出した翌週に返却。</p> <p>また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>				
受講生に望むこと	この科目の活動は、早早就職活動で利用できる事柄ばかりであるため、就職活動を意識して積極的な姿勢で臨んでほしい。			教科書・テキスト	就活ナビ＜学生支援課から配布＞		
指定図書参考書等	『社会力を育てる-新しい「学び」の構想』：門脇厚司 岩波新書 2010			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CC130C キャリア教養講座A		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	池村 努・片山 千枝・松原 敏治・山口 順 (代表教員 池村 努)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は全学共通科目、キャリア教育科目として開講する。キャリア形成の段階や、専門的な職業人として求められる専門的知識と、技術を獲得する上で必要となる教養を身につけ、社会人基礎力を養成する。</p> <p>具体的には、政治経済、現代社会における課題などをトピックス別に開設するとともに、学生自身が新聞記事等から読取り、まとめ、発表する。また、一般常識問題を読み解き、文章理解、判断推理等の基礎を身につける。</p> <p>クラスを二つに分け、それぞれ社会(時事・政治・経済分野)、国語(文章読解)、数学を週替わりで学習する。</p>			<p>時事・政治・経済分野に於いて、「今起こっていること」や、「社会人として知っておくべきこと」を理解する。</p> <p>小説を通じて文章読解能力を身につけ、文章作成者が訴えようとしている事柄を理解する力をつける。</p> <p>もう一度数学に取組むことにより、社会人として必要な基礎的数学力を身につける。</p> <p>時事・政治・経済分野、文章読解、数学を通じ、就職活動で求められる一般常識問題やSPI2試験への対策の足がかりとする。</p>			
教授方法	プリントを用いて問題を解き、解説を加える					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：ポートフォリオ、進路調査、学生支援課ガイダンスを行う。なぜ「キャリア教養講座」を学ぶのか。どのようにして学ぶのかについて説明し、動機付けをする。					池村・学生支援課
2	社会①2016年時事①2015年の世界・日本の時事問題について学ぶ。					山口
3	国語①文章表現・読解のおもしろさを学ぶ 小説で読む「仕事のおもしろさ」①					片山
4	数学①1次式のしくみ：実例をもとにして、問題を解きながら学ぶ。					松原
5	社会②2016年時事：2016年の石川県の主なニュースについて学ぶ。					山口
6	国語②文章読解①(「文章読解の基礎」の実践問題) 小説で読む「仕事のおもしろさ」②					片山
7	数学②割合と比 その1：割合とは何かや割合の表し方について問題を解きながら学ぶ。					松原
8	社会③一般常識50：入社試験に絶対に必要な基礎知識について学ぶ。					山口
9	国語③文章読解②(「文章読解の大意」「指示語やキーワードの理解」の実践問題) 小説で読む「仕事のおもしろさ」③					片山
10	数学③割合と比 その2：割増と割引や構成比と濃度について問題を解きながら学ぶ。					松原
11	社会④一般常識50：入社試験に絶対に必要な基礎知識について学ぶ。					山口
12	国語④文章読解③(「文章の並び替え」「長文の読解」の実践問題) 小説で読む「仕事のおもしろさ」④					片山
13	社会⑤一般常識50：入社試験に絶対に必要な基礎知識について学ぶ。					山口
14	数学④速さの問題：基本的な問題から取り組む。					松原
15	社会⑥社会⑥時事問題の総ざらえ：国際情勢。主な国際組織・世界の指導者・重要用語について学ぶ。					山口
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
単位認定試験による	80	教授内容を理解していること		授業への積極的取り組み	20	課題に対し、積極的に取り組んでいること
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>						
<p>前回使用されたプリントに目を通し、理解できていなかったところを質問できるようにする。[30分]</p> <p>出題された問題について、解けたものも含めた全ての問題について、復習を行う。[60分]</p>				<p>授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。また、授業時間外には代表教員が取りまとめ、対応する。</p>		
受講生に望むこと	社会人に必要な一般常識を学ぶに当たり、苦手意識を持たずに取り組んで欲しい。			教科書・テキスト	適宜プリントを用いる	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	CC140C キャリア教養講座B		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	池村 努・片山 千枝・松原 敏治・山口 順 (代表教員 池村 努)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「キャリア教養講座A」を踏まえ、体系的な就職対策の実践問題を通して、教養と社会人基礎力をさらに高める。具体的には、政治経済、現代社会における課題などをトピックス別に開設するとともに、学生自身が新聞記事等から読取り、まとめ、発表する。また、一般常識問題を読み解き、文章理解、判断推理等の基礎を身につける。</p> <p>SPI2 試験を受け、その結果を基に自らの理解度を確認する。クラスを二つに分け、それぞれ社会(時事・政治・経済分野)、国語(文章読解)、数学を週替わりで学習する。</p> <p>全学共通科目、キャリア教育科目として開講する。</p>			<p>時事・政治・経済分野に於いて、「今起っていること」や、「社会人として知っておくべきこと」を理解する。小説を通じて文章読解能力を身につけ、文章作成者が訴えようとしている事柄を理解する力を付ける。もう一度数学に取り組むことにより、社会人として必要な基礎的数学力を身につける。時事・政治・経済分野、文章読解、数学を通じ、就職活動で求められる一般常識問題や SPI2 試験への対策の足がかりとする。</p>				
教授方法	プリントを用いて問題を解き、解説を加える。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：就職試験に向けたガイダンスを行う。入社試験で用いられることが多くなってきた SPI2 とは何か、これまで取組んできたものとどう関わるのかについて説明し、動機付けをする。					池村・学生支援課	
2	社会① 2016年時事①時事問題の総ざらえ：政治。国会運営・重要な法律・制度改革について学ぶ。					山口	
3	国語① SPI2 の基礎 「言葉の問題」の実践問題 小説で読む「仕事のおもしろさ」⑤					片山	
4	数学①2次・3次の計算と指数法則：実例をもとにして、問題を解きながら学ぶ。					松原	
5	社会②時事問題の総ざらえ：経済。金融&通商・企業・経営について学ぶ。					山口	
6	国語② SPI2「二語関係」①(「二語関係」「同意語・反対語」の実践問題) 小説で読む「仕事のおもしろさ」⑥					片山	
7	SPI2 試験：入社試験等で用いられている SPI2 試験を実施する。実際に解くことで入社試験への対策がどの程度取れているかを確認し、後半の学習に繋げる。					池村・学生支援課	
8	数学②集合と命題：図を使って考えるとわかりやすくなる。					松原	
9	社会③時事問題の総ざらえ：環境。環境に関する国際条約・重要な環境用語を学ぶ。					山口	
10	国語③ SPI2「語句の用法」「熟語の意味」「ことわざ・慣用句の実践問題) 小説で読む「仕事のおもしろさ」⑦					片山	
11	数学③場合の数と確率の基礎：基本的な問題から取り組む。					松原	
12	SPI2 言語的問題 傾向を確認する。					片山	
13	SPI2非言語問題の解説。					松原	
14	SPI2(言語的・非言語的問題) 自己分析：SPI模擬試験の結果をもとに自分の適性等について考える。					池村・学生支援課	
15	SPI2 試験結果に基づく個別指導：試験結果を基に、学生一人ひとりの分析と個人指導を行う。を行う。					池村・松原・片山	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験による	80	教授内容を理解していること。		授業への積極的取り組み	20	課題に対し、積極的に取り組んでいること。	
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>							
<p>前回使用されたプリントに目を通し、理解できていなかったところを質問できるようにする。[30分]</p> <p>出題された問題について、解けたものも含めた全ての問題について、復習を行う。[60分]</p>			<p>授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。また、授業時間外には代表教員が取りまとめ、対応する。</p>				
受講生に望むこと	就職試験や編入学を見据えて、積極的に取り組んでほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを用いる		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CC210C キャリア教養講座C		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	池村 努・片山 千枝・松原 敏治・山口 順 (代表教員 池村 努)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「キャリア教養講座A・B」で学習したことを踏まえて、教養と一般常識をさらに深める。時事・政治・経済分野、数学、文章読解を中心に、就職試験に頻出する問題や、小論文の対策を行うことで、就職活動の一助とする。社会(時事・政治・経済分野)、国語(文章読解)、数学を週替わりで学習する。 学科共通科目・キャリア支援科目として開講する。</p>			<p>時事・政治・経済分野に於いて、「今起こっていること」や、「社会人として知っておくべきこと」を理解する。 SPI 再現問題を通じて、分析力と読み取る力を身につける。小論文問題に取り組むことにより、文章作成能力を身につける。もう一度数学に取り組むことにより、社会人として必要な基礎的数学力を身につける。時事・政治・経済分野、文章読解、数学を通じ、就職活動で求められる一般常識問題や SPI2 試験への対策の足がかりとする。</p>				
教授方法	プリントを用いて、問題を解き、解説を加える。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	国語① SPI の再現問題① (「二語関係」「熟語」等)					片山	
2	社会① 2016年時事：2016年の世界・日本の主な出来事について学びながら重要用語を確認する。					山口	
3	数学① 損益算 売買を行うときに生じる損失や利益に関する問題を行なう。					松原	
4	国語② SPI の再現問題② (「語句の意味」「語句の用法」等)					片山	
5	社会② 2016年時事：2016年の石川県の主なニュースについて学びながら石川県についての基礎知識を身につける。					山口	
6	数学② 仕事算 一定の仕事を能力の異なる人や人数を変えて処理するときにかかる時間を考える問題を行なう。					松原	
7	国語③ SPI の再現問題③ (「長文の読解」等)					片山	
8	社会③ 就活に役立つ一般常識：経済(金融&通商、企業・経営)・社会、労働、教育(現代社会の諸問題、労働、教育)について学ぶ。					山口	
9	数学③ 図形① 平面図形に関する問題を中心に取り組む。					松原	
10	国語④ 小論文対策①					片山	
11	社会④ 生活・健康、医療、科学・技術について学ぶ。					山口	
12	数学④ 図形② 空間図形に関する問題を中心に取り組む。					松原	
13	国語⑤ 小論文対策②					片山	
14	社会⑤ 通信・IT、交通、文化、スポーツ、話題の人物について学ぶ。					山口	
15	数学⑤ 展開図 基本的な問題から取り組む。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験による	80	教授内容を理解していること。		授業への積極的取り組み	20	課題に対し、積極的に取り組んでいること。	
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>							
<p>前回使用されたプリントに目を通し、理解できていなかったところを質問できるようにする。[30分] 出題された問題について、解けたものも含めた全ての問題について、復習を行う。[60分]</p>				<p>授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。また、授業時間外には代表教員が取りまとめ、対応する。</p>			
受講生に望むこと	就職試験に直結するものとして取り組んでほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを用いる。		
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CC220C ビジネス人間関係論		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
上司や取引先、同僚や部下など、ビジネスは多くの人と関わることでなりたっている。本授業では、職場をはじめとするビジネスの現場における人間関係論を学び、よりよい人との関わり方を考える。			①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。 ④授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。				
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションービジネス社会での人間関係とはー						
2	上司の心理とその対応（1）：上司のタイプとその上司との良い人間関係の作り方について考える						
3	上司の心理とその対応（2）：上司のタイプとその上司との良い人間関係の作り方について考える						
4	同僚の心理とその対応（1）：同僚のタイプとその同僚との良い人間関係の作り方について考える						
5	同僚の心理とその対応（2）：同僚のタイプとその同僚との良い人間関係の作り方について考える						
6	部下の心理とその対応：部下のタイプとその同僚との良い人間関係の作り方について考える						
7	メイヨーとホーソン実験：人間関係論が生まれてきた経緯とホーソン実験について学ぶ						
8	自分を磨く：自己を磨き、仕事ができるようになるためにはどうすべきか考える						
9	コミュニケーション：職場やビジネス上でのコミュニケーションについて理解する						
10	リーダーシップ（1）：リーダーシップのさまざまな考え方について学ぶ						
11	リーダーシップ（2）：職場でのリーダーシップについて考える						
12	フォロアーズシップ：リーダーを補佐するフォロアーズの役割について理解する						
13	モチベーション：仕事についてのモチベーションについて考える						
14	職場のストレスとメンタルヘルス：職場でのストレスと、メンタルヘルス対策について理解する						
15	まとめー全体を振り返るー						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
定期試験	60	授業内容の理解度を評価する	小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。 (2回予定)		
授業参加状況	10	出席状況および授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと [30分] ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語や内容を深く理解する[60分]			小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。				
受講生に望むこと	日々の学校生活やサークル活動、バイト等を通じ、人間関係論について考えることを期待する。		教科書・テキスト	なし（資料を配布する）			
指定図書参考書等	なし／『職場の心理学』齊藤勇 西東社 2015年 ISBN978-4-7916-2032-6		その他・特記事項	なし			

授業科目名	CC090C 数学基礎		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	自由	
担当教員名	松原 敏治						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
大学の専門科目の中には数学的な考え方が要求されるものがあるが、その習得が必要である。また、数学的な見方や考え方を身につけておくことは社会生活を送る上でも役に立つ。このため、主として数I・Aまでの題材の中で専門科目の講義や社会生活を送る上で必要な事項を取り上げ、理解を深める。			各回の内容について基本的な考え方を理解し、問題が解けるようにする。授業前半の解説をもとに、後半は問題プリントに取り組む。問題プリントは提出を求める。専門科目の講義に出てくる数学的な考え方、就職試験などに出てくる各種問題に対応できる力をつける。				
教授方法	演習プリントの取り組み、解説、関連事項の解説。添削指導。						
履修条件	学科指定の者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション : 学習の仕方などについて説明を行い、あわせて計算力調査を行います。						
2	計算の基礎① : 整数の加減のしくみについて問題を解きながら学びます。						
3	計算の基礎② : 整数の乗除のしくみについて問題を解きながら学びます。						
4	計算の基礎③ : 小数の加減のしくみについて問題を解きながら学びます。						
5	計算の基礎④ : 小数の乗除のしくみについて問題を解きながら学びます。						
6	第2回から第5回についてのまとめとふりかえり。単元テスト。						
7	割合と比① : 割合とは何かや割合の表し方について問題を解きながら学びます。						
8	割合と比② : 割合の計算について問題を解きながら学びます。						
9	割合と比③ : 割増と割引について問題を解きながら学びます。						
10	割合と比④ : 構成比と濃度について問題を解きながら学びます。						
11	第7回から第10回についてのまとめとふりかえり。単元テスト。						
12	一次方程式 : 基本的な考え方について問題を解きながら学びます。						
13	平面図形と面積 : 実例をもとにして、問題を解きながら学びます。						
14	グラフと表の読み方 : 実例をもとにして、問題を解きながら学びます。						
15	第12回から第14回についてのまとめとふりかえり。単元テスト。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
単元テスト	40	単元ごとの履修項目の理解度をみるもので、基本的には7割の正解が望まれる	課題への取り組み状況	40	各人の能力には差異があるが、どれだけ向上したか、どれだけ意欲的に取り組んだかを見る。		
積極性	20	毎回意欲的に取り組んでいた時、高い評価をする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
授業開始時に、前回の講義内容を復習して講義に臨む。過去に算数・数学でつまずいた箇所を振り返っておくとよい。事後学習として、学習プリントの復習を最低30分必ず行ってください。さらに、該当の内容の問題を自分が過去に使った数学の教科書あるいは数学検定問題集から探して解いてみることを勧めます。			提出されたプリントは、その次の講義で返却する。返却時には添削がしてあります。その添削についてわからないことがある場合は、積極的に質問をすること。				
受講生に望むこと	各回における数学的な考え方の理解につとめること。計算問題への取り組み。		教科書・テキスト	なし			
指定図書参考書等	なし/参考図書：『受かる！数学検定3級』 日本数学検定協会（監修）学研教育出版 2012年 ISBN978-4-05-303591-2		その他・特記事項	数学検定に挑戦したい学生には別途アドバイスします。			

授業科目名	CF100C 統計の基礎			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
アンケート調査や実験などの測定データを整理し、そのデータの持っている傾向や性質の把握および、予測などを行う方法を統計的手法という。今日、このような手法は自然科学や社会科学、人文科学の分野を問わず、広く浸透し活用されている。履修者にとっては、卒業レポート作成時や仕事において、必要となる場面が多くあるだろう。本講義では、統計学の基本概念を理解し、統計的手法を利用する能力を養うことを目的とする。難しい教学を使わずできるだけ平易に解説し、確実に習得できるよう毎回問題演習を行う。				①統計の基礎概念を理解する。 ②基本統計量を導出できる。 ③相関関係を理解し、回帰分析ができる。 ④統計的推定と検定の考え方を理解し、それら活用できる。			
教授方法	講義、演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	統計の基礎概念：母集団と標本、基本統計量、データ尺度について理解する。						
2	基本統計量①：平均、中央値、最頻値、分散を導出する。						
3	基本統計量②：標準偏差、不偏分散、変動係数を導出する。データの標準化を行う。						
4	度数分布とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムを作成する。						
5	相関：相関関係を理解し、相関係数を導出する。						
6	単回帰分析：回帰直線と決定係数について理解する。						
7	時系列データ分析：移動平均法と自己回帰分析について理解する。						
8	正規分布①：正規分布、標準正規分布について理解する。						
9	正規分布②：正規分布表の使い方について理解する。						
10	推定：推定の考え方について理解する。						
11	検定①：帰無仮説と対立仮説、有意水準など検定の考え方を理解する。						
12	検定②：母平均の差の検定（対応のないt検定）を理解する。						
13	検定③：母平均の差の検定（対応のあるt検定）を理解する。						
14	検定④：分割表の検定を理解する。						
15	総合問題演習：問題演習によって、理解を深める。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢。			中間課題	20	課題への取り組み姿勢。講義内容をどの程度理解しているか。
期末テスト	70	講義内容を理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①事前に、各回のテキストの当該箇所を目を通しておくこと[15分] ②期末テストに備えて、毎回授業で習ったことを復習すること[20分] ③課題として出題される問題を解き提出すること[90分]				提出した課題は、採点したものを次回の冒頭で返却する。			
受講生に望むこと	授業内容の理解を深めるため、問題演習に真面目に取り組むこと。			教科書・テキスト	『基礎から学ぶ統計解析－EXCEL2010対応－』 沢田史子、杉森公一、大藪多可志 著 共立出版 2011年 ISBN 978-4-320-01974-4		
指定図書参考書等	なし／『ゼロからの統計学－使えるシーンが見える－』 竹田茂生、藤木清著 くろしお出版 2010年 ISBN 978-4-87424-471-5			その他・特記事項	ノート・電卓（√計算できるもの・スマホ不可）を準備すること。		

授業科目名	CF200C リサーチ入門		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>研究レポートやビジネスプレゼンに説得力を持たせるための調査スキルを身に付けることを目的とする。調査の基本概念（調査方法の種類と特徴）、質問紙調査の基礎（調査票作成とサンプリングの方法）と実施方法、インタビュー調査の流れとポイントについて学び、インタビュー調査を実施する。</p>			<p>定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得する。観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。</p>				
教授方法	演習形式を交えた講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	<p>科学的方法を学ぶ(第1章) 目標：科学する方法、記述と説明、合意と信用について理解する。</p>						
2	<p>データの種類と尺度(第2章) 目標：データの種類、変数・仮説一尺度及び尺度別アンケート質問について理解する。</p>						
3	<p>調査の基本概念(第3章) 目標：調査の種類と特徴及び最適な調査方法はどれかなどを理解する。</p>						
4	<p>観察調査（1）観察調査の基礎と調査研究計画書の作成(第4章) 目標：観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れを理解する。</p>						
5	<p>観察調査（2）観察シート作成(第5章) 目標：観察シート作成のポイントを理解する。 グループのメンバーが観察シートを持ち寄り、調査に使用する1つの観察シートを完成する</p>						
6	<p>観察調査（3）調査結果の整理と報告(第6章) 目標：観察調査の結果の分析ができる。</p>						
7	<p>観察調査（4）発表準備一発表(第6章) 目標：効果的な発表が出来るようになる。</p>						
8	<p>インタビュー調査(第7章) 目標：インタビュー調査の流れとポイントを理解する。</p>						
9	<p>質問紙調査（1）概要①＝質問紙調査の理解と調査研究計画書の作成(第8章) 目標：質問紙調査の流れ、調査企画書の作成、サンプリング、ワーディングを理解する。</p>						
10	<p>質問紙調査（2）質問紙作成(第9章) 目標：質問紙作成の手順を理解し、質問紙を作成できる。</p>						
11	<p>質問紙調査（3）データ入力(第10章) 目標：木定期に応じたデータ作成が出来る。</p>						
12	<p>質問紙調査（4）データ分析①(第10章) 目標：データ分析の準備（ラベル入力など）と基礎的な集計ができる。</p>						
13	<p>質問紙調査（5）データ分析②(第11章) 分析の方法を理解し、考察できるようになる。</p>						
14	<p>質問紙調査＝6＝発表準備(第12章) 目標：質問紙調査の結果をまとめられる。</p>						
15	<p>質問紙調査＝7＝発表(第12章) 目標：質問紙調査の分析結果を発表できると共に、他の人の発表を共有できる。</p>						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ワークシート	15	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度		観察調査研究計画書、観察シート、質問紙調査研究計画書及び調査票	20	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度	
観察調査プレゼン	25	資料及び発表の完成度		質問紙調査レポート	40	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
ワークシート、各種調査シート、計画書等の作成[30時間] 観察調査、インタビュー調査および質問紙調査[30時間]				課題提出後に添削の上で返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。			
受講生に望むこと	積極的に実地調査に取り組んでください。 また、論理的思考を身につけることを意識してください。			教科書・テキスト	竹田茂生・藤木清著『知的な論文・レポートのためのリサーチ入門』くろしお出版2013年 ISBN 978-4-87424-598-9		
指定図書参考書等	学習技術研究会著『知へのステップ第4版』くろしお出版2015 ISBN 4874246508			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	CF110C アカデミック・リーディング			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は、クリティカル・リーディングの技術や姿勢を身につけることを目標として、特定のテーマに基づいた文献内容の理解、要約、説明といった作業を行う。 四年制大学への編入学を視野に入れつつ、大学生としての必要な読む力の獲得を目的とする。主に文系領域を中心として様々な学問分野の基本的に文章・文献を読解することにより批判的に読む力（クリティカル・リーディング）を鍛えていく。一人で文章・文献を読みこなすだけでなく、学生や教員との双方向的なやり取りを行いながら授業を進めていく。				様々な文献を正確に理解し、文献の命題を論理的かつ批判的に読む力を習得する。 ①大学生としての読解力の基礎を身につける。 ②論理的・批判的な読み方を身につける。 ③編入学試験における文章読解力を身につける。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業の進め方についてガイダンス 大学における学問領域の概要を理解する。						
2	学問的・学術的な文章の構造、文章を読解することの意味を理解する。						
3	人文学系の文章を読み理解する。（文学）						
4	人文学系の文章を読み理解する。（歴史学）						
5	人文学系の文章を読み理解する。（民俗学）						
6	社会学系の文章を読み理解する。（社会学）						
7	社会学系の文章を読み理解する。（経済学）						
8	文章を元にしたディスカッションを行う。図書館において学問領域についての考察を深める。						
9	学際的領域の文章を読み理解する。（情報学）						
10	学際的領域の文章を読み理解する。（その他）						
11	履修者の志望領域や興味に即したの文章を読み理解する。						
12	履修者の志望領域や興味に即したの文章を読み理解する。						
13	履修者の志望領域や興味に即したの文章を読み理解する。						
14	履修者の志望領域や興味に即したの文章を読み理解する。						
15	全体のまとめ 学術的な文章を読むとはどういうことか。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業内課題	60	授業での課題の提出、完成度			授業への取り組み	30	積極的な授業参加、発言など
小テスト	10	授業内で行う小テスト					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常的になるべく多くの文章を読むこと。新聞、学術書だけでなく文庫、新書や古典的な名著なども読むことが望ましい。 新書または文庫を最低でも月に1冊程度は読むこと。 課題となっている文章を元に予習復習を最低30分程度は行うこと。				授業内でコメントを返します。提出物・発表についてはその場で質疑をしつつ授業を行う。また必要に応じて提出物を添削し返却する。			
受講生に望むこと	文献・文章の読む力は様々な部分で必要になります。四年制大学への編入学を目指す人はもちろん、読解力・理解力を高めたい学生の受講を期待します。ぜひ積極的な態度で授業に臨んでください。			教科書・テキスト	なし（授業内で配布）		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	国語辞書を持参すること。紙の辞書、電子辞書どちらでも問題ありません。		

授業科目名	CF210C 小論文作成法		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	林 剛司						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
日本語での論述力を高めるための講義である。特に、編入学試験で課される小論文対策を主たる目的とする。小論文やレポートは、とにかく書く(数をこなす)ことによるのみ上達する。それ故、この講義では受講生各自の専攻、興味・関心に応じて、短いレポートから、長めの小論文をたくさん書いてもらうことになる。			自らの考えを相手に適切に伝える「表現力」を身につける。編入学試験で合格レベルに達する小論文の書き方を身につける。				
教授方法	演習、講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	レポート・小論文の書式とレイアウト、文体、符号の使い方						
2	引用文の表記法、注釈の表記法						
3	文献、資料の収集法 (1)						
4	文献、資料の収集法 (2)						
5	レポート・小論文を基にしたプレゼンテーションについて						
6	卒業論文の書き方						
7	実例に学ぶ 一優れた小論文を読む (1)						
8	実例に学ぶ 一優れた小論文を読む (2)						
9	実例に学ぶ 一様々な小論文を読んで、批評、討論 (1)						
10	実例に学ぶ 一様々な小論文を読んで、批評、討論 (2)						
11	実例に学ぶ 一様々な小論文を読んで、批評、討論 (3)						
12	小論文を書いてみよう (1)						
13	小論文を書いてみよう (2)						
14	受講者の小論文に対するフィードバック、討論						
15	受講者の小論文に対するフィードバック、討論、まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小論文	60	実際に小論文を6本ほど書いてもらい、講義で話し合ったルールを守って書いているかという点と、論の組み立て方、内容の点で評価する。		授業態度	10	授業中の討論に積極的に参加し、発言しているか。	
レポート(宿題)	30	小論文以外の宿題(レポート、感想文)を課すが、それらをきちんと提出しているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
普段から良い(小)論文をたくさん読む努力もしてほしい。それを、自分が(小)論文を書く際のサンプルにしてほしい。良い(小)論文は、授業担当者も提示するが、各自図書館やインターネットで収集し、積極的に読んでみる。[論文によるが120分~360分/1論文]				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。期末試験は希望者にのみ返却する。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	小論文やレポートは、とにかく書く(数をこなす)ことによるのみ上達する。それ故、この講義では受講生各自の専攻、興味・関心に応じて、短いレポートから、長めの小論文をたくさん書いてもらうことになる。			教科書・テキスト	『新版 大学生のためのレポート・論文術』 小笠原喜康、講談社現代新書、2009年 (ISBN: 978-4062880213)		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB100C 資格簿記A		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	蘭守 貴弘					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	全国経理教育協会簿記能力検定試験3級（全経簿記3級）			
授業の概要			授業の到達目標			
全ての企業が行う会計業務を遂行するために必要となる簿記の基礎的な知識を習得する。			7月に行われる全国経理教育協会簿記能力検定試験3級の合格を目指します。			
教授方法	講義と問題演習の併用。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	簿記の目的について理解する。					
2	損益計算書と貸借対照表について理解する。					
3	簿記上の取引とは何かを理解する。					
4	勘定と仕訳について理解する。					
5	商品売買の記帳について理解する。					
6	売掛金・買掛金の意味と記帳について理解する。					
7	簿記上の現金の意味と記帳について理解する。					
8	当座預金と当座借越の意味と記帳について理解する。					
9	手形の意味と記帳について理解する。					
10	その他債権債務の意味と記帳について理解する。					
11	決算（その1）売上原価の計算と記帳について理解する。					
12	決算（その1）貸倒引当金の計算と記帳について理解する。					
13	決算（その1）減価償却費の計算と記帳について理解する。					
14	全国経理教育協会簿記能力検定試験3級の問題演習（試算表の作成を中心として）					
15	全国経理教育協会簿記能力検定試験3級の問題演習（精算表の作成を中心として）					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	定期試験の評点により評価を行う。		提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回で指示をした演習問題を次回授業までに解き、分からないところの洗い出しをしておく。[50分] また実施した小テストで間違ったところは、必ず復習とチェックを行う。[20分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[180分]			実施した小テストは、提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。			
受講生に望むこと	電卓を携行すること。 分からないことは何でも、何度でも質問すること。		教科書・テキスト	『スラスラできる日商簿記3級テキスト』2版（大原簿記学校 大原出版株式会社）ISBN978-4-86486-341-4 『ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記』改訂2版（大原簿記学校 大原出版株式会社）ISBN978-4-86486-345-2		
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB105C 資格簿記B		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	蘭守 貴弘					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	日商簿記検定3級			
授業の概要			授業の到達目標			
前期の講義を基礎として、簿記の知識の理解を一層深めます。特に決算についての手続を中心に講義を進め、取引の記帳から損益計算書・貸借対照表の作成まで、簿記の一連の流れを理解してもらいます。			日本商工会議所簿記検定試験3級の合格を目指します。			
教授方法	講義と問題演習の併用。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	補助簿(小口現金出納帳・商品有高帳等)の記入方法を理解する。					
2	伝票会計について、その処理の仕方を理解する。					
3	合計試算表、残高試算表の作成の方法を理解する。					
4	決算(その2)売上原価の計算と記帳についてさらに理解を深める。					
5	決算(その2)貸倒引当金の計算と記帳についてさらに理解を深める。					
6	決算(その2)減価償却費の計算と記帳についてさらに理解を深める。					
7	決算(その2)費用・収益の繰延について理解する。					
8	決算(その2)費用・収益の見越しについて理解する。					
9	決算(その2)売買目的有価証券の意味と記帳について理解する。					
10	日商簿記検定試験3級問題演習(仕訳問題を中心として)					
11	日商簿記検定試験3級問題演習(補助簿の記入等を中心として)					
12	日商簿記検定試験3級問題演習(試算表の作成を中心として)					
13	日商簿記検定試験3級問題演習(伝票記載等を中心として)					
14	日商簿記検定試験3級問題演習(精算表の作成を中心として)					
15	日商簿記検定試験3級問題演習(精算表の作成を中心として)					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	定期試験の評点により評価を行う。		提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>						
各回で指示をした演習問題を次回授業までに解き、分からないところの洗い出しをしておく。[50分] また実施した小テストで間違ったところは、必ず復習とチェックを行う。[20分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[480分]				<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>		
				実施した小テストは、提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決すること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。		
受講生に望むこと	電卓を携帯すること。 分からないことは何でも、何度でも質問すること。			教科書・テキスト	『スラスラできる日商簿記3級テキスト』(大原簿記学校 大原出版株式会社) ISBN978-4-86486-142-7 C1034 『ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記』(大原簿記学校 大原出版株式会社) ISBN978-4-86486-155-7 C1034	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	CB200C 資格簿記C		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	蘭守 貴弘					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	日商簿記検定2級			
授業の概要			授業の到達目標			
簿記の学習は、商業簿記と工業簿記から成り立っています。資格簿記Cでは、商業簿記については株式会社における会計処理を学び、工業簿記においては製造業における会計処理の概要について学びます。			製造業における記帳体系を学び、工業簿記が商業簿記とどのようにつながりを持っているのかを理解することにより、日本商工会議所簿記検定試験2級受験に向けての基礎知識を身に付けることを目指す。			
教授方法	講義と演習の併用による。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	簿記一巡の手続きと財務諸表について理解する。					
2	銀行勘定調整表の作成と、それに伴う記帳について理解する。					
3	有価証券の意味と記帳について理解する。					
4	商品売上の記帳方法を学ぶとともに、売上原価の意味と記帳について理解する。					
5	固定資産（有形固定資産、無形固定資産）の意味と記帳について理解する。					
6	引当金、特に貸倒引当金と賞与引当金の意味と記帳について理解する。					
7	株式会社の意味と、その固有の会計処理について理解する。（その1）					
8	株式会社の意味と、その固有の会計処理について理解する。（その2）					
9	損益計算書と貸借対照表の様式について理解する。					
10	工業簿記の概要について理解する。					
11	工業簿記特有の勘定科目と記帳体系について理解する。					
12	個別原価計算における製品現価の集計方法を理解する。					
13	商企業の財務諸表と比較しつつ、工企業の財務諸表について理解する。					
14	総合原価計算の計算方法と、その記帳について理解する。（その1）					
15	総合原価計算の計算方法と、その記帳について理解する。（その2）					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	定期試験の評価により評点を行う。		提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
各回で指示をした演習問題を次回授業までに解き、分からないところの洗い出しをしておく。[50分] また実施した小テストで間違ったところは、必ず復習とチェックを行う。[20分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[600分]				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
電卓を必ず携帯すること。 分からないことは、何でも何度でも質問すること。				実施した小テストは、提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決すること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。		
受講生に望むこと				教科書・テキスト	『スラスラできる日商簿記2級商業簿記テキスト 2017年度受験対策用』（大原出版株式会社）ISBN 978-4-86486-450-3 『スラスラできる日商簿記2級工業簿記テキスト』（大原出版株式会社）ISBN978-4-86486-146-5	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	CB110C 資格接客サービスA		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	中川 真由美					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	実務技能検定協会 サービス接客検定3級			
授業の概要			授業の到達目標			
実務技能検定協会・サービス接客検定3級取得に向けた問題演習を行うとともに、ホテル業や販売業・接客業務に携わるうえで必要な基礎的な内容が盛りだくさん組み込まれている内容になっている。6月中旬に3級を受験し、その後は2級を目指し、さらにランクアップした内容にチャレンジする。2級の資格取得の受験は後期の授業の中で更に学習を深め11月に受験予定とする。			①サービス接客検定3級を受験と合格を目指す ②接客業務に必要な基本的なマナー・ルールを身につける ③コミュニケーション能力が身につくこと			
教授方法	講義 ・ ロールプレイング ・ グループセッション					
履修条件	サービス接客検定資格取得希望者に限る。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	サービス接客検定についての説明・学習方法について。ホスピタリティマインドについて。					
2	サービスを担当するスタッフの必要要件について。					
3	サービスを担当するスタッフの必要な資質について。					
4	サービスとホスピタリティとの関係と事例検討。					
5	経済活動・商業活動・について。					
6	マーケティングについて。					
7	一般知識（ビジネス用語・社交マナー・贈答マナー等）					
8	その他の一般常識についての学習。					
9	顧客心理についての学習。					
10	CS（顧客満足）についての学習。					
11	CS（顧客満足）についての事例検討の実施。					
12	接客用語の学習。					
13	接客会話の学習。					
14	接客（接客）の実践について。					
15	接客（接客）対応のロールプレイング。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
知識の取得度合	40	期末試験・中間試験・小テスト・レポート等から		知識の体得の度合	40	ロールプレイングの実施
学習の参加度合	20	グループセッションへの参加度合				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業で配布した資料、演習問題は必ず授業後に復習すること。[40分]試験に出題されることの多い重要なところです。授業外での学習量が資格取得には欠かせません。				レポート等については必ず評価し、個々にフィードバックをする。また内容的に受講学生と共有した方がよいものがあれば全員にフィードバックし課題を共に考える。（その際記入者の名前は発表しないこととする）		
受講生に望むこと	資格を目指すことの授業となるので、資格試験を受験することは必須とします。検定試験の可否は成績には反映しません。			教科書・テキスト	『サービス接客検定実問題集3級 第35～39回』（早稲田教育出版） ISBN 978-4-7766-1290-2	
指定図書参考書等	各出版社から多数問題集が出ているので、自分に合った物を選択して下さい。			その他・特記事項	3級を取得済みの学生でも、2級取得希望者は履修可	

授業科目名	CB115C 資格接客サービス		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	中川 真由美					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	実務技能検定協会 サービス接客検定2級、準1級			
授業の概要			授業の到達目標			
実務技能検定協会・サービス接客検定2級取得に向けた問題演習を行う。更に上級接客レベルの知識の習得をめざす。検定試験終了後は準1級の取得に向けた面接練習の実施など、接客サービス業に必要な知識を習得する。			①サービス接客検定2級の受験と合格を目指す。 ②業務において基本的なルール・マナーが身につけていることはもちろん、更にステップアップした顧客心理やそれに準じた対応ができるようスキルのレベルアップができています。			
教授方法	講義・ロールプレイング・グループセッション					
履修条件	サービス接客検定資格取得希望者に限る。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	経済のサービス化とサービスのとらえ方					
2	サービスマネジメントの考え方 ・サービススタッフのマネジメント					
3	サービスの知識の学習 ・サービスの種類の理解					
4	サービスの知識の学習 ・顧客のマネジメント					
5	顧客満足（CS）の重要性					
6	顧客満足から顧客ロイヤルティ					
7	プロとしての接客マナー・接客スキルについて					
8	顧客対応の基本 ・ホスピタリティ マインドについて					
9	顧客対応の基本 ・第一印象について					
10	サービススタッフの基本的な言葉づかい					
11	電話対応の基本					
12	問題解決の進め方（クレーム処理）					
13	チームワークについて					
14	準1級に向けてのロールプレイング①					
15	準1級に向けてのロールプレイング②					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
知識の取得度合	40	期末試験・小テスト・レポート等から		知識の体得度合	40	ロールプレイングの実施
学習の参加度合	20	授業・グループセッションへの参加度合				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業で配布した資料、演習問題は必ず授業後に復習すること。[40分]試験に出題されることの多い重要なところです。授業外での学習量が資格取得には欠かせません。				レポート等については必ず評価し、個々にフィードバックをする。また内容的に受講学生と共有した方がよいものがあれば全員にフィードバックし課題を共に考える。（その際記入者の名前は発表しないこととする）		
受講生に望むこと	サービス接客検定2級を受験することを必須とします。検定の可否は成績に反映しません。			教科書・テキスト	『サービス接客検定受験ガイド2級 及び実問題集2級』（早稲田教育出版） ISBN 978-4-7766-1289-6	
指定図書参考書等	書店にて自分に合った問題集を購入して実施することを勧めます。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	CB120C 資格秘書技能A		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	中川 真由美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	実務技能検定協会 秘書検定3級				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会人として必要なルールやマナーを学べる実務技能検定協会・秘書検定3級及び2級取得に向けた問題演習を行う。検定取得にとどまらず今後の社会生活においても必要な基本的な社会常識を身につける。前期では検定試験は受験せず、後期終了後に2級を受験する（2月受験予定）。</p>			<p>社会常識・一般常識を身につける。秘書検定3級レベルの知識の習得。</p>				
教授方法	講義・ロールプレイング・グループセッション						
履修条件	秘書検定資格取得希望者に限る。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	I. 必要とされる資質 ①心構えについて						
2	②要求される資質について						
3	II. 職務知識 ①秘書の機能と役割						
4	②秘書の業務について						
5	知識確認テストの実施						
6	III. 一般知識 ①企業と経営について						
7	②社会常識						
8	③ビジネス用語						
9	IV. マナー・接遇 ①話し方・聞き方について						
10	②敬語について（パートI）						
11	③敬語について（パートII）						
12	④接遇用語について						
13	確認確認テスト						
14	⑤電話応対スキルの習得						
15	⑥接遇応対スキルの習得						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
知識の習得度合	40	期末試験、中間試験の実施・途中小テストにて理解度のチェック、グループワークでの成果・レポート等	課題の取組・提出等	40	決められた課題に対して期限までに提出・内容のマッチング等		
授業への参加度合	20	授業への積極的取組等					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>授業で配布した資料、演習問題は必ず授業後に復習すること。[40分]試験に出題されることの多い重要なところです。授業外での学習量が資格取得には欠かせません。</p>			<p>途中の小テスト及びレポート等は必ず評価しフィードバックをします。</p>				
受講生に望むこと	<p>検定試験に関しては基本2級資格の取得を目指すため、後期11月に受験することを目的とします。2級は合格率全国平均でも50%前後であり前期後期かけて知識の習得を目指し、合格だけにとどまらず社会人としての知識の習得を希望します。</p>		教科書・テキスト	<p>『秘書検定2級集中講義』 ISBN978-4-7766-1019-9 早稲田教育出版 『秘書検定2級クリアテスト』 ISBN978-4-7766-1023-6 早稲田教育出版</p>			
指定図書参考書等	書店にて自分の好みの問題集を購入して実施して下さい。		その他・特記事項	<p>秘書検定2級は後期終了後2月に受験予定。11月に受験することも可能。また同時に3級の受験も可能。</p>			

授業科目名	CB125C 資格秘書技能B		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	中川 真由美					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	実務技能検定協会 秘書検定2級			
授業の概要			授業の到達目標			
前期に引き続き秘書技能検定2級を目指し問題演習を行う。前期にて基本的な心構えや社旗常識を中心に学習してきたが、後期は更にそのレベルを深める。具体的な接遇方法や文書の作成・ファイリング・社会人としての交際マナー・会議業務等の知識を深める。11月に実施予定の秘書検定2級の受験合格をめざし、その後はさらに社会人になったときと想定し現場に通用するルールマナーの学習を実施しそれらを身につけることを目的とする。			秘書検定2級の受験と合格。社会人として現場で求められる基本的就業力を身につける。			
教授方法	講義・グループセッション・ロールプレイング					
履修条件	秘書検定資格取得希望者に限る。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	秘書としての役割について・役割と仕事の処理方法の基本					
2	接遇と交際マナーの実践					
3	会議と文書作成					
4	文書の取り扱い（ファイリング）とオフィス管理					
5	秘書技能検定2級に特化した秘書業務のまとめ・演習①					
6	秘書技能検定2級に特化した秘書業務のまとめ・演習②					
7	社会人としての基礎マナー・ルールを身につける					
8	①マナー・ルールの必要性と自己表現の重要性について					
9	②コミュニケーション能力の必要性和その基本について					
10	③コミュニケーション演習					
11	④接遇言葉づかいの習得					
12	⑤ビジネス電話について					
13	⑥ビジネス電話のロールプレイング					
14	⑦来客対応の基本とロールプレイング					
15	ロジカルな手法を身につける					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
知識の習得度合	40	期末試験・グループワークでの成果・ロールプレイングでの成果・2級及び3級の検定の受験。理解の確認のための小テストの実施。		授業への参加度合	40	グループワークへの参加・ロールプレイングへの取り組み
課題への取り組みと提出	20	決められた課題の提出と内容のマッチング等				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業で配布した資料、演習問題は必ず授業後に復習すること。[40分]試験に出題されることの多い重要なところです。授業外での学習量が資格取得には欠かせません。				途中実施する小テストやレポート等については、評価しフィードバックをする。		
受講生に望むこと	検定に向けた授業となるので必ず受験するようにしてください。受験後は更に秘書だけでなくとどまらず、社会人としてすべての業務に必要な知識の習得を目指しますので積極的に授業に参加し、スキルを身につけてください。			教科書・テキスト	『秘書検定2級集中講義』 ISBN978-4-7766-1019-9 早稲田教育出版 『秘書検定2級クリアテスト』 ISBN978-4-7766-1023-6 早稲田教育出版 （「資格秘書技能A」と同じテキストを使用）	
指定図書参考書等	書店で販売されている問題集を購入し、実施することも勧めます。			その他・特記事項	秘書検定2級または3級の受験が単位認定の要件の1つとなる。ただし合否は成績には反映されないものとする。	

授業科目名	CB130C 資格コンピュータA		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	マイクロソフトオフィス スペシャリスト (MOS) Word、Excel			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>コンピュータ関連資格として世界的に通用するMicrosoft Office Specialist (以下MOS) 資格の取得を目指す。テキスト(問題集)に基づき、自分のペースで問題を解きながら練習する。練習問題と模擬テストはそれぞれ履歴を付け、成長を確認しながらすすめる。模擬テストにより実力を判定した後、MOSの本試験を受け合格を目指す。模擬テストを行なった結果、受験するだけの力を有していないと科目担当が判断した場合は、本試験受験を認めない。</p>			<p>MOSのWord2010、Excel2010どちらかの取得を到達目標とする。特に「資格コンピュータA」ではMOS Excel 2010の取得を目指す。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	MOS資格取得希望者に限る					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：MOS試験概要の説明、演習の進め方の説明					
2	演習：1章から順に各自のペースで実施 Excel第1章～第2章： Excel環境の管理、セルデータの作成					
3	演習：1章から順に各自のペースで実施 Excel第3章：セルやワークシートの書式設定					
4	演習：1章から順に各自のペースで実施 Excel第4章：ワークシートやブックの管理					
5	演習：1章から順に各自のペースで実施 Excel第5章：数式や関数の摘要					
6	演習：1章から順に各自のペースで実施 Excel第6章：視覚的なデータの表示					
7	演習：1章から順に各自のペースで実施 Excel第7章～第8章：ワークシートデータの共有、データの分析と整理					
8	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
9	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
10	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
11	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
12	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
13	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
14	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
15	テストの振り返り：取得した得点の振り返りと、次の資格への準備を行う					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
MOS受験	55	MOS (いずれか一つ) の受験		授業態度	25	授業への積極的取り組みに基づき判断する
MOS合格	20	MOS (いずれか一つ) への合格				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
授業時間外に自習室等を利用してレベルアップを図ることが望ましい。[60分]				練習問題及び模擬試験に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。		
受講生に望むこと	無理することなく自分のレベルを上げて、合格を目指して欲しい。			教科書・テキスト	受験する資格に応じて選択し購入する 『MOS攻略問題集』日経BP社 2010 Excel ISBN:978-4-8222-9725-1 Word ISBN:978-4-82229-724-4	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	MOS受験には規定された受験料が必要となる。 テキスト添付の問題を自宅で行う場合には、学習環境が同じである必要がある (Microsoft Office 2010)。	

授業科目名	CB135C 資格コンピュータB		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	マイクロソフトオフィス スペシャリスト (MOS) Word、Excel			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>コンピュータ関連資格として世界的に通用するMicrosoft Office Specialist (以下MOS) 資格の取得を目指す。テキスト(問題集)に基づき、自分のペースで問題を解きながら練習する。練習問題と模擬テストはそれぞれ履歴を付け、成長を確認しながらすすめる。模擬テストにより実力を判定した後、MOSの本試験を受け合格を目指す。模擬テストを行なった結果、受験するだけの力を有していないと科目担当が判断した場合は、本試験受験を認めない。</p>			<p>MOSのWord2010、Excel2010どちらかの取得を到達目標とする。特に「資格コンピュータB」ではMOS Word 2010の取得を目指す。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	MOS資格取得希望者に限る					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：MOS試験概要の説明、演習の進め方の説明					
2	演習：1章から順に各自のペースで実施 Word第1章：文章の共有と管理					
3	演習：1章から順に各自のペースで実施 Word第2章：コンテンツの書式設定					
4	演習：1章から順に各自のペースで実施 Word第3章：ページのレイアウトと再利用可能なコンテンツの適用					
5	演習：1章から順に各自のペースで実施 Word第4章：図や画像の挿入					
6	演習：1章から順に各自のペースで実施 Word第5章～第6章：文章の校正、参考資料とハイパーリンクの適用					
7	演習：1章から順に各自のペースで実施 Word第7章：差込印刷の実行					
8	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
9	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
10	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
11	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
12	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
13	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
14	模擬テスト：問題集添付の模擬テストを実施する					
15	テストの振り返り：取得した得点の振り返りと、次の資格への準備を行う					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
MOS受験	55	MOS (いずれか一つ) の受験		授業態度	25	授業への積極的取り組みに基づき判断する
MOS合格	20	MOS (いずれか一つ) への合格				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
授業時間外に自習室等を利用してレベルアップを図ることが望ましい。[60分]				練習問題及び模擬試験に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。		
受講生に望むこと	無理することなく自分のレベルを上げて、合格を目指して欲しい。			教科書・テキスト	受験する資格に応じて選択し購入する 『MOS攻略問題集』日経BP社 2010 Excel ISBN:978-4-8222-9725-1 Word ISBN:978-4-82229-724-4	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	MOS受験には規定された受験料が必要となる。テキスト添付の問題を自宅で行う場合には、学習環境が同じである必要がある (Microsoft Office 2010)。	

授業科目名	CB205C データベース利用法		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	池村 努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
データベースとは何か、データベースの考え方について以下の演習を通じて学習する。 ・実際に利用する機会が多いExcelを用いたデータベース機能を習得。 ・Accessを用いたデータベースを構築することにより、リレーショナルデータベースについて学ぶ。			1.身近なデータベースの種類について理解し、説明できる 2.Excelに用意されたデータベース関数を使い、簡単なデータベースを構築・管理できる 3.Accessでデータベースを構築し、リレーショナルデータベースを管理できる				
教授方法	講義による説明と、その内容に基づいた演習。ビデオ視聴に基づいたディスカッションを行う。						
履修条件	「情報科学」の履修済が望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	データベースとは：私たちの生活に多くのデータベースが使われている。データベースとは何か。データベースを使うことで得られるメリットとは何か、実例を挙げながら紹介する。						
2	データベースの事例1 (コンビニエンスストア)：身近で、なくてはならない存在になりつつあるコンビニエンスストアで使われているデータベースの事例について学ぶ。						
3	Excelのデータベース (下準備)：身近な表計算ソフトであるMicrosoft Excelをデータベースとして利用する。初めにデータを加工しやすい形式に変化させる方法について学ぶ。						
4	Excelのデータベース (並べ替え・抽出)：Excelをデータベースとして利用する手初めに、データの加工として並べ替えと抽出を行うことにより、生データでは見えなかったものを可視化する。						
5	Excelのデータベース (集計)：Excelの集計機能を使い、膨大なデータから必要な要素のみを用いた加工について学ぶ。						
6	Excelのデータベース (分析)：統計的手法を用いて、数値だけでは現れてこないデータの性質を見抜く方法について学ぶ。						
7	データベースの事例2 (インターネット・ネットショッピング)：巨大なデータベースのインターネットでは何を入手できるのか。ネットショッピングではどのような仕組みになっているのか、消費者の嗜好どう反映されているのかについて学ぶ。						
8	Accessによるデータベース (テーブル)：リレーショナルデータベースであるAccessについて学ぶ。初めにテーブルという考え方を理解する。ExcelのSheetとどこが同じで何が違うのかについて学ぶ。						
9	Accessによるデータベース (リレーションシップ)：リレーションシップ (関連付け) を実習を通して学ぶ。関連付けられることでデータがどのように活用されるのかを学ぶ。						
10	Accessによるデータベース (クエリ)：クエリを用いることでExcelとは異なる処理の手法について学ぶ。抽出や集計など、Excelにも存在する機能は、Accessではどのように実行するのかについて学ぶ。						
11	Accessによるデータベース (フォーム・レポート)：データベースを入力・閲覧しやすい形に出力するフォームやレポートについて学ぶ。						
12	Accessデータベースの構築 (商品検索システム)：11回までの内容に基づき、データベースの設計、構築を行う。システム概要とデータの確認を行う。						
13	Accessデータベースの構築 (商品検索システム)：12回に続きデータベースの設計、構築を行う。テーブル設計、システム構築を行う。						
14	データベースシステムの事例研究：最終会の事例研究発表に向け、テーマに沿って事例調査を行う。						
15	事例研究発表：データベースについて学んだ内容をもとに、調査結果についてグループ発表を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	ビデオ視聴、事例発表のレポートによる。内容と論理性により評価する。		事例研究発表	30	調査結果と、発表の内容により評価する。	
提出課題	20	Excel、Access双方の提出物により評価する。		授業参加態度	10	積極的な授業参加と、授業への貢献度により評価する。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
次回行なわれる内容についてテキストを読み確認する。[30分] 授業で学んだ関数や手続きについて復習を行なう。[30分] ビデオ視聴レポート (2回) のテーマについて事前に調査を行なう。[特定回90分] ビデオ視聴レポートを定められた期日までに作成する。[特定回90分] 事例研究発表のパワーポイントを協同で作成する。[特定回90分]				10回頃にビデオ視聴レポート返却と評価の公表を行う。 Excel、Accessとも授業内に質問を受け付ける。 授業時間外の質問も随時受け付け回答する。			
受講生に望むこと	インターネットやデータベースに関心を持ち、積極的な取り組みを望む。			教科書・テキスト	『Excelの極意3「データベース」』 毎日コミュニケーションズ 2011年 ISBN978-4-8399-3772-0 『60時間でエキスパート Access2007/2010』 実教出版 2011年 ISBN978-4-407-31907-1		
指定図書参考書等	なし/キーワードで学ぶ最新情報トピックス2016 (「情報科学」で使用)			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB210C デザインソフト演習 I		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>コンピュータ関連技能として、デザインソフトの技術を習得する。デザインソフトとしてAdobe Illustratorを用いる。Illustratorのようなドロー系ソフトウェアは事務能力としてのニーズが高まりつつある。演習を通してデザインソフトの操作について学び、学期末には成果課題を完成させる。</p>			<p>Adobe Illustratorの操作技能を習得する。レイヤーの概念について理解する。最終成果課題として一定の要件を盛り込んだ課題の作成を行い、習熟度を判定する。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：ドロー系ソフト、ペイント系ソフトの違い。Adobe Illustratorの概要説明。					
2	Illustratorの基本操作学習：Illustratorを扱う上で基本となる操作について学習する。（Lesson01）					
3	基本図形描画（1）：基礎的な図形を描画する。四角・円・多角形などを作成する。（Lesson02）					
4	基本図形描画（2）：基礎的な図形を描画する。図形描画の組み合わせについて学習する。（Lesson03・04）					
5	基本図形描画の振り返り：第4回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。					
6	オブジェクト操作（1）：オブジェクトの基本について学ぶ。（Lesson05）					
7	オブジェクト操作（2）：オブジェクト操作とレイヤーについて学ぶ。（Lesson06）					
8	オブジェクト操作（3）：パスと合成の概念について学ぶ。（Lesson07）					
9	オブジェクト操作の振り返り：第8回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。					
10	色・線・文字の設定（1）：色を設定しイメージ通りの配色を行なう。（Lesson08）					
11	色・線・文字の設定（2）：様々なツールを使い描線を行なう。（Lesson09）					
12	色・線・文字の設定（3）：文字を配置し、レイアウトの変更を行なう。（Lesson10）					
13	色・線・文字の設定の振り返り：第12回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。					
14	成果課題作成：前期に学習した内容を用い、成果課題を作成する。					
15	成果課題評価：作成した成果課題を相互評価する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
成果課題	40	ループリックを用い、学習した内容を網羅しているかについて評価する	振り返り成果課題	40	各ユニット毎の最終に行なう成果課題の到達度について、ループリックを用い評価する	
授業参加態度	20	積極的な取り組みについて評価する				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回に指示されたテキストを事前に読み、内容を把握すると共に疑問点を明確しておく[60分] ②授業で行なった内容を復習し、テキストを見なくても操作できるようにする[90分]</p>			<p>授業内容及び練習問題に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。</p>			
受講生に望むこと	疑問点ができた場合、速やかに質問を行なうなどのアクションを起こして欲しい。		教科書・テキスト	『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書 CC/CS6対応版』技術評論社 ISBN:978-4-7741-8629-0		
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	履修登録人数が45名を越える場合、履修制限を行なうことがある。		

授業科目名	CB215C デザインソフト演習Ⅱ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>コンピュータ関連技能として、デザインソフトの技術を習得する。デザインソフトとしてAdobe Illustratorを用いる。Illustratorのようなドロー系ソフトウェアは事務能力としてのニーズが高まりつつある。前期「デザインソフト演習A」に続き、演習を通してデザインソフトの操作について学び、学期末には成果課題を完成させる。</p>			<p>Adobe Illustratorの操作技能を習得する。レイヤーの概念について理解する。最終成果課題として一定の要件を盛り込んだ課題の作成を行い、習熟度を判定する。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	「デザインソフト演習Ⅰ」の単位を修得済の者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オブジェクト操作（４）：オブジェクトに対して様々な設定を加える。（Lesson11）					
2	オブジェクト操作（５）：描画モードについて学習する。（Lesson11）					
3	デザイン効果の追加（１）：3D効果、グリッドなどにより、イラストに立体感を加える。（Lesson12）（Lesson02）					
4	デザイン効果の追加（２）：メッシュやシンボル機能を学習する。（Lesson12）					
5	デザイン効果の振り返り：第4回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。					
6	表やグラフの描画：効果的な表とグラフを作成する。（Lesson13）					
7	図形の変形：オブジェクトに変形を加える。（Lesson14）					
8	印刷データ作成：完成したイラストを提出するための注意点などについて学ぶ。（Lesson15）					
9	特殊効果の振り返り：第8回までの内容を元に、成果課題を作成する。					
10	成果課題作成（１）：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。					
11	成果課題作成（２）：これまでに学習した内容を用い、成果課題を完成させる。					
12	成果課題評価：作成した成果課題を相互評価する。					
13	最終作品作成（１）：与えられたテーマに従い、Illustratorを用いた作品を作成する。					
14	最終作品作成（２）：与えられたテーマに従い、Illustratorを用いた作品を完成させる。					
15	最終作品相互評価：作成した作品を相互評価する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
成果課題	20	ループリックを用い、学習した内容を網羅しているかについて評価する	振り返り成果課題	20	各ユニット毎の最終に行なう成果課題の到達度について、ループリックを用い評価する	
授業参加態度	20	積極的な取り組みについて評価する	最終作品課題	40	ループリックを用い、学習した内容を網羅しているかについて評価する	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回に指示されたテキストを事前に読み、内容を把握すると共に疑問点を明確しておく[60分] ②授業で行なった内容を復習し、テキストを見なくても操作できるようにする[90分]</p>			<p>授業内容及び練習問題に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。</p>			
受講生に望むこと	疑問点ができた場合、速やかに質問を行なうなどのアクションを起こして欲しい。		教科書・テキスト	『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書 CC/CS6対応版』技術評論社 ISBN:978-4-7741-8629-0		
指定図書参考書等	なし		その他・特記事項	履修登録人数が45名を越える場合、履修制限を行なうことがある。		

授業科目名	CB220C プレゼンテーション演習		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>プレゼンテーション資料制作を通じて、「適切なタイミングで、求めている人に、正確な情報を伝える」というプレゼンテーションの基本と、「伝える・説明する・説得する」というプレゼンテーションの要素について学ぶ。</p> <p>資料作成-発表のサイクルを繰り返して、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成の技術と、発表における注意点を身につけていく。</p> <p>プレゼンテーションに用いられる機材のセッティング方法について、発表練習の準備を通じて身につける。</p> <p>発表について相互評価することにより、他者発表の良い点・悪い点を自分の発表にフィードバックする。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な構成を考え、状況に合ったプレゼンテーションを準備することができるようになる</li> <li>パワーポイントの様々な機能を目的に合わせて利用することができる</li> <li>発表するための機材準備を行うことができるようになる</li> <li>聞き手の立場に立った発表ができる</li> </ul>			
教授方法	上手に伝えるためのプレゼンテーションテクニックについて説明し、その内容に基づいた資料作成・発表練習を反復して行う					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	プレゼンテーションの基本：プレゼンテーションに関する要素を復習する。					
2	成功するプレゼンテーション：聞いてもらえるプレゼンテーションとは何か、人間の感覚について学ぶ。					
3	発表資料作成の注意点：発表資料を作成する際の手順と気をつけるべきポイントについて学ぶ。PROS-CONSリストや三段論法について学習する。					
4	構成表作成：プレゼンテーションの骨格となる構成表を作成する。プレゼンテーション資料作成の準備を通して、手順について学ぶ。					
5	発表テクニック：バーバルチャネル・ノンバーバルチャネル・バララングージの役割と重要性について学び、それらを活かす方法について学ぶ。					
6	演習1-1：「わが町紹介」をテーマとして資料収集を行い、構成表を作る。					
7	演習1-2：発表と振り返りを行なう。録画した映像を元に、アイコンタクトができていないか、画面だけを見ていないか、自分のクセについて確認する。					
8	練習2-1：「私は〇〇をお勧めします」をテーマとしてPROS-CONSリストで作成した題材を紹介するための構成表を作り発表する。					
9	演習2-2：発表と振り返りを行なう。					
10	演習3-1：表やグラフを用いたプレゼンテーション制作を行なう。効果的にグラフを用いる方法について、演習を通じて学ぶ。					
11	演習3-2：表やグラフを用いたプレゼンテーション発表と振り返りを行なう。					
12	演習4-1：「本を紹介」をテーマとして、1枚チラシを作成する。					
13	演習4-2：1対1による発表と振り返りを行なう。1対多と異なるプレゼンテーションを体験する。					
14	演習5-1：指示書を用いたチームプレゼンテーションに取り組む。自分の意図が伝えられるような指示書を作成する。					
15	演習5-2：作成されたプレゼンテーションを用いて、チームごとのプレゼンテーションを行なう。指示書を用いることで、自分が意図した内容を相手に伝えられるかについて確認する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション発表	70	発表において、聞き手を意識できているか、独り善がりな発表になっていないかを重視して評価する。		発表資料提出物	20	発表に用いる配布資料がプレゼンテーションとリンクしてわかりやすいものとなっているかを重視して評価する。
授業への取り組み	10	振り返り等において、積極的な取り組みを行っているかによって評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
毎回の指示に従い発表に向けた資料作成、自己リハーサルを行うこと。発表後の振り返りに基づいた発表原稿・資料の改善をおこなうこと。[30分] 発表テーマに合わせ、事前に調査するなどの準備を怠らないこと。[90分]				発表時それぞれの発表にコメントと共に指示をする。 授業時間外の質問も随時受け付け回答する。		
受講生に望むこと	「伝えたい」という気持ちを持ち、どうしたら上手に伝わるかを考えて参加して欲しい			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2010対応』 第1版 noa出版 2010年出版（「情報機器演習A・B」で使用）	
指定図書参考書等	なし			その他・特記事項	履修希望者数が24名を上回った場合には履修制限を行う。	

授業科目名	CB140C 情報科学		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	池村 努						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
現代社会で必要不可欠となっているコンピュータや情報通信機器などについて学び、道具として活用できるための基礎的能力を身につけることを目的とする。テキストを通して日常利用しているコンピュータの成り立ち、基本的な構造を知る。高度情報化社会の中で、情報がどのように我々に関わるのか、正しく情報を扱う上で必要となるマナーやモラルとは何かについて学習する。			情報とはなにかについて、説明することができるようになる。電気で動くコンピュータがどのように計算処理を行っているかについて理解する。スマートフォンを初めとするコンピュータが、どのように成長してきたかを理解する。携帯電話ネットワークやインターネットなど、情報通信網の概要を理解する。情報を適切に管理するための知識を身につける。				
教授方法	パワーポイントとレジュメを用いた講義形式と、ビデオ視聴とその内容に基づくディスカッションの両方を取入れて行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報とは・情報社会とICT：身の回りに普通に存在する情報。しかし気づいていないケースや、特に意識せず扱っていることも多い。「情報とはなにか」「私たちがどのように関わっているのか」について社会の流れとともに学ぶ。						
2	メディア・情報伝達技術：情報を伝えるメディア（媒体）とはどんなものか。メディアを用いるとはどのような状態なのか。私たちはどのようにしてメディアを利用するようになってきたのかなどについて、人類の歴史をひもときながら学ぶ。						
3	わたし達が生きる情報化社会：便利で良いことだけが存在するわけではないインターネットの世界で、どのようにして自分とその周りの権利や財産を守っていくか。代表的な対処方法について学ぶ。						
4	情報やメディアに関する技術：情報伝達に使われる技術を紹介する。特にコンピュータに関わる部分では、どのような技術が使われているのかについて学ぶ。						
5	コンピュータの基礎：身近すぎて存在するのが当たり前になってきた携帯電話（ケータイ）やコンピュータ。その始まりはどのような姿だったのか。どのように進化して現在見られる姿になってきたのか。どのような考え方が根底にあるのかについて学ぶ。						
6	ハードウェアに関わる技術：コンピュータを構成するハードウェアはブラックボックスとして捉えられることが多い。このハードウェアの最新トレンドも含め、使われている技術と今後の方向性について学ぶ。						
7	2進数と10進数：コンピュータの根底にある2進数の働きについて知り、コンピュータがどのようにして計算を行っているかについて学ぶ。						
8	ビデオ視聴とディスカッション（1）：ハードウェアに関連するビデオを視聴し、ディスカッションを行う。ディスカッションを通じて新しい考え方に触れる。						
9	ソフトウェアに関わる技術：コンピュータソフトウェアにはどのようなものがあるか、また、それぞれの役割は何か、身近なものを例に挙げ、これからの社会で必要となるソフトウェア技術について学ぶ。						
10	ネットワークやインターネットに関わる技術：現在ではインターネット無しでの生活は考えづらくなってきている。インターネットはどのように始まったのか。また、どうして「探したいモノがそこにある」ようになったのか。歴史とそこで用いられている技術について学ぶ。						
11	インターネットの活用・現代のIT業界：インターネットでのサービスには様々なものがある。代表的なものを紹介し、そこで気をつけるべき点について学ぶ。また、IT業界で代表的な企業について紹介する。						
12	ビデオ視聴とディスカッション（2）：インターネットサービスにまつわるビデオを視聴し、ディスカッションを行う。ディスカッションを通じて新しい考え方に触れる。						
13	ネットワークの脅威とセキュリティ：インターネットについて、便利な面だけでなく注意しなければならない点について掘り下げる。ネット上に情報を流すとどのような結果を招くことを意味するのか、また、対策方法は何かについて学ぶ。						
14	情報社会に欠かせない倫理とルール：情報を扱う際に気をつけなければならない「倫理」問題について学ぶ。様々な権利や法律を通してルールとマナーについて理解する。						
15	情報分類の技術：膨大な量になる情報をどのように扱うことが望ましいか。事例と共に分類の技術、判断基準について学ぶ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	60	論述式で行う。テーマの理解度と主張の論理性、文章の整合性で評価する。		授業振り返り	40	授業振り返りにミニツッパーパーやクリッカーを用いる。振り返りにおける積極性と正答割合を参考にする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
毎回回の予告をするので、事前に該当するテキスト箇所を読み、疑問点をまとめておくこと。[30分] 授業終了後はレジュメとメモの整理を行うこと。[60分]			振り返りで質問などを募り翌週回答を行なう。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。				
受講生に望むこと	次会授業のテキストについて指示するので、事前に熟読し疑問点をまとめておく。 授業中は配布されたレジュメにメモを記入し、聞き漏らさないこと。 疑問点はそのまましておかないこと。 ディスカッションでは積極的な発言を望む。			教科書・テキスト	『キーワードで学ぶ、最新情報トピックス2017』日経BP社 2017年 ISBN:978-4-8222-9221-8		
指定図書参考書等	なし 『コンピュータは私たちがどう進化させるのか』ポプラ新書 2016年 ISBN:978-4-591-15285-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB145C 企業と社会		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>私たちの生活は、企業およびその経営と密接な関係がある。身近な事例を通じて、企業に関するさまざまなテーマが、私たちの身の回りに存在していることを理解する。さらに企業行動の基本的な原理と、その社会生活とのかかわりについて学ぶ。授業を通じて、「経営についての視点」を修得することを目的としている。</p>			<p>①授業で設定されたテーマを理解する。  ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。  ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。  ④授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>				
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションー生活の中で企業（経営）や社会との関わりを考えてみようー						
2	どんな会社があるか：会社の種類や業界について理解する						
3	会社はだれのものか：「株式会社」の仕組みについて学ぶ						
4	会社の一生：事例をもとに、会社の誕生から成長、衰退、倒産までを理解する						
5	会社の仕組み：会社にはどんな組織があるのか、その構造がどうなっているかを学ぶ						
6	会社で働くこと：労働とそのマネジメント、また労働組合について理解する						
7	会社を動かす（経営戦略1）：会社のミッション（経営理念）や経営戦略の3つのレベルについて学ぶ						
8	会社を動かす（経営戦略2）：経営戦略のうち「競争戦略」について理解する						
9	ものが売れる仕組み：身近な事例をもとに、マーケティングの基本について学ぶ						
10	会社で働くこと2：会社中でのキャリアや、近年注目されているワークライフバランスについて理解する						
11	経済社会の動きと企業経営：日本経済の歴史をもとに、企業経営との関係について学ぶ						
12	企業の社会的責任（CSR）と企業倫理：企業不祥事の事例から、企業の社会的責任や企業倫理について考える						
13	新しい企業と経営のあり方：NPOや近年注目されている社会的企業について学ぶ						
14	グローバル化時代の企業と経営のあり方：企業のグローバル化とそれに伴う経営課題について学ぶ						
15	まとめー全体を振り返り、今後の学びや進路選択に向けて考えてみようー						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。		小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。 (2回予定)	
授業参加状況	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと [30分] ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語を理解し覚えること [60分]				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営について興味・関心を持つことを期待する。			教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布する）		
指定図書参考書等	なし／『はじめの一步 経営学（第2版）』守屋貴司・近藤宏一 ミネルヴァ書房 2012年 ISBN978-4-623-06331-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB150C ファイナンスの基礎			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
財務諸表は会社の成績表である。本授業では財務諸表のうち、主に損益計算書、貸借対照表の意味と基本的な読み方を中心に学ぶ。また簡単な事例から、会社の経営状況について見るポイントを理解する。				①損益計算書、貸借対照表の意味を知る。 ②損益計算書、貸借対照表の簡単な読み方を理解する。 ③簡略化された財務諸表の事例から、企業の経営状況が推測できる。 ④キャッシュフロー計算書の概要を理解する。			
教授方法	講義（毎回資料を配布し、「書き込み」をしながら理解を深める）						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション（財務諸表とは何か？）						
2	財務諸表 基礎の基礎（1）身近な事例で具体的なイメージをつかむ						
3	財務諸表 基礎の基礎（2）より本格的に輪郭をつかむ						
4	損益計算書（1）売上高と「5つの利益」について大まかに把握する						
5	損益計算書（2）販売費・一般管理費と営業利益について理解する						
6	損益計算書（3）経常利益、税引き前利益、純利益について理解する						
7	貸借対照表（1）資金の運用方法を示す「資産の部」を理解する						
8	貸借対照表（2）資金の調達方法を示す「負債・純資産の部」を理解する①						
9	貸借対照表（3）資金の調達方法を示す「負債・純資産の部」を理解する②						
10	キャッシュフロー計算書 キャッシュフロー計算書の概要を把握する						
11	実際の企業事例を見てみよう（1）簡略化した財務諸表から企業の状況を知る						
12	実際の企業事例を見てみよう（2）簡略化した財務諸表から企業の状況を知る						
13	経営分析の基礎（1）企業の収益性を見るポイントを学ぶ						
14	経営分析の基礎（2）企業の安全性・成長性を見るポイントを学ぶ						
15	まとめと振り返り						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	授業の理解度を評価する。			小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。 (2回予定)
授業参加状況	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと [30分] ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語と財務諸表のルールを理解し覚えること [60分]				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	苦手意識を持たず授業に参加してほしい。基本的なルールと読み方さえ頭にいれれば理解しやすい科目である。毎回の授業をしっかりと受講して、疑問はそのままにせず、その回のうちにしっかりと理解すること。			教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布する）		
指定図書参考書等	なし／『新会計基準対応版 決算書がおもしろいほどわかる本』石島洋一著 PHP文庫 2009年 ISBN978-4-569-67252-6			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB225C CSとマーケティング*		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>マーケティングとは簡単に言えば、「売れる仕組みづくり」である。そして、そのマーケティングの基本理念が「CS (Customer Satisfaction) =顧客満足」である。現代の企業経営においては、CSの創造を通して新規顧客の獲得とその維持が図られる必要がある。本授業では、わかりやすい事例をもとに、マーケティングの概念やさまざまな理論を学び、基本的な知識を習得することを目的とする。</p>			<p>①授業で設定されたテーマを理解する。  ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。  ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。  ④授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>				
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションーCS（顧客満足とは何か）ー						
2	マーケティングの基本概念（1）：マーケティング志向（マーケティングの考え方）について理解する						
3	マーケティングの基本概念（2）：マーケティングと戦略との関係を知る						
4	製品のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、製品（Product）に関するマネジメントについて学ぶ						
5	価格のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、価格（Price）に関するマネジメントを学ぶ						
6	広告のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、広告（Promotion）に関するマネジメントを学ぶ						
7	流通のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、流通（Place）に関するマネジメントを学ぶ						
8	サプライチェーンマネジメント：サプライチェーンとは何か、そのマネジメントについて理解する						
9	営業のマネジメント：マーケティングにおける営業部門の活動について知る						
10	顧客関係のマネジメント：顧客との「関係性マーケティング」の基礎について理解する						
11	顧客理解のマネジメント：顧客を理解するためのマーケティング・リサーチについて知る						
12	ブランド構築のマネジメント：ブランドをどのように創り上げるか、ブランド構築のマネジメントを学ぶ						
13	ブランド組織のマネジメント：ブランド・マネジャーとブランド組織のマネジメント（役割や責任）について学ぶ						
14	企業の社会的責任：マーケティングにおける企業の社会的責任について理解する						
15	まとめーあらためてCS（顧客満足）について考えるー						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
定期試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。	小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。 (2回予定)		
授業参加状況	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと [30分] ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語を理解し覚えること [60分]			小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。				
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、製品やサービスのマーケティングについて興味・関心を持つことを期待する。		教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布する）			
指定図書参考書等	なし／『1からのマーケティング（第3版）』石井淳蔵・廣田章光編著 碩学舎 中央経済社 2009年 ISBN：978-4-502-66550-9		その他・特記事項	なし			

授業科目名	CB230C 経営戦略			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>企業は経営理念に基づき、経営戦略を策定し実践している。本講義では、わかりやすい事例をもとに、経営戦略の概念やさまざまな理論を学び、基本的な知識を習得することを目的とする。</p>				<p>①授業で設定されたテーマを理解する。  ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。  ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。  ④授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション戦略とは何かー						
2	業界の構造 : 業界全体をとらえる方法を考える【事例】シャープと液晶テレビ業						
3	取り巻く環境 : 自社の視点から経営環境をとらえる方法を学ぶ【事例】トヨタ自動車						
4	基本戦略 : 戦略の定石について学ぶ【事例】しまむら						
5	製品ライフサイクル戦略 : 製品ライフサイクルについて考え、それに応じた戦略を学ぶ【事例】富士ゼロックス						
6	市場地位別戦略 : 市場の順位に応じた戦略の定石を学ぶ【事例】アサヒビール						
7	リソース・ベースド・ビュー : 企業内に蓄積される知識やノウハウに着目する【事例】富士フィルム						
8	事業システム : 企業が持つビジネスの仕組みについて考える【事例】アスクル						
9	事業領域 : 自社の事業を行う領域の決定について考える【事例】ふくや						
10	成長戦略 : 自社の成長を計画的に実施する方針について学ぶ【事例】ニコン						
11	資源展開 : 自社の資源をどのように展開していくかを考える【事例】サントリー						
12	戦略の社会的側面 : 企業はどのように社会との関係を構築しながら戦略を策定するか【事例】パタゴニア						
13	組織構造 : 戦略と組織について考える【事例】パナソニック						
14	組織文化 : 組織文化の役割を考え、どのように戦略と関係づけられるかを知る【事例】資生堂						
15	企業変革 : 企業変革がどのように実施されるかを学ぶ【事例】コマツ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。			小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。(2回予定)
授業参加状況	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと [30分]  ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語と財務諸表のルールを理解し覚えること [60分]</p>				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営やその戦略について興味・関心を持つことを期待する。			教科書・テキスト	『1からの戦略論（第2版）』嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著 碩学舎 中央経済社 2016年 ISBN978-4-502-16741-6		
指定図書参考書等	なし/『経営戦略 論理性・創造性・社会性の追求（第3版）』大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田 智、有斐閣、2016年、ISBN: 978-4641220652			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CM200C 医学一般		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	加畑 寿明						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士				
授業の概要			授業の到達目標				
医療事務等の職業をめざす方々にとって、医学や医療に関する基本的知識を身につけておくことは大切なことです。できるだけ平易に医学的事項を説明し、これからの医療の問題点についても考えていきたいと思います。			心身機能と身体構造及び様々な疾病や傷害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。リハビリテーションの概要について理解する。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	人の成長・発達						
2	人の老化						
3	身体部位の名称、各器官の構造と機能(心・血管、腎、呼吸器、消化器)						
4	各器官の構造と機能(神経、内分泌、生殖器、支持運動器官)						
5	各器官の構造と機能(感覚器、身体機能の調節)、疾病の概要(生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患)						
6	疾病の概要(心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患)						
7	疾病の概要(呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患)						
8	疾病の概要(泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患)						
9	疾病の概要(感染症、神経疾患と難病、先天性疾患)						
10	疾病の概要(高齢者に多い疾病、終末期医療と緩和ケア)、障害の概要(視覚障害)						
11	障害の概要(聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害)						
12	障害の概要(知的障害、発達障害、認知症、高次機能障害)						
13	障害の概要(精神障害)、リハビリテーションの概要						
14	リハビリテーションの概要						
15	健康のとらえ方(人口の高齢化と家族、国民健康づくり対策、感染症対策、産業保健、歯科保健)						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	90	答案の成績を客観的に評価する。原則として6割以上で単位を与える。		授業の参加態度	10	成績判定の参考とする。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
教科書を中心に授業を行います。1回に10～15ページを目安に進みますので事前に読み進めてください。[40分]				社会福祉士国家試験の過去問題を適宜解説します。試験はそれに則り実施します。			
受講生に望むこと	生老病死は、人間として避けられないことです。医療関連の職業を目指す方々はもちろんのこと、医学・医療に興味のある方の受講を希望します。			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座1「人体の構造と機能及び疾病」社会福祉養成講座編集委員会 第3版 中央法規出版 2015年 ISBN: 978-4-8058-5100-5		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CM210C 医療管理学		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	石原 俊彦						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業の目的は、①日本の医療・保健・福祉の現状を理解し、事務管理業務に従事する人材の育成に資する。②高齢化社会における医療と介護の仕組みを考える。③医療と社会の接点（医療関連法規、医療保険制度）を理解する。④病院組織と経営（患者中心の医療）を理解する。⑤IT時代の病院情報管理を理解する。という5点です。実際に医療機関で働いている医師・看護師・事務等スタッフの仕事の内容や思いを資料を使いながら紹介し、ワークも取り入れながら医療の現場で求められるホスピタリティを理解できるようになることを目指します。			①医療・保健・福祉の現場で求められるホスピタリティを体感し、身につける。 ②医療・保健・福祉の仕事に従事するにあたって、必要となる基本的な知識を身につける。 ③「医療管理秘書士」能力試験に合格できる知識を得る。 ④就職活動や社会に出てから求められる基本的な力を身につける。				
教授方法	資料、パワーポイント、DVD等を使った講義とグループワーク等複合的に行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	医療と社会：患者の心理を理解し、どう対応すべきかを考える中で、医療や福祉の現場で求められるホスピタリティを理解する。医療を取りまく社会環境について理解する。						
2	病院組織と経営：医療・介護・福祉の現場で働く上で、求められる姿勢・資質・努力等を理解する。また薬剤や検査に関する基礎的な用語を理解する。						
3	医療・介護職の理解：医療と介護の連携が重要とされている。どのような職種があるのか理解する。						
4	病院組織と経営：ワークを通して、マネジメントについて考える。また医療・福祉分野で働く事務職員に求められる役割・職務、姿勢・資質・努力について理解を深め、就職活動における自身のアピールポイントも探る。						
5	車いす等福祉用具の理解：病院組織で働く以上最低限の車いすの使用方法及び福祉用具を理解する。						
6	医療法：医療の基本的な体制を定めた法規である「医療法」のポイントを押さえ、日本の医療の仕組みをイメージする。また将来、医療や介護、福祉を担う者としての基本姿勢を学ぶ「医療法」において、病院とはどのように規定されているのかを理解する。						
7	医師法：「医師法」を解説し、医療の中心的な担い手である医師の権利や義務を学ぶ。また医療や介護の現場で理解しておくべき「応召義務」や「守秘義務」等を掘り下げて理解する。薬剤師法や保健師助産師看護師法をおおまかに理解する。						
8	医療保険制度：日本の医療保険制度の仕組みをおおまかに理解する。職域保険・地域保険の各種保険制度を個別に理解し、ポイントを押さえる。						
9	医療保険制度：「保険医療機関・保険医」の意味や「保険給付制限」等、医療保険制度に関わる制度を理解するとともに各種保険制度を理解する。						
10	感染症：患者さんを感染症から防ぐことはもちろんであるが、自分を守るためにも感染症を理解する。インフルエンザ及びノロ対策。						
11	介護保険法①：「介護保険」の仕組みを大まかに理解するとともに、介護の現場で必要となるホスピタリティを考える。						
12	介護保険法②：介護保険で利用できるサービスを理解する。						
13	医療情報・診療録管理：医療現場での情報処理、取り扱いや情報システムの活用についておおまかに理解する。個人情報の取り扱いについても理解する。						
14	患者中心の医療：患者・家族が医療従事者に望むことや必要なコミュニケーションについて理解する。特に認知症を持っている人の対応について理解する。						
15	まとめ：授業の中で学んだことをディスカッションして、医療・保険・福祉の現場で求められるホスピタリティを総合的に振り返る。自分はどの様な考え方をするのか自己覚知について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	医療・保険・福祉の仕事に従事するにあたって必要となる基本的な知識を身につけたか確認する。		学習態度	30	社会人となるための専門講義であるため、時間の厳守と講義・ワーク・ディスカッション時の態度を重視する。	
レポート	20	認知症の患者さんに対応する時、どの様な点に注意すべきかまとめる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
医療・福祉で求められるホスピタリティとは、相手の持つ力に寄り添い最大に発揮できるように手助けすることであり、その為にはまず自分の力を見つけて出し最大に発揮できるようにする事、自分を認め、自分を褒め、自分の良い所を見つけることがホスピタリティの基礎となるので、講義の中で深めていく。日常の生活の中でも意識し実践していくことが大切である。☆自分の長所を初回授業迄に考え書きだしておく[30分]☆授業で配布された資料は、授業終了後に必ず一度読み返す[30分]				講義の前後に疑問点等の質問を受ける。講義開始時は前回の講義内容を復習して講義を始める。「医療管理秘書士」能力試験に合格できるよう過去の問題を講義の中で説明していく。			
受講生に望むこと	講義では馴染みのない用語や複雑な仕組みの説明が多くなると思うが、講義時にはワークや体験も入れて、理解を深めていく。社会に出る前に知っておくべき知識や身につけておくべき資質の一部と一緒に共有していきたいと考える。			教科書・テキスト	「医療管理・事務総論」、小坂享子・三宅耕三 編著、樹村房、平成 22 年 その他レジュメ・資料を毎回配布します。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CM220C 診療報酬実務		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	中村 洋子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>全国の医療機関には多様なスペシャリストが活躍しています。その中の一員、医療事務者は、患者様と医療従事者の橋渡しとして医療の事務業務を担当し、医療従事者の診療行為を正しく患者様に報酬請求する知識・技術を提供するのが役割です。本講義では医療事務の入門から認定試験の受験資格取得までを講義と演習で繰り返し学んでいきます。受講後、医療事務や医療秘書への活躍のみならず、日常の病院受診時の医療費の理解力がつくようになります。</p>			<p>①診療報酬を通して医療の現場を知ることができるようになる。 ②診療報酬に関する業務の仕組みを理解する。 ③診療録(カルテ)を読み取り診療報酬明細書作成を習得する。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	医療事務とは何か。どのような仕事内容があるかを学ぶ。						
2	診療報酬のしくみ、診療報酬点数について学ぶ。診療録(カルテ) 診療報酬明細書(レセプト)について説明する。						
3	基本診療料①：初診料、再診料、入院料を理解する。						
4	基本診療料②：初診料、再診料の算定と明細書記載を学ぶ。						
5	医学管理料：医学管理料の種類を理解し、特定疾患療養管理料等の主な項目の算定条件を学ぶ。						
6	在宅医療料：在宅医療料の種類を理解し、往診料等の主な項目の算定条件を学ぶ。						
7	投薬料①内服薬、屯服薬、外用薬区分、薬剤料算定の実際を学ぶ。						
8	投薬料②：明細書記載と投薬料演習問題に取り組む。						
9	注射料①：注射の種類を理解する。						
10	注射料②：注射料算定と明細書記載を学ぶ。						
11	検査料：検体検査、生体検査区分、検査料算定と明細書記載を学ぶ。病理診断料の算定方法を理解する。						
12	画像診断料：画像診断料の算定と明細書記載を学ぶ。						
13	その他掲掲診療料：処置料、手術料、麻酔料、リハビリテーション料、放射線治療料、精神科専門療料の概要を学ぶ。						
14	総合演習①：診療録(カルテ1)を読み取り診療報酬明細書を作成する。						
15	総合演習②：診療録(カルテ2)を読み取り診療報酬明細書を作成する。授業のまとめ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	授業内容理解と診療報酬明細書作成を総合して評価		授業で出される課題	30	提出の状況と提出物の内容を評価	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢を評価					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①初回授業においてテキストに対応した予定表を配布するので、予習をして授業に臨む[20分]。 ②一定項目ごとに課題提出とするので、次回授業迄に提出する[30分以上]。</p>				<p>①提出課題は原則次回授業時に添削して返却する。一定の理解が見られない場合は再提出と添削返却をする。 ②疑問・質問にはいつでも対応する。</p>			
受講生に望むこと	講義では馴染みのない医療用語や医療事務ならではの算定等も取り入れ、講義と演習を繰り返しながら実務を身につけます。質問にはその都度対応します。積極的に参加して下さい。			教科書・テキスト	医療診療報酬点数表、診療報酬請求の実務、診療報酬請求演習。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	各回、電卓持参(携帯電話使用禁止)		

授業科目名	CM230C 医療事務英語		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	林 剛司						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
医療事務スタッフに必要な英会話表現や使用頻度の高い専門用語を学ぶ。また同時に、外国人来院者の不安を取り除けるように、異文化コミュニケーションスキルへの理解も深める。			病院で起り得るいろいろな状況下で、耳にするであろう外国人患者と病院職員との英語会話の例を通じて、必要な英単語—体の部位と内臓器官名、診療科名、病気や症状の単語と表現法を覚え、使えるようにする。				
教授方法	演習、講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：教科書の予習・復習のやり方、医療事務英語の学習法について、理解する。						
2	Lesson 1&Lesson 2：医療用語、医療関連の略語を身につける。						
3	Lesson 3：新患受付における語句、表現を覚える。						
4	Lesson 4：診察申込書の作成に必要な語句と表現、数字の読み方、国名を覚える。						
5	Lesson 5：患者に対応できる、丁寧な英語表現を覚え、使えるようにする。						
6	Lesson 6：診療科の名称を英語で言える（書ける）ようにする。病棟での会話を練習し、覚える。						
7	Lesson 7：病院でのさまざまな検査の名称を英語で練習し、覚える。						
8	Lesson 8：Lesson 1～7の復習。						
9	中間試験 1回～8回までの振り返り、質問等のフィードバックを行う。						
10	Lesson 9：症状と病名を英語で覚える。患者の主訴の英語を理解する。						
11	Lesson 10：医療用語の成り立ち（語源）、接頭辞、接尾辞を理解する。						
12	Lesson 11：病院へのアクセスについて、英語で説明できるようにする。						
13	Lesson 12：道案内と院内施設紹介を英語でできるようにする。						
14	Lesson 13：会計に関する単語や表現を覚える。						
15	Lesson 14：薬局での患者対応に必要な単語や表現を覚える。薬の説明を英語でできるようにする。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	20	毎回、授業の冒頭で行う。前回の授業の内容をよく理解しているか、テキストに出てくる語句、文法、発音を理解しているかを評価する。		予習、提出物、宿題	20	しっかり予習をして授業に出席しているか。提出物はきちんと提出できているか。	
試験（中間・期末）	60	授業中に学習した語彙・文法・表現をさまざまなコンテキストで適切に使用できるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
テキストには医療用語や事務職に必要な語彙が多く現れるので、予習として、知らない単語を英和辞書を使って調べておくこと。[30分] また、医療用語は綴りが長い、発音が難しいという特徴があるので、CDで発音を必ず確認すること。[30分] 復習として、授業で学習した本文を何度も音読し、CDを繰り返し聞き、小テストに備えること。[30分]				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。期末試験は希望者にのみ返却する。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	高校までの英語文法の知識が必要である。授業でも文法は説明するが、自分なりに、高校時代に使用した英語の教科書や文法書で自学する習慣を持ってもらいたい。			教科書・テキスト	『医療事務スタッフをめざす人のための医療英語』森容子（著）南雲堂、2011年（ISBN:978-4-523-17685-5）		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CR200C Kanazawa Guide		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	ジェレミー フィリップス						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「汝自身を知れ」といわれるが、意外と自分の手先にある故郷を知らない人が多い。それで、どれほど英語力があっても、折角の外来者に十分に金沢の歴史と文化を説明しきれないことがしばしばあるだろう。そのため、本授業は英語による日本史・金沢の歴史を語れるようにして、英語圏の観光客を相手に、案内のコツや必要な英語力を身につける。授業は基本的に英語で行うが、必要に応じて日本語で補足説明もある。</p>			<p>英語圏の観光客に対して、日本の歴史の基礎知識を踏まえて金沢の歴史的・文化的遺産の解説ができるようになる。また、観光案内に必要な英語力を身につけて、単なる道案内の英会話で留まらず、充実した内容で会話を交わすことになる。履修者が積極的に英語で質問して、意見を出すようにする。授業は一方的な講義よりも、ディスカッション、演習、フィールドワークなどを通して、行動力と質疑応答に対する自信を身につける。</p>				
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要（オリエンテーション）、金沢や日本の歴史などに対する理解の確認。						
2	英語による日本史概要（その1）。日本のことを殆ど知らない外国人観光客に対して、基礎知識を伝える練習もする。						
3	英語による日本史概要（その2）近世編。幕府体制、侍、などをどうやって説明すべきか。						
4	英語による日本史概要（その3）明治維新、大正ロマン、第2次世界大戦など。						
5	金沢の地理的条件：「裏日本」という意識はどこから？。第2次世界大戦の空襲を免れた都市としての意義。						
6	金沢の歴史概要。前田利家から現代まで、金沢の歩を見る。						
7	金沢の歴史的遺産。兼六園、長町、東茶屋街などの基礎知識について学ぶ。						
8	金沢の観光情報にみえる金沢のイメージ						
9	観光情報を元にした英語の演習。パート①						
10	観光情報を元にした英語の演習。パート②						
11	英語による学内の案内練習。						
12	フィールドワーク A：日本語によるガイドで基礎知識の確認。						
13	フィールドワーク B：英語によるガイドで本番の体験。						
14	復習・まとめ						
15	学生の発表（ロールプレーで観光案内をする）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講参加状況など	30	授業中、どこまで積極的に意見、質問などを出すか。「話す」ことを前提にする授業ですので、黙って座ると意味はない。		フィールドワーク	20	どこまで現場で、英語で案内できるかを中心にみる。フィールドワークの現場で臨機応変に行動できるかどうか。	
口頭発表	50	口頭発表でどこまで分かりやすく、正確に金沢の歴史や魅力を英語で伝えられるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の授業で配布するプリントを復習して次回授業に臨むこと。[60分] 英文による金沢の観光情報を積極的に集めて、解説する。該当する授業（9週目、10週目）に持参して、説明できるように予習すること。[60分]				口頭発表のフィードバックはその授業中で行います。			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傍観的ではなく、積極的に興味を持って、授業の意図を理解して参加できること。</li> <li>・金沢や日本の歴史的・文化的遺産を他人の目を通してみたいところ。</li> </ul>			教科書・テキスト	プリント配布		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CR210C Hospitality English		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	須田 久美子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
見知らぬ客をあなたはどのような態度で迎えるだろうか？近年、たくさんの外国人が来日して各地を観光旅行するようになった。そこで、簡潔な英語で日本文化、観光、和食などの魅力を伝える練習をし、実際の場面における会話事例を通して、観光業務に必要な英会話を身につける。ホスピタリティは、ラテン語のhospes（客）という単語から派生した。客をどのようにもてなすべきか、ホスピタリティ精神を各自念頭に、プレゼンテーションもおこなう。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティに関する知識と理解を深める。</li> <li>・観光業務に関わる重要な語彙や表現を身につける。</li> <li>・ホスピタリティについてプレゼンテーションをする。</li> </ul>				
教授方法	講義と質疑応答、ロールプレイを中心に行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Introduction -- What is Hospitality?						
2	Lesson 1 An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!						
3	Lesson 2 Preparations for the 2020 Olympic Games in Tokyo						
4	Lesson 3 Do You Like to Watch Kabuki?						
5	Lesson 4 The Sapporo Snow Festival						
6	Lesson 5 Hiraizumi as the Buddhist Pure Land						
7	Lesson 6 Yokohama Port--describing port cities						
8	Review and Shot test--covering lesson1-6						
9	Lesson 7 Mt. Fuji--describing the best-known symbol of Japan						
10	Lesson 9 The Deer in Nara--World Heritage Sites						
11	Lesson 10 Kyoto Station--transportation and tourism						
12	Lesson 11 Let's Explore Osaka--describing attractions and museums						
13	Lesson 12 Port City Kobe: A Phoenix Rises--learning earthquake disaster reconstruction						
14	Presentation--let's introduce a famed tourist spot in Japan						
15	review--feedback on presentation						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況など	30	予習の有無も点数に関わる。授業への積極的な参加を求める。		プレゼンテーション	30	指定されたトピックについてプレゼンテーションをおこなう。	
テスト(小テスト等も含む)	50	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習が必須である。指定された単語を辞書で調べ、頭に入れておくこと。また、リーディング部分は事前に目を通しておくこと。[20分]</li> <li>・事後学習として、付属のCDを各自用いて、内容を復習することが求められる。[15分]</li> <li>・プレゼンテーション等、授業で指示された課題を必ず行うことが求められる。</li> </ul>				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	①YouTubeなどで会話表現の動画を観賞すること。 ②授業でカバーしない範囲について自分で学習すること。			教科書・テキスト	『Hospitality English-おもてなしの観光英語』 木戸美幸 代表1名他 三修社 2016年 ISBN:978-4-384-33454-8 C1082		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CR100C 金沢学		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
金沢は江戸時代百万石の城下町として発展し、今でもその街並みがあちこちに残っている。前田家歴代藩主の振興した伝統工芸や伝統芸能が現代にも受け継がれている。また、今日まで、さまざまな分野において多くの国内外に優れた業績を残した偉人を輩出している。この授業では、教室内でのグループワークや金沢市内の文化施設巡りを通して、金沢に関する歴史や文化、先人を理解し、2年次配当科目「地域と観光」における学びの基礎となる知識を身につける。			①金沢の歴史を理解する。 ②金沢の伝統文化・芸能を知る。 ③金沢の偉人を知る。 ④グループワーク・ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。				
教授方法	講義、ディスカッション、グループワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方・成績評価の説明。地域を知ることの意義について考える。						
2	金沢の概要①：金沢の方言・伝承・食文化などから地方都市金沢の特徴を学ぶ。						
3	金沢の概要②：金沢の食文化・習わしなどから地方都市金沢の特徴を学ぶ。						
4	金沢の歴史①：金沢市内の文化施設において、解説講義を聞き施設見学を行う。						
5	金沢の歴史②：金沢市内の文化施設において、解説講義を聞き施設見学を行う。事後レポートを作成する。						
6	金沢の歴史③：各自作成したレポートをもとに、金沢の歴史および訪問した文化施設における気づきを話し合う。						
7	金沢の伝統文化・芸能①：金沢の伝統文化・芸能の特色を把握する。						
8	金沢の伝統文化・芸能②：金沢市内の文化施設において、解説講義を聞き施設見学を行う。						
9	金沢の伝統文化・芸能③：金沢市内の文化施設において、解説講義を聞き施設見学を行う。事後レポートを作成する。						
10	金沢の伝統文化・芸能④：各自作成したレポートをもとに、金沢の伝統文化・芸能および訪問した文化施設における気づきを話し合う。						
11	小テスト 金沢の偉人①：金沢の偉人の特色を把握する。						
12	金沢の偉人②：金沢市内の文化施設において、解説講義を聞き施設見学を行う。						
13	金沢の偉人③：金沢市内の文化施設において、解説講義を聞き施設見学を行う。事後レポートを作成する。						
14	金沢の偉人④：各自作成したレポートをもとに、金沢の偉人および訪問した文化施設における気づきを話し合う。						
15	まとめ：金沢の歴史、伝統文化・芸能、偉人について、振り返りとレポート作成を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	講義・ディスカッション・グループワークへの取り組み姿勢。		小レポート	20	所定の書式に従って作成している。自分の考察を加えて記入している。	
小テスト	30	第10回までの授業で取り上げた内容について理解しているか。		期末レポート	30	所定の書式に従って作成している。自分の考察を加えて記入している。決められた字数を満たしている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①文化施設訪問後、事後レポートを作成する。[50分]それぞれの次の授業でのディスカッションに使用する。 ②授業の内容について、ノート・配布物を読み返し理解を深める。[20分]				①文化施設訪問後のレポートは、コメントを付けて次回の冒頭に返却する。 ②小テストは、採点したものを14回目の講義の冒頭に返却する。			
受講生に望むこと	金沢について幅広く学び、2年次配当科目「地域と観光」に役立つ知識を積極的に身につけて欲しい。			教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『金沢を歩く』 山出保 著 岩波書店 2014年 ISBN 978-4004314936			その他・特記事項	①履修希望者が40名を超える場合には受講人数を制限することがある。この場合、コミュニティ文化学科優先とする。 ②金沢市内の文化施設訪問（3回）は、土日などを利用して2コマ連続で実施する。		

授業科目名	CR110C ホテル・ブライダルサービス論		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	堀川 峯雄						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>ホスピタリティ産業の中核であるホテル業は現代社会に欠かせない様々な機能を持っています。そして今後も、新しいコンセプトのホテルが生まれ、どんどん進化し発展し続けることでしょう。また、人のライフサイクルに於ける重要な出来事に結婚があります。近年このブライダルもハウスウェディングの登場によって大きく変ぼうしているのです。そこで本講では、ホテルにおける宿泊、料飲、宴会、ブライダルの基礎知識を、現場の旬の話題をおりませて分かりやすく解説致します。また、市内のホテル現場を見学することで、講義で得た知識がより一層理解が図れると思います。これらの基本知識を学ぶことによってホスピタリティマインド視点から少しでも受講生の今後の道しるべにお役に立つことが出来ればと望んでおります。</p>			<p>新幹線開業の新しい波によって世界中から入ってくる異文化や情報。その変化に惑わされることなく「日本流のおもてなし」の基本は決して変わらない、いや決して変えてはいけないと思います。そこで、私の「ホテル・ブライダルサービス論」を通して「おもてなしの法則」と「ホテル実務の基本知識」を最低限度身に付けていただきたい。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	プロローグ・・・①これからサービス業に携わる一員として知っていなければいけないこと。						
2	プロローグ・・・②「受講生だけ」に伝えたい、サービス業として社会に出る前の心構え。						
3	PART1・・・①「おもてなし」とは何か。						
4	DVD鑑賞・・・ホテル・コンシェルジュ。帝国ホテルの裏側。ザ・リッツ・カールトン。						
5	ホテル見学・・・市内の都市型ホテルを予定。						
6	PART1・・・②ホテルの歴史（ホテルの語源。ヨーロッパ→アメリカ→日本。）						
7	PART1・・・③ホテルの組織とは（ホテルの種類。ホテルの運営における組織体制。）						
8	PART2・・・宿泊部門（フロントオフィス課、フロントサービス課、ハウスキーピングの業務内容と基礎知識。）						
9	PART3・・・①宴会部門（宴会部門の業務内容と基本知識。）（2017年北陸三県結婚トレンド調査の解説。）						
10	PART3・・・②宴会部門（日本のブライダルの歴史と最近のブライダルの潮流。）						
11	DVD鑑賞・・・ウェディングプランナー。イマドキの結婚式。						
12	PART4・・・①料飲（FB）部門（レストランの種類。洋朝食の基本知識。）						
13	PART4・・・②料飲（FB）部門（フルコースディナーの基本知識。）						
14	PART4・・・③料飲（FB）部門（ビバレッジ「ワイン、スピリッツ、リキュール、カクテル」の基本知識。）						
15	PART5・・・ホテルにおけるコンプレイン処理及びプロトコール。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	90	毎回の講義内容についてどれだけ理解したか。		授業意欲	10	授業態度意欲、レポート作成。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>テキスト用のプリントの他に補足として配布するレジュメは、参考資料です。ポイントが記されていることが多いので講義が終わってから必ず目を通してください。[40分程度] また、PART(1～5) 終了次第、理解度チェックのためテストをおこないます。それぞれ、20～30分程度の復習と捉えてください。</p>			<p>ホテル見学のレポートは、成績評価基準の対象となります。また、レポートを見学依頼先のホテル支配人様、学科の先生にもみていただきます。その後返却いたします。</p>				
受講生に望むこと	使用テキストはありません。毎回プリントをお渡しいたします。しかし、プリントの重要なところは空欄になっています。講義を聞いて各自で埋めていただきますので皆出席を望みます。		教科書・テキスト	プリントを配布。			
指定図書参考書等	なし/ 織田順『ホテル業界のしくみ』ナツメ社 ISBN: 978-4-8163-4798-6。中村正人『ホテル業界大研究』産学社 ISBN: 978-4-7825-3444-1。		その他・特記事項	なし			

授業科目名	CR220C 地域と観光（概論）		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>観光振興は地域活性化の戦略的手段として期待されている。地域が主体となり、自然・文化・歴史・産業などの地域資源を活用した観光振興の取り組みが各地で行われている。この授業は、金沢市経済局営業戦略部観光政策課と連携して行う。観光政策課から与えられた課題解決のため、金沢市内で受講者の案内によるフィールドワークを行い、観光振興に資する地域資源を発掘する（「地域と観光（フィールドワーク）」との連動）。そして、金沢観光プランをグループで作成し、プレゼンテーションを行う。</p>			<p>①観光の概念、観光の歴史、観光資源、観光産業について理解する。  ②金沢の代表的な観光資源や既存のモデルルートについて理解する。  ③ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。  ④地域資源を活用した金沢観光プランの企画ができる。  ⑤パワーポイントで発表資料を作成し、観光プランのプレゼンテーションができる。</p>				
教授方法	講義、ディスカッション、グループワーク						
履修条件	「地域と観光（フィールドワーク）」を履修中の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方・グループ分け・成績評価の説明。観光と地域社会の関係について考える。						
2	観光とは：観光の概念、観光の歴史、観光資源、観光産業について理解する。						
3	金沢の観光：金沢の代表的な観光資源や既存のモデルルートについて理解する。						
4	グループディスカッション①：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークAにおける気づきを話し合う。事後レポートに、新たな学びを追記する。						
5	グループディスカッション②：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークAにおける気づきを話し合う。事後レポートに、新たな学びを追記する。						
6	グループディスカッション③：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークAにおける気づきを話し合う。事後レポートに、新たな学びを追記する。						
7	グループディスカッション④：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークAにおける気づきを話し合う。事後レポートに、新たな学びを追記する。						
8	グループディスカッション⑤：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークAにおける気づきを話し合う。事後レポートに、新たな学びを追記する。						
9	観光プラン①：既存の観光プラン例を理解する。						
10	観光プラン②：グループで観光プランのテーマ・ターゲットを決定する。						
11	観光プラン③：グループで観光プランを作成する。						
12	観光プラン④：グループごとの観光プランのプレゼンテーションのリハーサルを行う。						
13	観光プラン⑤：グループごとの観光プランのプレゼンテーションを行う。						
14	レポート作成①：各自最終的な観光プランをレポートとして作成する。						
15	レポート作成②：レポートを推敲し、提出する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	講義・ディスカッション・グループワークへの取り組み姿勢。		グループごとの観光プランのプレゼン	40	観光プランが、魅力的であるか、独自性があるか、実現が可能であるか、ターゲットが明確であるか。観光プランを分かりやすく、魅力的にプレゼンできたか。	
期末レポート	30	所定の書式にしたがって作成している。自分の考察を加えて記入している。決められた字数を満たしている。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①魅力的で独創的な観光プラン作成を目指して、以下について行う。  ・日頃から積極的に金沢の街歩きを行い、観光資源となりそうなものをリストアップしておく。[15分]  ・友人や家族などに、金沢の魅力的な場所・物・人物など観光資源となりそうなものについて聞き取り調査する。[60分]  ・地域資源を活用した観光プラン例について、インターネットなどで調べておく。[60分以上]  ②13回で、各グループの観光プランのプレゼンテーションを行う。グループ内で発表の準備（発表者の決定、発表用パワーポイント作成）を行う。[90分以上]</p>				<p>期末レポートは、コメントを付けて次学期初めに返却する。</p>			
受講生に望むこと	グループワークやディスカッションが中心のため、積極的に参加することが重要である。			教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『旅行企画のつくりかた』 小林天心 著 虹人社 2011年 ISBN978-4770900548			その他・特記事項	履修希望者が25名を超える場合には受講人数を制限することがある。		

授業科目名	CR230C 地域と観光（フィールドワーク）			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
観光振興は地域活性化の戦略的手段として期待されている。地域が主体となり、自然・文化・歴史・産業などの地域資源を活用した観光振興の取り組みが各地で行われている。この授業は、金沢市経済局営業戦略部観光政策課と連携して行う。観光政策課から与えられた課題解決のため、金沢市内で受講者の案内によるフィールドワークを行い、観光振興に資する地域資源を発掘する。そして、金沢観光プランをグループで作成し、プレゼンテーションを行う（「地域と観光（概論）」との連動）。				①フィールドワークに参加し、金沢の地域資源を理解する。 ②ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。 ③インターネットなどを利用して対象となる資源を決定し、フィールドワークプランの作成ができる。 ④現地で、対象資源について概要の説明ができる。			
教授方法	フィールドワークとディスカッション						
履修条件	「地域と観光（概論）」を履修中の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	金沢市経済局営業戦略部観光政策課から、金沢市の観光の現状と学生への課題の提示。						
2	フィールドワークA①：東山・卯辰山周辺で地域資源調査を行う。						
3	フィールドワークA②：東山・卯辰山周辺で地域資源調査を行う。						
4	フィールドワークBのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。						
5	フィールドワークB①：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢城・兼六園周辺で地域資源調査を行う。						
6	フィールドワークB②：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢城・兼六園周辺で地域資源調査を行う。						
7	フィールドワークCのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。						
8	フィールドワークC①：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、香林坊・長町周辺周辺で地域資源調査を行う。						
9	フィールドワークC②：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、香林坊・長町周辺周辺で地域資源調査を行う。						
10	フィールドワークDのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。						
11	フィールドワークD①：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、武蔵ヶ辻・尾張町周辺で地域資源調査を行う。						
12	フィールドワークD②：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、武蔵ヶ辻・尾張町周辺で地域資源調査を行う。						
13	フィールドワークEのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。						
14	フィールドワークE①：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、湯涌温泉周辺で地域資源調査を行う。						
15	フィールドワークE②：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、湯涌温泉周辺で地域資源調査を行う。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	30	フィールドワークおよびディスカッションへの取り組み姿勢。			小レポート	30	所定の書式にしたがって作成している。自分の考察を加えて記入している。
フィールドワークの企画・実施	40	対象となる地域資源について、決められた時間内で効率の良い調査が可能であったか。対象となる地域資源について、現地で概要の説明が的確にできたか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回のフィールドワーク実施後に、現地でのメモを用いてレポート作成を行う[50分]。レポートは「地域と観光（概論）」でのディスカッションに使用する。 ②各グループが企画したフィールドワークプランはそれぞれ1回実施する。グループで役割分担し、実施までに効率の良いルートを決め、概要の説明ができるように準備する[90分以上]。				①フィールドワークのレポートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却する。 ②フィールドワークの企画案は、実施前にチェックし修正点を口頭で伝える。			
受講生に望むこと	15回中10回が現地調査である。体調を整え、歩きやすい靴で参加すること。			教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『金沢・町物語』 高室信一 著 屋敷道明 補筆 能登印刷出版部 2013年 ISBN978-4890106196 『金沢、まちの記憶 五感の記憶』 小林忠雄 著 能登印刷出版部 2009年 ISBN978-4890104970			その他・特記事項	①履修希望者が25名を超える場合には受講人数を制限することがある。 ②入場料などが必要な場合は、各自負担となる。		

授業科目名	CE100C Grammar		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	林 剛司・須田 久美子 (代表教員 林 剛司)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>外国語あるいは第二言語として英語を運用するにあたって、文法を正しく理解することは重要である。それは、将来英語を使用する仕事に就きたいと希望する者にはもちろんのこと、気軽に海外旅行をしたいと思う者にもあてはまる。この授業では、コミュニケーションに必要な英語の運用能力を高めるために文法力の向上を目指す。そのために、高校レベルの文法を完成させるとともに、狙いとする文法項目をコンテキストの中でどのように活用すべきかを学んでいく。「英語・異文化理解」関連科目に位置づけられる。</p>			<p>CEFR A2 (英検準2級～2級、TOEIC400～520) 程度の力をつける。すなわち、 ①ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域についてよく使われる表現が理解できる。 ②日常生活での身近なことからについて、単純で直接的な情報交換に応じることができる。</p>				
教授方法	演習、解説 (講義)						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Unit 1: 名詞						
2	Unit 2: 代名詞/Unit 3: 自動詞・他動詞・リンキング (連結) 動詞						
3	Unit 4: 命令文/Unit 5: 助動詞						
4	Unit 6: 不定詞・動名詞/Unit 7: 「場所」「動き」を表す前置詞						
5	Unit 8: 「時間」を表す前置詞/Unit 9: 形容詞・副詞						
6	Unit 10: 原級・比較級・最上級/Unit 11: 接続詞(1)						
7	Unit 12: 現在時制と現在進行時制/ 復習・質疑応答、中間テストへ向けての演習						
8	前半の振り返り、中間テスト						
9	Unit 13: 過去時制/Unit 14: 未来						
10	Unit 15: 現在完了・過去完了						
11	Unit 16: 受動態と能動態						
12	Unit 17: 接続詞 (2) 従位[従属]接続詞/Unit 18: 否定文						
13	Unit 19: 疑問文・疑問詞・付加疑問						
14	Unit 20: 関係詞						
15	Unit 21: 仮定法/後半の振り返り						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験 (中間・期末)	70	授業中に学習した語彙・文法・表現をさまざまなコンテキストで適切に使用できるか。		ホームワーク	20	課題を毎週きちんと提出できているか。	
授業態度	10	理解していることを他の学生と共有したり、わからないところを質問したりして積極的に授業に参加しているか。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
<p>①指定されたホームワークをしっかりとやってくる。ノートまたはテキストの提出を要求される場合もあるので、練習問題をきちんとテキストに (あるいはノートに) 解答しておくこと。 [60～90分] ②検定等を受験し、学力の確認と伸長を図ること。</p>				<p>提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。 期末試験は希望者にのみ返却する。 質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。</p>			
受講生に望むこと	意思の疎通を図る上でルールとしての文法が必要であることを理解すること。後期の「Writing」もセットで履修することを強く要望する。英語学習は毎日少しずつおこなうことが望ましい。			教科書・テキスト	『English Edge』、Robert Hickling他・著、金星堂、2007年 (ISBN: 978-4-7647-3833-1)		
指定図書参考書等	【参考書】 高校で使用した文法書を持参すること。英和・和英辞書を持参すること (電子辞書も可)。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE110C Writing		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	林 剛司・須田 久美子 (代表教員 林 剛司)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は「語学・異文化理解」関連科目のひとつである。前期に学習した文法を土台として、英語の作文能力の向上を目指す。本科目では特に、英語式の論理の運び方を理解し、アカデミックなエッセイを書くために必要な諸スキルを身につけることを目標とする。</p>			<p>①英文エッセイの構造を理解する。  ②さまざまなエッセイパターンを理解し、状況に応じて使い分けができる。  ③エッセイで用いられる文体を正しく理解し、論理展開を支えるつなぎの言葉を適切に使用できる。  ④上記の諸スキルを身につけて、プレゼンの原稿などが書けるようになる。</p>			
教授方法	講義と演習を組み合わせで行う。					
履修条件	「Grammar」の履修済が望ましい(単位未修得可)					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(授業の進め方、予習・復習の仕方、課題について説明する) Lesson 1: 英語で自己紹介文が書けるようになる。					
2	Lesson 2: 自分の大学生活について英語で書けるようになる。 Lesson 3: クラブ活動・課外活動について、英語で説明文が書けるようになる。					
3	Lesson 4: 「so~that...」「too~(for+意味上の主語) to...」の構文を使って英文が書けるようになる。 Lesson 5: 異文化体験について、英語で書けるようになる。					
4	Lesson 6: ゼミで自分がやってみたいことを英語で書けるようになる。 Lesson 7: 環境保護について、自分の意見を英語で書けるようになる。					
5	Lesson 8: 提案、助言の文章を書けるようになる。 Lesson 9: 数量に関する英語表現を覚え、それらを使って文章が書けるようになる。					
6	Lesson 10: 日本の食事や生活に関して、英語で説明できるようになる。 Lesson 11: (海外)旅行体験について、英語でエッセイを書けるようになる。					
7	中間試験を行う。また、レポート課題について説明する。					
8	Lesson 12: 教育問題について、英語でエッセイを書けるようになる。 Lesson 13: ホームステイの体験や計画について英語で書けるようになる。					
9	Lesson 14: 自分の留学計画を英語で書けるようになる。 Lesson 15: 戦争と平和の問題について、英語でエッセイを書けるようになる。					
10	Lesson 16: 日本の伝統文化を英語で紹介する文章を書けるようになる。 Lesson 17: インターネットと学生生活について、英語で説明できるようになる。					
11	Lesson 18: 英語で履歴書が書けるようになる。					
12	Lesson 19: 学問について、自分の意見を英語で書けるようになる。					
13	Lesson 20: 技術英語論文の書き方を理解する。					
14	パラグラフライティングを理解し、エッセイを書けるようになる。					
15	期末試験を行う。また、レポート課題について説明する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
試験(中間・期末)	50	講義の内容をきちんと理解しているかどうかを評価する。		授業態度	10	授業中の討論やペアワークに積極的に参加し、発言しているか。
エッセイ	40	課題(エッセイ)を提出してもらい、英語力、文章構成力、論理性を評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
各Lessonの“EXERCISES”と“WRITING FOR COMMUNICATION”を、辞書を使ってもいいので、事前に必ず解答(英訳)して、授業に出席すること。[60分] この予習が出来ていない場合、授業に参加できないこともある。				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。期末試験は希望者にもみ返却する。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。		
受講生に望むこと	①指定された予復習をしっかりとやってくること。 ②検定等を受験し、学力の確認と伸長を図ること。			教科書・テキスト	『Let's Write and Communicate!』 Nobukazu Aoki, Haruo Erikawa (著) 金星堂、2001年 (ISBN: 978-4764737143)	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	辞書を毎回持参すること(初回から必要です)。電子辞書も可。 基礎学力テストの結果に基づきクラス分けをする。	

授業科目名	CE120C Reading		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	クリスタル ランキート					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
This class is an extensive reading class. We will be reading the A2 level Black Cat Reader, "Tristan and Isolde", one of the great romances of the Middle Ages. We will read the text together for practice in the first part of the semester, then students will choose their own level-appropriate text to read in the latter half of the semester. Class will consist of various activities meant to help students get the most of their reading experience.			This class aims to teach students how to increase their English ability through reading. If done with the appropriate tools and at the appropriate level, reading can help language learners enhance their foreign language abilities, particularly in grammar and vocabulary usage through meaningful contexts. Listening and reading out loud will also give students listening and speaking practice. Reading is an independent form of learning that can be both educational and enjoyable. Students can experience diverse cultures and worlds beyond their own without ever leaving their home.			
教授方法	音読と黙読、多読、ディスカッション、グループ学習、ジャーナル、講義、プレゼンテーション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Class Introductions, Introduction to course novel and author					
2	Part One, "The Minstrel" Pgs 1-17					
3	Part Two "Cornwall and the Celtic Nations" and "Sir Morholt" Pgs 18-29					
4	Part Three "The Dragon" Pgs 30-39					
5	Part Four "Seneschal" Pgs. 40-49					
6	Part Five "The Green Bottle" Pgs 50-59					
7	Part Six "Queen Isolde of Cornwall" Pgs 60-66					
8	Part Seven "Sir Tristan of Lyonesse" King Arthur: Fact or Fiction? Pgs 67-79					
9	Movie - Movie notes					
10	Midterm Reading Exam. Library Day. Individual Book Selection and Silent Reading					
11	Reading Group, Class Presentation, Individual Silent Reading					
12	Reading Group, Class Presentation, Individual Silent Reading					
13	Reading Group, Class Presentation, Individual Silent Reading					
14	Reading Group, Class Presentation, Individual Silent Reading					
15	Individual Book Reports and Class Presentations					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
参加態度	15	態度ディスカッションの積極的な参加		中間テスト	20	①内容②構成文法③語彙
期末レポート&プレゼン	35	①内容、構成文法②発音、抑揚③効果印象		小テスト、宿題、プレゼン	30	各回の課題範囲から出題する、プレゼン、単語ジャーナルおよびリーディング・ログ
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
Homework will consist of assigned listening and reading practice, as well as individual book reading. Students will be asked to keep a vocabulary and reading log. Short quizzes will be given and chapter review activities will be assigned during the first half of the semester. Students will take a midterm reading exam to test their comprehension. During the second half of the semester, students will be reading their own selected book. They will present what they learned from their individual books. They will also write a book report and make a presentation of their individual novels.				試験、レポート、小テスト		
受講生に望むこと	Students are requested to be prepared, actively participate in, and attend every class. A failure to do this may result in a deduction from the participation grade.			教科書・テキスト	『Tristan and Isolde』 Edited by Raynes, Rebecca & Hill, Robert (2007). Black Cat Publishing (ISBN: 9788853006424)	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	授業は英語でおこなわれる。	

授業科目名	CE130C 異文化コミュニケーション論		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	林 剛司						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
異文化コミュニケーションを円滑に進める上で、他者理解が重要になってくる。映画やドキュメンタリー映像を鑑賞し、人種、ジェンダー、階級等の視点から互いに差異を認め合い尊重する文化的素養について考える。			①異文化コミュニケーションを学ぶ意義・重要性を理解している。 ②異文化への意識を高めると同時に、自文化に対する意識や態度を見直す。 ③異文化コミュニケーションの知識と技能を得ている。 ④文化背景の異なる人々との共生を身近なものとして考えることができる。 ⑤グローバル化とローカル化の二つの視点から世界の様々な課題を認識することができる。				
教授方法	講義、ディスカッション						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション (映画から異文化コミュニケーションをいかに学ぶか)						
2	『グラン・トリノ』 (Gran Torino, 2008年、アメリカ) ① —アメリカのモン社会 モン族のコミュニケーション						
3	『グラン・トリノ』 (Gran Torino, 2008年、アメリカ) ② のモン社会 モン族のコミュニケーション					—アメリカ	
4	『イブラヒムおじさんとコーランの花』 (Monsieur Ibrahim et les fleurs du Coran, 2003年、フランス) —孤独なユダヤ人少年とトルコ移民の老人の交流						
5	『スパニッシュ・アパートメント』 (L'Auberge Espagnole/Pot Luck, 2002年、フランス・スペイン) ① —国籍や母語の異なる7名の学生たちの共同生活に見るコミュニケーション						
6	『スパニッシュ・アパートメント』 (L'Auberge Espagnole/Pot Luck, 2002年、フランス・スペイン) ② —国籍や母語の異なる7名の学生たちの共同生活に見るコミュニケーション						
7	『家族ゲーム』 (1983年、日本) —日本人家族間のコミュニケーションと現代日本						
8	『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』 (My Big Fat Greek Wedding, 2002年、カナダ、アメリカ) ① —アメリカにおけるギリシャ系の女性と非ギリシャ系の男性との結婚をめぐる文化衝突						
9	『マイ・ビッグ・ファット・ウェディング』 (My Big Fat Greek Wedding, 2002年、カナダ、アメリカ) ② —アメリカにおけるギリシャ系の女性と非ギリシャ系の男性との結婚をめぐる文化衝突						
10	『夏休みのレモネード』 (Stolen Summer, 2002年、アメリカ) ① —カトリックの少年とユダヤ教ラビの対話 アイルランド系労働者階級の家						
11	『夏休みのレモネード』 (Stolen Summer, 2002年、アメリカ) ② —カトリックの少年とユダヤ教ラビの対話 アイルランド系労働者階級の家						
12	『キル・ユア・ダーリン』 (Kill Your Darlings, 2013年、アメリカ) ① —旧態依然たる大学や社会に反抗し、若者はいかにアイデンティティを形成していくか 家族、友情、同性愛						
13	『キル・ユア・ダーリン』 (Kill Your Darlings, 2013年、アメリカ) ② —旧態依然たる大学や社会に反抗し、若者はいかにアイデンティティを形成していくか 家族、友情、同性愛						
14	発表 (プレゼンテーション) と総評 ①						
15	発表 (プレゼンテーション) と総評 ②						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	50	1500字程度のレポートを課す。テーマ、書き方、メット等は授業にてお知らせする。		参加態度	10	ディスカッションへ積極的に参加し、テーマについて理解を深めようとしているかどうかを評価する。	
発表 (プレゼン)	30	映画と異文化コミュニケーションについて関心のあることをまとめて、発表してもらう。レジュメを用意すること。詳細は授業にてお知らせする。		コメントシート	10	授業で扱った映画についての感想、コメントを短くまとめて提出してもらう。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
視聴した映画の簡単なコメントを書いてもらう (コメントシート) ので、必要であれば各自映画を再度視聴するのもよい。【作品により60~120分】 事前に、映画の内容やテーマについて、インターネットや図書で下調べしておく、映画を理解する手助けとなるだろう。【30分】				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	さまざまなアクティビティやグループディスカッションの機会を設けるため、受講者には意見交換への積極的な参加を期待する。			教科書・テキスト	なし (プリントを使用する)		
指定図書参考書等	【参考書】 『映画で異文化体験 異文化コミュニケーション講座』 桜木俊行 (著) 近代映画社、2013年 (ISBN:978-4764823891)			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE140C 海外地域研究		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	林 剛司						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義では、アメリカ社会、文化、歴史を多角的に理解することを目的とする。適宜、映像使用（映画、ドキュメンタリー）を視聴することもある。「英語・異文化理解」に関連する科目のひとつである。毎回、教科書を丁寧に読み、講義と教科書の内容について、次回の授業時に復習テストを行う。受講者には、意見交換への積極的な参加を期待する。			アメリカ社会・文化を多角的に理解し、自分の言葉で伝えることができるようになる。				
教授方法	講義、ディスカッション						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（授業内容の説明、発表者割り振り、レジュメの作り方や発表の仕方の説明）						
2	植民地時代／アメリカの独立革命（教科書 pp. 28-41）						
3	西部開拓の時代／南北戦争（教科書 pp. 42-55）						
4	アメリカの幕末・明治の日本／発展するアメリカ（教科書 pp. 56-69）						
5	黄金の1920年代／世界恐慌の時代（教科書 pp. 77-90）						
6	第二次世界大戦とアメリカ／冷戦の始まり（教科書 pp. 91-105）						
7	映画またはドキュメンタリーの鑑賞、総復習						
8	中間試験 課題レポートの詳細についての説明						
9	世界に進出するアメリカ文化／平等を求めて（教科書 pp. 106-120）						
10	激動の1960年代／1970年代のアメリカ（教科書 pp. 121-134）						
11	超大国のアメリカ／21世紀のアメリカ（教科書 pp. 135-150）						
12	現代のアメリカ（教科書 pp. 151-158）						
13	映画またはドキュメンタリーの鑑賞						
14	映画またはドキュメンタリーの鑑賞						
15	期末試験 課題レポートの詳細についての説明						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験（中間・期末）	50	講義の内容をきちんと理解しているかどうかを評価。		課題レポート	20	課題に対して、講義内容をふまえ、自分の言葉に応用できているかどうかを評価。	
復習テスト	30	各回ごとに講義と教科書の内容について、理解度を問う小テストを毎回行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業は「予習」は必要ないので、必ず「復習」をすること。復習テストを毎回授業の冒頭で行う。[60分]</li> <li>授業外でも積極的にアメリカの文化（映画、ドラマ、小説、ニュース）に触れようとする。[30～120分]</li> </ul>				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。期末試験は希望者にもみ返却する。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	アメリカに関する書籍を購入もしくは図書館で借りるなどして、知識の取得に努めること。			教科書・テキスト	『これならわかるアメリカの歴史Q&A』石出法太・石出みどり(著) 大月書店、2015年（ISBN: 978-4272502219）		
指定図書／参考書等	<b>【参考書】</b> 『アメリカの20世紀〈上〉』有賀夏紀 中公新書 2002年（ISBN: 978-4121016645） 『アメリカの20世紀〈下〉』有賀夏紀 中公新書 2002年（ISBN: 978-4121016652）			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE200C ワールドトピックス		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	須田 久美子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
NHKのBS番組『ニューヨーク街物語』を収録したテキストを用いる。日本を飛び出すと、世界には多様な価値観や文化が存在する。大都会ニューヨークで、大変ユニークな人生の選択をする人、独自の誇りを持って職業に携わる人、またアメリカならではの問題と向き合いながら生きる人々の姿を番組は映し出す。自分とは全く違う価値観をもってエネルギーに生きる人々の姿に触れることは、私たち自身について振り返るときの、新たな視点を与えてくれるだろう。			<ul style="list-style-type: none"> <li>一応の予備知識を得たうえで、ある程度の難度がある英語番組の内容を理解できるようにする。</li> <li>学習した語彙や表現を用いて、トピックについて意見を英語で簡潔に表現できるようにする。</li> </ul>				
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Orientation: introducing the English program						
2	Unit 01 Mothers, Single by Choice--artificial insemination and new style of family						
3	Unit 02 Fragrance by Design--perfume industry in New York						
4	Review and short test--covering unit 1, 2						
5	Unit 03 Fashionably Green-- learning about "sustainability" in fashion						
6	Unit 04 Super Dad-- househusband and non-traditional household						
7	Unit 06 Relaxing with Yoga--Asian-oriented practice in New York						
8	Review and short test--covering unit 3, 4, 6						
9	Unit 08 Good Trash--freegans in New York						
10	Unit 09 Pet Rescue--thinking about pets industry						
11	Unit 10 Saving Art from the Big Spenders--city of art						
12	Review and short test--covering unit 8-10						
13	Martin Luther King "I Have a Dream Speech"--learning about racial problems						
14	Unit 12 Musical Impact--Harlem in New York						
15	Review and presentation--making a presentation of world topics						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況など	30	予習の有無も点数に関わる。授業・ディスカッションへの積極的な参加を評価する。		持ち帰り課題・提出物	10	内容は授業内で指示する。	
テスト(小テスト等も含む)	60	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> <li>予習が必須である。特に、指定された単語を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分]</li> <li>事後学習として、付属のDVDを各自用いて、内容を復習すること。[15分]</li> </ul>				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	扱うトピックについて、自分の意見を表現したり、他の学生と意見を交換する機会を設けるので、積極的に授業に参加すること。			教科書・テキスト	『New York Streets-DVDで楽しむニューヨーク街物語』第10版 金森強 代表者1名他 金星堂 2015年 ISBN:978-4-7647-3871-3		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE150C English Communication Skills		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	須田 久美子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>アメリカのニュース番組CNN Student Newsを扱う。高校生向けに、世界のニュースや時事問題を紹介する番組であるが、日本人学習者にとっては英語ニュースに挑戦するよい機会となる。番組は2～3分程度であるが、予習をし、音声を何度も聞き、音読するという作業を通して英語がだんだん聞き取れるようになることを実感してほしい。原文を確認しながら、内容理解に努める。</p>			<p>・2～3分程度のニュース番組の、おおよその内容を理解できるようになる。 ・時事問題について、学んだ語彙や表現を使って、自分の意見を表現できるようになる。</p>				
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Introduction to English News: orientation						
2	Unit 1 Half-Empty or Half-Full--getting used to English news/ thinking about optimism						
3	Unit 2 Teaching Warriors not to Hunt Lions--learning about nature conservation						
4	Unit 4 How to Prevent the Flu--learning English for health						
5	Review and short test--covering unit 1, 2, 4						
6	Unit 6 American High Schoolers Study in China--studying abroad and diplomacy						
7	Unit 7 Making New Energy--thinking about environment						
8	Unit 8 Diving for Sea Urchins--learning about food culture						
9	Review and short test--covering unit 6-8						
10	Unit 9 Reunion of the Little Rock Nine--learning racial problems						
11	Unit 10 Paying for College--thinking about a tuition payment						
12	Unit 11 Protecting Michelangelo's Painting--art and technology						
13	Review and short test--covering unit 9-11						
14	Unit 12 Life on the Space Station--learning English for science						
15	Unit 15 Fresh Produce Changes Lives--education and food						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況など	30	予習の有無も点数に関わる。授業への積極的な参加が評価される。		課題リスニング・提出物	10	課題は授業内で指定する。	
テスト(小テスト等も含む)	60	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習が必須である。特に、指定された単語を辞書で調べ、しっかりと頭に入れておかなければならない。[15分]</li> <li>・事後学習として、付属のDVDを用いて、音読をして内容を復習することが必要である。[10分]</li> </ul>				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	音読を中心に、ニュースを何度も読んで練習をする。積極的な授業参加が求められる。			教科書・テキスト	『CNN Student News, Vol. 4』 関戸冬彦 代表者1名 他 朝日出版社 2016年 ISBN:978-4-255-15587-6		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE210C Advanced English I		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	クリスタル ランキート						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
In this class, internationally award-winning commercials which deal with social activities, cultural phenomena, and contemporary themes will be used. Students will not only improve their English skills, but also expand their knowledge in general. Students will be given opportunities to make their own commercials as well as analyze, study, and transcribe a commercial of their choice.			This course aims to develop students' English proficiency by practicing reading, writing, listening, and speaking skills.				
教授方法	演習、講義、listening, discussion, essay writing, presentations						
履修条件	学科指定の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Class introduction and expectations. Unit 1 introduction - Reading						
2	Unit 1 Meijer - Higher Standards, Lower Prices						
3	Unit 2 This Calls for a Bud Light						
4	Unit 3 Anti-Discrimination Campaign						
5	Unit 4 McDonald's - King of Fast-Food Restaurants						
6	Unit 5 Relax, it's FedEx Original Commercial 1 Due						
7	Unit 8 Learning Languages						
8	Unit 9 Pepsi - Asking For More						
9	Unit 10 United Nations Development Program						
10	Unit 11 Disney - Magic Happens Original Commercial 2 Due						
11	Unit 13 Anti-Smoking Campaign						
12	Unit 14 Counterfeit Mini Coopers						
13	Unit 15 Hallmark of a Teacher						
14	Final Report Preparation						
15	Final presentations and report of individually chosen commercial						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
オリジナルの商業ジャーナル	20	①内容・構成 ②語彙・文法 ③発音・抑揚 ④印象		期末プロジェクト	35	①内容・構成 ②語彙・文法 ③発音・抑揚 ④印象	
語彙小テスト、宿題	30	①語彙・文法 ②内容確認		参加態度	15	積極的に学習し参加しようとしているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
Homework will consist of assigned chapter exercises and journals. Vocabulary quizzes will be given weekly. Students should be prepared for class by studying unit vocabulary and preliminary reading. [60 minutes]				提出されたジャーナル、小テスト、プロジェクト、レポートは、授業中に返却とフィードバックをする。 15回目の授業で提出された課題は、希望者に返却する。			
受講生に望むこと	Students must be willing to participate in class discussion. Students will be making TV commercials and presenting them to class. Students will also give a final presentation on a commercial of their choice. All students are expected to have a respectful and constructive attitude for class presentations.			教科書・テキスト	『English in 30 Seconds』 Aoki, Masayuki. Nan'un-do (2009) ISBN 9784523176183		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	授業は英語でおこなわれる。		

授業科目名	CE220C Advanced English II		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	クリスタル ランキート						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
The "What's on Japan 10: NHK English News Stories" will be used as a textbook. News articles deal with social activities, cultural phenomena, and contemporary themes. Students will not only improve their English skills but also expand their knowledge in general. Students will also research about topics of their choice to gain a deeper understanding of topical issues.			This course aims to develop students' English proficiency by practicing reading, writing, listening, and speaking skills. Students will put their communication skills into real-world practice in two ways. First, students will be assigned an English conversation partner and assigned to talk with them. Second, students will be conducting interviews in English and giving their own news presentations.				
教授方法	演習、講義、listening, discussion, essay writing, presentations, communication practice						
履修条件	学科指定の者または Advanceed English I の単位を修得済みの者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Introduction to class and book. Unit 1 Waste Not, Want Not						
2	Unit 2 Dancing Toward Closer Friendship						
3	Unit 3 Creature Comforts						
4	Unit 4 White-hat Hackers Wanted						
5	Unit 5 Rescue Bike						
6	Unit 6 Crash Course Boom						
7	Units 1-6 Vocabulary Test. Topical report preparation workday						
8	Group Topical Report and Class Presentation Due						
9	Unit 9 Pioneering Photojournalist						
10	Unit 10 Cafes Beyond Coffee						
11	Unit 11 Indoor Navigation						
12	Unit 12 Reaching New Heights						
13	Unit 13 At Home in the Sky						
14	Unit 14 Fishing for a Market						
15	Units 9-14 Vocab Test. Final Report and News Presentation Due.						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
宿題と語彙小テスト	40	①語彙、文法②内容確認③構成④英語会話		最終プロジェクト	30	①内容、構成文法②発音、抑揚③効果印象	
中間研究とレポート	15	①内容、構成文法②発音、抑揚③効果印象		参加態度	15	積極的に学習し参加しようとしているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
Homework will consist of assigned chapter exercises and journals, as well as regular discussion with an assigned English Buddy. [30minutes] Vocabulary quizzes will be given weekly as well as two accumulative vocabulary tests. Students will be making original news reports for mid-term and final projects, and will learn to use information online as well as from personal interviews to support their original topic and main idea. [60minutes]				提出されたジャーナル、小テスト、プロジェクト、レポートは、授業中に返却とフィードバックをする。 15回目の授業で提出された課題は、希望者に返却する。			
受講生に望むこと	Students should make every effort to speak English as much as possible for class discussion as well as English Buddy assignments. Students are requested to be prepared, actively participate in, and attend every class. A failure to do this may result in a deduction from the participation grade.			教科書・テキスト	『映像で学ぶNHK英語放送 日本を発信する 10』 Yamazaki, Tatsuro; Yamazaki Stella M.; Yamazaki, Erika C. Kinseido (2016) ISBN: 9784764740136		
指定図書／参考書等	なし/なし			その他・特記事項	授業は英語でおこなわれる。		

授業科目名	CE230C Advanced English III		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	クリスタル ランキート						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
The "What's on Japan 11: NHK English News Stories" textbook will be used for this class. This class will be conducted as a follow up to English Course II and conducted in a similar way. News articles deal with contemporary issues, cultural phenomena, and new-age inventions. Students will enjoy learning and discussing social issues while practicing their English speaking and comprehension skills. Students will also research about topics of their choice to gain a deeper understanding of topical issues.			This course aims to develop students' English proficiency by practicing reading, writing, listening, and speaking skills. Students will put their communication skills into real-world practice with their English conversation partner and by conducting interviews in English. Students will hone their critical thinking skills as they research about individual topics, analyze what they find, and present their findings and ideas in report and presentation form.				
教授方法	演習、講義、listening, discussion, essay writing, presentations, communication practice						
履修条件	学科指定の者または Advanced English II の単位を修得済みの者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Introduction to class. Unit 1 Manga Message for the Young						
2	Unit 2 Jumping for Victory						
3	Unit 3 Seeking Quality over Cost						
4	Unit 4 Getting Dads Home Earlier						
5	Unit 5 Plugging Privacy						
6	Unit 6 Recycling Messages of Hope						
7	Units 1-6 Vocab Test. Work day						
8	Individual News Presentation and Report Due						
9	Unit 9 Helping in times of Disaster						
10	Unit 10 Right on Track						
11	Unit 11 Refining Japanese Art						
12	Unit 12 Japanese Conbini Comes to Dubai						
13	Unit 13 Mix Masters						
14	Unit 14 Virtual Connections						
15	Unit 9-14 Vocab Test. Final Report and News Presentation Due						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
宿題と語彙小テスト	40	①語彙、文法②内容確認③構成④英語会話		最終プロジェクト	30	①内容、構成文法②発音、抑揚③効果印象	
中間研究とレポート	15	①内容、構成文法②発音、抑揚③効果印象		参加態度	15	積極的に学習し参加しようとしているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
Homework will consist of assigned chapter exercises and journals, as well as regular discussion with an assigned English Buddy. [30minutes] Vocabulary quizzes will be given weekly as well as two accumulative vocabulary tests. Students will be making original news reports for mid-term and final projects, and will use information online as well as from personal interviews to support their original topic and main idea. [60minutes]				提出されたジャーナル、小テスト、プロジェクト、レポートは、授業中に返却とフィードバックをする。 15回目の授業で提出された課題は、希望者に返却する。			
受講生に望むこと	Students should make every effort to speak English as much as possible for class discussion as well as English Buddy assignments. Students are requested to be prepared, actively participate in, and attend every class. A failure to do this may result in a deduction from the participation grade.			教科書・テキスト	『映像で学ぶNHK英語放送 日本を発信する 11』 Yamazaki, Tatsuro; Yamazaki Stella M.; Yamazaki, Erika C. Kinseido (2017) ISBN: 9784764740303		
指定図書／参考書等	なし/なし			その他・特記事項	授業は英語でおこなわれる。		

授業科目名	CE240C Business English Skills		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	須田 久美子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
英語による情報の発信・受信がますます増える今、ビジネスの場においても英語で対応する力が生きてくる時代になっている。授業では、電話応対、Eメール、ビジネスレター、受付の英語など、さまざまなシチュエーションに応じて、ビジネスの場で用いられる表現や語彙を学ぶ。何度も声に出して発音しながらそれらを身につけていく。また、プレゼンテーションの場を設けて、実際に自分が情報の発信の主体者となる練習もおこなう。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスの場において必要とされる基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。</li> <li>・実際に自分がビジネスの場にあることを想定したロールプレイを通して、基礎的な対応力を身につける。</li> <li>・英語によるプレゼンテーションができるようにする。</li> </ul>				
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Introduction to business English--orientation/ role play						
2	Chapter 1 Telephone 1--intonation						
3	Chapter 2 Business Email--email format						
4	Chapter 3 Telephone 2--pause						
5	Chapter 4 Business Letter--reading business letters						
6	Chapter 5 At the Reception Desk--contraction						
7	Chapter 6 Corporate Websites--information on website						
8	Review and Short test--covering chapter 1-6						
9	Chapter 7 Company Profile--accent						
10	Chapter 8 Product Advertisements--reading advertisement						
11	Chapter 9 Your Job--reduction						
12	Chapter 10 Product Specifications--checking specifications						
13	Chapter 11 Business Plans--rhythm						
14	Presentation--making a presentation of a product						
15	review--feedback on presentation						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況など	30	予習の有無も点数に関わる。授業への積極的な参加が評価される。		テスト(小テスト等も含む)	50	授業の内容の理解度を確認する。範囲は授業内で指定する。	
プレゼンテーション	20	英語でプレゼンテーションを行う。トピックは授業内で指示する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の予習が必須である。授業の内容を理解するために、単語を辞書で調べ、頭に入れておく必要がある。[20分]</li> <li>・事後学習として、付属のCDを各自用いて、内容を復習することが求められる。[20分]</li> <li>・プレゼンテーション等、授業で指示された課題を必ず行うことが求められる。</li> </ul>				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な授業参加が求められる。</li> <li>・英語で自分の意見を発信することが求められる。</li> </ul>			教科書・テキスト	『Getting Global!-小ラインキャリアに活かす大学生のためにコミュニケーション英語』第3版 辻本智子 代表者1名他 金星堂 2015年 ISBN:978-4-7647-4007-5		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		



**司書特別開講科目  
(社会学科科目)**



授業科目名	SL100U 図書館概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、現代における図書館の意義と役割について、その法的基盤や国民の知る権利を保障する理念を理解することをねらいとする。図書館種別にそれぞれの制度と機能について、その歴史的展開を含めて理解することを目指す。また、一般的な教養として図書館を理解してもらおうことも目指すため、司書資格取得を希望しない学生の履修を歓迎する。			①図書館の意義・役割について理解する ②これまでの図書館の歴史を振り返り、今日における図書館の理念の成立について理解する ③公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立国会図書館の制度と機能を理解する ④図書館関係機関、図書館関係団体について理解する ⑤今日の図書館の課題と今後の展望について主体的に考えることができる				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代社会と図書館 (1) 図書館とは何か						
2	現代社会と図書館 (2) 図書館の種類と図書館の役割						
3	現代社会と図書館 (3) 司書の役割とは何か						
4	図書館の理念 (1) 図書館の自由						
5	図書館の理念 (2) 図書館員の倫理綱領						
6	図書館関係法規について						
7	公共図書館の制度と機能 (1) 図書館法						
8	公共図書館の制度と機能 (2) 公共図書館の機能						
9	公共図書館の制度と機能 (3) 管理運営						
10	学校図書館の制度と機能						
11	大学図書館の制度と機能						
12	専門図書館の制度と機能						
13	国立国会図書館の制度と機能						
14	外国の図書館について						
15	図書館関係団体について						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）において 60 %以上の得点を獲得する必要がある。なお小テストで扱った範囲は試験対象外とする。		小テスト	20	筆記試験を授業内で行う。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を授業ごとに最低30分程度は行うこと。図書館を日常的（できれば毎週1回以上）に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	この科目は司書資格取得のための科目です。ただし、図書館に興味がある学生の履修も歓迎します。資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館概論』塩見昇編著。日本図書館協会、2015。（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；1）ISBN:978-4820414179		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL220U 情報技術論		開講学科	社会科学	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の歴史、種類、特性、機能、利用法、等について概説し、様々な情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。			図書館などの情報サービスにおける情報技術の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。コンピュータやネットワーク、インターネットなどの基礎知識の習得する。さらに携帯情報端末や電子資料、電子書籍など多様に進歩する情報技術についての知識を深めていく。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報と情報技術 授業の進め方, 情報とは何かを考える						
2	情報の表現方法と蓄積媒体						
3	情報技術と情報メディア その種類と歴史						
4	図書館と記録技術 視覚メディアと電子メディア						
5	情報処理技術とコンピュータ						
6	コンピュータの歴史						
7	現代のコンピュータ						
8	コンピュータとソフトウェア						
9	携帯情報端末						
10	図書館サービスと電子資料・電子書籍						
11	データベースとは						
12	コンピュータネットワークとは						
13	インターネットの仕組み						
14	インターネットと検索エンジン						
15	図書館と情報技術 まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）を行う。		小テスト・授業内課題	20	授業内で筆記の小テスト、小レポートを出題する。	
授業参加度	20	授業への参加度、発言などの積極性を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常的に情報技術に興味を持ち、ニュースなどで伝えられる情報技術関連の話題に関心を持ってください。基本的なPCについての知識があることが望ましいため、PCなどを活用することを心がけてください。配布資料を用いて復習を30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	この科目は司書資格のための科目ですが、情報技術一般について興味がある学生の履修を歓迎します。司書資格取得を目指す場合は、図書館における情報技術の意味について考えながら受講をしてください。			教科書・テキスト	なし（授業内で資料配布）		
指定図書参考書等	なし／『図書館情報技術論』杉本重雄 [ほか] 編 樹村房 2014 ISBN : 978-4883672035			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP315U 認知心理学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	西村 洋一						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。また、「生涯学習概論」の発展的な内容として、その理解を深めることも目標とする。認知心理学とは、人間が周りの環境や社会をどのように認識し、そこから得られた情報をどのように利用しているかを科学的に明らかにしようという学問である。生涯学習を考える上で、人の心の仕組みとも言える記憶、思考といった概念がどのようなものであるかを理解することは大きな意味がある。それらの心の仕組みを踏まえ、生涯学習や社会教育のあり方を考えられるようになることを目指す。</p>				<p>①記憶や思考といったものについて素朴な実感に基づく理解ではなく、認知心理学の観点から捉えなおすことができる。 ②認知心理学の枠組みから日常の記憶、思考にまつわる出来事を解釈できる。 ③批判的思考という概念を理解し、自ら実践できるようになる。 ④学習過程について認知理論の観点から考えることができる。</p>			
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	記憶 1 記憶とは？：人の記憶の特徴について概略を述べ、次回以降の内容に道筋をつける。						
2	記憶 2 短期記憶・ワーキングメモリ：二重貯蔵モデルにおける短期記憶の特徴について述べ、さらにその概念を発展させたワーキングメモリの概要とその働きについて解説を行う。						
3	記憶 3 長期記憶：長期記憶の分類やモデルについて説明を行い、どのように概念化がなされているのかについて理解する。						
4	記憶 4 潜在記憶：顕在記憶と潜在記憶の違いを通して潜在記憶の特徴を理解し、その影響について実験例を用いて解説を行う。						
5	記憶 5 忘却とはどのようなことか：人が覚えていたことを「忘れる」ということはどのようなことであるのか、どのように概念化されるのかという点について解説を行う。						
6	記憶 6 忘却に関する種々の現象：忘却には様々なパターンがある。それらについて具体的な研究例や事例を取り上げながら解説する。						
7	記憶 7 自伝的記憶：自分自身についての記憶は、他の物事についての記憶とは異なる特徴がある。それらの特徴、自伝的記憶の影響などについて解説を行う。						
8	記憶 8 目撃証言：記憶が私たちの実生活に影響を及ぼす具体的な事象として、目撃証言が挙げられる。これまでに説明を行ってきた人の記憶の性質を考慮した際、目撃証言をどのようにとらえ、どのような点に注意する必要があるか解説する。						
9	記憶 9 偽りの記憶：私たちが持つ記憶は実際に体験したものだけでは限らない。体験していないことについての記憶を持つこともある。そのような記憶が生まれるプロセスについての解説を行う。						
10	思考 1 推論：演繹推論、帰納推論とはどのようなものであるのかを説明し、人が演繹推論を行う時の特徴について理解する。						
11	思考 2 確率判断：人が行う確率判断はどのような特徴があるのか、そしてそれらが意思決定のプロセスにおいてどのような影響をもたらすのかについて解説を行う。						
12	思考 3 批判的思考：人の思考プロセスの特徴を踏まえた上で、より妥当な、合理的思考を行うための考え方はどのようなものであるかといった点について解説を行う。						
13	思考 4 問題解決：問題が与えられ、ゴールの状態に至るまで人がどのようなプロセスを経ているのかについて解説を行う。						
14	思考 5 創造的思考：これまでにない新しいものを生み出すような思考プロセスはどのようなものであるかの解説する。						
15	学習 認知理論から見た学習過程について考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	講義内容をどれだけ理解できているか。試験形式等の詳細は授業内にて提示する。			レポート	30	課題に対し資料を参照しながら筋道立てて意見を述べられているか。
講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況をもとに評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の内容についてあらかじめプリント、参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。 [30分] ②講義内で行うデモンストレーションを講義後に自分や身の回りの人に実施し、本を読んだだけでは理解しにくい部分を実感から理解を深める。 [30分] ③記憶や思考については教科書的なものだけでなく、読み物やテレビ番組などになっているものも多いので、それらも参照すること。 [30分]</p>				<p>授業内の小レポートは、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	記憶や思考は皆が日常行っていることであり、十分理解していると思われるかもしれない。しかし、認知心理学はそのような実感と記憶や思考の実際が多く異なるという知見をもたらしている。そのような知見をただ覚えるだけでなく、積極的に日常生活に生かしていくというような態度で授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし／『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 『認知心理学—知のアーキテクチャを探る—新版』道又爾・北崎充晃・大久保衛亜・今井久登・山川恵子・黒沢学 有斐閣 2011年 ISBN 978-4-6411-2453-0			その他・特記事項	2017年度特別開講		

授業科目名	SB100U 生涯学習概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	高橋 律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「生涯学習」とは「生涯にわたって学ぶこと」である。今日では当たり前のように受け止められている「生涯学習」であるが、自主的な「学び」は、「学ぶことのできる社会」の支援により豊かさを増す。「学ぶ」ことは「よりよく生きる」ことでもある。それぞれが、これまでの人生を振り返り、将来の生き方も見据えながら、「生涯学習」の意義とあり方について考えることを授業の目的とする。講義中心だが、施設見学等も含め具体的な学習支援の方法と内容の理解を深め、実質のある「生涯学習論」の習得を期待する。</p>			<p>①それぞれの人生を振り返りながら、生涯学習のあり方を考えることができる。  ②生涯学習に関わる政策の知識を持つ。  ③レポート作成を通じて、自分の考えをまとめることができる。</p>				
教授方法	講義と見学						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価についての説明 生涯学習とは何か：自分や家族の「学び」について振り返り、生涯にわたる学習の多様性について理解します。						
2	生涯学習の役割：生涯学習が個々の人生においてどのような役割を果たしているか、また社会における役割についても考えます。						
3	生涯学習に関わる政策の展開：生涯学習が政策においてどのように進められてきたか学びます。						
4	芸術文化活動と生涯学習：美術館での生涯学習を例に、芸術文化と生涯学習がどのように関わりをもっているか考えます。						
5	生涯学習施設について：生涯学習施設とはどのような施設をさすか、またどのような活動がされているかについて学習します。						
6	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
7	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
8	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
9	学習支援の方法：生涯学習を支援する方法としてどのような方法があるのか具体的に説明します。						
10	学習者のニーズ：学習支援をしていく上で、学習者のニーズをつかむ必要があります。年齢層等に配慮しながら、求められる学習内容について考えていきます。						
11	学習プログラムの作成について：生涯学習の学習プログラムがどのように作られているか、具体的に説明します。						
12	学習プログラムの作成演習：実際に学習プログラム案を作成し、必要な知識、態度などを理解します。						
13	現代社会における学習課題：生涯学習の場において、現代社会ではどのような課題に取り組んでいくべきか考えます。						
14	これからの生涯学習のあり方：新しいメディアを活用し、どのように生涯学習は進められていくか理解し、考えます。						
15	全体のまとめ、レポート作成。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	積極的な授業参加態度を重視する。 ・生涯学習に対する理解を深めようとする意識。 ・他の意見に耳を傾け、積極的に発言する。		課題レポート	50	各レポートの詳細は授業で説明を行うが、下記評価基準による。 ・課題に沿っている。 ・授業での学びをもとに作成している。 ・自分の考察を加えて記入している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
① 授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」（学校内、学校外とも）してきたか、振り返っておいてください。[30分] ② 家族のなかから一人選び、その人の「学習」経験についてインタビューしておくこと。[60分]			・授業内で提出するレポートはコメントを付けて返却します。				
受講生に望むこと	①意見発表の場を多くもうけます。積極的な態度で授業に臨みましよう。 ②提出物の期限は必ず守ること。		教科書・テキスト	鈴木眞理・永井健夫・梨本雄太郎『生涯学習の基礎 [新版]』学文社、2011 ISBN:978-4762021431			
指定図書参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SB200U 図書館サービス概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、図書館の中心的機能である情報提供について、その意義・種類・方法について理解を深めるとともに、多様な図書館サービスの形態を学ぶ。またそれぞれの図書館サービスの本質を理解することを旨とする。			①図書館サービスの意義・構造について理解する ②資料提供サービスの基本について理解する ③様々な情報提供サービスの形態と機能について理解する ④図書館ネットワークについて理解する ⑤障害者サービス、高齢者サービス、など利用対象に応じたサービスについて理解する ⑥図書館と著作権について問題意識を持って理解する				
教授方法	講義						
履修条件	「図書館概論」を履修した者または履修中の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館サービスの意義 (1) 図書館の構成要素とサービスの役割						
2	図書館サービスの意義 (2) 図書館サービスの類型化						
3	図書館サービスとマネージメント (1) 計画の立案と評価						
4	図書館サービスとマネージメント (2) 図書館の「望ましい基準」						
5	来館者へのサービス						
6	利用空間の整備						
7	貸出サービスの構造						
8	資料提供の展開 (1) リクエストサービス						
9	資料提供の展開 (2) 資料収集の方針						
10	情報提供サービス						
11	利用対象に応じたサービス (1) 障害者サービス、高齢者サービス						
12	利用対象に応じたサービス (2) 児童サービス						
13	利用対象に応じたサービス (3) 多文化サービス						
14	情報提供と著作権						
15	これからの図書館サービスのあり方について (ディスカッションとまとめ)						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	筆記試験 (持ち込み不可) において60%以上の得点を獲得する必要がある。受験に当たり、評価項目 3 で指定するレポートが受理されていることが必要である。		授業内課題	20	授業内での作業・ディスカッションなどの成果を評価する。	
レポート	20	①授業で指定した内容をまとめ、②同一内容を扱う別の文献を探し、内容をまとめる。③双方の見解に基づいて意見をまとめ、④期限までに指定書式にて提出する。		授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を推奨する。図書館を日常的 (できれば毎週1回以上) に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。図書館利用の際は図書館がどのようなサービスを実施しているのか注目し、機会があれば積極的にサービスを利用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館サービス論』小田光宏編著. 日本図書館協会, 2010. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2 ;3) ISBN:978-4-8204-0917-5		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	レポートは未提出の場合は単位認定を行わない。		

授業科目名	SB205U 情報サービス論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。図書館における情報サービスの歴史や理念をふまえ、図書館情報サービスを形成する情報検索や各種のサービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、SDIなど）について解説する。また各種情報源の種類や利用・検索方法について、文字情報、数値情報、映像・音声情報などの種類別やメディア別に解説する。			①図書館の理念を理解し、利用者サービスの重要性を理解する ②資料提供サービスと情報提供サービスの違いを理解する ③図書館サービスの中における情報サービスの位置づけを理解する ④各種情報源の特性を知り、情報源の利用について知識を身に付ける				
教授方法	講義、スライドを使用した形式で実施						
履修条件	「図書館概論」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報サービスの概要：情報サービスの意義を理解する						
2	情報サービスの基礎：レファレンスサービスとはなにか						
3	情報サービスの展開：利用指導、レフェラルサービスとはなにか						
4	多様な情報サービス：読書相談、地域情報の発信、専門的な情報提供のあり方						
5	デジタルレファレンスサービス：デジタル環境でのレフェラルサービスとは						
6	情報源整備の実際：印刷メディアと電子メディアの特徴、レファレンス情報源の構築と評価						
7	利用者の情報利用に対する理解：情報ニーズと情報探索行動						
8	レファレンス質問への対応：レファレンスプロセスの理解						
9	情報の検索と回答：検索戦略構築と情報検索を行うには						
10	情報検索のしくみ：レファレンスブックの構造、データベースの検索機能						
11	情報サービスの管理：情報サービスの組織化、人的な資質と能力						
12	情報源の特質：事実検索と文献検索、データベースの種類内容						
13	事実情報の検索の実際：言葉、統計、地理、人名などの調べ方						
14	文献情報の検索の実際：図書雑誌、雑誌記事などの調べ方						
15	情報サービスの実際：まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	記述式の筆記試験を行う。図書館における情報サービスの基本的な位置づけを理解できている必要がある。		授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかななどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内で紹介した各種情報源について、図書館やWebで実際に確認すること。図書館のOPACなどデータベースを日常的に活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。			教科書・テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著、日本図書館協会、2012。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；5）ISBN：978-4-8204-1211-3		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB300U 児童サービス論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	坪内 啓子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
乳幼児期から読書に親しむことの大切さが広く知られるようになったが、公立図書館でどのような児童サービスが行われているかを通して、子どもを知り、本を知り、子どもと本を結びつける技術を知るという児童図書館員の仕事の魅力を伝える。また児童サービスの必要性和重要性について考える。			①児童サービスの意義と目的をよく理解し、そのために必要な知識と技術を習得する。 ②児童サービスの目的達成のために土台となる本についての知識を習得する ③児童サービスについて関係機関との協力・連携について理解する。				
教授方法	講義、レポート作成、実践など						
履修条件	「図書館概論」、「図書館サービス論」など基本的な図書館情報学の科目の履修済が望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	児童図書館の目的を理解する。						
2	児童図書館の歴史について知る。						
3	児童室をつくる①：資料の収集と蔵書構成						
4	児童室をつくる②：資料の組織か（分類と目録）						
5	児童室をつくる③：施設と設備・備品						
6	児童室をつくる④：配架と展示（YAサービスを含む）						
7	児童室をつくる⑤：児童図書館の運営、学校等との連携、乳幼児サービス						
8	本を選ぶ①：絵本について学ぶ						
9	本を選ぶ②：物語、選ぶ目を養う						
10	子どもを知る						
11	子どもと本を結ぶ①：子どもへのレファレンス・サービス						
12	子どもと本を結ぶ②：読み聞かせ						
13	子どもと本を結ぶ②：ストーリーテリング						
14	子どもと本を結ぶ③：ブック・トーク						
15	まとめ・児童図書館員の役割						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業への取組み姿勢等		実践・レポート作成ほか提出物	20	課題内容についてポイントを押さえる確に考えがまとめられているか。	
単位認定試験	40	筆記試験					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な図書館を見学、児童室を見る。月1回くらいは利用する機会をつくる。[30分]</li> <li>指定図書、参考書、また講義中に紹介する本は、できるだけ読む。[40分]</li> <li>まえてテキストに目をとおしておく。[30分]</li> </ul>				課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	子どものころに読んだ本、読んでもらった本等、子どものころの記憶をできるだけ思い出してみる。身近な子どもを観察する。			教科書・テキスト	『子どもと本の世界に生きて－児童図書館員のあゆんだ道』E.コルウェル著 石井桃子訳 こぐま社 1994年 ISBN：4-7721-9017-1		
指定図書参考書等	『子どもと本』松岡亨子著 岩波書店 2015年（岩波新書）／『幼い子の文学』瀬田貞二著 中央公論新社 1980年（中公新書）、『児童文学論』リアン・H・スミス著 岩波書店 2016年（岩波現代文庫）、『児童図書館サービス1・2』日本図書館協会 2011年 JLA図書館実践シリーズ18・19			その他・特記事項	2017年度特別開講		

授業科目名	SB210U 情報資源組織論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源の組織化と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用などについて理解することを目的とする。			①資料組織化の意義、書誌コントロールについて理解する ②記述目録法について学び、書誌記述法を理解する ③主題分析・分類法・索引法について理解する ④日本目録規則にもとづく目録法を理解する。				
教授方法	講義						
履修条件	「図書館概論」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	資料組織化の意義について						
2	書誌コントロール (1) 書誌とは何か						
3	書誌コントロール (2) 全国書誌・OPACとは						
4	書誌情報の作成・流通・管理						
5	記述目録法の基礎一概要と記述の範囲						
6	記述の単位と順序、記述ユニット方式と区切り記号						
7	記述目録法作成の実際 (1) タイトルと責任表示、版表示に関する事項						
8	記述目録法作成の実際 (2) 出版頒布・形態に関する事項						
9	記述目録法作成の実際 (3) シリーズ・注記・標準番号・入手条件に関する事項						
10	記述目録法作成の実際 (4) 標目と排列						
11	主題分析と分類法・索引法						
12	分類法の実際 (1) 分類総論						
13	分類法の実際 (2) 日本十進分類法						
14	分類法の実際 (3) その他の分類法						
15	ネットワーク情報源の組織化とメタデータ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験(持ち込み不可)において60%以上の得点を獲得する必要がある。		小テスト	20	目録の知識を確認するため筆記の小テストを授業内で行う。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。特に目録を活用し、OPACは日常的に利用すること。 履修までに大学図書館だけでなく、公共図書館のOPAC利用を経験しておくこと。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『情報資源組織論』柴田正美著、日本図書館協会、2012。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 9) ISBN:978-4-8204-1202-1		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB305U 図書館制度・経営論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	坪内 啓子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
図書館経営に関する法律や制度、基準、図書館政策などについて理解を深める。今後の図書館運営に携わるときに必要な専門知識を学び、その意義や重要性について理解する。			①図書館経営の使命と目的を理解し、図書館運営に必要な知識を習得する。 ②図書館の制度や経営になくてはならない基本的な要件について理解する。 ③急速な社会変化の中で、新しい図書館経営の在り方を考えることができる。				
教授方法	講義、DVD視聴、小論文作成など						
履修条件	「図書館概論」、「図書館サービス概論」など基本的な図書館情報学の科目が履修済であることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館をめぐる法体系について						
2	図書館法について考える (1) : 図書館法の目的、定義等						
3	図書館法について考える (2) : 公立図書館の規定、および私立図書館の規定について						
4	地方自治体の図書館関連条例について						
5	各種図書館と公共図書館の連携、各種図書館の法律について						
6	図書館サービスに関わる法律について						
7	国や地方自治体の図書館政策について						
8	公共機関・施設の経営方法と図書館経営						
9	図書館の組織・職員 (1) : 図書館内の組織						
10	図書館の組織・職員 (2) : 図書館外の組織						
11	図書館の施設・設備 : 建築の在り方等						
12	図書館のサービス計画と予算の確保						
13	図書館業務/サービスの調査と評価						
14	図書館の管理形態の多様化						
15	公立図書館の課題と展望						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	授業への取組み姿勢、発言等		小論文ほか提出物	20	課題内容についてポイントを押さえるの確に考えがまとめられているか。	
単位認定試験	60	筆記試験					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の図書館を見学、利用する機会をつくる。地元の図書館等についての利用・見学を2~3回 (後期授業期間中) は行う。[90分]</li> <li>前もってテキストの章に目を通しておく。[40分]</li> </ul>				課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広く図書館関係の雑誌や新聞等の記事に関心を持つ。また図書館情報学関係のウェブサイトアクセスして、情報の閲覧、理解に努める。</li> </ul>			教科書・テキスト	『図書館制度・経営論』手島孝典/編著 学文社 2013年 (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望5) ISBN978-4-7620-2195-4		
指定図書参考書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>なし/『未来をつくる図書館 : ニューヨークからの報告』菅谷明子著 岩波新書 2003年</li> <li>『図書館制度・経営論』糸賀雅児・葉袋秀樹編 樹村房 2013年12月</li> <li>『図書館情報学基礎資料』今まど子・小山憲司/編著 樹村房 2016年</li> <li>『図書館制度・経営論』柳与志夫著 学文社 2013年刊</li> </ul>			その他・特記事項	2017年度特別開講		

授業科目名	SB310U 情報サービス演習 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。情報サービス演習Iでは、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。			①情報専門家として幅広い主題に対応できる情報検索技術の習得 ②一般的な情報リテラシー能力の習得と向上 ③情報の評価能力（情報内容の判断）の習得と向上 ④情報発信能力（回答の作成・提供）の習得と向上				
教授方法	演習中心に行う。コンピュータ室で情報検索演習を実施する。						
履修条件	「情報サービス論」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館の情報サービスと、情報検索の意義と内容						
2	ネットワーク、 デジタル情報源の特性、 情報検索技術の基礎知識						
3	情報検索システムの基礎知識（データベース構成/論理演算 等）						
4	ウェブ情報源の検索（1）サーチエンジンの使い方とブル演算						
5	ウェブ情報源の検索（2）サーチエンジンによるウェブ情報の検索						
6	ウェブ情報源の検索（3）検索結果と情報源の評価						
7	図書情報の検索（1） 目録と書誌						
8	図書情報の検索（2） 主題とアクセスポイント						
9	図書情報の検索（3） 各図書館OPAC、 総合目録等						
10	時事情報の検索 新聞記事データベース、 ニュースサイト等						
11	雑誌記事の検索（1） 雑誌記事データベース、 索引類						
12	雑誌記事の検索（2） 引用の活用						
13	雑誌記事の検索（3） 主題検索						
14	総合演習（1） レファレンス質問を想定した実践演習 質問の分析と戦略立案						
15	総合演習（2） レファレンス質問を想定した実践演習 検索と回答作成						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
演習課題	70	出題された演習課題は必ず全て提出すること。未提出がある場合は単位認定を行わない。また課題は出題に対して適切な内容であること。		小テスト	10	授業内で実施、理解度を確認する。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかななどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常的に実際にインターネット上で利用できる情報源を使用してみる。さらに授業で紹介されたインターネット情報源は必ず自分自身で使用してみる。また、情報検索には幅広い知識がもたれるため、日頃からニュースなど世界の動向に気を配っておくこと。課題とは別に、各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。				必要に応じてレポートの添削結果を個別に伝達する。また適宜クリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。			教科書・テキスト	なし、授業内でプリントを配布		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	2017年度特別開講		

授業科目名	SB315U 情報サービス演習 II		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、情報サービス演習のうち特にレファレンスブックを用いた情報探索について学ぶ。そのために情報源としてのレファレンスブック 評価を行い、その特性について理解を深める。また実際にレファレンス質問に取り組むことにより情報探索の先週を行い、レファレンスサービス全体のプロセスの理解とその技術を取得することを目的とする。授業は課題作成と発表を交互に行い進めていく。			①レファレンスサービスのプロセスを理解する ②レファレンスブックの評価を通じてその特性を理解する ③レファレンスブックに関するパスファインダーの作成を行う ④レファレンス質問に取り組むことにより、レファレンスサービス全体のプロセス理解に努める ⑤基礎的なレファレンス質問に回答する能力を習得する				
教授方法	演習、図書館でレファレンス資料を用い課題作成及び発表を行う。						
履修条件	「情報サービス論」、「情報サービス演習 I」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	レファレンスサービスの基礎・復習						
2	レファレンスブック評価の仕方						
3	情報源の評価 (1) 目録・書誌・索引						
4	情報源の評価 (2) 辞書・事典						
5	情報源の評価 (3) 便覧・年鑑類						
6	情報源の評価 (4) 地名・人名						
7	情報源の評価 (5) 各種の専門領域						
8	情報の探索 (1) ことばの情報						
9	情報の探索 (2) 事柄・事物・現象の情報						
10	情報の探索 (3) 人物・団体の情報						
11	情報の探索 (4) 地名・地理の情報						
12	情報の探索 (5) 歴史・時事の情報						
13	情報の探索 (6) 統計の情報						
14	情報の探索 (7) 書誌情報						
15	情報の探索 まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
演習課題の作成	60	適切な課題作成を行い、期日までに必要な完成度で提出ができていないこと。		演習課題の発表	20	作成した課題を元に、発表が行えること。必要な質疑に答えられることができること。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
課題以外でも図書館を日常的に活用することを心がける。日常的に疑問に思ったことがあれば、すぐに調べる癖をつけることが望ましい。その際、ウェブ情報源以外も活用すること。図書館などのレファレンスツールに慣れておくこと。各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。				課題発表時にコメントを行う形でフィードバックをする。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	課題が多く与えられますので、図書館情報資源を用いて課題作成に取り組んでください。場合によっては大学図書館だけではなく、公共図書館の蔵書や各種データベースを用いてください。授業では作成した課題を発表する機会がありますので、他の学習者や教員に分かりやすく説明する練習をすることが望ましいです。			教科書・テキスト	なし、授業中に随時プリントを配布する。		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	2017年度特別開講		

授業科目名	SB320U 情報資源組織演習 I		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	司書			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書をはじめとする多様な情報資源の書誌データの作成を演習する。時代に即した目録作成のためコンピュータを使用した演習を行う。			①多様な情報資源に関する書誌データの作成方法について、演習を通じて理解・取得する。 ②具体的な目録作成により、目録構築の意義や典拠コントロールの重要性を理解する。			
教授方法	演習、主にコンピュータを使用する					
履修条件	「情報資源組織論」を履修した者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における記述目録法について復習する。					
2	図書資料の標題紙・奥付などを基に、手書きによる目録記述の演習を行う。					
3	コンピューターによる目録記述方法を学ぶ。					
4	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(基礎的な資料)					
5	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(応用的な資料)					
6	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(応用的な資料)					
7	図書資料の現物を基に、目録記述の演習を行う。					
8	録音資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。					
9	映像資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。					
10	電子資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。					
11	これまで作成したデータの排列変更・検索の演習を行う。					
12	メタデータ記述方法を解説する					
13	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。(Webサイトなど)					
14	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。(データベースなど)					
15	これまで作成した書誌データをもとにした、まとめ					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。		授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が日本目録規則をはじめとする記述方法に沿って作成されているか、評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
図書館を日常的に活用することを心がける。図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関しを持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。各回の課題を元に最低30分以上は予習・復習を行うこと。				コンピュータ室でクリッカーを使用し、その場でコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時添削したものを返却する。		
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	なし	
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①履修にあたっては司書資格取得希望の意思を持っていること。 ②履修生には参考図書「日本目録規則」を貸与する。返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において返却すること。 2017年度特別開講	

授業科目名	SB325U 情報資源組織演習Ⅱ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書資料の主題目録法（分類法）について演習を行う。			①主題分析について、演習を通じて理解する ②分類作業について、演習を通じて基本的な技能を習得する ③分類の規則について、演習を通じて理解を深める				
教授方法	演習						
履修条件	「情報資源組織論」、「情報資源組織演習Ⅰ」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における主題目録法について復習する。						
2	演習問題を基に主題分析・分類作業を行うとともに、「日本十進分類法」の構造を理解する。						
3	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（基礎問題）						
4	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（応用問題）						
5	演習問題（形式区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
6	演習問題（地理区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
7	演習問題（地理区分・海洋区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
8	演習問題（言語区分・言語共通区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
9	演習問題（文学共通区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
10	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
11	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
12	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
13	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
14	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
15	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。		授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。	
演習課題内容	70	提出された演習課題が適切に主題分析され、分類・件名付与されていること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。各回の課題を元に最低30分程度は予習を行うこと。				コンピュータ室でクリッカーを使用し、その場でコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時添削したものを返却する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①履修にあたっては司書資格取得希望の意思を持っていること。 ②履修生には参考図書「日本十進分類法」改訂9版を貸与する。返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において返却すること。 2017年度特別開講		

授業科目名	SB330U 図書館情報資源概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源についてその類型と特質、生産・流通・選択・収集・保存に至るまでのプロセスなど、これら図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。			①印刷資料・非印刷資料について、政府刊行物等や電子資料、ネットワーク情報源を含めて学び、その理解を深める。 ②出版流通の在り方について学び、その理解を深める。 ③蔵書の形成、資料の収集の選択について学び、その理解を深める。 ④人文科学、社会科学、科学技術、日常生活などの情報資源について、その特性を理解する。 ⑤資料の受入・除籍・保存・管理について学び、その理解を深める。				
教授方法	講義						
履修条件	「図書館概論」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館情報資源とは						
2	印刷資料について (1) 印刷術の誕生と印刷の歴史						
3	印刷資料について (2) 様々な印刷資料						
4	非印刷資料について						
5	灰色文献について						
6	政府刊行物・地域資料について						
7	映像資料・音声資料について						
8	電子資料・ネットワーク情報源について						
9	電子コンテンツと電子出版について						
10	出版と流通について (1) 出版とはなにか・出版の意義						
11	出版と流通について (2) 出版流通の経路・出版制度						
12	資料の収集と選択について						
13	人文科学分野の情報資源とその特性						
14	社会科学分野の情報資源とその特性						
15	自然科学分野の情報資源とその特性						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）において60%以上の得点を獲得する必要がある。		小テスト	20	筆記試験を授業内で行う。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。資料を扱う上で求められる基礎的・教養的な知識を幅広く身につけること。 そのために なるべく多種の情報メディアを扱うこと、図書館だけでなくインターネットも日常的に活用し情報源として評価すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館情報資源概論』馬場俊明著. 日本図書館協会, 2012. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 8) ISBN: 978-4-8204-1217-5		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	2017年度特別開講		

授業科目名	SB335U 図書・図書館史		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
人類の歴史の中で文字が生み出され、各種メディアに記録された情報資源が図書館に蓄積・保存されてきた。数千年の歴史を記録・継承する図書館のあり方や使命を学び、現代から未来の図書館に求められる役割と機能を学ぶ。			①各種記録媒体の歴史を学び、図書館の収集・保存すべき情報資源を理解する。 ②世界の図書館の歩みを考察し、図書館の存在意義を認識する。 ③図書館と図書館情報学の歴史を学ぶことにより、自らの将来を考える。				
教授方法	講義						
履修条件	「図書館概論」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	メディアと図書館の歴史とは						
2	記録メディアの歴史1：紙以前の記録メディア・紙メディア						
3	記録メディアの歴史2：図書の形態史、印刷の発明						
4	記録メディアの歴史3：印刷の種類、大量印刷の時代						
5	記録メディアの歴史4：新聞雑誌の歴史、近代のマスメディア						
6	記録メディアの歴史5：メディアの多様化、新しいメディアの出現						
7	図書館史（世界）1：図書館の源流と図書館の使命						
8	図書館史（世界）2：中世の図書館、近世の図書館の歩み						
9	図書館史（世界）3：公共図書館の成立						
10	図書館史（世界）4：近代の図書館						
11	図書館史（日本）1：前近代日本の図書館、近代図書館の誕生						
12	図書館史（日本）2：民主主義と図書館、戦争と図書館						
13	図書館史（日本）3：第2次世界大戦後の図書館改革と戦後民主主義						
14	図書館史（日本）4：市町村立図書館と図書館政策、住民と図書館の関係						
15	図書館史まとめ：図書館と社会の関わりを歴史から考える						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。		授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。	
定期試験	60	記述式の筆記試験を行う。図書館の歴史及び情報メディアの歴史について基本的な理解がきている必要がある。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。世界史及び日本史の基本的な知識を確認しておくこと。必要に応じて高校までの歴史教科書なども活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。歴史を学ぶことは現在の我々の立ち位置を考える上で、極めて重要なアプローチです。歴史的な事柄にも注意を払うようにしてください。			教科書・テキスト	『図書・図書館史』小黒浩司編著、日本図書館協会、2013。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；11）ISBN：978-4-8204-1218-2		
指定図書参考書等	なし/なし			その他・特記事項	2017年度特別開講		



# 教職員録

職名	氏名
学長	町田 健一
宗教主事	楠本 史郎
図書館長	富岡 和久
地域教育開発センター長	田中 純一
事務長代理	佐々木浩幸

## 短期大学部

部 長	氏名
部 長	沢田 史子
食物栄養学科長	新澤 祥恵
コミュニティ文化学科長(兼)	沢田 史子

## 食物栄養学科

教 授	坂井 良輔
〃	中谷 智一
〃	新澤 祥恵
〃	村上 吉春
准 教 授	田中 弘美
講 師	西 正人
助 教	俵 万里子
〃	三田 陽子

## コミュニティ文化学科

教 授	池村 努
〃	富岡 和久
〃	沢田 史子
准 教 授	野林 晴彦
講 師	クリスタルランキート
〃	須田久美子
〃	林 剛司

職名	氏名
兼任教員(人間総合学部専任教員)	
兼任教員	朝倉 秀之
〃	大井 佳子
〃	伊藤 雄二
〃	楠本 史郎
〃	小林 正史
〃	下村 岳人
〃	竹中 祐二
〃	田中 純一
〃	田邊 圭子
〃	田引 俊和
〃	俵 希實
〃	辻 直人
〃	永山 亮一
〃	福江 厚啓
〃	真砂 良則
〃	町田 健一
〃	宮浦 国江
〃	幸 聖二郎
〃	若杉 亮平

## 非常勤講師

非常勤講師	アンソニー タガン
〃	石原 俊彦
〃	井関 尚一
〃	今井 竜也
〃	藺守 貴弘
〃	上田 広美
〃	奥村 明義
〃	押野 榮司
〃	梶 真知子
〃	片山 千枝

職名	氏名
非常勤講師	加畑 寿明
〃	キャサリン シュリーブズ
〃	ジェレミー フィリップス
〃	清水 實
〃	白井 雅代
〃	瀬戸 裕子
〃	竹下 正弘
〃	田中 康司
〃	張 榮湄
〃	坪内 啓子
〃	中川真由美
〃	中村喜代美
〃	中村 洋子
〃	濱西 和子
〃	細川 真衣
〃	堀 栄子
〃	堀岡 啓信
〃	堀川 峯雄
〃	前川 直樹
〃	松岡 香
〃	松原 敏治
〃	三井 悦子
〃	宮丸 慶子
〃	宮本 勝裕
〃	山口 順

## 助手(実験実習補助)

助 手	加藤 真衣(食物栄養学科)
〃	久保 夕貴( 〃 )
〃	畠山 千穂( 〃 )

## 教職相談支援室

	金丸 洋子
	金森 俊朗
	戸田 教一

職名	氏名
<b>事務局</b>	
事務局長	岩田 喜弘
事務長代理	佐々木浩幸
<b>【学長室】</b>	
学長室長(兼)	佐々木浩幸
課長	瀧 浩輔
主任	安部 玲子
<b>〈IR推進係〉</b>	
係長	本丹 直哉
室員	大榎 睦美
<b>【総務財政課】</b>	
課長代理	宮本真紀子
<b>〈総務係〉</b>	
課員	川村 快
〃	竹内 朝子
〃	小島 妙子
<b>〈財政係〉</b>	
課員	鷹野香奈子
〃	宮下 光謹
〃	酢馬ひかる
<b>【広報企画課】</b>	
課長代理	西野 拓哉
<b>〈広報企画係〉</b>	
(地域教育開発センター事務兼務)	
課員	小島 美紀

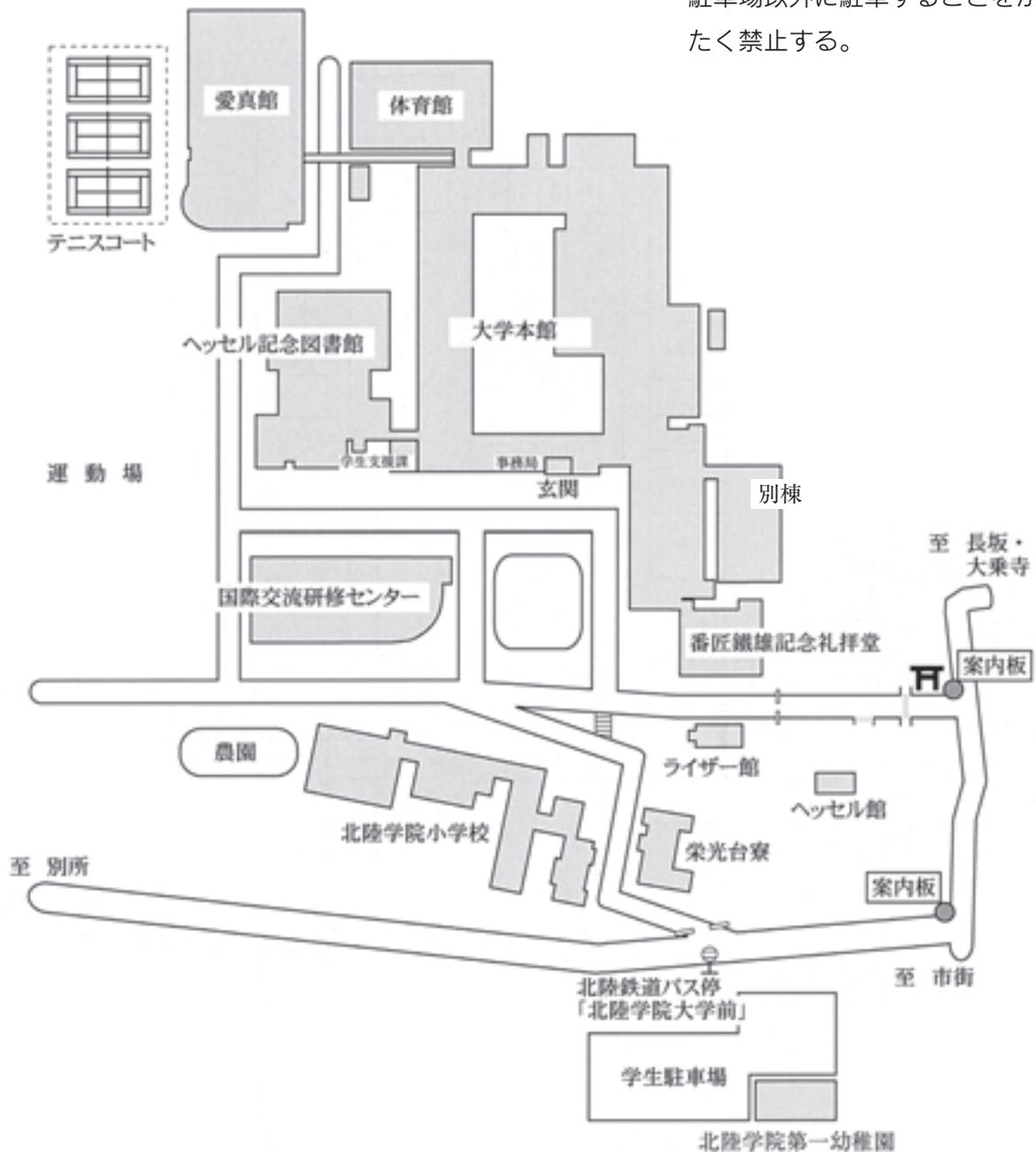
職名	氏名
<b>〈大学入試広報係〉</b>	
主任	中島 貴史
課員(兼)	小島 美紀
課員	瀬戸 佳子
<b>【教務課】</b>	
課長代理	今井 誠一
<b>〈教務係〉</b>	
主任	山口絵美子
課員	酒井 大輔
〃	瀬戸 康代
〃	平岡 明
〃	清水 啓子
<b>〈教務助手係〉</b>	
課員	多田 昌生
〃	近岡 尚美
<b>【学生支援課】</b>	
課長	北川 裕樹
<b>〈学生支援係〉</b>	
係長	源野 雄介
課員	三木 香奈
〃	森田 康子
〃	田川由美子
カウンセリング	井口 彰子

職名	氏名
<b>〈営繕係〉</b>	
係長	吉野 誠
課員	作本真太郎
〃	山田 元気
<b>【図書館】</b>	
<b>〈図書館事務〉</b>	
司書	飯野 昌子
〃	大音師華子
〃	黒杉 茂子
<b>保健室</b>	
校医	野口 隆俊
<b>学 寮(栄光台寮)</b>	
金沢市三小牛町イ11番地	
寮 監	富岡 和久
<b>地域教育開発センター</b>	
センター長 田中 純一	

# キャンパス案内図

## 北陸学院三小牛キャンパス案内図

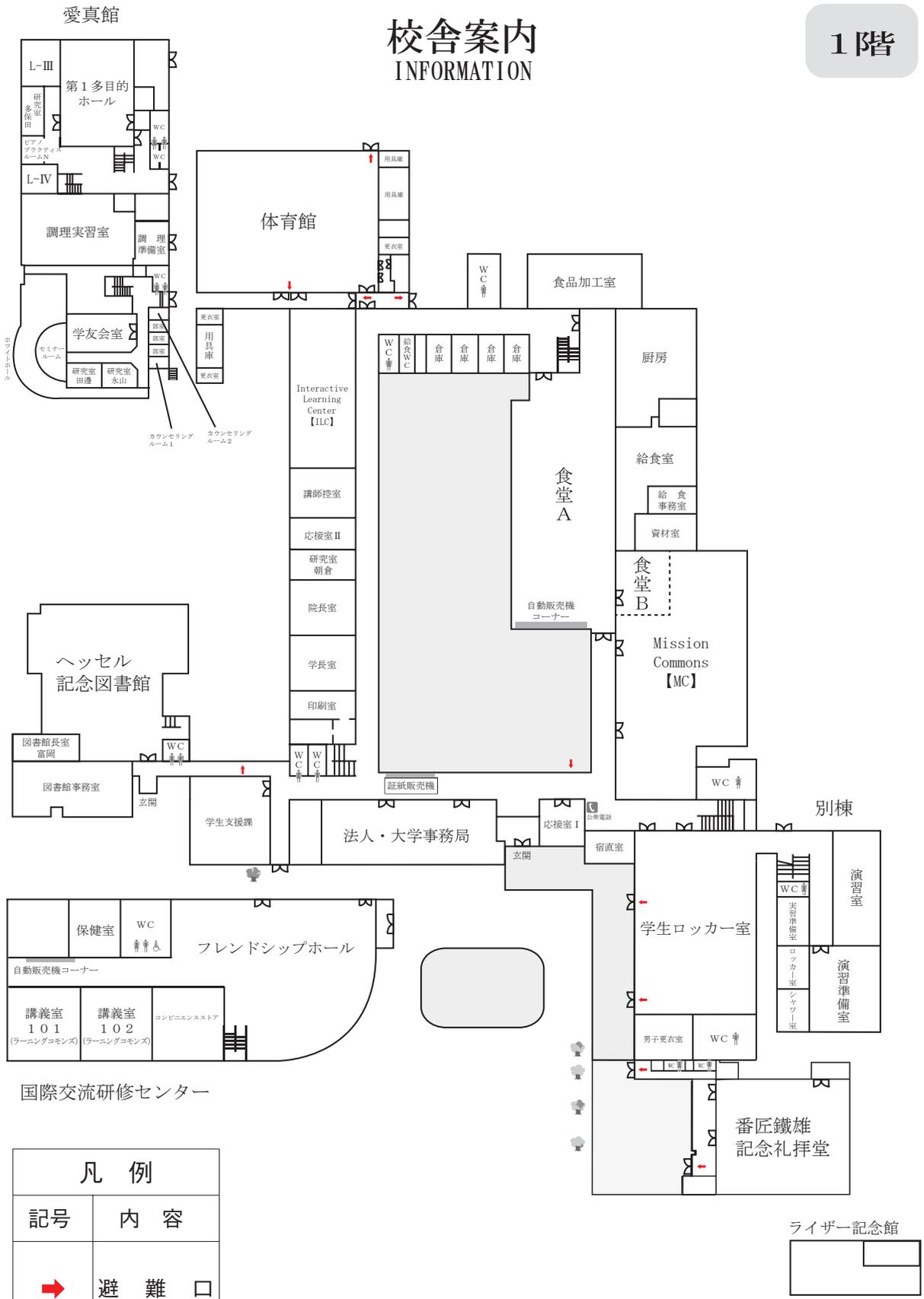
学生に関しては決められた学生  
駐車場以外に駐車することをか  
たく禁止する。



# 学内案内図

## 校舎案内 INFORMATION

1階



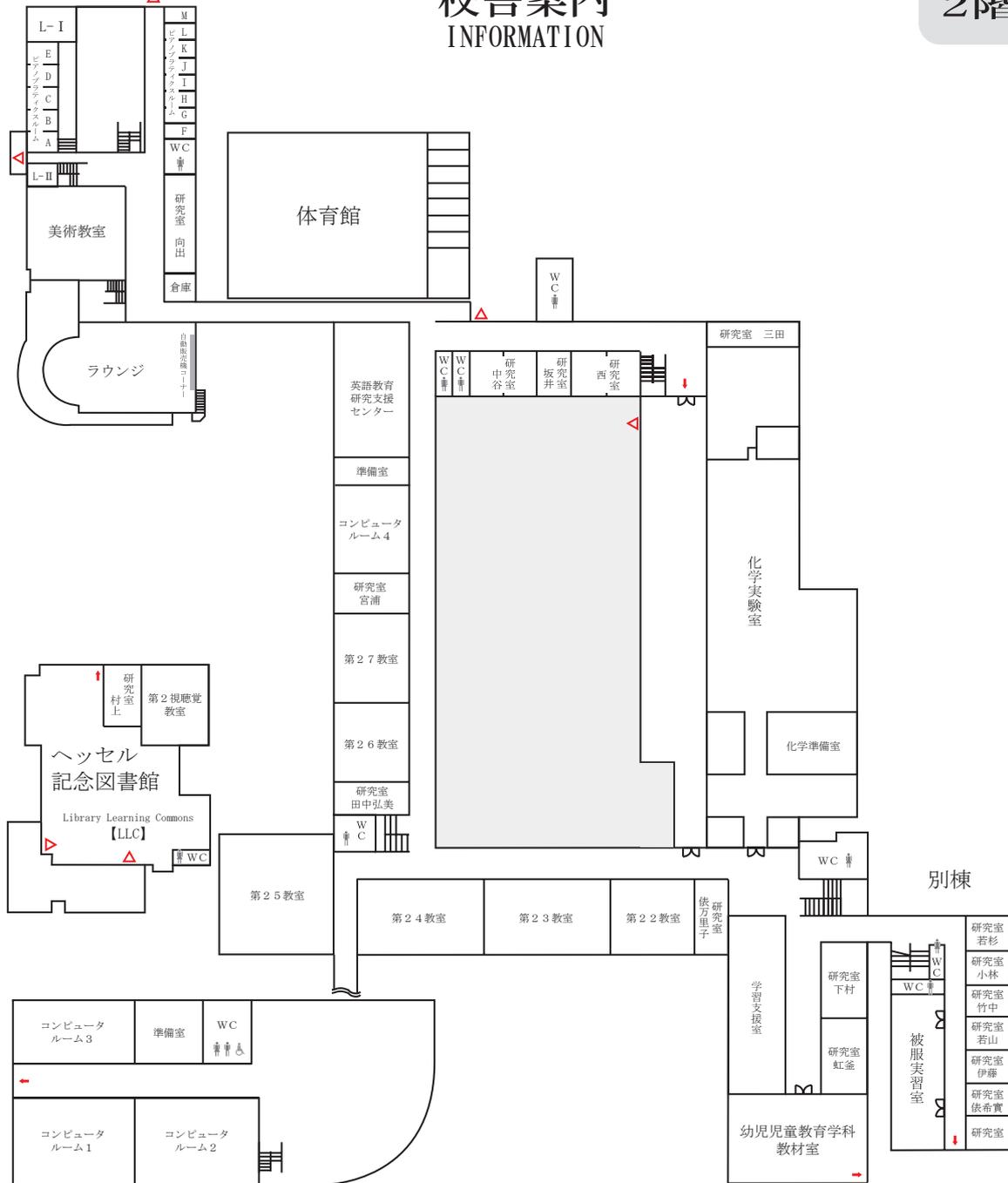
国際交流研修センター

凡例	
記号	内容
➡	避難口
△	避難はしご

愛真館

# 校舎案内 INFORMATION

2階



国際交流研修センター

凡 例	
記号	内 容
➡	避 難 口
△	避 難 は し ご

愛真館



校舎案内  
INFORMATION

3階



国際交流研修センター

凡例	
記号	内容
➡	避難口
△	避難はしご



